リサイクル行動の計量社会学的研究

―合理的選択理論を基礎として―

課題番号（10610159）

平成 10～12 年度科学研究費補助金　基盤研究 (C) (2)

研究成果報告書

2001 年 3 月

研究代表者　海 野　　道 郎

（東北大学大学院文学研究科教授）

はしがき

本冊子は、科学研究費補助金を受けた研究「リサイクル行動の計量社会学的研究―合理的選択理論を基礎として―」の研究報告書であり、2000年1月に仙台市で実施した統計的社会調査の分析結果に基づいている。

本研究は、以下に示す3つの目的の下に行なわれた。

第一に、本研究は、東北大学文学研究科行動科学研究室の関係者を中心とした生活環境研究会によって行なわれてきた、環境問題に関する一連の調査研究の展開として位置づけられる。今回の調査は、特に「リサイクル行動」に焦点をあわせて、企画・実施された。

第二に、本研究は、社会科学の基礎理論である合理的選択理論に基づいた理論的考察を環境問題に適用し、それを計量分析に繋げようとする試みである。環境問題に関する計量分析の結果を理論研究にフィードバックしよう、という試みでもある。

第三に、本研究は、小規模な統計的社会調査の典型たらんとしている。近年、多額の資金を使い調査会社に実査を委ねた研究が少なくない。われわれは、実査の現場経験を積んだ人によるそのような形の研究を否定するものではない。しかし、実査の現場を知らない人が一見高度な統計的分析を用いて論文を生産するとしたなら、それは研究にとって危険だと考える。特に、教育研究機関としての大学においては、後継者養成の場として、調査の企画から実査・分析に至るすべての過程を、自分たちで行なうことが重要である。そのような観点から、この報告書には、調査を実施するに際してわれわれが用いた資料を盛り込み、自ら調査を企画・実施する人々の参考に供するとともに、批判に委ねることとした。

このように手作りの調査を心がけたとはいえ、当然のことながら、この研究が今回のプロジェクトの研究代表者と研究協力者の力だけで可能になったわけではない。科学研究費補助金の援助は、調査に財政的基盤を提供した。調査企画に際しては、仙台市環境局からリサイクルに関する情報と助言を受けるとともに、回答者台帳を提供していただいた。調査票の回収にあたっては、東北大学文学部を中心とした総計 34 名の学生・院生諸君の協力を得た。その努力の結果、1026名の方々から回答をいただくことができた。

調査の結果は「調査のお礼と結果のお知らせ」としてまとめ、全回答者に郵送した。また、分析の成果は種々の学会で報告し、批判・助言を受けた。特に、日本行動計量学会大会で受けた楠見孝氏（京都大学）からの助言は貴重なものであった。

今回の調査研究に一応の区切りをつけようとする今、生活環境研究会による一連の調査で労苦を共にした仲間への感謝の念を禁じえない。また、東北大学大学院文学研究科行動科学講座のメンバーからいただいた日々の助言と励ましも、忘れることができない。われわれは今、このように多くの方々に感謝しつつ、今後一層の精進を期して、この報告書を刊行する。

２００１年3月８日

雪の残る仙台・川内のキャンパスにて

研究代表者　　海 野 道 郎（東北大学大学院文学研究科教授）

研　究　組　織

研究代表者：　海 野　　道 郎　　（東北大学大学院文学研究科教授）
研究協力者：　篠 木　　幹 子　　（東北大学大学院文学研究科博士後期課程）
研究協力者：　荒 井　　貴 子　　（東北大学大学院文学研究科博士前期課程）
研究協力者：　半 澤　　太 一*　　（東北大学大学院文学研究科博士前期課程）
研究協力者：　渡 辺　　真 奈 美**　　（東北大学文学部）

* 調査設計協力
**クロス集計表作成協力

研　究　経　費

平成 10 年度	700 千円
平成 11 年度	1, 400 千円
平成 12 年度	900 千円
計	3,000 千円

研　究　発　表【口頭発表】

篠木幹子, 1999,「合理的選択理論によるリサイクル促進要因の検討」 第 72 回日本社会学会大会（上智大学） 1999 年 10 月 10 日.

篠木幹子・荒井貴子・海野道郎, 2000a,「リサイクル不実行の理由―仙台市の現状―」 第 47 回東北社会学会大会（東北芸術工科大学） 2000 年 7 月 30 日.

篠木幹子・荒井貴子・海野道郎, 2000b,「リサイクルの実行に対する阻害要因―仙台市のごみ調査の分析―」 第 28 回行動計量学会大会（東京大学） 2000 年 10 月 9 日.

調　査　員

【行動科学研究室】

井出　　知之	東北大学大学院文学研究科博士後期課程
猪田　　有弥	東北大学大学院文学研究科博士前期課程
山本　　英弘	東北大学大学院文学研究科博士前期課程
荒井　　貴子	東北大学大学院文学研究科博士前期課程
眞田　　裕子	東北大学大学院文学研究科博士前期課程
丹野　　綾子	東北大学大学院文学研究科博士前期課程
半澤　　太一	東北大学大学院文学研究科博士前期課程
三隅　多恵子	東北大学大学院研究生
蟹沢　　尚子	東北大学文学部４年
高木　　健	東北大学文学部４年
中川　　勇士	東北大学文学部４年
伊藤　　裕子	東北大学文学部３年
井上　　圭	東北大学文学部３年
黒澤　　晋一	東北大学文学部３年
佐藤　　裕大	東北大学文学部３年
高井　　正樹	東北大学文学部３年
田子　　博貴	東北大学文学部３年
中川　　達弘	東北大学文学部３年
福富　　英明	東北大学文学部３年
山本　　太郎	東北大学文学部３年
由井　　貴子	東北大学文学部３年
石田　　直子	東北大学文学部２年
大武　　真希	東北大学文学部２年
小熊　　純平	東北大学文学部２年
奥村　　幸子	東北大学文学部２年
久保田　龍介	東北大学文学部２年
小坂　　文子	東北大学文学部２年
設楽　　史	東北大学文学部２年
渡辺　真奈美	東北大学文学部２年

【他研究室】

李　　妍焱	東北大学大学院文学研究科博士後期課程
佐野　亜沙美	東北大学理学部３年
関田　　桂子	東北大学文学部３年
三原　　淑子	東北大学法学部２年
宗形　　芳枝	東北大学文学部１年

（肩書きは 2000 年 2 月の調査時点におけるもの）

目　次

はしがき　i

序章　研究の目的と報告書の構成　1

1. 研究の目的　1

2. 分析に用いるデータ　1

3. 合理的選択理論とリサイクル行動　2

4. 報告書の構成　5

第Ⅰ部　研究編

第 1 章　リサイクル不実行の正当化メカニズム
—Diekmann and Preisendöfer のモデルの検討—　篠木 幹子・荒井 貴子・海野 道郎　9

第 2 章　リサイクル行動不実行の理由　篠木 幹子・荒井 貴子・海野 道郎　21

第 3 章　リサイクル行動をめぐる効用関数の異質性に関する検討
荒井 貴子・篠木 幹子・海野 道郎　37

第 4 章　リサイクル行動と地域移動　海野 道郎・篠木 幹子・荒井 貴子　51

第Ⅱ部　調査編

第 5 章　調査の企画と実施　71

1. 調査企画の経緯　71

2. 調査の目的　71

3. 調査票の設計　72

3.1 基本方針／ 3.2 質問項目の構造

4. 調査対象者と標本抽出法　77

5. 調査実施の方法 78
6. 粗品の購入 80
7. 予備調査 81

第 6 章　調査結果の概要 83
1. 回答者の特徴 83
1.1 回答者の性別と年齢／ 1.2 回答者の就業形態／ 1.3 回答者の学歴／
1.4 回答者の世帯収入／ 1.5 回答者の世帯構成人数／ 1.6 回答者が現在加入している団体／
1.7 公平感／ 1.8 階層帰属意識
2. 環境問題に対する関心 87
2.1 自然と人間の関係／ 2.2 環境問題の深刻さの捉え方／
2.3 環境配慮行動に対する規範意識
3. 環境配慮行動の実行 90
3.1 一般的な環境配慮行動の実行率／ 3.2 リサイクル行動の実行率／
3.3 就業形態によるリサイクル実行率の違い／ 3.4 リサイクル実行の理由／
3.5 リサイクル不実行の理由／ 3.6 リサイクル実行の協力者／
3.7 資源ごみ回収時のごみ集積所の状態
4. リサイクルに伴う手間・満足感 95
4.1 リサイクルの有効性／ 4.2 リサイクルに対する意見／
4.3 リサイクルに伴う手間の感じ方／ 4.4 行動と手間の感じ方／
4.5 リサイクルに伴う満足感／ 4.6 リサイクルに伴う問題点
5. リサイクル行動の促進 99
5.1 リサイクルの参加の呼びかけ／ 5.2 リサイクルの制度の変化
6. リサイクル商品に対する関心 101
6.1 エコショップに対する関心／ 6.2 リサイクル商品の購入／
6.3 リサイクル商品の購入・未購入の理由
7. 地域との関わり 103
7.1 近所づきあい／ 7.2 町内会の活発度／ 7.3 地域に対する愛着／
7.4 配布物に対する関心／ 7.5 情報源／ 7.6 リサイクルの実行と地域との関わり
8. まとめと今後の課題 106

第Ⅲ部　資料編

第 7 章　調査資料 111

1. 調査の日程 111

2. 実査準備 113

2.1 調査員の手引き／ 2.2 電話対応マニュアル／ 2.3 調査地点の特徴／

2.4 調査期間タイム・テーブル／ 2.5 回収票／ 2.6 定時連絡確認票

3. 実査 130

3.1 調査依頼状 1／ 3.2 調査依頼状 2／ 3.3 訪問票／ 3.4 お礼状／ 3.5 郵送依頼書

4. データ作成 134

4.1 エディティング・ガイド／ 4.2　コーディング・ガイド／ 4.3 入力フォーム

5. 調査のお礼と結果のお知らせ 153

6. 調査票 165

7. 集計表 181

7.1 単純集計表／ 7.2 クロス集計表

序章　研究の目的と報告書の構成

1. 研究の目的

環境配慮行動の実行に前向きであるにもかかわらず、環境配慮行動に取り組んでいない人々が現実には少なからず存在する。本研究では、種々の環境配慮行動の中でも、ごみ問題の解決の一手段であると考えられるリサイクル行動に焦点を当て、態度と行動の間に矛盾を抱える個人におけるリサイクルの実行メカニズムを検討していく。本研究の特徴は、課せられた制約の中で自らの選好を最大化させようとする合理的な行為者の行動メカニズムを環境問題に適用し、個人の合理的な行為の結果生ずる社会的ジレンマ状況として、ごみ問題を捉える点にある。合理的行為者像を仮定した行動モデルはさまざまな環境配慮行動に対して適用可能であり、今後の展開が期待されるモデルである。ここでは、合理的な行為者像を仮定し、実行に何らかのコストが伴うリサイクル行動の実行メカニズムを検討する。そのために、(1) 合理的な行為者モデルを仮定し、複数の環境配慮行動の不実行を正当化するメカニズムを探求した先行研究の検討を行う。そして、リサイクルを実行しない場合、いかなる不実行の理由が選択されるのか、という傾向を把握する。次に、(2) 他者行動認知のような要因、(3) 仙台市における居住年数や以前どこに住んでいたかといった要因とリサイクル行動のかかわりについて検討し、リサイクル行動を阻害／促進する要因を探求する。

2. 分析に用いるデータ

リサイクル行動のメカニズムを分析するために、本研究では仙台市において、「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査（GOMI2000）」を企画した。第１部の分析で用いているデータは、この調査によって得られたものである。調査の概要は以下のとおりである。調査の企画に関する詳細（調査票設計、サンプリング、実査法など）は第５章に記してある。

調査名	「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査（GOMI2000）」
調査主体	生活環境研究会（代表：海野 道郎、担当者：篠木 幹子・荒井 貴子）
協力	仙台市環境局 仙台市で推進しているリサイクルの現状についての情報提供 サンプリングの実施

抽出方法	確率比例抽出法
	第 1 次抽出単位：仙台市内 118 小学校区中 30 小学校区
	第 2 次抽出単位：小学校区ごとにランダムに 40 人の個人を抽出
調査対象	仙台市内の 1200 世帯
	回答は家事担当者に依頼
調査法	郵送法を併用した留置法（配票：郵送、集票：学生調査員）
実施期間	2000 年 2 月 12 日（土）から 14 日（月）
有効回収数	1026 票
回収率	85.5%

3. 合理的選択理論とリサイクル行動

ここで焦点を当てるのは、環境問題に対する態度と行動の矛盾である。環境に対する個人の態度は行動に影響を与える一方で、態度と行動の間には不一致が見られることが、社会心理学の分野で知られてきた（Liska, 1984）。本研究では、行為者が合理的に行動すると仮定し、彼（女）がリサイクルを実行しないメカニズムを探究していく。

はじめに、合理的選択理論について簡単に記しておく。海野（1991）によると、社会学的合理的選択理論には、さまざまな変種が存在する。しかし、その変種の多くは（あるいはほとんど）は、選好仮説、制約仮説、効用最大化仮説という３つの仮説を共有している。それは、次のようなものである（海野, 1991: 7）。

①選好仮説：個人の行為を説明するためには選好（言い換えると、動機、欲望、願望）を独立変数として考慮しなければならない。
②制約仮説：個人の行為を説明するためには、個人に課せられている制約（あるいは可能な機会）を独立変数として考慮しなければならない。
③効用最大化仮説：行為者は、自己に課せられた制約（可能な機会）を考慮しつつ、自己の選好を最大限実現するような行為を選択する。

さらに、海野（1991: 7-8）は、合理的選択理論の枠組みについて次の３点を指摘している。第１に、合理的選択理論が描く人間像は必ずしも利己的ではない。自分の価値基準に即して、選択肢を評価し、それにしたがって行動する人間である。第２に、現状を所与としたうえで個人的な最適化をする人間ではない。制約を改変することもありうる。ただし、合理的選択理論の観点からすると、彼（女）がそのような改変をしようとするか否かは、合理的選択理論の枠組みにしたがっていると考える。第３に、行為者は必ずしも「客観的に見て」最適な選択を選ぶとは限らな

い。合理的選択理論の視点はあくまでも行為者にある[1]。

リサイクルをめぐる問題は社会的ジレンマ状況として捉えられる。社会的ジレンマ状況は、合理的な行為者が制約を考慮しつつ自らの選好を最大化した結果、社会的に非効率的な状況が生じてしまうことを指す。その意味で、リサイクル行動を捉えるにあたって、合理的選択理論に基づくことには意味がある。合理的選択理論は行為者の行為の分析と社会的帰結の分析という二つの水準において、それぞれ意義を持っている[2]。ここではとくに行為者の行為の分析を重視し、リサイクル行動について検討していく。

合理的選択理論の枠組みに基づくと、リサイクルに関わる行動は次のように考えられる。個人には、リサイクルに協力したい（または協力したくない）といった選好（モティベーション）がある。しかしながら、行為に際しては必ず制約が伴う。リサイクルの場合、大きく２つの制約があると考えられる。それは、①選択肢の制約、②個人の実行能力に伴う制約である。これらの制約は、さらに客体的制約と主体的制約に分けられる。

ここで用いられている「選択肢の制約」は、個人の選択肢としてリサイクルシステムが実際にあるかどうか、といったことを示す。システムが選択肢として存在していなければ、いかにリサイクルに取り組みたくても不可能である。このような「選択肢の制約」のタイプを、ここでは「客体的制約」とよぶ。これに対して、実際にシステムが存在していたとしても、それを知らなければリサイクルに取り組めない。このような制約のタイプを、「主体的制約」とよぶ。

システムが存在していなければ（またはその存在を認知していなければ）リサイクルには取り組めないが、システムが存在している場合は、次の段階として、牛乳パックやビンを洗ったり回収場所まで持っていく時間があるか、それを保管しておくスペースがあるかどうか、といった問題が生じる。ここではこのような制約を個人の「実行能力の制約」とよぶ。「実行能力の制約」に関しても、実際に 15 時間会社で働いているために、時間制限のある回収場所に資源を持っていくことができないといった「客体的制約」と、実際の拘束時間とは関係なく「忙しいからできない」と個人が感じているためにリサイクルしないといった「主体的制約」がある。

本研究で主に焦点を当てるのは、環境に対する意識が高いにもかかわらずリサイクルに取り組んでいない個人である[3]。合理的行為者の観点から個人のリサイクル行動を検討すると、個人にはリサイクルに取り組みたい（または取り組みたくない）というモティベーションがあると考えられる。その時点でモティベーションがなければ、個人はリサイクルを実行しないという選択を行う。モティベーションがある場合は次の段階へとすすみ、実際の選択肢としてリサイクルシステ

---

[1] 合理的選択理論の内容や合理的選択理論に向けられた批判を整理したものとしては、佐藤（1998）、海野（1993）などがある。

[2] 木村（2000）を参照。

[3] もちろん、なかには、環境に配慮した行動などには全く取り組みたくないけれども、地域の仕組みとしてリサイクルに協力せざるを得ない、という個人もいるだろう。しかし、ここでのスタンスは、リサイクルが悪いことではないことは分かっており、また取り組みに対して否定的でないにもかかわらず、種々の制約からリサイクルに取り組んでいない個人の行動メカニズムを検討することにある。

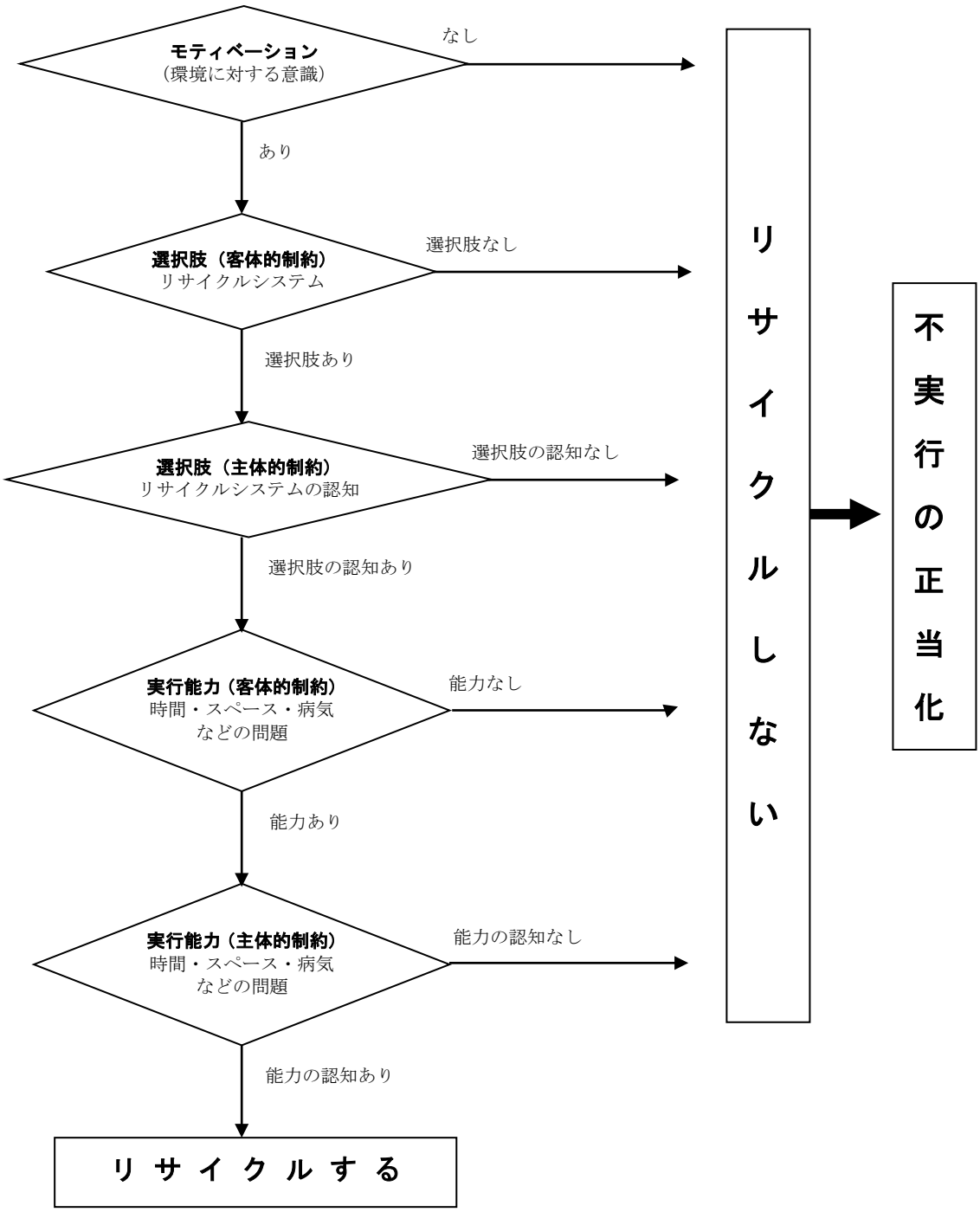


図 1　合理的選択理論の枠組みに基づいたリサイクル行動

ムが存在しているのかどうかという「選択肢の制約（客体的制約）」を考慮する必要がでてくる。現実に選択肢が存在しないのであればリサイクルの実行は不可能であるため、個人はリサイクルを実行できない。しかし、現実にリサイクルシステムが存在する場合でも、そのことを知らなければ個人にとっては選択肢がないことになるため、「選択肢の制約（主体的制約）」の問題から個人はリサイクルを実行しないことになる。システムがあり、かつ、その存在を知っている場合は、リサイクルに協力できる時間やスペースなどが実際にあるかどうかといった「実行能力の制約（客体的制約）」を考慮する必要がでてくる。現実に実行能力がない場合は、個人はリサイクルを実行しないという選択を行う。実際に実行能力がある場合でも、自分はリサイクルに取り組むほど時間的余裕がないと自分の状況を認知する場合は、「実行能力の制約（主体的制約）」によってリサイクルを実行しないという選択を行う。ここまでの段階でリサイクルを実行しないという選択をした個人は、不実行の正当化を行う。これに対して、自分に実行能力があると認知し、リサイクルに取り組むことが当該個人にとって望ましい状況であるならば、個人はリサイクルを実行するのである。

4. 報告書の構成

本報告書は、第１部「研究編」、第２部「調査編」、第３部「資料編」から構成されている。第１部は４つの論文で構成されており、各論文のなかでリサイクル行動のメカニズムを検討している。まず、合理的な行為者の観点から環境配慮行動の不実行に関する正当化のメカニズムを検討した Diekmann and Preisendöfer（1998）の議論を紹介し、彼らが引き出した３つの正当化の戦略を整理・検討する（第 1 章）。次に、仙台市で行ったリサイクルに関する調査データをもとに、リサイクル行動の特徴や、選択されやすい不実行の理由を把握し、そのような不実行の理由を規定している要因を検討する（第 2 章）。さらに、リサイクルを実行している個人と実行していない個人の間の異質性を、効用関数の異質性と他者行動認知の違いという２つの観点から説明したのち（第 3 章）、女性のみを対象として、７種類のリサイクル行動に及ぼす仙台市来住以前の居住地（前住地）の影響を分析する（第 4 章）。

第２部では、調査の企画と実施について詳細な説明を行ったのち（第 5 章）、調査結果の概要について記述した。この章の末尾では、集計結果から得られた知見をまとめ、併せて、今後の課題について検討した。

第３部では、調査を実施するにあたって使用した調査票や依頼状などの資料、調査日程の記録、単純集計表やクロス集計表のようなデータを収録している（第 7 章）。

【引用文献】

木村邦博, 2000, 「序論　社会学における合理的選択理論の意義」木村邦博（編）『合理的選択理論の社会学的再構成』科学研究費補助金研究成果報告書　1-15.

Liska, Allen E., 1984, "A Critical Examination of the Causal Structure of the Fishbein/Ajzen Attitude-Behavior Model," *Social Psychology Quarterly*, 47(1):61-74.

佐藤嘉倫, 1998,「合理的選択理論批判の論理構造とその問題点」『社会学評論』49(2):18-35.

海野道郎, 1991,「個人的行為と社会的結果 ―合理的選択理論によるミクロ・マクロ問題への挑戦―」『社会学研究』52:21-45.

海野道郎, 1993,「合理的選択理論の基礎概念 ―社会的ジレンマ研究を支える諸概念に関する検討―」海野道郎編『社会的ジレンマに関する数理社会学的研究』科学研究費補助金研究成果報告書 1-18.

第 I 部

研究編

第 1 章　リサイクル不実行の正当化メカニズム
―Diekmann and Preisendöfer のモデルの検討―

篠木 幹子・荒井 貴子・海野 道郎
（東北大学大学院文学研究科）

【要旨】

環境配慮行動の実行に前向きであるにもかかわらず、実際には環境配慮行動に取り組まない人々が少なからず存在する。本章では、ごみ問題の解決の一手段であるリサイクル行動に焦点を当て、態度と行動の間に矛盾を抱える個人におけるリサイクルの不実行のメカニズムを、Diekmann and Preisendöfer（1998）の議論を手がかりに検討する。彼らは、個人は態度と行動の矛盾を解消するために、不実行に対する正当化を行うと考えた。そして、合理的行為者の観点から環境配慮行動を観察し、詳細にデータを分析することで、「注意変更戦略」「高コスト戦略」「主観的合理性戦略」という３つの正当化の戦略を引きだした。この分類の利点は、いかなる条件においてどの戦略がよく用いられるのかを同定することによって、効果的な制御要因を探究することができる点である。しかしながら、この３つの戦略に対していくつかの疑問点や問題点も指摘できる。そこで、本章では、これらの戦略を再整理し、戦略間の関係について検討し、各戦略の制御要因について考察した。

キーワード：リサイクル、環境配慮行動、合理的選択、正当化、環境に対する態度

1. はじめに

現在、深刻さを増しているごみ問題の対策にはさまざまなものがある。法や条例の整備、制度の施行に必要なごみ処理施設の建設・整備、それらの設備を有効に活用し、効率を上げるための技術開発、さらに、ごみになるものを作らない、買わない、ものを長く使用したり再使用することでごみを出さない、リサイクルを行うといった行動などが、ごみ問題の対策の例として挙げられる。これらの対策には、自治体や企業、市民が各局面で関わっている。その一方で、ごみ問題は、最終ごみ処分場の確保や、中間処理施設の建設の問題といった単純に解決できない問題も抱えており、簡単に対策が実施できない場合もある。これらの対策はどれも重要で検討すべき問題

海野道郎（編）, 2001, 『リサイクル行動の計量社会学的研究―合理的選択理論を基礎として―』
平成 10～12 年度科学研究費補助金　基盤研究(C)(2)
課題番号　10610159　研究成果報告書　9-20 頁

であるが、本章では、とくにリサイクルに焦点を当て、リサイクルの促進・阻害要因について検討していく。

リサイクルの促進を考えていくにあたって、リサイクルの制度がいかにあるべきか（熊本, 1999）、また、リサイクルの制度のタイプや社会的な背景がリサイクル行動にいかに影響を与えるか（谷口，1996）、ということを検討する必要があるのはもちろんのことであるが、個人のリサイクル行動のメカニズムはいかに捉えられるのかということも、検討すべき課題である。これらの課題は互いに関連している。たとえば、制度の特徴は個人の行動に影響を与えるが、それとは逆に、個人の行動メカニズムを的確に理解することで、はじめて制度を効果的に施行できるという側面もある。大規模なリサイクルシステムをつくったとしても、実行に多大なコストが伴ったり、時間的制約などからそのシステムを利用できない人が多くいるような状態では、システムの役目は充分に果たされない。その意味で、個人の行動のメカニズムを把握することは非常に重要である。

本章では、個人のリサイクル行動に焦点を当てる。とりわけ、環境に対する態度と行動の間に矛盾が見られる場合、つまり環境配慮行動の取り組みに前向きであるにもかかわらず、実際にはリサイクルしていない個人に着目し、なぜリサイクルに取り組んでいないのかについて検討する。そのために、まず、不実行の正当化のメカニズムについて探究した Diekmann and Preisendöfer（1998）の議論を紹介する。次に彼らの議論を整理し、最後に今後の研究の方向性を示唆する。

2.　リサイクルの有効性

ごみ問題の解決の一手段であるといわれているリサイクルの効果とはどのようなものなのだろうか。リサイクルは、一般に、廃棄物処分場の延命効果があり、処分場不足の問題に貢献するといわれている。また、お金とエネルギーの両面から資源の供給を節約できると考えられている（Burn and Oskamp, 1986）。

これに対して、リサイクルは決して環境にやさしいものではないという意見もある。槌田（1992）は、リサイクルによってごみ問題は解決せず、不適切なリサイクルは地球をいっそう汚染させるということを、エントロピーの概念を用いて述べている。また、市民による過剰なリサイクル運動は市場原則を崩壊させることにつながり、牛乳パックやペットボトルは燃やして熱回収したほうが経済的だと考えている。さらに、なんでもリサイクルすれば大丈夫なのだと理解されることで、大量消費が増長されることを危惧している。

このような主張に対して熊本（1999: 135-136）は、次のように反論している。コスト的に高くつくものはリサイクルすべきではないという考え方には一理あり、そういった視点の必要性は認めるが、経済的に合う、合わないは、経済政策や需要拡大策、または、技術革新によって変化するのに、そうした政策や技術の導入の要求もせず、経済的に合わないからリサイクルすべきではないというのはおかしい。また、エントロピーと廃棄物は関係がなく、槌田（1992）のエントロ

ピー概念は用い方に不適切な面がある、というのである。

また、槌田（1992）はリサイクルによって大量消費が増長されることを危惧しているが、逆にリサイクルが、環境問題に対する関心を高めるきっかけになるとも考えられる。大規模スーパーの一つである西友では、環境配慮行動として最初に始まった牛乳パックのリサイクルがシンボル的活動となり、その結果、その他の活動も盛んになっていった[1]。これと同様のことは、個人にも起こる可能性がある。たとえば、リサイクルによって個人の環境問題に対する関心が高まり、それによって個人の態度がより「環境にやさしい」ものへと変化したり、リサイクル以外の環境配慮行動に取り組む可能性がある。加えて、リサイクルは、数ある環境配慮行動の中でも成功の可能性を秘めていると考えられる。なぜなら、多くの人によって支持されている行動であるためである。1993 年に仙台市において生活環境研究会が実施した「生活と環境に関する仙台市民意識調査」では、リサイクルがごみ対策として「非常に有効だ」、リサイクルに「協力できる」と回答している人は、他の環境配慮行動と比較すると群を抜いて大きな値であった[2]。さらに、リサイクル行動を促進・阻害する要因の探究は、将来的に、他の行動にも応用可能である。以上のような理由から、本章ではリサイクルに焦点を当てていく。

3.　態度と行動の矛盾

本章で焦点を当てるのは、環境問題に対する態度と行動の矛盾である。環境に対する態度が好意的であるにもかかわらずリサイクルになかなか取り組まない個人が、少なからずいるためである。態度と行動の間に不一致が見られることは、以前から社会心理学の分野で知られてきた（Liska, 1984）。社会学の分野でも、Derksen and Gartrell（1993）がこの傾向を示したが、Diekmann and Preisendöfer（1998）はより詳細な検討を行い、不一致の傾向を確かめた[3]。

広瀬（1995）は、環境問題に対する態度と行動の不一致を引き起こすと推測される原因について、大きく３つに整理した。第１の原因は、行動を決定・実行するときに環境についての認知が想起されにくい場合に、環境と消費の関連を考慮できない、というものである。たとえば、個人が環境保全とは何であるのかといった抽象的な知識（記述的知識）しかもたず、具体的な行動の手続的知識をもっていなければ、態度と行動が一致しない。また、消費や廃棄の過程で個人は環境を汚染しているという現実があるが、自分たちのミクロな生活と社会におけるマクロな環境汚染の関連を意識できない場合に、態度と行動が一致しないのである。

---

[1] 1996 年 10 月 23 日、西友「コーポレートサポート室　福祉・環境対策グループ」マネージャー代理・菊谷則行氏、伊豫田美智代氏へのインタビューより（篠木, 1999）。

[2] 生活環境研究会（1994）。「非常に有効」は 60%、「協力できる」は 76%である。

[3] Derksen and Gartrell（1993）は、「あなたは地球環境の状態についてどの程度関心がありますか」という設問によって、環境に対する関心を測定した（７点尺度／７：もっとも関心がある）。しかしながら、この設問は、「環境に対して関心がある」ことを個人がどの程度認知しているかを測定する設問であるとも考えられ、この設問のみによって、関心と行動の間には関連がないと結論づけるのは危険であるかもしれない。

第２の原因は、自分の行動によって環境保全に貢献できると考えても、その行動によって快適さや便利さなどの個人的便益が大きく損なわれるとすれば、個人は環境配慮行動を行うことがないというものである。第３の原因は、環境配慮行動の実行のしにくさの問題である。環境にやさしくしたいという態度を持っていても、具体的な個別の行動を実行するための手続き的知識や技術がなければ行動は実行できない。意識的な統制が困難な行動もある。また、正確なフィードバックが得られないことも、態度と行動の不一致を生み出す一因となっているのである。

リサイクルの促進を目指すのであれば、なぜリサイクルしないのかという不実行の行動メカニズムにこそ焦点を当てる必要がある。しかし、リサイクルの促進条件を探究した実験や研究は数多いが（Jacobs and Bailey, 1982; Jacobs, Bailey and Crews,1984; Burn, 1991; Hopper and Nielsen, 1991; Oskamp et al., 1991; Katzev and Pardini, 1987; Humphrey et al., 1977; Luyben and Bailey, 1979; Diamond and Loewy, 1991; De Young, 1986）、不実行のメカニズムを追究した研究はあまりない。その中で、Diekmann and Preisendöfer（1998）は合理的な人間像を仮定することで、環境配慮行動を行わない個人に焦点を当て、不実行の正当化のメカニズムについて検討した。本章ではこの議論に基づいて、リサイクルに取り組んでいない個人の正当化のメカニズムを検討する。

4.　Diekmann and Preisendörfer (1998)の正当化に関する３つの戦略

態度と行動が矛盾する場合、個人はその矛盾をいかに解決しているのか。Diekmann and Preisendörfer (1998: 84)は、その矛盾を追究する際に、パス解析のような分析を利用する欠点を次のように指摘した。第１の欠点は、環境配慮行動に対する影響の概略や全体の印象は、パス解析などの分析によって把握することができるが、この分析では詳細な部分を見落としがちである、というものである。第２の欠点は、モデルは環境配慮行動が一貫して画一的な行動であるという仮定に基づいており、パス解析の分析から得られた効果のいくつかは、理解や説明するのが困難である、というものである。とくに、パス解析で仮定したモデルは環境意識と行動の本質的な矛盾を覆い隠す、と指摘し、より詳細な分析を行った。

Diekmann らによれば、態度と行動が一致していない個人は、その矛盾を解消するために、不実行に対する正当化を行うと考えられる。彼らはさらに、合理的行為者の観点から環境配慮行動を観察し、詳細にデータを分析することで、不実行に対する３つの正当化の戦略を引きだした。引きだされた戦略は、①注意変更戦略、②高コスト戦略[4]、③主観的合理性戦略である。これらの戦略はいずれも、態度と行為の矛盾を正当化する場合に、行為者がどの側面に着目するかによって分類されている。それぞれについて、詳しく述べていこう。

[4] Diekmann and Preisendöfer（1998）のなかでは、①注意変更戦略（attention-shifting strategy）、②低コスト戦略（low-cost strategy）、③主観的合理性戦略（subjective-rationality strategy）となっている。ただし、本稿では、戦略の内容から、実行－不実行の方向性と戦略名を一致させるために、「低コスト戦略」を「高コスト戦略」として用いている。

4.1　注意変更戦略

Diekmann and Preisendöfer（1998: 86-88）によると、「注意変更戦略」は、その地域の住民ならば、環境配慮行動に協力することが可能である、というベースラインの状況に対して、自分のある特定の状況がそれを許さないとして、ベースラインの状況から特定の状況に注意をシフトさせる戦略である。それによって、合理的な行為者は、自分にとって価値がある行動を高く評価してその行動を実行し、その他の行動を低く評価してその行動を実行しない。たとえば、高齢者は、ビンのリサイクルを行わないことに関して、自分たちが車を持っていないことを強調し、びんの運搬がたいへんであるためにリサイクルしていないのだ、と自分の行動を正当化する。また、高い地位にあるビジネスマンは、シャワーを浴びて清潔さを保つことがビジネスの成功につながるため、水を節約することはできない、というように、していない行動を正当化する。

Diekmann and Preisendöfer（1998）は、「買い物」、「リサイクル」、「省エネ」、「交通」の 4 つの環境配慮行動に注目し、属性変数を説明変数として、各分野の行動を説明する重回帰分析を行った。そして、どの重回帰係数も一貫した効果を持たない（行動によって効果の方向が逆転することもある）ことを示した。ここで見られた変数の非一貫性は、インタビューに基づいて解釈された。それが注意変更戦略である。

4.2　高コスト戦略

「高コスト戦略」は、合理的な行為者は「コスト」がなければ態度にしたがって行動するが、「コスト」がある場合は環境配慮行動を行わないことを正当化する戦略である。図 1.1 は Diekmann and Preisendöfer（1998）のコスト仮説を図示したものである。環境配慮行動を阻害する障壁があることを所与とすると、「行為者はコストがなければ、環境に対する態度にしたがう」という予測ができ、コストが低い状況では、環境的なモラルやエコロジカルな態度に一致するということが、態度と行動が一致する認知的メカニズムとして特徴づけられる。この場合、「コスト」とは、金銭的支出、時間的制約、不快さなど主観的に定義され行動を抑制するものをさす。彼らは、Stern and Aronson（1984）、Tyler et al.（1982）、Derksen and Gartrell（1993）らの研究を、実行コストが低ければ、態度と行動が一致する「高コスト戦略」の例としてあげた。

リサイクルについて考えてみると、隣町に行かないと回収システムがない場合、時間面からも、手間の面からもコストが大きいため、リサイクルしないと正当化する場合があげられるだろう。これに対して、リサイクルの回収容器が近くにあり簡単に利用できるときには、人々はリサイクルをよく行うと予測できる。実行コストが小さくなれば、態度と行動の矛盾を正当化する必要がなくなり、行動が行われるようになる。

この戦略は、Diekmann and Preisendöfer（1998: 90-91）によってコストが高い／低いと判断された行動の実行率と、環境問題に対する関心の間の相関を求めることで、導きだされた。コストが低いと考えられる行動の実行率と環境に対する意識の相関は高く、コストが高いと考えられる行

動と意識との相関が弱い結果から、コストが実行を阻害するとしている。

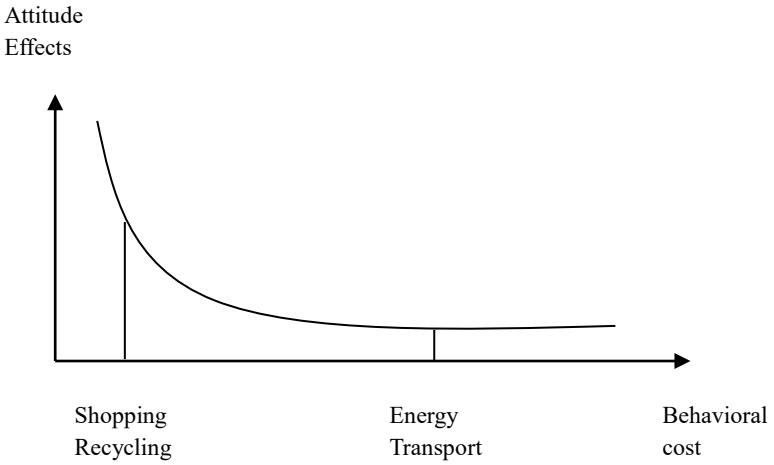


図 1.1　Diekmann のコスト仮説
Diekmann and Preisendöfer（1998: 91）

4.3　主観的合理性戦略

「主観的合理性戦略」とは、社会全体を見た場合、自分一人が環境配慮行動を行ってもその社会が変化するわけではないから実行しても無駄だと考え、環境配慮行動を実行しないことを正当化する戦略である。Diekmann and Preisendöfer（1998: 92）は、(1) 近視眼的な合理的行為者にとって環境配慮行動を実行することは意味を持たない、(2) 環境配慮行動はジレンマ状況に陥っていることが多いことから、自分の行動の影響が小さい行為者の視点からすると、環境の改善は他の人々の行動に依存している、と指摘した。たとえば、自分以外の市民が家庭ごみの量を半分にすれば市全体のごみ総量は 50%減少する。また、自分の車の使用頻度を減らしたり車を所有しないといった努力をしても、それによって町の空気の質が改善されることはなく、自分が不自由を感じたり移動時間が長くなるだけである。個人にとってもっとも望ましい状態は、他者が車を使用せず、自分は交通渋滞や交通事故の危険性なしに運転することである。「環境の質」は集合財の特徴を備えているため、「合理的行為者」は、フリーライドするという選択肢を選択する傾向にあり、他者の協力行動を搾取するのである。

このような合理性の問題は理論的には立証されるが、「普通の人」がどの程度この「世界観」にそって認識し、受け入れ、行動しているのかは分からない。Diekmann らは、最初に個人がどのくらい「合理的行為者像」に合致するかを検討し、次に環境配慮行動における経済的誘因の重要性を強調する実証的知見を提示することで、主観的合理性戦略を導いた。調査の結果、「環境に多少コストがかかっても、人は自らの利益のために行動する」と考える人が多く、「自分の行動では、環境改善への十分な貢献ができない」と考える人も多いことが明らかになった。しかしながら、

これとは矛盾して、「他者の行動に関らず、自らは環境配慮行動をやろうとしている」と回答する個人もかなりの割合でいることも明らかになった。つまり、個人は、合理的行為者像にある程度、合致するにもかかわらず、現状については自らの行為を過大評価し、他者の行為を過小評価しているのである。Diekmann らは、このような状況では、行為の変化を促すのは困難であると考えている。さらに、暖房料金が個人課金の場合は省エネを行うが、集団課金の場合にはエネルギーを浪費する傾向があるという実証的知見から、合理的な個人が経済的誘因を重視する傾向を強調し、この戦略が導きだされた。

5.　正当化のモデルに関する検討

5.1　戦略の整理

Diekmann and Preisendöfer（1998）の３つの戦略は、不実行の正当化を理解するための手助けとなるが不十分な面もあり、いくつかの疑問点や問題点を指摘することができる。ここでは、３つの正当化の戦略を検討するために、これらの戦略を改めて解釈する。

主観的合理性戦略は社会全体の公共物、高コスト戦略は行為者個人にふりかかるコスト、注意変更戦略は行為者の関心のシフトに着目した戦略であると考えられる。

これらの正当化に関する戦略の基本は、高コスト戦略であると捉えられる。たとえば、リサイクルについて考えてみると、再生可能な資源を洗浄したり遠いところまで運んだりする、というように実行に手間や時間がかかる場合、個人はコストを理由にリサイクルを実行しないことを正当化する。これに対して、同じリサイクルでも、そのような手間がかからない場合は実行される可能性がある。

主観的合理性戦略は、コスト戦略をベースとして、それに社会に対する自分の影響力や他者に対する期待を導入して正当化を行う。自分がリサイクルしてもごみ問題の解決にはなんら影響を与えないと考える個人は、リサイクルを実行しないことを正当化する。また、他者がリサイクルするのであれば、自分はリサイクルを実行せずに（コストをかけることなく）、フリーライドしたほうがよいと考え、リサイクルを実行しないことを正当化する。

注意変更戦略では、個人の事情（仕事、体力など）を導入することで不実行の正当化を行う。たとえば、実行に伴うコストは厭わないし、リサイクルに取り組みたいという意思もあるが、病気のためになかなかリサイクルに取り組めないといった理由から不実行を正当化する。注意変更戦略のような正当化は、それこそ個人の事情によって無数にあることになり、いくつかのタイプに分類することは難しい。しかし、この戦略は、個人はアドホックに自分の行為を正当化するということにこそ特徴があると考える。　Diekmann and Preisendöfer（1998）は言及していないが、ずらした論点は、「協力したいが病気でどうしてもできない」といったように、社会的に容認されるものでなくてはならないと考えられる。この戦略は、規範やコストの問題が解決しても、なお、

リサイクルを実行できない個人の状態を示していると考えられる。

5.2　正当化のモデルの問題点

Diekmann and Preisendöfer（1998）の正当化のモデルの特徴は、リサイクルの促進要因を探究している先行研究とは異なり、合理的な行為者の視点から環境配慮行動になかなか取り組まない個人を分析することで、態度と行動の矛盾の一側面を明確にしようとしている点である。しかし、これらの正当化のモデルに対して、次のような疑問点や問題点も指摘できる。(1) Diekmann and Preisendöfer（1998）の整理以外に、不実行の正当化のパターンはないのか、(2) 個人は、一つの正当化のパターンしか持ちえないのか、それとも複数のパターンを持つのか、(3)一般的な合理的選択理論の枠組みからみると、正当化のモデルはどのように整理できるのか、(4)不実行の正当化は、認知的不協和の一種にすぎないのではないのか、という点である。これらの問題点について、順番に検討していこう。

まず、Diekmann and Preisendöfer（1998）の整理以外に、不実行の正当化のパターンはないのかという点について検討していく。彼らは不実行の理由をこの３つに分類したが、彼らの整理以外に、環境に対する関心が高くても、リサイクル行動が実行できず、正当化を行う場合がある。それは、①リサイクルシステムそのものがないとき、または、②システムがあってもその存在を知らないとき、さらに、③システムがあっても、家にリサイクルする「もの」がない（たとえば、ペットボトルに入った飲料は買わない、牛乳を買わない）場合であると考えられる。本章ではリサイクルの不実行の理由を探究しているが、③の場合には、ごみになるものを買わない出さないという意味で、環境に配慮しているといえるだろう。

個人は、一つの正当化のパターンしか持ちえないのか、それとも複数のパターンを持つのかという点についてはどうであろうか。基本的に、リサイクルが実行されない理由は一つではなく、複数の理由が混在している場合が多いと考えられる。たとえば、「面倒くさい（高コスト戦略）」、「家が狭く資源の保管場所がない（注意変更戦略）」、「自分だけやっても仕方がない（主観的合理性戦略）」というように、そのどれもが不実行の理由になっている可能性がある。Diekmann and Preisendöfer（1998）が分類した３つの戦略は背反ではなく、個人の中に複数存在するのである。個人は正当化のプールをもっていて、その中からその時どきで、不実行の理由に関する戦略を選択していると考えられる。

次に、一般的な合理的選択モデルの枠組みで、これらの３つの戦略がどのように整理できるのかについて検討していく。海野（1991; 1993）によると、社会学的な合理的選択理論には、さまざまな変種が存在する。しかし、その変種の多くは（あるいはほとんど）は、選好仮説、制約仮説、効用最大化仮説という３つの仮説を共有している（海野, 1991: 7）。行為者は、自己に課せられた制約（可能な機会）を考慮しつつ、自己の選好を最大限実現するような行為を選択するのである。合理的選択モデルに基づいて、単純な期待値モデルを考えると、次のように表現できる。

$$pV - c \begin{matrix} > \\ = \\ < \end{matrix} 0$$

c: コスト

p: 主観確率（有効性感覚）

V: リサイクル実行の価値

このモデルでは、個人のリサイクル実行に伴うベネフィット[5]を左辺が表し、リサイクルをしない場合を右辺が表している。リサイクルしない場合はベネフィットが「０」と設定されている。個人のベネフィット（選好）は、リサイクルの実行に伴うコストや価値、価値にかかる主観確率によって構成される。合理的な個人は、リサイクルの実行または不実行のどちらが自分にとってベネフィットが大きいのかを考え、望ましい選択肢をえらぶ。リサイクルに伴うベネフィットが大きければ、つまり左辺が０より大きくなった場合は、リサイクルを実行するという選択を行う。リサイクルに伴うベネフィットが０よりも小さくなれば、リサイクルを実行しないという選択を行う。

ここで、c のコストが個人にとって大きければ、その個人にとってベネフィットはマイナスになるので、リサイクルは実行されない。これは、Diekmann and Preisendöfer（1998）の不実行の正当化の戦略の中のコスト戦略にあたると考えられる。コストが大きいためにリサイクルできないことを個人は正当化するのである。これに対して、p の主観確率が小さければ、リサイクルの有効性感覚が小さい、つまり、自分の行動による影響力が小さく自分がリサイクルしても仕方がないということになり、ベネフィットがマイナスになるために、リサイクルは実行されない。これは、Diekmann らの正当化の戦略でいうと、主観的合理性戦略にあたると考えられる。いつもリサイクルがうまくいくとはかぎらない。ただし、自分が貢献することで、主観確率 p は０ではなくなる。また、V が小さければ、自分にとってリサイクルはあまり価値がないということになり、リサイクルは実行されない。病気といった制約を考慮すると、リサイクルは今の自分にとってはそれほど実行する価値のあるものではないと考え、リサイクルが実行されないのである。このような不実行の理由の正当化は注意変更戦略にあたると考えられる。以上のように、Diekmann and Preisendöfer（1998）の３つの正当化の戦略は、コスト（c）、主観確率（p）、リサイクルの価値（V）のいずれかの値を変化させるという形で、表現できるといえるだろう。

ただし、Diekmann and Preisendöfer（1998）の整理以外に、不実行の正当化のパターンはないのかという点を検討した際に、リサイクルシステムそのものがない、システムがあってもその存在を知らない場合があることを述べたが、このような不実行の理由は、上記のモデルの枠組みの外にある条件である。さらに、個人の中には複数の不実行の正当化の理由があり、その時どきで不実行の理由に関する戦略を選択しているというという点と上記のモデルの関係について考えてみると、たとえば、「手間がかかる」、「自分だけがリサイクルしても仕方がない」という２つの正当化の戦略をもつ個人については、コスト（c）の値が大きく、主観確率（p）の値が小さい状態で

[5] ここでさしているベネフィットとは、「ネット・ベネフィット」のことである。

あると解釈できるそのため、リサイクルに伴うベネフィットがマイナスとなって、リサイクルが実行されない、と考えられる。

最後に、不実行の正当化は、認知的不協和の一種にすぎないのではないのか、という問題点について検討していく。確かに、一見、正当化の戦略は認知的不協和の一種であるように見える。認知的不協和は、行動が先にあって確定されており、その行動の変更が困難な場合に行動に意識をあわせていくというメカニズムである。たとえば、環境に配慮した車を 250 万で買った場合、車を交換することは一般的な個人にとって負担となりたいへん困難なので、自分が購入した車は非常によい車だ、環境に配慮することはよいことなのだ、というように意識が変化する可能性がある。環境配慮行動のいくつかのタイプには、そのような分析が可能であると思われる（環境に配慮した車の購入、太陽光発電装置の取り付けなど、行為をはじめる時点で高いコストが伴い、いったんその行動を行うと変更がなかなか難しいもの)。しかし、「買い物」や「リサイクル」行動、「省エネ」、「交通」行動などに認知的不協和がそのまま当てはまるかどうかは考慮する必要がある。牛乳パックやトレイのリサイクルなどはまさに自発的な行動であり、現時点ではいつでもリサイクルをやめることができるのである。

6. まとめと考察

不実行の戦略が明らかになれば、どの条件がクリアされればリサイクルが実行可能になるのか、といった制御要因を効率的に探究することが可能である。複数の戦略も、一つ一つ条件をクリアしていけば、最終的にリサイクルの実行につながる条件が整うだろう。さらに、特定の回収物や特定のリサイクルシステムにおいて現出する特定の戦略を同定できる点に、Diekmann and Preisendöfer（1998）の分類の利点がある。ここでは、(1) 先行研究のリサイクル促進要因が各戦略にいかに適用可能か、(2) 制御が可能な新しい要因はあるのか、ということについて検討する。

まず、前述のリサイクル促進要因の中で、各戦略に対する効果的な制御要因について検討しよう。各戦略の基本は高コスト戦略であると考えられるため、リサイクルの回収容器が簡単に利用できるような実行コストが低いシステムを作り上げる「状況の変化」が、どの戦略に対しても有効な要因であると考えられる。注意変更戦略では個人の事情が正当化の理由として導入されている。それゆえ、車がないため重いものをリサイクルできないと正当化する高齢者に対しては、車を持たずにリサイクルできるように、家までビンをとりにいくようなシステムをつくる、時間がない人がいつでも好きなときに資源を持っていけるスペースを確保するといった、個人の事情に即した「状況の変化」によって、不実行が制御できる可能性がある。

主観的合理性戦略は社会的ジレンマ状況を示している。この戦略をとる合理的行為者は、Diekmann and Preisendöfer（1998）が述べたように金銭的要因で制御が可能であり、不実行の個人にはペナルティを与えて行為者の選好を変更する方法がある。しかし、内発的動機づけの低下、

二次的ジレンマの発生といった問題がすでに指摘されている。また、個人の行動は社会全体に影響を与えるという情報を行為者に提供するという制御方法が考えられ、その一例として教育があげられる。実際に、環境教育に関する研究の多くは子供たちの態度の変化に成功したことを報告してきた（Leeming et al., 1993）。しかし、社会的ジレンマの研究の蓄積からも明らかなように、教育によってリサイクルする人々が増える可能性はあるが、教育の効果のみによって問題を解決するのは困難であろう。

Derksen and Gartrell （1993）は、社会心理学者による促進要因追究の研究では、社会的または文化的なコンテクストが無視されてきたことを批判している。谷口（1996）も、リサイクル制度のタイプや社会的な背景が行動にいかに影響を与えるかを検討する必要があることを指摘している。既知の促進要因では制御困難な不実行の戦略に対応するためにも、社会的な背景を積極的に取り入れていく必要があるだろう。その手段の一つとして、ブロックリーダーの役割の応用が考えられる。先行研究では、ブロックリーダーは地域のリサイクルに参加している個人の中から調査者によって選ばれた。日本で同様の手法を用いることも可能だが、たとえば、町内会や子供会、老人会等で活躍している人にリーダーを頼むという方法もある。どのような組織のリーダーが有効な影響力を持つかは地域の特徴や各会の活動の活発さによるだろう。仙台市では、おもに子供会が中心となって回収を進めている集団資源回収においてリーダーを起用している。リーダーの役割をコミュニケーションの中に組み込んでいくことで、実行に伴う不快感等が低減する可能性がある。

以上のような影響を検討していくことが今後の課題であるといえるだろう。

【引用文献】

Burn, Shawn M., 1991, "Social Psychology and the Stimulation of Recycling Behaviors: The Block Leader Approach," Journal of Applied Social Psychology, 21(8):611-629.

Burn, Shawn M., and Oskamp, Stuart., 1986, "Increasing Community Recycling with Persuasive Communication and Public Commitment," Journal of Applied Social Psychology, 16(1):29-41.

Derksen, Linda, and Gartrell, John., 1993, The Social Context of Recycling," American Sociological Review, 5(3)8:434-442.

De Young, Raymond, 1986, "Some Psychological Aspects of Recycling," Environment and Behavior, 18(4):435-449.

Diamond, William D., and Loewy, Ben Z., 1991, "Effects of Probabilistic Rewards on Recycling Attitudes and Behavior," Journal of Applied Social Psychology, 21:1590-1607.

Diekmann, Andreas, and Preisendöfer, Peter., 1998, "Environmental Behavior: Discrepancies Between Aspirations and Reality, " Rationality and Society, 10(1): 79-102.

広瀬幸雄, 1995, 『環境と消費の社会心理学− 共益と私益のジレンマ− 』名古屋大学出版会.

Hopper, Joseph R., and Nielsen, Joyce McCarl., 1991, "Recycling as Altruistic Behavior: Normative and Behavioral Strategies to Expand Participation in a Community Recycling Program," Environment and Behavior, 23(2):195-220.

Humphrey, Craig R., Bord, Richard J., Hammond, Margaret M., and Mann, Stuart H., 1977, "Attitudes and Conditions for Cooperation in a Paper Recycling Program," Environment and Behavior, 9(1):107-123.

Jacobs, Havey E., and Bailey, Jon S., 1982, "Evaluating Participation in a Residential Recycling Program," Journal of Environmental Systems, 12(2):1982-1983.

Jacobs, Havey E., Bailey, Jon S., and Crews, James I., 1984, "Development and Analysis of a Community-Based Resource Recovery Program," Journal of Applied Behavior Analysis, 17(2):127-145.

Katzev, Richard D., and Pardini, Anton U., 1987, "The Comparative Effectiveness of Reward and Commitment Approaches in Motivating Community Recycling," Journal of Environmental Systems, 17(2):1987-1988.

熊本一規, 1999, 『ごみ行政はどこか間違っているのか？―リサイクル社会を問直す―』合同出版.

Leeming, Frank C., Dwyer, William O., Porter, Bryan B., and Cobern, Melissa K., 1993, "Outcome Research in Environmental Education: A Critical Review," *Journal of Environmental Education*, 24(4):8-21.

Liska, Allen E., 1984, "A Critical Examination of the Causal Structure of the Fishbein/Ajzen Attitude-Behavior Model," Social Psychology Quarterly, 47(1):61-74..

Luyben, Paul D., and Bailey, Jon S., 1979, "Newspaper Recycling: The Effect of Rewards and Proximity of Containers," Environment and Behavior, 11(4): 539-557.

Oskamp, Stuart, Harrington, Maura J., Edwards, Todd C., Sherwood, Deborah L., Okuda, Shawn M., and Swanson, Deborah C., 1991, "Factors Influencing Household Recycling Behavior," Environment and Behavior, 23(4): 494-519.

生活環境研究会, 1994, 『生活と環境に関する仙台市民意識調査報告書』仙台市環境局.

篠木幹子, 1999, 「牛乳パックのリサイクルに対するスーパーの取り組み―環境配慮行動の特徴と企業の対応に注目して―」『社会学年報』28:77-98.

Stern, P.C. and Aronson, E., eds., 1984, Energy Use. The Human Dimension, New York:Freeman.

谷口吉光, 1996,「住民のリサイクル行動に関する機会構造論的分析―日米比較調査をもとに―」『環境社会学研究』2:109-122.

槌田敦, 1992, 『環境保護運動はどこが間違っているのか？』JICC 出版局.

Tyler, T. R., Orwin, R., and Schurer, L., 1982, “Defensive Denial and High Cost Prosocial Behavior, ” Basic and Applied Social Psychology, 3:267-281.

海野道郎, 1991,「個人的行為と社会的結果―合理的選択理論によるミクロ・マクロ問題への挑戦―」『社会学研究』52:21-45.

海野道郎, 1993, 「合理的選択理論の基礎概念―社会的ジレンマ研究を支える諸概念に関する検討―」海野道郎編『社会的ジレンマに関する数理社会学的研究』1-18.

第 2 章　リサイクル行動不実行の理由

篠木 幹子・荒井 貴子・海野 道郎
（東北大学大学院文学研究科）

【要旨】

本章では、個人がリサイクルに取り組んでいない理由を、仙台市で行った調査データを基に検討していく。はじめに、合理的な人間像を仮定することで、環境に配慮した行動に取り組まない個人が行う正当化の戦略を明らかにしようと試みた Diekmann and Preisendöfer（1998）の議論を土台として、態度と行動の不一致の程度について検討した。その結果、環境に配慮した行動を行いたいという個人の態度にもかかわらず取り組まれていない行動が少なくないことが明らかになった。次に、因子分析を用いて種々の環境配慮行動とリサイクル行動の関係を検討したところ、リサイクルには２つのタイプがあることが明らかになった。それが、「低コストリサイクル」と「高コストリサイクル」である。本章では、分析によって明らかになったリサイクル行動の特徴を考慮しながら、とくに高コストリサイクルにおいて、特定の不実行の理由を選択する個人の特徴はいかなるものかについて分析した。その結果、コストにかかわる不実行の理由においては規範意識が、方法がわからないといった情報の欠如に関しては環境に対する態度が、時間がないといった理由に対しては、規範意識や態度、子供の有無などが影響を与えていることが明らかになった。

キーワード：リサイクル、環境に対する態度、合理的選択、コスト、正当化

1. はじめに

ごみ問題の対策の一つであるリサイクルの促進を考えるためには、個人がなぜリサイクルしないのかを検討することが重要である。しかし、リサイクルの促進条件を探究した先行研究は数多いが、不実行のメカニズムを追究した研究はあまりない。その中で、Diekmann and Preisendöfer（1998）は合理的な人間像を仮定することで、環境に配慮した行動に取り組まない個人が行う正当化の戦略を明らかにしようと試みている。本章では、仙台市で行った「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」のデータを使用し、Diekmann and Preisendöfer（1998）の不実行の３つの戦略である、注意変更戦略、高コスト戦略、主観的合理性戦略による不実行の理由について

海野道郎（編）, 2001, 『リサイクル行動の計量社会学的研究―合理的選択理論を基礎として―』
平成 10～12 年度科学研究費補助金　基盤研究(C)(2)
課題番号　10610159　研究成果報告書　21-36 頁

検討していく。

そのために、まず、態度と行動の不一致の程度について検討し、環境に対する態度にもかかわらず取り組まれていない行動がどの程度あるのかを把握する。次に、因子分析を用いて種々の環境配慮行動とリサイクル行動の関係を検討すると同時に、リサイクル行動の特徴についても検討していく。その後、特定のリサイクル行動に焦点を絞り、Diekmann and Preisendöfer（1998）の戦略に基づいて設定された不実行の理由のなかで、いかなる理由が選択されやすいのか、さらに、各理由の選択に影響を与える要因はいかなるものかについて明らかにする。

2.　態度と行動の関係

2.1　態度と行動の不一致

ここでは、まず態度と行動の不一致の傾向について検討していく。そもそも、態度は社会行動を理解するためのキーワードと見なされてきた（広瀬, 1995）。広瀬（1995: 66-67）の整理によれば、態度は２つの重要な機能をもっている。１つは、外部環境からの情報を判断する枠組みを与えるという認知的機能であり、もう１つは、環境への効果的な適応をもたらすレディネス（構え）としての行動機能である。だからこそ、態度変容や態度測定などの社会的態度についての研究は、社会心理学の大きな分野を構成してきた。しかしながら、態度と行動はなかなか一致しない。この理由として、(1) リサイクル行動を含めた消費の主要な目標は、快適さや便利さなどの便益を享受することであり、環境への配慮は副次的目的にすぎないので、消費行動の決定場面において環境に関連する認知が必ずしも想起されるとは限らない、(2) 消費行動を選択する場合には、環境への影響にいたるまでのあらゆる行動結果を熟慮するという合理的な意思決定がなされるとは限らない、(3) 環境配慮行動は、技術や知識あるいは能力などの要因によって制約を受けることが多く、必ずしも合理的決定による行動がそのまま実行されるわけではない、ということが考えられる（広瀬, 1995）。

Diekmann and Preisendöfer（1998）は、態度と行動の不一致の状況を把握するために、以下の検討を行った。まず、環境に対する意識や環境に関する自覚などの 12 項目（尺度は 1-5 の範囲）で測定した変数を因子分析にかけ、その結果選ばれた６項目のスコアの総計（尺度は 6-30 の範囲）を態度の総合的な変数とした。環境配慮行動に関しては、30 の環境配慮行動を因子分析にかけた結果得られた４つの分野（買い物、リサイクル、省エネ、交通）から４行動ずつ 16 行動を選択し、そこから全般的環境配慮行動という変数を構成した（尺度は 0-16）。そして、態度と全環境配慮行動の実行の度合いとの相関を求め（r=.22）、これは、環境配慮行動の分散の 5%しか説明しない弱い関連であることを明らかにした。さらに、意識が高い回答者（上位 1/3）の行動のパターンを詳細に検討し、態度が行動に結びついていないことを示した（Diekmann and Preisendöfer, 1998: 85）。

ここでは、仙台市における態度と行動の不一致の傾向を確かめるために、環境問題に対する意

識や認識から環境問題に対する態度に関する変数をつくった[1]。ここでは、環境に好意的または非好意的な態度に関する変数を、「意識」として表現している。そして、環境に対する意識が高い上位 1/4 グループが、リサイクル行動を含んだいくつかの環境配慮行動にどの程度取り組んでいないのかをみてみた（表 2.1）。

表 2.1　環境問題に対する態度と環境配慮行動の不実行率

	意識が高いグループ(上位 1/4:252 人)の不実行率(%)	意識が低いグループ(下位 1/ 4：322 人)の不実行率(%)	全体（1026 人）の不実行率(%)
洗面時の節水	28.6	36.3	32.8
風呂の残り湯の利用	27.4	34.8	33.2
冷暖房の温度調節	13.5	20.5	16.3
使用しない電灯の消灯	5.2	8.1	7.2
チラシの裏の活用	55.2	61.5	59.4
ものを買い換えず長く使用	23.4	27.3	25.6
ものを直して長く使用	35.7	42.9	42.0
公共交通の利用	71.8	61.8	65.9
徒歩・自転車の利用	56.0	55.0	56.3
ルールを守ってごみを捨てる	6.3	7.8	7.1
コンポストの使用	92.1	91.6	90.7
天然油脂性の洗剤の使用	82.5	82.6	82.5
排水にごみ受けを取り付ける	12.7	17.7	14.7
油を排水に捨てない	6.3	11.8	10.6
過剰包装を断る	46.8	62.7	53.9
環境にやさしい商品の購入	54.4	69.3	62.4
使い捨て商品を買わない	68.7	78.9	76.7
買い物袋の持参	78.6	79.5	79.7
環境家計簿をつける	97.2	95.3	97.2
新聞紙・古雑誌のリサイクル	12.0	12.6	12.7
牛乳パックのリサイクル	35.5	50.6	46.0
トレイのリサイクル	47.2	56.5	53.5
ペットボトルのリサイクル	11.6	15.4	14.8
ビン・缶のリサイクル	6.3	9.8	8.4
電池（筒型）のリサイクル	20.4	23.4	23.6
衣類のリサイクル	30.5	41.3	38.4

注 1: 各行動は、実行している場合は「1」、実行していない場合は「0」の値が与えられている。
注 2: リサイクルに関しては、自分が実行しているかどうかについて着目し、「いつもしている」「ときどきしている」人に「1」、「めったにしない」「まったくしない」「家族がしている」人に「0」の値が与えられている。

はじめに全体の不実行率をみてみよう。とくに不実行率が高い行動として、「環境家計簿をつける」、「コンポストの使用」があげられる。この２つの行動は９割の人が取り組んでいない。環境

[1] 使用した変数に関する詳細は、章末の付録を参照。

家計簿は非常に複雑で、家計簿をつけるために知識が必要であると同時に、手間もかかる点が不実行の大きな理由として考えられる。コンポストは、価格や設置場所に関する問題が改善されてはいるものの、いまだに敬遠されているようである。次に不実行率が高い行動として、「天然油脂性の洗剤の使用」、「買い物袋の持参」、「環境にやさしい商品の購入」、「公共交通の利用」があげられる。日常生活における便利さや快適さなどの追求が行動の実行を妨げているのかもしれない。およそ半数が取り組んでいない行動としては、「チラシの裏の活用」、「徒歩・自転車の利用」、「過剰包装を断る」、「トレイのリサイクル」などがあげられる。

環境に対する意識によって不実行率に違いがみられるかどうかをみてみると、上記の表から、環境に対する意識が高いにもかかわらず、なかなか取り組まれていない環境配慮行動があることがわかる。ただし、意識が低い下位 1/4 グループとの不実行率を比較すると、「公共交通の利用」「徒歩・自転車の利用」「環境家計簿」を除けば、やはり環境に対する意識が低いグループの方が不実行率は高くなっている。また、意識が高いグループにおいて不実行率が高い行動は、全体の不実行率も高い。表 2.1 における環境配慮行動全部の実行の度合いと環境に対する意識のピアソンの相関は、r=0.12（p=.000）であった。意識と行動の相関は有意ではあるが、あまり強いとはいえないようである。

リサイクルについてみてみると、「新聞紙・古雑誌のリサイクル」に関しては、意識が高いグループと意識が低いグループの間の不実行率にはほとんど差がみられず、また、全体的な不実行率も低い。類似した傾向は、ペットボトル、ビン・缶のリサイクルの間にもみられる。電池（筒型）のリサイクルの場合は、２グループ間の不実行率の差は小さいが、全体的な不実行率がやや高くなっている。これらに対して、牛乳パック、トレイ、衣類のリサイクルは、意識が低いグループの方が、意識が高いグループよりも不実行率が高い。また、牛乳パックとトレイのリサイクルは、全体的な不実行率も高くなっている、という傾向がみられる。

2.2　環境配慮行動間の関係

Diekmann and Preisendörfer (1998)は、態度と行動の間の矛盾と同様の矛盾が、環境配慮行動の間でも観察される、と述べている。彼らは、選択された 16 項目の行動間のガンマ相関係数を調べ、紙のリサイクルとガラスのリサイクルのような整合的な関係もあれば（$\gamma = 0.91$）、バッテリーのリサイクルと先週末に車を使わなかったことのような矛盾する関係（$\gamma = -0.38$）もあることを指摘した。

そこで、GOMI2000 においても環境配慮行動間の関係について、ガンマ相関係数をそれぞれ取ってみた。その結果、ほとんど矛盾は観察されなかった。ガンマ相関係数が最も高いのはビン・缶とペットボトルのリサイクルの間の相関で、$\gamma = .98$ であった。環境家計簿といくつかの行動の間の関係にはマイナスの相関が見られるが、これらの相関は有意ではない。そもそも、環境家計簿をつけている人はほとんどいないため、このような結果になったと考えられる。

それでは Diekmann らの分析では、なぜ矛盾するような結果が生じたのだろうか。バッテリーの

リサイクルと先週末の車を使わなかったことが矛盾する関係になった理由としては、次の２つが考えられる。１つは、「環境に配慮する人は比較的、車を使用せず、車のバッテリーなどに関してはリサイクルするだろう」という Diekmann and Preisendörfer (1998)の仮説が正しくなかった、というものである。車に関心のある人は車を使用する傾向があると同時に、バッテリーなどにも関心が高いため、これをリサイクルする傾向があるといった可能性が考えられる。また、車をもっていないために「使用していない」と回答している人は、そもそも車が無いのであるからバッテリーのリサイクルもあり得ない、とも考えられる。もう１つは、Diekmann らのワーディングに問題があった、というものである。彼らの質問は、「先週末、車を使用しなかった」かどうかというものであった。「先週末」と限定したことで、たいていは使用していないのに、たとえば悪天候などによって「先週末」は多くの人が車を使用せざるをえないような、構造的な要因がはたらいたために、そのような関係がみられた可能性もある。

「先週末」というように時期を限定する場合、回答者が質問を具体的に理解できるという利点がある。しかしながら、いつもとは異なり、先週「たまたま」その行動を行わなくなるような（または行わざるをえない）構造的要因があることを考慮しなくてはならないだろう。時期を限定せずにたずねる場合は、回答者は自分の行動を頭の中で平均化して回答する可能性がある。

3.　リサイクル行動の特徴

3.1　種々の環境配慮行動との関係

種々の環境配慮行動とリサイクルはどのような関係にあるのか。ここでは、環境配慮行動間の関係についての傾向をみるために、因子分析を行う。そのために、表 2.1 の 26 の環境配慮行動の中で共通性が大きい行動を選び、因子分析（主因子法、オブリミン法）を行い、４因子を抽出した（表 2.2）。オブリミン法を用いた理由は以下のようなものである。直交回転は互いに相関のない因子をもたらすが、変数の特徴や抽出される因子を考えると、すべて環境問題に対する行動であるため、抽出される因子間に関連がないということは考えがたい。そこで、因子間に相関を持たせることによって因子パターン行列が単純化される斜交回転を用いたほうが望ましいと考え、オブリミン法を用いた。

因子分析の結果抽出された第１因子は「低コストリサイクル行動」と解釈できる。たいていの場合、自宅まで取りにきてもらえる新聞紙・古雑誌のリサイクル、仙台市で毎週回収を行っており、自宅近くのごみ収集ステーションを利用するペットボトル、ビン・缶、電池のリサイクルなどがこの因子に高く負荷している。回収という側面からみると比較的実行コストが低いと考えられる。第２因子は「交通行動」と解釈できる。第３因子は、「高コストリサイクル」と解釈できる。この因子は、スーパーが回収を進めている牛乳パック、トレイのリサイクルの負荷が高くなっている。牛乳パックやトレイはスーパーまでもっていく必要がある。そのため、回収という側面か

らみると実行コストが高いと考えられる。第４因子は「家庭内の環境配慮の工夫」と考えられる。

また、因子相関行列を見てみると、「交通行動」とその他の因子との間の相関は低いが、「低コストリサイクル」と「高コストリサイクル」の間の相関は .478 と高くなっている。また、各リサイクル行動と「家庭内の環境配慮の工夫」の間の相関は、「低コストリサイクル」では.334、「高コストリサイクル」では.379 となっている。どちらも家庭で行う環境配慮行動であるという点で、関連がみられると考えられる。

以上の分析から、「リサイクル」とひとくちにいわれるが、リサイクルには実は２つのタイプがあることが明らかになった。クラスター分析（Ward 法、平方ユークリッド距離）でも、因子分析を裏付ける結果となった。

表 2.2　環境配慮行動に関する因子分析

	因子			
	1	2	3	4
新聞紙・古雑誌のリサイクル	.545	.081	.402	.354
ペットボトルのリサイクル	.761	.105	.416	.248
ビン・缶のリサイクル	.884	.090	.334	.190
電池（筒型）のリサイクル	.652	.123	.352	.294
徒歩・自転車の利用	.099	.716	.044	.146
公共交通の利用	.070	.632	.086	.225
牛乳パックのリサイクル	.426	.062	.800	.350
トレイのリサイクル	.370	.089	.804	.251
冷暖房の温度調節	.267	.157	.236	.458
ものを修理して使用	.078	.083	.093	.374
環境にやさしい商品の購入	.204	.196	.268	.441

因子抽出法: 主因子法　回転法: Kaiser の正規化を伴うオブリミン法

表 2.3　因子相関行列

	第１因子	第２因子	第３因子	第４因子
第１因子	1	.131	.487	.334
第２因子	—	1	.107	.273
第３因子	—	—	1	.379
第４因子	—	—	—	1

3.2　リサイクルの実行率

それではあらためて、リサイクル行動の実行率についてみてみよう（表2.4）。古くから回収ルートがあり、たいていの場合取りに来てもらえる新聞紙・古雑誌のリサイクル、仙台市が回収をすすめており家の近くのごみ収集ステーションを利用するビン・缶、ペットボトルのリサイクルは70%以上の世帯でいつもリサイクルされている。これに対して、近年スーパーなどで回収がす

すめられている牛乳パック、トレイのリサイクル、また、衣類のリサイクルをいつもしている人は、ビン・缶などと比較するとまだ少ない。因子分析の第１因子（低コストリサイクル）に対して負荷が高いリサイクルは総じて実行率が高く、第３因子（高コストリサイクル）に対して負荷が高いリサイクルの実行率は、第１因子のリサイクルと比較すると、それほど高くないといえるだろう。

表2.4　リサイクルの実行率

	A 新聞紙	B 牛乳	C トレイ	D ペット	E ビン･缶	F 電池	G 衣類
いつもしている	70.8	38.4	28.2	73.6	84.8	65.3	27.5
ときどきしている	15.9	14.8	17.1	10.3	6.3	9.5	32.8
めったにしない	5.1	13.8	15.8	5.1	3.2	7.8	18.6
まったくしない	5.2	29.8	33.7	7.9	4.1	13.2	17.0
家族がしている	2.3	1.8	1.5	1.6	1.1	1.9	1.8
DK/NA	0.8	1.4	3.8	1.6	0.5	2.4	2.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注: %の基数はすべて 1026

3.3　コスト感の強さ

環境配慮行動間の関係を把握することで得られる利点は、行動のもつ特徴を明らかにすることによって、不実行の理由が行動によって異なるかどうかを検討できる点である。たとえば、「新聞紙・古雑誌」、「牛乳パック」、「トレイ」、「ペットボトル」、「ビン・缶」、「電池」、「衣類」の各リサイクル変数をすべて合成して「リサイクル行動」（overall recycling behavior）としてしまうと、リサイクルのタイプによって行動を阻害する要因が異なる場合に、それを見落としてしまう恐れがある。因子分析の結果、仙台におけるリサイクルは主に２通りに分けられることが明らかになった。それは、「低コストリサイクル（ビン・缶、ペットボトル、電池）」と「高コストリサイクル（牛乳パック、トレイ）」である。

ここでは、「低コストリサイクル」、「高コストリサイクル」というように解釈された因子が、個人によって本当にコストが低い／高いと個人によって感じられているのかどうかを確認する。調査票の設定の問題から、ここで焦点を当てるのは、「低コストリサイクル」に強い負荷を与えている「ビン・缶」、「新聞紙・古雑誌」のリサイクルと「高コストリサイクル」に強い負荷を与えている「牛乳パック」のリサイクルである [2]。

表 2.5 からもわかるように、「非常に手間がかかる」、「やや手間がかかる」と感じている人が多いのは、ビン・缶や新聞紙・古雑誌のリサイクルと比較すると、牛乳パックのリサイクルに多い。これに対して、「あまり手間がかからない」と感じている人は、ビン・缶、新聞紙・古雑誌のリサ

[2] 調査票では、トレイ、ペットボトル、電池のリサイクルに伴うコスト感についてはたずねていない。また、衣類に関しては、「非常に手間がかかる」が 9.8%、「やや手間がかかる」が 37.3%、「あまり手間がかからない」が 40.1%、「まったく手間がかからない」が 11.1%、「DK/NA」が 1.8%となっていたが、ここでは省いている。

イクルに多い（約 50%）という結果になった。このことから、因子分析で抽出した「回収場所が近いリサイクル」因子に強く負荷しているリサイクル行動は、人々のコスト感が低い傾向がみられ、「回収場所が遠いリサイクル」因子に強く負荷している行動は、人々のコスト感が高い傾向がみられる。

表 2.5　リサイクル実行に伴うコスト感

	牛乳パック	ビン･缶	新聞紙･古雑誌
非常に手間がかかる	13.7	4.0	4.3
やや手間がかかる	44.0	25.5	31.1
あまり手間がかからない	31.8	51.2	47.2
まったく手間がかからない	9.0	18.1	16.5
DK/NA	1.6	1.2	1.0
計	100.0	100.0	100.0

注: %の基数はすべて 1026

各リサイクルに対するコスト感に加えて、リサイクルの実行の有無によって、コストの感じ方の平均がどの程度異なるかについてみたのが表 2.6 である [3]。その結果、すべてのリサイクルにおいて、リサイクルを実行していない人の方が実行している人よりも、コストを強く感じていることが明らかになった（牛乳パック：$t = 13.83, p = .000$、ビン・缶：$t = 3.19, p = .001$、新聞紙・古雑誌：$t = 6.16, p = .000$）。コスト感の平均をみてみると、牛乳パックのリサイクルを実行していない人がコストを強く感じていることがわかる。また、牛乳パックよりも実行コストが小さいと考えられる「ビン・缶」や「新聞紙・古雑誌」のリサイクルにおいて、リサイクルを実行していない人のコスト感は、「牛乳パック」のリサイクルを実行している人のコスト感よりも高くなっている。以上の結果から、実行しない状態のままだと、手間ばかりが大きくうつってしまい、ますます取り組みたくなくなるという悪循環に陥る可能性があるが、実際にリサイクルに取り組んでみると、意外と手間を感じない、またはリサイクルが習慣化することであまり手間を感じなくなる可能性があると考えられる。

表 2.6　リサイクル実行の有無によるコスト感の違い

	牛乳パック	ビン･缶	新聞紙･古雑誌
不実行	2.00	1.79	1.63
実行	1.33	1.09	1.18

[3] 「非常に手間がかかる」に 3、「やや手間がかかる」に 2、「あまり手間がかからない」に 1、「まったく手間がかからない」に 0 のポイントを与えた。

4.　リサイクルの不実行の理由

4.1　高コストリサイクル・低コストリサイクルの実行に影響を与える要因

それでは、リサイクルに取り組んでいる人と、取り組んでいない人ではどのような点が異なるのであろうか。「低コストリサイクル」、「高コストリサイクル」を被説明変数とし、属性や近所づきあい、リサイクルに対する手間感や環境問題に対する意識のような意識変数を説明変数として重回帰分析を行った（表 2.7）。ここで使用されている変数の中で、「いいわけに対する許容度」は、Diekmann and Preisendöfer（1998）の正当化の戦略の中で、注意変更戦略に用いられるいいわけ（たとえば、「病気だからリサイクルできない」など）を回答者がどの程度、許容するかを示したものである。「合理性」は主観的合理性戦略によるいいわけ（「自分がリサイクルしてもしかたがない」、「他人がリサイクルするならば自分は取り組まない（フリーライドの傾向）」）をどの程度、許容できるかを示している。各変数の詳細な内容は、章末の付録に記してある。

「低コストリサイクル」では、「性別」、「年齢」、「コスト感」が「低コストリサイクル」の実行に強い影響を与えている。ここでは女性の方がリサイクルする傾向にあり、年齢が高いほうが、コスト感が低い人の方がリサイクルを実行する。また、有意水準が 10%未満で、「学歴」、「12 歳以下の子供の数」、「近所の人との付き合い」による弱い影響があることがわかった。

これに対して「高コストリサイクル」は、「性別」、「12 歳以下の子供の数」、「いいわけに対する許容度」、「規範意識」、「コスト感」が、「高コストリサイクル」に強い影響を与えていることが明らかになった。つまり、女性ほど、12 歳以下の子供の数が多い人ほど、いいわけに対する許容度が高い人ほど、規範意識が高い人ほど、そして、コスト感が低い人ほど、リサイクルを実行する傾向がある。また、「学歴」が弱い影響を与えている。

両リサイクルの実行に共通に強い影響を与えているのは、「性別」、「コスト感」である。この結果から、リサイクルの実行を考える際には、いかなるタイプのリサイクルであってもコストが必ず問題になるといえるだろう。また、高コストリサイクルでは、「12 歳以下の子供の数」が強い影響を与えており、低コストリサイクルでは、子供の数が弱い影響を与えているが、子供のいる人々はリサイクルを子供たちの環境教育の一環として考えているかもしれない。または、子供会が集団資源回収などを行っているために、子供のいる家庭の方がリサイクル協力に組み込まれる可能性が大きいとも考えられる。

各リサイクルに個別に影響を与えている変数についてみてみると、「低コストリサイクル」では、弱い影響ではあるが、「近所づきあいの程度」がリサイクルの実行に影響を与えている点が特徴的である。われわれのグループが以前実施した調査結果から、近所づきあいの程度が高い人ほどごみの排出時間を守ることが明らかになっている（小松ら, 1993）。ごみ排出行動は、自宅から近い共同の集積所を使用するため、近所の人の「目」が気になる行動である。これと同様のことが「低コストリサイクル」にも当てはまると考えられる。しかし、回収方式が異なる「高コストリサイクル」は、近所づきあいの程度による影響はみられない。高コストリサイクルには「規範意識」

や「いいわけに対する許容度」が強い影響を与えている。これも、われわれの研究グループが 1993 年に実施したごみ問題に関する調査から、規範意識によって手間感が克服される可能性があることがわかっている（中野ら，1995)。しかし、いずれのリサイクルにおいても環境問題に対する意識は実行に影響を与えていない。

表 2.7　タイプ別リサイクルにおける重回帰分析

	低コスト リサイクル	高コスト リサイクル
性別	.167***	.139**
年齢	.164***	.085
学歴	.088*	.090*
居住年数	.034	.017
勤務時間	-.080	-.073
12 歳以下の子供の数	.095*	.109**
収入	.040	.049
近所の人との付き合い	.100*	.049
環境問題に対する意識	.080	.025
いいわけに対する許容度	-.077	-.099**
合理的な考え方	-.062	-.051
節約に対する満足感	.039	-.004
規範意識	.008	.209***
コスト感	-.148**	-.134**
調整済み R^2	.190	.170

*p<.10, **p<.05, ***p<.01

4.2　牛乳パック、ビン・缶のリサイクル不実行の理由

次に、リサイクル不実行の理由についてみていく。ここでは、調査票の制約から、「高コストリサイクル」と考えられる「牛乳パック」のリサイクルと、「低コストリサイクル」と考えられる「ビン・缶」のリサイクルの２つに焦点を当てている。不実行の理由の選択肢は、Diekmann and Preisendöfer（1998）の正当化の３つの戦略に、不実行の理由として第 1 章 5.2 で検討した、システムがあってもその存在を知らない、システムがあっても家にリサイクルする「もの」がないという理由を加えて、構成した。「手間がかかるから」、「近くで回収していないから」という選択肢はコスト戦略にあたる。「忙しくて時間がないから」は注意変更戦略に、また、「ごみ問題の解決には役立たないから」、「自分だけしても仕方がないから」、「罪悪感がないから」は、主観的合理性戦略にあたる。

それぞれについてみてみると（表 2.8)、牛乳パックでは「手間がかかるから」、「近くで回収していないから」をあげている人が 30%以上、「忙しくて時間がないから」、「パック入り牛乳を買わないから」をあげている人が 25%前後いるのに対して、主観的合理性戦略にあたる「ごみ問題の解決には役立たないから」、「自分だけしても仕方がないから」、「罪悪感がないから」という理由

をあげる人は、ほとんどいなかった。ビン・缶では、「忙しくて時間がないから」、「方法がわからないから」をあげている人が約 40%、「手間がかかるから」が 30%、「リサイクル可能なことを知らなかったから」、「近くで回収していないから」をあげた人が 20%以上いる。

表 2.8　牛乳パックとビン・缶のリサイクル不実行の理由

不実行の理由	牛乳パック	ビン・缶
ごみ問題の解決には役立たないから	1.3	0.0
自分だけしても仕方ないから	0.9	2.7
罪悪感がないから	3.6	5.3
手間がかかるから	35.3	30.7
近くで回収していないから	32.7	26.7
忙しくて時間がないから	26.8	37.3
リサイクル可能なことを知らなかったから	4.0	21.3
方法がわからないから	18.3	40.0
パック入り牛乳、ビン・缶入り商品を買わないから	24.4	8.0
その他	9.4	5.3

注：複数回答で、牛乳パックの%の基数は 459、ビン・缶の%の基数は 87

牛乳パック、ビン・缶を比較すると、「手間がかかる」という理由をあげる人は、「切って、洗って、乾かす」必要がある牛乳パックのリサイクルの方が多い。また、「近くで回収していない」という理由をあげているのも、スーパーが主な回収場所である牛乳パックのリサイクルに多い。これに対して、「時間がないから」という理由をあげているのは、ビン・缶の方が多かった。

また、「パック入り牛乳を買わないから」という理由をあげている人は、ビン・缶入り商品を買わない人と比較すると多いが、調査票に対する意見の記入などから、この中には「牛乳を買わない」人と「牛乳はビンで買う」人がいることがわかった。さらに、「その他」の回答から、家庭内で料理の際に牛乳パックを利用したり、ペン立てやいすなどをつくったりすることで、牛乳パックを再使用している人がいることがわかった。

「リサイクル可能なことを知らなかった」、「方法がわからなかった」という理由をあげている人は、ビン･缶のリサイクルに多いが、この中には、仙台市が行っているビン･缶の資源回収がリサイクルであると考えていない人が含まれているようであることが、不実行の理由の自由記述から明らかになった。

また、不実行の理由がいくつ選択されているのかを示したのが表 2.9 である。この問は複数回答であったにもかかわらず、１つの理由のみを選択している人がもっとも多かった。次に２つの理由をあげている人が多い。牛乳パックについては、３つ以上の理由をあげている人は、不実行者の中の１割程度であるのに対して、ビン・缶で３つ以上の理由を上げている人は、不実行者の中の２割程度であった。牛乳パックのリサイクルは実行に伴うコストが高いため、主にコストの選択肢に理由が集中したが、ビン・缶のリサイクルは実行に伴うコストが低いために、さまざまな不実行の理由が選択された可能性がある。ただし、ビン・缶のリサイクルをしていない人は、

牛乳パックのリサイクルに比べるとかなり少ないことを忘れてはならないだろう。

表 2.9　選択された不実行の理由の数

選択された不実行の理由	牛乳パック		ビン・缶	
	%	実数	%	実数
1	56.8	254	52.0	39
2	32.4	145	28.0	21
3	8.5	38	13.3	10
4	1.8	8	4.0	3
5	.2	1	2.7	2
6	.2	1	0.0	0
計	100.0	447	100.0	75

4.3　リサイクルの不実行の理由を規定する要因

それでは、どのような人が「方法がわからない」ためにリサイクルができず、どのような人が「忙しくて時間がない」ためにリサイクルができないのだろうか。ここでは、不実行率の高い牛乳パックのリサイクルについて焦点を当て、表 2.8 で選択する人が多かった「方法がわからない」、「手間がかかる」、「近くで回収していない」、「忙しくて時間がない」、「パック入り牛乳を買わない」という不実行の理由の選択に影響を与える要因を探究する。そのために、各理由の選択の有無を被説明変数とし、表 2.7 と同じ説明変数を用いてロジスティック回帰分析を行った[4]。

「方法がわからない」についてみてみよう。分析の結果、「環境問題に対する意識」が低い人ほど「方法がわからない」ためリサイクルをしない傾向があることがわかった。態度と行動の矛盾からも明らかなように、態度そのものは行動に直接影響を与えることはあまりないが、「どのように行うか」といった情報の入手に対して影響を与える可能性があることになる。このタイプの理由を選ぶ人に対しては、環境問題に対する意識・態度の向上を働きかけると同時に、リサイクル実行の方法に関する情報の提供が必要となる。

Diekmann and Preisendöfer（1998）の高コスト戦略である「手間がかかる」という理由はどうであろうか。分析から、「規範意識」が低い人ほど、また、「リサイクルに対する手間感」が強い人ほど、「手間がかかる」ので牛乳パックのリサイクルを実行しないという理由を選択することがわかった。「リサイクルに対する手間感」が強い人ほど、この選択肢を選ぶというのは、ある意味で当然である。手間感に対しては、リサイクルのシステムを改良して、実際の手間感を減少させるという制御方法が考えられる。また規範意識によって手間感が制御できる可能性がある。

「近くで回収していない」に影響を与える要因は「規範意識」であった。この不実行の理由は、Diekmann and Preisendöfer（1998）のコスト戦略の理由として採用した。分析の結果を見ると、「手間がかかる」という理由と同様に、規範意識の影響がみられると考えられる。

表 2.10a　不実行の理由に影響を与える要因（1）

[4] 各説明変数の詳細については、章末の付録を参照。

	方法がわからない		手間がかかるから		近くで回収していない	
性別	.399	(.442)	-.037	(.410)	.249	(.366)
年齢	-.017	(.018)	-.026	(.016)	.016	(.015)
学歴	-.138	(.115)	-.082	(.091)	-.060	(.088)
居住年数	-.017	(.015)	-.005	(.012)	.005	(.011)
勤務時間	.008	(.007)	.001	(.006)	-.002	(.006)
12 歳以下の子供の数	-.032	(.240)	-.017	(.187)	-.302	(.218)
収入	.341	(.316)	-.116	(.239)	-.359	(.217)
近所の人との付き合い	-.185	(.216)	.015	(.183)	-.180	(.172)
環境問題に対する意識	-.267*	(.129)	.026	(.118)	-.068	(.106)
いいわけに対する許容度	-.027	(.068)	.119	(.061)	-.078	(.056)
合理的な考え方	.021	(.147)	-.050	(.135)	-.180	(.128)
節約に対する満足感	-.130	(.170)	-.040	(.142)	.085	(.140)
規範意識	.173	(.114)	-.424**	(.099)	-.186*	(.090)
コスト感	.038	(.049)	.115*	(.045)	.063	(.038)
Constant	-1.009	(2.888)	2.174	(2.333)	3.421	(2.226)
χ^2 (df)	8.326(df=8)		7.715(df=8)		4.702(df=8)	
-2 Log -Likelihood	227.919		310.733		329.242	
Cox & Snell R^2	.038		.150		.060	
Nagelkere R^2	.083		.249		.103	

**p<.01, *p<.05　数値はパラメータ推定値（）内は標準誤差

表 2.10b　不実行の理由に影響を与える要因（2）

	忙しくて時間がない		パック入り牛乳を買わない	
性別	-.355	(.370)	.406	(.405)
年齢	-.021	(.014)	-.027	(.017)
学歴	-.146	(.086)	-.095	(.100)
居住年数	-.005	(.011)	-.004	(.013)
勤務時間	.010	(.006)	.003	(.006)
12 歳以下の子供の数	-.504*	(.209)	-1.174**	(.366)
収入	-.011	(.216)	.002	(.262)
近所の人との付き合い	-.185	(.165)	.155	(.196)
環境問題に対する意識	-.212*	(.102)	.306*	(.134)
いいわけに対する許容度	.109*	(.055)	.016	(.061)
合理的な考え方	-.105	(.120)	.304*	(.132)
節約に対する満足感	.204	(.135)	.006	(.145)
規範意識	-.204*	(.086)	-.083	(.097)
コスト感	.096*	(.038)	.010	(.041)
Constant	1.981	(2.123)	-2.430	(2.534)
χ^2 (df)	4.240(df=8)		3.492(df=8)	
-2 Log -Likelihood	353.396		271.796	
Cox & Snell R^2	.128		.075	
Nagelkere R^2	.203		.143	

**p<.01, *p<.05　数値はパラメータ推定値（）内は標準誤差

「忙しくて時間がない」に関しては、「12 歳以下の子供の数」が少ないほど、「環境に対する態

度」が低い人ほど、「注意変更戦略（いいわけ）」を許容するほど、「規範意識」が低い人ほど、そして「コスト感」が高い人ほど、この理由を選んでいる。「忙しくて時間がない」という選択肢は、Diekmann らの注意変更戦略に基づいて作成された。影響を与える要因の中に、「注意変更戦略（いいわけ）の許容」があるのは興味深い。この戦略は個人によってそれぞれ異なり、個人がアドホックに自分の行為を正当化するということにこそ特徴がある。それゆえ効果的な制御が難しいと考えられるが、「環境に対する意識」や「規範意識」が、この問題に対する制御要因になる可能性があることがわかった。実際に忙しいかどうかが問題にならないかについてみてみると、「勤務時間の長さ」は 5%水準で有意ではなく、それほど強い影響ではなかった。ただし、傾向としては勤務時間が長い人ほど「忙しくて時間がない」という理由を選択することが読み取れる。勤務時間が長い人に対しては、スーパーが閉店した夜でもリサイクルできるように回収方法を変化させることによって実行が促進される可能性がある。しかし、このような不実行の理由の選択に影響を強く与えるのは、実際の忙しさであるよりはむしろ、態度や規範意識であるという点が興味深い。

「パック入り牛乳を買わない」に関しては、「12 歳以下の子供」がいない家庭ほど、「環境に対する態度」が好意的な人ほど、「合理的な考えかた」をする人ほど、この理由をあげることが明らかになった。ただし、上述したように、これは環境に配慮した行動である。

以上の結果から、リサイクル行動を行わない理由として、「方法がわからない」、「手間がかかる（高コスト戦略）」、「近くで回収していない（高コスト戦略）」、「忙しくて時間がない（注意変更戦略）」、「パック入り牛乳を買わない」といった理由が主にあげられることがわかった。情報の欠如（方法を知らない）に関しては環境問題に対する意識が、コストに関しては規範意識が、時間不足などに関しては環境に対する意識や規範意識が、これらの問題に対する制御要因になる可能性がある。このような制御要因の影響について検討していくことが、今後の課題である。

【付録】

新変数	使用した問	カテゴリーに付与したポイント	変数作成方法／理由	変数の範囲
低コストリサイクル	Q7-A Q7-D Q7-E Q7-F	3: いつもしている 2: ときどきしている 1: めったにしない 0: 全くしない 0: 家族がしている	Q7-A から Q7-F の 4 変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-12
高コストリサイクル	Q7-B Q7-C	3: いつもしている 2: ときどきしている 1: めったにしない 0: 全くしない 0: 家族がしている	Q7-B と Q7-C の２変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-6
学歴	Q45	6: 小学校 9: 新制中学 12: 新制高校 12: 専門学校 14: 短大・高専 16: 大学（含大学院）	教育年数に変更	0-16
新変数	使用した問	カテゴリーに付与したポイント	変数作成方法／理由	変数の範囲

収入	Q49	50: 100 万円未満 150:100 万円以上 200 万円未満 250: 200 万円以上 300 万円未満 350: 300 万円以上 400 万円未満 450: 400 万円以上 500 万円未満 550: 500 万円以上 600 万円未満 650: 600 万円以上 700 万円未満 750: 700 万円以上 800 万円未満 850: 800 万円以上 900 万円未満 950: 900 万円以上 1000 万円未満 1050: 1000 万円以上 1100 万円未満 1150: 1100 万円以上	各カテゴリーに収入の中央値を付与し、対数変換	3.91-7.05
環境に対する意識	Q5-A Q5-B Q5-C	【Q5-A, Q5-B】 3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない 0: 全く共感できない 【Q5-C】 3: 全く共感できない 2: どちらかといえば共感できない 1: どちらかといえば共感できる 0: 非常に共感できる	Q5-A, Q5-B, Q5-C の３変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-9
いいわけに対する許容度	Q27-A Q27-B Q27-C Q27-D Q27-E Q27-F	3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない 0: 全く共感できない	Q27-A から Q27-F の６変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-18
合理的な考え方	Q13 Q18	3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない 0: 全く共感できない	Q13 と Q18 の２変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-6
節約に対する満足感	Q22-A Q22-B	3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない 0: 全く共感できない	Q22-A と Q22-B の２変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-6
規範意識	Q23-A Q23-B Q23-C Q23-D	3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない 0: 全く共感できない	Q23-A から Q23-D の４変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-12
コスト感	Q19-A Q19-B Q19-C Q19-D Q20-A Q20-B Q20-C Q20-D	【Q19-A から Q19-D】 3: 非常に障害になる 2: やや障害になる 1: あまり障害にならない 0: 全く障害にならない 【Q20-A から Q20-D】 3: 非常に手間がかかる 2: やや手間がかかる 1: あまり手間がかからない 0: 全く手間がかからない	Q19-A から Q19-D、Q20-A から Q20-D の８変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-24

【引用文献】

Diekmann, Andreas, and Preisendöfer, Peter., 1998, "Environmental Behavior: Discrepancies Between Aspirations and Reality, " Rationality and Society, 10(1): 79-102.

広瀬幸雄, 1995, 『環境と消費の社会心理学―共益と私益のジレンマ―』名古屋大学出版会.

小松洋・阿部晃士・村瀬洋一・中原洪二郎・海野道郎, 1993,「地域的コミュニケーションが環境保全行動におよぼす影響―家庭ごみ排出行動と近所づきあいとの関連について―」『社会学研究』60:115-135.

中野康人・阿部晃士・村瀬洋一・海野道郎,1995,「環境問題の社会的ジレンマ―ごみ減量行動を事例として―」『社会学研究』63:109-134.

第 3 章　リサイクル行動をめぐる効用関数の異質性に関する検討

荒井 貴子・篠木 幹子・海野 道郎
（東北大学文学研究科）

【要旨】

リサイクル行動を実行している人と実行していない人との間には何らかの異質性が存在している。本章では、その行動の違いを効用関数の異質性と他者行動認知の違いという２つの観点から説明する。まず、効用関数のタイプの定義を行った。ここで設定した効用関数のタイプは、無条件不実行型、他者同調型、フリーライダー型、無条件実行型の４つである。そして、リサイクル実行に対する選好意識の項目を用いて、今回の調査対象者のどれほどがどのタイプに属するのかについて検討した。その結果、ほとんどの回答者が、無条件協力型、他者同調型に属した。効用関数のタイプを被説明変数とした判別分析を行った結果、無条件実行型と無条件効用関数のタイプの違いをもたらす規定要因は、規範意識、コスト感、いいわけに対する許容度であり、他者同調型とフリーライド型を判別するのは、いいわけに対する許容度、環境に対する意識、有効性感覚であることが明らかになった。

キーワード：社会的ジレンマ、主観的合理性、ごみ問題、リサイクル

1. はじめに

われわれはこれまで、ごみ問題を社会的ジレンマの枠組みで捉え、研究を行ってきた。社会的ジレンマとは、一人ひとりが合理的に行動した結果、社会全体にとって最適ではないような状態が生じてしまう状況である。社会的ジレンマとしてのごみ問題は図 3.1 のように表現できる。ここでは、単純化のために、ごみ減量行動を実行している住民が少ない場合と、多い場合の２つのケースを考えている。行為者は、ごみ減量行動を実行するか、実行しないかという２つの行動選択肢からどちらかを選択する。行為者は、「個人の損得」、「共有物の状態」という２つの側面から選択肢の評価を行う。「個人の損得」は自分の行動がそのまま自分の効用に返ってくる部分である。行為者にとって、多くの場合、ごみ減量行動を実行することは実行しないことよりも時

海野道郎（編）, 2001, 『リサイクル行動の計量社会学的研究―合理的選択理論を基礎として―』
平成 10～12 年度科学研究費補助金　基盤研究(C)(2)
課題番号　10610159　研究成果報告書　37-50 頁

間や手間といったコストがかかる。一方、「共有物の状態」は、自分一人の行動によって決定されるわけではない。しかし、一人ひとりがとった行動が共有物にほんのわずかな影響を与え、その影響が蓄積された結果、共有物に影響を及ぼす。共有物の状態が損なわれると、社会全体（社会の全ての構成員）がいままで共有物から得ていた利益が得られなくなってしまう 。ごみ問題では、多くの人々がごみ減量行動をとった場合にはごみ問題は解決するが、ごみ減量行動をとる人が少ない場合にはごみ問題は解決できなくなってしまう。

		ごみ減量行動の実行者数	
		少ない	多い
自分	実行	個人の損得：コストがかかる 共有物の状態：ごみ問題は解決しない	個人の損得：コストがかかる 共有物の状態：ごみ問題は解決する
	不実行	個人の損得：コストがかからない 共有物の状態：ごみ問題は解決しない	個人の損得：コストがかからない 共有物の状態：ごみ問題は解決する

図 3.1　社会的ジレンマとしてのごみ問題

このような状況の下で、合理的な行為者はどのように行動するのだろうか。ごみ減量行動の実行にはコストがかかる。その一方で、自分一人のごみ減量行動によるごみ問題解決への寄与はほんのわずかである。したがって、個人にとってはごみ減量行動を実行するよりも実行しない方が合理的であると言える。

しかし、実際には、ごみ減量行動を実行している人は多い。今回の調査でも、新聞紙やビン・缶では 80%ほど、牛乳パックやトレイでも半数近くの人がリサイクルを「いつもしている」、「ときどきしている」と回答している。なぜ、社会的ジレンマ状況であるにもかかわらず、ごみ減量行動をとる人が数多く存在するのだろうか。

実際には、ごみ減量行動には手間や時間がかかることが多い。しかし、その反面、ごみ減量行動には、満足感が得られるという側面もある。リサイクルをすることによって満足感を得られる人にとってはリサイクルを実行することが主観的に合理的であると考えることができる。また、客観的事実として、自分一人がごみ減量行動をとることによってごみ問題が解決するということはありえない。しかし、行為者が「自分がごみ減量行動をとることで、ごみ問題が解決する」と考えているのであれば、やはりごみ減量行動を実行することが主観的に合理的である。確かに、ごみ問題は社会的ジレンマ状況としての側面を持っている。特に、利己的、かつ（狭義に）合理的な人間にとってはごみ問題をめぐる状況は、まさに社会的ジレンマであろう。しかし、すべての人間が利己的で（狭義に）合理的なわけではない。このような行為者にとっては、場合によってはごみ減量行動を実施することが望ましい場合もありうる。すなわち、すべての行為者にとって、ごみ問題をめぐる状況が社会的ジレンマであるわけではない。

本章では、具体的なごみ減量行動としてリサイクルをとりあげる。現実にはリサイクルを実行

している人と実行していない人が存在するわけであるが、ここではその行動の違いを効用関数の異質性と他者行動認知の違いという２つの観点から説明を試みる。まず、効用関数のタイプの設定を行う。そして、今回の調査対象者がどのタイプに属するのかについても検討する。次に、効用関数のタイプを被説明変数とした判別分析を行い、効用関数のタイプの違いをもたらす規定要因は何か、という点についても探求する。ここで、規定要因として検討するのは、リサイクルに関する意識変数である。この分析の前には、意識変数間の構造についても検討する。

2.　行動の規定因――効用関数と他者行動認知――

リサイクルを実行する人と実行しない人が現実に存在するのは、ごみ問題をめぐる状況の捉え方が人によって異なるからである。ここでは、ごみ問題をめぐる状況として行為者の効用関数と他者の行動の認知という２つの側面から考える。つまり、効用関数の異質性と他者行動認知の違いが、ごみ減量行動の実行、不実行という行動の違いをもたらすと考える。ここでの効用とは、リサイクルの実行、不実行という２つの行動選択肢の最終的な評価であり、行動の直接的な決定因となるものである。行為者は選択肢の中で、一番効用が大きい選択肢を選択すると仮定する。

まず、効用関数のタイプの定義を行う。単純化のために、行為者以外のリサイクル実行者数として、少ない、多いの２つの状態を考える。それぞれの状態において、行為者がリサイクルの実行、あるいは不実行により得られる効用を図 3.2 のような記号で表す。

	実行者数：少ない	実行者数：多い
不実行	U_{DD}	U_{DC}
実行	U_{CD}	U_{CC}

図 3.2　協力者数によるリサイクルの
実行・不実行の効用

まず、効用関数の形状について検討する。リサイクル実行者が少ないということは、ごみ問題が解決しないことを意味する。一方、他者の多くがリサイクル行動を実施した場合には、ごみ問題は解決するだろう。少なくとも、ごみ問題が解決することよりも解決しないことを望ましい（効用が高い）と考える人はいないだろう。したがって、ここでは自分がリサイクルを実行する、しないにかかわらず、ごみ問題の解決が望ましいと考えていると仮定する。このことから、リサイクルの実行／不実行に関する効用関数のどちらも、自分以外の実行者数に関して増加であると考えられる。本章では、行為者以外の実行者数の状態として、少ない、多いの２つの状態を考え

ている。よって、効用関数のタイプとして、次の４つのタイプを設定するとすべてのパターンを網羅することになる（表 3.1）。図 3.3 に、これらの効用関数のタイプを図示した。

表 3.1　効用関数のタイプ

	効用関数のタイプ	行動
タイプⅠ [無条件不実行型]	実行者数に関わりなく、つねに不実行の効用が実行よりも高い。 すなわち、$U_{DD}>U_{CD}$、$U_{DC}>U_{CC}$.	実行者数に関わりなく、リサイクルの不実行を選択する。
タイプⅡ [他者同調型]	実行者数が少ないうちは不実行の効用が高いが、実行者数が多いときには実行から得られる効用の方が高い。 すなわち、$U_{DD}>U_{CD}$、$U_{DC}<U_{CC}$.	実行者数が少ないときにはリサイクル行動をとらないが、実行者数が多いときにはリサイクルを行う。
タイプⅢ [フリーライダー型]	実行者数が少ないうちは実行の効用が高いが、実行者数が多いときには不実行行動から得られる効用の方が高い。 すなわち、$U_{DD}<U_{CD}$、$U_{DC}>U_{CC}$.	実行者数が少ないときにはリサイクル行動を実施するが、実行者数が多いときにはリサイクルを行わない。
タイプⅣ [無条件実行型]	実行者数に関わりなく、つねに実行の効用が不実行よりも高い。 すなわち、$U_{DD}<U_{CD}$、$U_{DC}<U_{CC}$.	実行者数にかかわらず、つねにリサイクルを実行する。

まず、第Ⅰのタイプ［無条件不実行］は他人がどのように行動しようとも、ごみ減量行動を実行しないことが本人にとって望ましい。いわゆる「合理的な」人間がこのタイプに当てはまる。タイプⅡ［他者同調型］に属する行為者は、他者の実行者数が少ないときには不実行が望ましいが、実行者数が多い場合にはリサイクルの実行が望ましいと考える。「みんながやるなら自分もやる」、あるいは「自分だけがばかを見るのはいやだ」と考える人がこのタイプである。タイプⅢ［フリーライダー型］は、タイプⅡと正反対である。つまり、他者の実行者数が少ないときには実行が本人にとって望ましいが、実行者数が多い場合には不実行が望ましい。「他人がリサイクル行動をとることでごみ問題が解決するならば、自分がする必要はない」と考えるフリーライダー型の人間がこのタイプである。タイプⅣ［無条件実行］は、他者の状態がどうであろうとも実行が望ましい。タイプⅠ［無条件不実行］とタイプⅣ［無条件実行］は、他者がどのように行動しようとも自分にとって望ましい行動は変わらないが、タイプⅡとタイプⅢは、他者の行動によって望ましい行動が変わる。

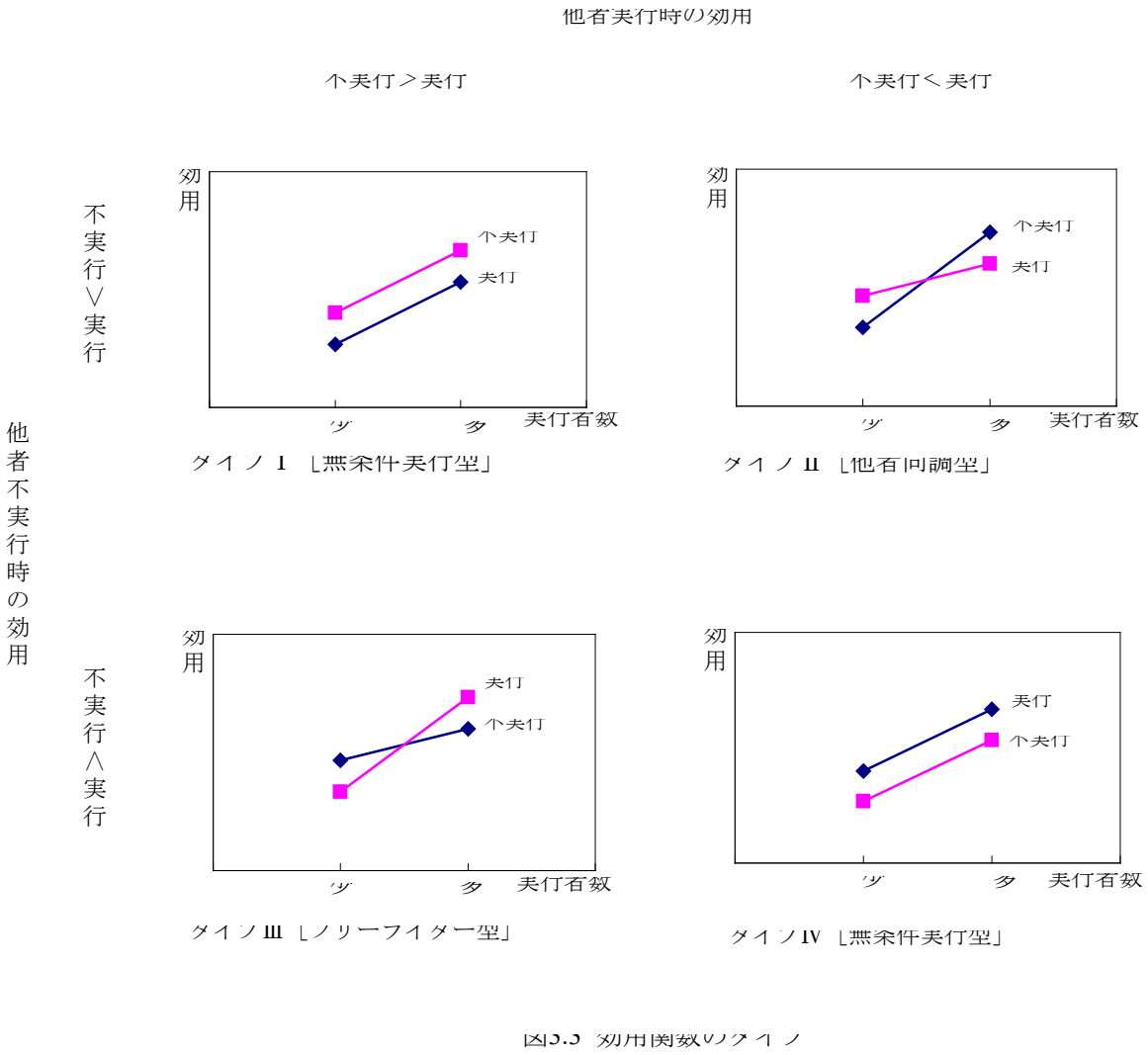


図3.3 効用関数のタイプ

行動の規定因として、効用関数の異質性と他者行動認知を考えると、リサイクルを実行しない場合には、

・タイプⅠ［無条件不実行］の効用関数を持つ

・タイプⅡ［他者同調型］の効用関数を持ち他人がリサイクルをしていると認知している

・タイプⅢ［フリーライド型］で他者がリサイクルをしていないと認知している

の３つが考えられる。また、リサイクルを実行していない場合には、

・タイプⅡ［他者同調型］の効用関数を持ち他人がリサイクルをしていないと認知している

・タイプⅢ［フリーライド型］で他者がリサイクルをしていると認知している

・タイプⅣ［無条件協力型］の効用関数を持つ。

の３つである。

3.　リサイクル実行についての選好意識によるタイプの分類

前節では、効用関数のタイプの定義を行った。ここでは、今回の調査データから、回答者がどのタイプの効用関数に属するのか、検討を行う。さらに、ここでの分類の妥当性を実行動との一致という観点から検討する。

3.1　リサイクル実行についての選好意識によるタイプの分類

用いる項目は、他者不実行時のリサイクル実行についての選好意識と、他者実行時のリサイクル実行についての選好意識の２つである 。調査票のワーディングは、「他の人がリサイクルに取り組んでいない／取り組んでいる状況を考えてください。そのとき、あなた自身はリサイクルに取り組みますか。それとも、取り組みませんか。」となっている。表 3.2 は、他者不実行時の選好意識と他者実行時の選好意識とのクロス集計表である。それぞれのセルが、効用関数のタイプに対応している。選好意識は４カテゴリーであるが、このままでは分析が煩雑になるので、カテゴリーの合併を行う。カテゴリーの合併の仕方には様々なものが考えられるが、ここでは、日本語の意味を重視し、「取り組む」と「おそらく取り組む」を「実行」、「おそらく取り組まない」と「取り組まない」を「不実行」とした。

表 3.2　他者協力の状態による選好意識　　%（実数）

他者不実行時の選好意識	他者実行時の選好意識				合計
	取り組む	おそらく取り組む	おそらく取り組まない	取り組まない	
取り組む	205 (20.1)	21 (2.1)			226 (22.1)
おそらく取り組む	148 (14.5)	436 (42.7)	2 (0.2)		586 (57.4)
おそらく取り組まない	23 (2.3)	145 (14.2)	33 (3.2)		201 (19.7)
取り組まない	1 (0.1)		4 (0.4)	3 (0.3)	8 (0.8)
合計	377 (36.9)	602 (59.0)	39 (3.8)	3 (0.3)	1021 (100.0)

*各セルのパーセントの基数は 1021 である。

表 3.3 は、カテゴリー合併後の他者不実行時の選好意識と他者実行時の選好意識とのクロス表である。この表のそれぞれのセルは、効用関数のタイプに対応している。表 3.4 には、回答の組み合わせのパターンと効用関数のタイプとの対応関係を示した。たとえば、他者がリサイクルを

実行していないときの選好意識が「不実行」であり、他者が実行しているときの選考意識が「不実行」である回答者は、タイプⅡに分類される。表 3.3 から、無条件実行のタイプⅣが 80%でもっとも多く、次に多いのが他者同調型のタイプⅡであることがわかる。タイプⅠとタイプⅢに当てはまる回答者はほとんどいない。ただし、この効用関数のタイプは絶対的なものではなく、あくまで相対的なものである。

表 3.3　他者協力の状態による選好意識　%（実数）

他者不実行時の選好意識	他者実行時の選好意識		合計
	不実行	実行	
不実行	40 (3.9)	169 (16.6)	209 (20.5)
実行	2 (0.2)	810 (79.8)	812 (79.5)
合計	42 (4.1)	979 (95.9)	1021 (100.0)

*各セルのパーセントの基数は、1021 である。

表 3.4　タイプの設定

他者不実行時の選好意識	他者実行時の選好意識	
	不実行	実行
不実行	タイプⅠ［無条件不実行型］	タイプⅡ［他者同調型］
実行	タイプⅢ［フリーライダー型］	タイプⅣ［無条件実行型］

3.2 妥当性の検討

本章の 2.では、リサイクルの実行／不実行を説明するために、効用関数のタイプを定義した。3.では、他者実行／不実行時の選好意識をもとに、操作的なタイプ設定を行った。しかし、効用関数のタイプ設定で用いた項目は、「・・・の状況を考えてください。そのとき、あなたはどのように行動しますか」という形の選好意識にすぎず、実際の行動ではない。ここで設定した効用関数のタイプは、実際のリサイクル行動を表現しているのだろうか。この点を検討するために、効用関数のタイプ別に他者行動認知とリサイクル実行度との関係をみてみる。他者行動認知とは、自分以外の住民のリサイクルへの取り組みに対する認知である。行為者は日常的には、他者がどれくらいリサイクルに取り組んでいるのか、という客観的な数値は知ることができない。そこで、行為者は、隣人や友人のリサイクルへの取り組みを観察するなどにより、他者がどれくらいリサイクルに取り組んでいるのか、という認知を形成する。そして、行為者は、他者行動認知のもとで、リサイクルを実行するか否かの意思決定を行う。ここで設定した効用関数のタイプが現実の行動と整合的であるならば、それぞれのタイプに属する行為者は、他者行動認知によって次のように行動すると考えられる（表 3.5）。

表 3.5　選好意識によるタイプの行動予測

選好意識による効用関数のタイプ	他者行動認知による行動予測
タイプⅠ [無条件不実行型]	他者行動認知に関わりなく、リサイクルの不実行を選択するであろう。
タイプⅡ [他者同調型]	他者のリサイクル実行率が低いと認知している場合にはリサイクル行動をとらないが、他者のリサイクル実行率が高いと認知している場合にはリサイクルを行うであろう。
タイプⅢ [フリーライダー型]	他者のリサイクル実行率が高いと認知している場合にはリサイクル行動をとらないが、他者のリサイクル実行率が低いと認知している場合にはリサイクルを行うであろう。
タイプⅣ [無条件実行型]	他者行動認知にかかわらず、つねにリサイクルを実行するであろう。

この予測を検討する前に、効用関数のタイプと他者行動認知のクロス集計表を表 3.6 に示した。タイプⅢは、そもそもタイプⅢに属するサンプルが非常に少ないので、表には値を示しているが分析の対象とはしない。表 3.6 からは、タイプⅠには他者行動認知が非協力の人と協力の人が半分くらいずつ存在するが、タイプⅡとタイプⅣでは 70～80%の人が他者はリサイクルを実行していると認知していることがわかる。

表 3.6　効用関数のタイプと他者行動認知　　%（実数）

効用関数のタイプ	他者行動認知		合計
	非協力	協力	
タイプⅠ	19 (47.5)	21 (52.5)	40 (100.0)
タイプⅡ	47 (28.1)	120 (71.9)	167 (100.0)
タイプⅢ	2 (100.0)	(0.0)	2 (100.0)
タイプⅣ	170 (21.4)	623 (78.6)	793 (100.0)
合計	238 (23.8)	764 (76.2)	1002 (100.0)

タイプ別、他者行動認知によるリサイクル実行度を表 3.7 に示した。リサイクル実行度は 0 から 21 の値をとり、数値が大きければ大きいほどリサイクルをよく行っていることを示している。

表 3.7　タイプ別、他者行動認知によるリサイクル実行度（平均値）

	選好意識による効用関数のタイプ				合計
他者行動認知	タイプⅠ	タイプⅡ	タイプⅢ	タイプⅣ	
不実行	5.00	10.09	11.00	15.35	13.41
実行	9.83	12.69	——	15.74	15.10
合計	7.42	11.99	11.00	15.66	14.70

表 3.7 では、タイプⅠのリサイクル実行率がもっとも低く、タイプⅣのリサイクル実行率がもっとも高くなっている。他者行動認知との関係をみてみると、タイプⅣは他者行動認知が実行／不実行にかかわらず、リサイクル実行率が高くなっているので、効用関数のタイプ設定は現実の行動と整合的である。また、タイプⅠについては、「他者行動認知にかかわらず、リサイクルを実行しない」と定義したのであるが、実際の行動では「他の人がリサイクルによく取り組んでいる」と認知しているほど、リサイクルに取り組んでいるという結果が得られた。しかし、他者がリサイクルを実行していると認知している場合でも、リサイクル実行度の平均は 9.83 であり、全体の平均 14.70 よりも大きく下回っている。この意味においては、他者行動認知にかかわらず、リサイクルを実行しないといえる。また、タイプⅡは「他人がするなら自分もする、他人がしないなら自分もしない」と定義したのだが、リサイクル実行率には他者行動認知による違いはそれほどみられない。タイプⅡのリサイクル実行度は、他者がリサイクルを実行していると認知している場合であっても、平均実行度を下回っている。ただし、もともと、リサイクル実行度が高いタイプⅣの人が全体の 80%あまりを占めているために平均が高くなってしまうので、この点も考慮して考察を進める。

ここでの考察は以下のようにまとめることができる。表 3.7 を見てみると、タイプⅠやタイプⅣに関しては、選好意識への回答によるタイプの分類が、実際の行動、および他者行動認知とおおよそ整合的である。しかし、タイプⅡに関しては、操作的なタイプ設定が現実の行動をうまく反映していないようである。タイプⅡに属する回答者は、選好意識では「他人がリサイクルをするなら自分もする、他人がしないならしない」と答えているのに、タイプⅡのリサイクル実行度には他者行動認知による差があまりみられない。

リサイクル行動の中でも、低コストリサイクル行動と高コストリサイクル行動では行動のパターンが異なると考えられる。そこで、れぞれについて検討を行う [1]。低コストリサイクルの実行度は 0 から 12、高コストリサイクル行動の実行度は 0 から 6 の値をとる。タイプⅡに注目して、表 3.8 を見てみると、低コストリサイクル行動は選好意識による分類が実際のデータと比較的整合的であることがわかる。しかし、表 3.9 から、高コストリサイクル行動に関しては効用関数のタイプ設定が実際の行動をまったく表現できていないことがわかる。

表 3.8　タイプ別、他者行動認知による低コストリサイクルの実行度（平均値）

[1] 高コストリサイクル、低コストリサイクルについては、第 2 章 3.1 を参照。変数の定義は、付録を参照。

他者行動認知	選好意識による効用関数のタイプ				合計
	タイプⅠ	タイプⅡ	タイプⅢ	タイプⅣ	
不実行	3.79	7.18	7.00	9.93	8.87
実行	7.42	9.42	——	10.63	10.36
合計	5.61	8.82	7.00	10.48	10.01

表 3.9　タイプ別、他者行動認知による高コストリサイクルの実行度（平均値）

他者行動認知	選好意識による効用関数のタイプ				合計
	タイプⅠ	タイプⅡ	タイプⅢ	タイプⅣ	
不実行	0.61	1.78	3.00	3.74	3.08
実行	1.50	1.80	——	3.27	2.99
合計	1.08	1.79	3.00	3.37	3.01

このような結果が生じた原因として、以下のような理由が考えられる。選好意識や他者行動認知に関する質問では、特にリサイクルの対象となる資源について限定しなかった。したがって、回答者がこの質問で想定したのが新聞紙やビン・缶などの低コストリサイクルであったという可能性が考えられる。この点に関しては、今後の検討課題であるが、とりあえずは、少なくとも低コストリサイクル行動については、先に設定した効用関数のタイプに何らかの妥当性があると考え、分析を進める。

4.　効用関数の規定因

効用関数はどのような要因によって決定されるのだろうか。効用関数のタイプを基準変数、意識変数を説明変数とした判別分析を行う。用いる意識変数は、環境問題に対する意識、コスト感、利己主義的な考え、他者行動認知、有効性感覚、リサイクルに伴う満足感、規範意識、人間観、いいわけに対する非許容度の９つである[2]。判別分析では、説明変数間の関係を統制して、被説明変数に対する各変数独自の影響力を線形結合した判別関数が導出される。

4.1　説明変数間の関係の把握

分析の前に、判別分析の説明変数として用いる意識変数間の関係を検討する。これらの意識変数を因子分析にかけ、表 3.10 のような結果を得た。因子の抽出には主因子法、回転には直接オブリミン法を用いた。オブリミン法は、斜交回転の一種であり、因子間の相関を認めている。第１因子は、環境問題を解決するための手段としてリサイクルの有効性を評価し、リサイクルを実

[2] 変数については、付録を参照。

行しなければならないという規範意識にかかわる因子であると考えられる。この因子は、自分がリサイクルを実行することで得られる直接的な満足感を表していると考えることができる。第２因子は、環境問題を深刻な問題と思わず、自分がリサイクルをしなくても何の問題もないと考えるような因子である。自分がリサイクルをしようがしまいがごみ問題は解決しないし、そもそも環境問題はたいして深刻ではない、という意識を表すのがこの因子である。第３因子は、コスト感にかかわる因子である。コスト感が高いと、利己主義的な人間観を持ち、いいわけに対する許容度が低い。因子分析の結果から９つの意識変数は次の４つに分類できることがわかる。第１のグループは、有効性感覚、リサイクルに伴う満足感、規範意識から構成される。第２のグループは、環境問題に対する意識、利己主義的な考えの２つから構成される。第３のグループは、コスト感、人間観、いいわけに対する許容度の３変数から成る。第４のグループは、他者行動認知のみから成る。第４因子は他者行動認知の因子である。因子間の相関行列を表 3.11 に示した。第１因子と他の因子との相関はどれも 0.3 ほどで中程度の相関が見られる。第２因子と第３因子、第２因子と第４因子との相関は、ほとんど見られない。

表 3.10　リサイクル行動をめぐる意識の構造

	第１因子	第２因子	第３因子	第４因子
リサイクルに伴う満足感	0.652	0.077	0.219	0.170
規範意識	0.627	0.335	0.334	0.108
有効性感覚	0.552	0.282	0.211	0.236
環境問題に対する意識	0.197	0.730	-0.051	-0.125
利己主義的な考え	-0.186	-0.533	-0.118	-0.101
いいわけに対する許容度	-0.180	-0.031	-0.579	0.003
コスト感	-0.340	0.020	-0.578	-0.253
利己的な人間観	-0.182	-0.097	-0.469	-0.221
他者行動認知	0.153	0.003	0.128	0.511

因子抽出法：主因子法　　回転法：オブリミン法

表 3.11　因子相関行列

	第１因子	第２因子	第３因子	第４因子
第１因子	1.000	0.280	0.365	0.255
第２因子	――	1.000	0.078	0.017
第３因子	――	――	1.000	0.229
第４因子	――	――	――	1.000

4.2　効用関数の４つのタイプを判別する判別分析

これらの意識変数を説明変数として判別分析を行った結果が表 3.12 である。第１判別関数はタイプⅠとⅣを判別し、第２判別関数はタイプⅡとタイプⅢを判別している。第１判別関数にも

っとも強く影響を与えているのは、規範意識である。次に影響を与えているのは、コスト感といいわけに対する許容度である。第１判別関数は無条件不実行と無条件実行とを判別する関数であるので、これらの変数はどれも先行研究におけるリサイクルの行動の規定因と一致する結果が得られている。また、第２判別関数にもっとも大きな影響を与えているのは、いいわけに対する許容度であり、環境に対する意識、有効性感覚とつづく。つまり、いいわけに対する許容度が高い人ほど、環境問題を深刻な問題であると考えている人ほど、リサイクルがごみ問題の解決に有効であると考えている人ほど、タイプⅢ［フリーライダー型］ではなくタイプⅡ［他者同調型］の効用関数を持ちやすいといえる。

表 3.12　効用関数のタイプを判別する関数の標準化係数

	効用関数のタイプ		
説明変数	第 1 判別関数	第 2 判別関数	第 3 判別関数
リサイクルに伴う満足感	0.194	-0.126	0.108
規範意識	0.449	0.091	-0.632
有効性感覚	0.113	0.428	0.376
環境問題に対する意識	-0.122	0.439	0.018
利己主義的な考え	-0.193	-0.181	-0.392
いいわけに対する許容度	-0.342	0.497	-0.417
コスト感	-0.377	0.203	0.391
人間観	0.137	0.046	0.420
他者行動認知	0.157	0.381	-0.208
事前確率（%)	3.7/16.9/0.1/79.3		
判別率（%)	57.7		

4.3　タイプⅡとタイプⅣを判別する判別分析

タイプⅠとタイプⅢに関しては、サンプル数が少ないので、データが偏っている可能性が存在する。そこで、タイプⅡとタイプⅣのみを被説明変数とする判別分析を行う。その結果を表 3.13 に示した。結果は、前の分析の第１判別関数とよく似ている。ただし、影響力の順序が少し入れ替わっている。タイプⅡとタイプⅣを判別する判別関数にもっとも大きな影響を与えているのは、いいわけに対する許容度であり、環境に対する意識、有効性感覚とつづく。いいわけに対する許容度が低いほど、コスト感が低いほど、規範意識が高いほど、タイプⅡ［他者同調型］ではなくタイプⅣ［無条件協力型］である可能性が高い。タイプⅡとタイプⅢの違いは、他人がリサイクルを実行していない場合でも自分がリサイクルを実行するかしないか（極端な言い方をすれば、たとえ自分一人でもリサイクルを実行するかどうか）という点にある。このことが、今後の考察のヒントになると思われる。

表 3.13　タイプⅡとタイプⅣを判別する関数の標準化係数

	効用関数のタイプ
説明変数	判別関数
リサイクルに伴う満足感	0.218
規範意識	0.420
有効性感覚	-0.024
環境問題に対する意識	-0.239
利己主義的な考え	-0.114
いいわけに対する非許容度	-0.462
コスト感	-0.427
人間観	0.103
他者行動認知	0.060
事前確率（%)	17.6/82.4
判別率（%)	68.8

以上のように、行動の違いを効用関数の異質性という観点から説明し、効用関数のタイプの規定因を検討した。ただし、操作的な効用関数の設定が、実行動と不整合な点がみられた。効用関数のタイプ設定の妥当性については、今後も検討したい。また、効用関数のタイプの違いをもたらす要因に関する検討については、タイプの分布が偏っているために効用関数のタイプが何によって規定されているのかについてクリアな結果を得ることができなかった。つまり、効用関数のタイプを非説明変数に判別分析を行うと、従来の実行／不実行の規定因とほぼ同じ結果が得られてしまう。これは、本章のタイプ設定の操作では、どのタイプに属するのかによってリサイクルの実行度がほぼ決まってしまうためであると考えられる。これでは、効用関数のタイプ間の関係をうまく捉えているとはいえない。本章の分析は、まだ、荒削りの段階であるが、これらの問題点の検討をしつつ、研究を進めたい。

【付録】

新変数	使用した問	カテゴリーに付与したポイント	変数作成方法	変数の範囲
低コストリサイクル	Q7-A Q7-D Q7-E Q7-F	3: いつもしている 2: ときどきしている 1: めったにしない 0: 全くしない 0: 家族がしている	Q7-A から Q7-F の 4 変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-12
高コストリサイクル	Q7-B Q7-C	3: いつもしている 2: ときどきしている 1: めったにしない 0: 全くしない 0: 家族がしている	Q7-B と Q7-C の２変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-6
新変数	使用した問	カテゴリーに付与したポイント	変数作成方法	変数の範囲
環境に対する意識	Q5-A Q5-B Q5-C	【Q5-A, Q5-B】 3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない	Q5-A, Q5-B, Q5-C の３変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-9

		0: 全く共感できない 【Q5-C】 3: 全く共感できない 2: どちらかといえば共感できない 1: どちらかといえば共感できる 0: 非常に共感できる		
いいわけに対する許容度	Q27-A Q27-B Q27-C Q27-D Q27-E Q27-F	3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない 0: 全く共感できない	Q27-A から Q27-F の６変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-18
合理的な考え方	Q13 Q18	3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない 0: 全く共感できない	Q13 と Q18 の２変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-6
節約に対する満足感	Q22-A Q22-B	3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない 0: 全く共感できない	Q22-A と Q22-B の２変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-6
規範意識	Q23-A Q23-B Q23-C Q23-D	3: 非常に共感できる 2: どちらかといえば共感できる 1: どちらかといえば共感できない 0: 全く共感できない	Q23-A から Q23-D の４変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-12
コスト感	Q19-A Q19-B Q19-C Q19-D Q20-A Q20-B Q20-C Q20-D	【Q19-A から Q19-D】 3: 非常に障害になる 2: やや障害になる 1: あまり障害にならない 0: 全く障害にならない 【Q20-A から Q20-D】 3: 非常に手間がかかる 2: やや手間がかかる 1: あまり手間がかからない 0: 全く手間がかからない	Q19-A から Q19-D、Q20-A から Q20-D の８変数の各カテゴリーに付与されたポイントを総和	0-24

第 4 章　リサイクル行動と地域移動

海野 道郎・篠木 幹子・荒井 貴子
（東北大学大学院文学研究科）

【要旨】

仙台市在住の家事担当者（女性のみ、876 名）を対象に、７種類のリサイクル行動に及ぼす仙台市来住以前の居住地（前住地）の影響を計量分析した。対象としたリサイクル行動は、新聞紙・古雑誌、牛乳パック、トレイ、ペットボトル、ビン・缶、電池（筒型）、衣類の７種である。前住地は、仙台市、宮城県（仙台市を除く）、北日本（新潟・福島以北。宮城県は除く）、関東以西（国外も含む）に４分した。リサイクル行動は、制度的リサイクルと自主的リサイクルに２分され、前住地による実施率の変動は異なる。しかし、共通して、生まれたときから仙台市に住んでいる人の実施率は低く、関東以西からの転入者の実施率が高い。その変動は、仙台居住年数の違い、環境意識の違い、年齢層の違いなどによっては説明されないが、学歴構成の違いによっては部分的に説明されることを明らかにした。この傾向は、特に、自主的リサイクルについて顕著に見られた。

キーワード：リサイクル行動、地域移動、学歴の影響、制度的リサイクル、自主的リサイクル

1. はじめに

ごみ問題は、その本性上、困難な問題を抱えている。それは、ごみの回収から中間処理（焼却など）を経て最終処分場への埋め立てに至るシステム全体の性質を考えると、容易に推測できる。

まず第一に、システムの設計者（あるいは運営者）の側では、インプットを制御できない。この事実は、インプットを高度に制御している製造業と比較すると明らかになる。化学工場において合成を行うときには、原料に対して必要な規格（純度など）を予め定め、それに合うものを調達することができる。自動車を構成する種々の部品は、自社内で製造したものであれ他社から購入するものであれ、予め定めた規格のものを納入させる。これに対して、ごみ処理工場に入る生活ごみには、規格が存在しない。人々が日々の生活で何を用い何を排出するか、ということを、ごみ処理に当たる市町村や一部事務組合（以下、自治体）が予め指定することは、極めて困難で

海野道郎（編）, 2001, 『リサイクル行動の計量社会学的研究―合理的選択理論を基礎として―』
平成 10～12 年度科学研究費補助金　基盤研究(C)(2)
課題番号　10610159　研究成果報告書　51-68 頁

ある。現実には、「一般ごみに粗大ごみをまぜて出してはいけない」とか「スプレー缶は使い切った上で、中のガスを抜いてから出す」などの制限はある。しかし、このような制限は、先に例示した製造業における規格に比べれば段違いに緩やかであり、インプットの多様性は厳然として存在する。そのことは、多様なインプットへの対応をシステムに要求する。システムに対して高度な頑健性が要求されるのである。

第二に、ごみ処理には、時代を超えて成立する「正しい方法」も存在しない。種々の条件の変化、殊に処理技術自体の変化によって、昨日まで最善だった方法が現在でも正しい、とは言いきれないのである。

第三に、ごみ処理には、いかなる地域でも成立する「正しい方法」というものが存在しない。地域によって、ごみの量も違えば質も違う。また、当該自治体の処理施設の性能も異なる。個々の自治体から見たとき、最新の処理技術を常時採用するには、困難が伴う。殊に主な中間処理施設である焼却工場は、最新設備から見れば見劣りしようとも、簡単に更新することはできない。現存施設の耐用年数、建設予定地周辺住民住民の同意獲得、資金の調達など、多くの課題を乗り越えて初めて焼却工場の建設は可能になるからである。以上から、A 市で最善である処理方法が B 市においてもそうだとは言い切れない。

ごみに関する人々の行動を分析する際、上記の事実を無視することはできない。

ごみ処理を担当する自治体は、所与の条件のもとで、（環境や経済性などに照らして）最適なシステムを設計すべきである。実際、多くの場合に、そのように心がけているのであろう。そして、その最適ごみ処理システムの一環として、ごみの収集方法が設計される。また、リサイクル対象品の選定や回収方法も設計される。しかし、その方法は、上記の理由によって、地域によって違いうるとともに、時間的にも変化しうる。ある地域に転入してきた人は、それまで慣れ親しんできたのとは異なる「ごみ排出の方法」や「リサイクル品の回収方法」を行政から要請され、戸惑うことになる。しかし、ある地域に住み続けていた人でさえも、そのような戸惑いから自由ではない。多くの住民にとっては、広報や回覧板などを通して、ある日突然、（一定の周知期間の後に）ごみ排出方法が変更になると告げられるかもしれないからである。

このことに関して、私が直接体験したエピソードを記しておこう。

第一のエピソードは、技術革新に関わっている。私の家では、新聞紙と折り込み広告を分けて資源回収に出してきた。そのことによって、良質の再生紙を作ることができる、と聞かされていたからである。しかし、そのような配慮は、現在（2001 年初頭）では不要なのである。その理由は、廃棄物回収業者である斎藤宏氏の話によれば、次のとおりである [1]。新聞紙のリサイクルが進んだため、新聞用紙の原料における再生パルプの割合が増加した。その結果、古新聞紙だけから新聞用紙を作ったのでは十分な強度にならない。さらに、こちらの方が主要な理由といえるが、

[1] 2001 年 1 月 16 日「新樹会」例会における報告による。斎藤宏氏は、「株式会社　まるひろ」（事務所：仙台市青葉区青葉山第二地区）代表取締役。仙台市集団資源回収連絡協議会員など。

折り込み広告などから印刷インクを除去する脱墨技術が向上した(大手メーカーでは 10 年ほど前から可能であったが、中小メーカーでも最近は可能になった)。そのため、現在では、新聞用紙を作る場合に、古新聞紙だけでなく折り込み広告なども一緒に溶かしている、という。

第二のエピソードは､制度変更に関わったものである｡仙台市が泉市を吸収合併するに伴って、泉市のごみ排出方法は仙台方式に統一された。その際、環境問題に関心を持つ多くの主婦は不満を持った。それまで泉市では、プラスチック類は、燃えないごみとして、紙類や生ごみとは別に収集していたのに対して、仙台方式では、それを混ぜて排出することになったからである。これまでせっかく分別してきたのに、仙台市では燃やされてしまう。仙台市は遅れている。――そのような不満を持つ人は少なくなかった。これに対する仙台市の言い分は、泉市の焼却施設ではプラスチックを燃やせないが、仙台市の施設では環境に害を与えずに燃やせるのだ、というものであった [2]。

第三のエピソードは、人々の移動に帰因している。仙台市には多くの転勤族がいる。また、種々の理由により仙台（都市圏）に移住してくる人は少なくない。したがって、そのような人たちの前住地は、（後述のように、日本全国に満遍なくとは言えないが）全国各地に散らばっている。そのような人たちの前住地においては、それぞれ異なった排出方法が要請されており、その中には「ビンは透明、白、青、緑、黒、茶、その他に分ける」（岩手県水沢市、1997 年 4 月 1 日現在）など、仙台市よりも各段に細かい分別を要求している自治体もある。そのような排出方法に慣れた人の眼には、仙台市の方法は「遅れた」方法としてうつるようである。「何で仙台市の排出方法はこんなに大雑把なのだろう」、そのような不審の声を聞いたことは少なくない。逆に、「仙台市の排出ルールは厳しすぎる」と感じる人もいるだろう。

以上のことから推測できるのは、ごみの排出やリサイクルに関する人々の意識や行動を考える際には、その人の地域移動歴を知ることが重要だ、ということである。そこで本稿では、地域移動歴に着目し、それが環境配慮行動、とくにリサイクル行動にどのように影響を及ぼしているかについて分析しよう。

2. 分析対象者の確定

しかし、その前に行うべきことがある。それは、分析対象者の確定である。

[2] プラスチックを燃やすか否かは、専門家の間でも意見が分かれている。ここでは、朝日新聞（2001 年 2 月 26 日、23 面、くらし欄）を引用しておこう。「廃棄物学会会長の田中勝・岡山大教授は『プラスチックは燃えないという人はいない。技術的にはダイオキシンを排出基準以下におさえる対策もできる。埋め立てを最小限にするなら、焼却炉は廃プラスチックも対象にし、燃やしてエネルギーを回収すべきだ』と主張する。一方、国立環境研究所の酒井伸一・廃棄物研究部長は『循環型社会を追求するには、まず分けることから始めないといけない。分けないことには、リサイクルなどの技術向上もない。一次資源依存のワンウェー社会から脱却するには、分別のドアを閉めるべきではない』と指摘する。」

すでに述べたように（序章 2.)、本調査は無作為抽出された人が属する世帯の「家事担当者」を回答者としている。すなわち、「回答をお願いしたい方」について、「（1）１人世帯については、もちろんご本人が、(2）２人以上の世帯については、家事を主に担当しておられる方がお答えください」と指定している。その結果、1026 票（回収率 85.5%）の回答が得られた。

本来であれば、この 1026 票をそのまま分析対象とするべきである。無作為抽出を行った以上、それは当然である。しかし、男 149 名（14.5%)、女 876 名（85.5%）からなるデータをそのまま使うには、若干の躊躇を感じざるを得ない。第一の理由は、回答者の妥当性の問題、第二の理由は回答者の異質性の問題である。

第一の理由・妥当性の問題は、回答者がすべて、われわれが意図した「回答をお願いしたい方」の条件に合致しているか、ということである。わが国において、「男は仕事、女は家庭（で家事を担当)」という性別役割分業が存在すると一般にいわれている。それが本当に歴史的事実であったか、また、それが正しいか否か、という問題には、ここでは立ち入らない。その答えの如何にかかわらず、人々がそのように思っている、という事実は存在すると考えて良いだろう。その事実を前提にすると、男の回答者については、吟味が必要である。

まず、世帯人数を見ると、男の回答者 149 名中 1 人暮しは 43 名（28.9%）である。この人達は、必然的に「回答をお願いしたい方」である。また、残り 7 割の人の中でも、学生・無職・臨時雇用の人は、相対的に時間的余裕があるので、他に同居家族がいたとしても、「家事を主に担当しておられる方」である可能性を否定はできない。それに対して、常時雇用の一般従業員・自営業主・経営者役員は、同居家族がいる場合、同居家族に家事を委ねる可能性が大きいだろう。そこで、男の回答者 149 名中で欠損値３名を除く 146 名について上記の基準を用いて集計すると、次のようになる [3]。

表 4.1　世帯人数と従業上の地位（男）　　%

実数

	世帯人数		
従業上の地位	1 人暮し	同居者有	合　計
学生・無職・臨時	14.4	25.3	39.7
	21	37	58
常雇・自営・経営	15.1	45.2	60.3
	22	66	88
合計	29.5	70.5	100.0
(%の実数)	43	103	146

「家事を主に担当しておられる方」というわれわれの依頼に対して答えてくれた「同居者有」の男の人は、本当に家事担当者なのだろうか。その中でも特に「常雇・自営・経営」の人々は、果たして実際に「家事を主に担当しておられる方」なのだろうか。われわれは、エディティング

[3] 本稿における集計・分析は、すべて、SPSS　Ver.10J を用いた。

とコーディングに際して、それまでに得られた種々の情報をもとに、家事担当者であるか否かの推定を行った。149 名の男の中で、家事担当者だと判断できたのは 51 名（34%）であり、家事担当者でないと判断できたのは２名であった。また、残りの 96 名（64%）は、家事担当者でないと推定できるものの断言はできない人（「不明」）であった。なお、表 4.1 で同居者有に分類された人は、この判断とほとんど重なっている（表は省略）。以上の結果から、男の回答者で同居家族がいる回答者の中には、家事担当者でない人がかなり存在するものと推定できる。

第二の問題は、回答者間の異質性の問題である。「調査結果の概要」の章にも記したように、回答者を男女別に比べると、年齢分布（図 6.1.2）、就業形態（図 6.1.3）などで男女間に顕著な差のあることが分かる。ただし、それ自体が問題なのではない。メカニズムに男女差があると推察されるなら、男女別のデータに並行的な分析を行って比較すれば良いのである。しかし、今回の分析の場合、男の回答者数は少ないから、男について信頼のおける集計・分析をすることは困難である。したがって、男女間の比較もできない。他方、男女込みで分析した場合、異質なメカニズムが混合し､性別ごとに分析したなら析出可能であったメカニズムを取りだせない可能性がある。

このように考えて、この章の分析では、男の回答者のデータを除外し、女の回答者 876 名を対象とした分析を行う [4]。

以上の考察から、回答者全体を対象にした分析も女性回答者のみを対象とした分析もそれぞれ意味がある、と考えるのが妥当である。この章では、他の章で回答者全員を対象とした分析を行っていることを踏まえ、あえて女性回答者 876 名のみを対象とした分析を行うことにする。

3.　リサイクル行動：その実態

初めに、われわれが分析の対象とするリサイクル行動の実態をみておこう。７種類のリサイクル行動についての集計結果が表 4.2 である。

表から、「ビン・缶」、「ペットボトル」、「新聞紙・古雑誌」、「電池（筒型）」のリサイクル率が高い（７割以上の人が「いつもしている」と答えている）のに対して、「牛乳パック」、「（発泡スチロールの）トレイ」、「衣類」のリサイクル率が低い（「いつもしている」と答える人は３割ないし４割）ことが分かる。

---

[4] このような決断にも、問題がないわけではない。技術的には、男の回答者が「家事を主に担当しておられる方」で「ない」という確証が得られない以上、回答者はすべて実際に「家事を主に担当しておられる方」だ、と想定して分析を進めるべきだ、という考えにも十分な理がある。さらに、思想的には、このように先見的に男女の違いを措定した議論は問題だ、と考えられる。人間を形成するさまざまな特性（身体的、心理的、社会的特性）の内で性別に特に着目することは、一見常識的ではあるが、根本的に考えると、その正当性を主張することは決して容易でないように思われる。

幸いにも（というべきか）、今回の調査において、男性回答者の割合は 15%であり、その中で疑わしい回答者は半数強にすぎない点に留意すると、回答者全体を分析しても、男性回答者を除いた残り 85%の女性回答者について分析を行っても、得られた結果には大きな違いがないだろう。

表 4.2　リサイクルの頻度　%

	新聞紙 古雑誌	牛乳 パック	トレイ	ペット ボトル	ビン 缶	電池 (筒型)	衣類
1 いつもしている	73.9	41.2	29.3	76.9	87.3	69.2	29.7
2 ときどきしている	15.0	15.8	17.9	9.6	5.6	9.4	35.5
3 めったにしない	4.5	13.7	15.6	4.9	3.0	7.1	18.0
4 まったくしない	3.5	26.6	32.2	6.1	3.1	10.5	13.8
5 家族がしている	2.4	1.7	1.3	1.4	0.8	1.7	0.9
9 DK、NA	0.8	1.0	3.7	1.1	0.2	2.2	2.1
%の基数	876	876	876	876	876	876	876

問題は、このようなリサイクル行動が、どのようなメカニズムによって形成されるか、ということである。

そのメカニズムは、いうまでもなく、単純なものではない。多くの要因が重なった複雑なメカニズムによるのであろう。そのような多くの要因の中で、この章の分析では、回答者の地域移動歴に注目する。その理由については、すでにこの章の冒頭に記してある。

4. 地域移動歴としての前住地

ここで地域移動歴というのは、回答者がどこで生まれ、どのような地域を経て、現住地に住むに至ったか、その全過程を指している。しかし、今回の調査では、地域移動歴が関心の中心でなかったことから、全過程の測定は行っていない。今回の調査から分かる事実は限られている。表 4.3 は、仙台市内在住者に対して、仙台市に住むようになった直前の居住地（前住地）を聞いたものである。調査では市町村まで聞いているが、この表には、（生まれてからずっと仙台市に住んできた人以外については）都道府県水準で、しかも分布に照らして簡略化した区分で記してある。数は少ないものの、前住地が中部地方以西の人もいることが分かる。

表 4.3　前住地（詳細）

前住地	実数	%
北海道	21	2.4
青森・岩手・秋田	107	12.2
仙台市	222	25.3
宮城県（除仙台市）	216	24.7
山形・福島	100	11.4
茨城・栃木・群馬	13	1.5
埼玉・千葉・神奈川	73	8.3
東京	46	5.3
新潟	8	0.9
中部	20	2.3
近畿	21	2.4
中国・四国・九州	9	1.0
国外	6	0.7
拒否・無答	14	1.6
合計	876	100.0

この分布を参考にさらに地域を統合したのが表 4.4 である。仙台市、（仙台市以外の）宮城県、（新潟県・福島県以北の、宮城県を除く）北日本、関東以西（国外を含む）にほぼ四分されている。以後、地域移動歴としては、この変数「前住地（４値)」を用いることにしよう。

表 4.4　前住地（４値）

前住地	実数	%
仙台市	222	25.3
宮城県*1	216	24.7
北日本*2	236	26.9
関東以西*3	188	21.5
DK・NA	14	1.6
合計	876	100.0

*1 仙台市を除く
*2 新潟・福島以北。宮城県を除く。
*3 国外を含む
（以後の表では、この注は省略）

では、このように構成された前住地は、どのような性質を持っているだろうか。直感的に考えられるのは、次のような傾向である。(1) 仙台市に居住している年数は、誕生以来ずっと仙台市に住んでいる人（以後、「仙台市」または仙台土着者）がもっとも長く、「宮城県」、「北日本」、「関東以西」からの来住者の順に短くなるだろう。(2) 近所づきあいの程度は、「仙台市」がもっとも親密であり、「宮城県」、「北日本」、「関東以西」の順に疎遠になるだろう。

では、実際にはどうだろうか。

表 4.5　前住地別・仙台居住年数　　%
実数

	Q2_B4　前住地（４値）				
仙台居住年数	仙台市	宮城県	北日本	関東以西	合計
10年未満	0.0	25.1	35.3	40.4	24.9
	0	54	83	76	214
10年以上	3.2	22.8	33.6	23.4	20.9
	7	49	79	44	179
20年以上	16.0	30.2	19.1	21.8	21.7
	35	65	45	41	186
30年以上	80.8	21.9	11.9	14.4	32.5
	177	47	28	27	279
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(%の基数)	219	215	235	188	858

表 4.5 に示したように、前住地が仙台から遠い人ほど仙台居住年数が短い、という傾向のあることが、はっきりと見てとれる。仙台に 30 年以上住みつづけている人は、仙台土着者では８割いるのに対して、宮城県から仙台に来住した人では２割強、関東以西や北日本からの来住者では１割強である。また、遠方から仙台に来住した人には仙台居住年数の短い（10 年未満）人が多く、関東以西では４割、北日本では３割５分である。

表 4.6　前住地別・近所づきあいの程度　　%

実数

	前住地（４値）				
近所づきあうい	仙台市	宮城県	北日本	関東以西	合計
せいぜい挨拶[*1]	26.6	28.2	33.1	34.0	30.4
	59	61	78	64	262
親しい人少し	45.0	45.8	46.6	44.1	45.5
	100	99	110	83	392
親しい人多い	28.4	25.9	20.3	21.8	24.1
	63	56	48	41	208
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
%の基数	222	216	236	188	862

[*1] 問 36 の「顔を知っている人はいない」、「知っている人もいるがあいさつはしない」、「あいさつする人もいるが親しく話はしない」の３カテゴリーを合併した。

近所づきあいとの関係については、表 4.6 から、「仙台市」と「宮城県」では（相対的に）親しい人（親しく話をする人）が多く、「関東以西」や「北日本」では（相対的に）せいぜい挨拶程度の人が多いことが分かる。

このように、表 4.5 と表 4.6 に示した二つの傾向から、次の予測が得られる。

【予測】前住地別にリサイクル率を見ると、「仙台市」（仙台土着者）がもっとも高く、「宮城県」、「北日本」、「関東以西」の順に低くなるであろう。

このような予測の根拠は、次の通りである。第一に、ごみの排出やリサイクルの方法が自治体によって異なることを考えると、仙台土着者は仙台市に永年居住していて仙台市の方法に習熟しているが故に仙台市のリサイクルに馴染みやすく、逆に、最近になって仙台市に来住した人は、仙台市の方法に馴染みがうすいので、リサイクル率が低くなる、というメカニズムが働くであろう。第二に、「近所付き合いが親密な回答者はつきあいが疎遠な回答者よりも（ごみの――引用者注）排出時間を守る」（小松　洋ら、 1993）という知見を一般化すれば、仙台土着者は近所付き合いの程度も高く、そのためにごみ排出行動の一環であるリサイクル行動もよく行うであろう。

5. リサイクル行動と地域移動歴

前項に述べた予測を調査結果と照合するため、リサイクル行動と地域移動歴（前住地）との関係を見てみよう。表 4.7 は、表 4.2 に示した 7 つのリサイクル行動について、前住地別に、「いつもしている」人の比率（%）を比較したものである[5]。

表 4.7　前住地別・各種リサイクル率　　%
「いつもリサイクルしている」人の比率　　実数

リサイクル品	前住地（4値） 仙台市	宮城県	北日本	関東以西	合計
新聞紙・古雑誌　(Q7_A)	68.9	74.8	74.8	80.1	74.4
	153	160	175	149	637
牛乳パック　(Q7_B)	35.6	40.4	44.3	47.1	41.7
	78	86	104	88	356
トレイ　(Q7_C)	24.2	32.9	32.6	32.8	30.5
	52	68	74	60	254
ペットボトル　(Q7_D)	71.7	77.0	80.4	80.4	78.0
	157	164	189	155	665
ビン・缶　(Q7_E)	86.0	86.0	87.3	91.5	87.6
	191	185	206	172	754
電池（筒型）　(Q7_F)	67.0	70.0	71.7	75.5	70.9
	146	147	167	139	599
衣類　(Q7_G)	28.4	34.0	25.3	35.3	30.5
	62	72	59	65	258
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
%の基数[*1]	222	214	234	186	856

[*1] 最下行に記した%の基数は、厳密にはリサイクル品の種類によって異なる。
拒否や無答の数がリサイクル品の種類によって異なるからである。

この表から分かるように、仙台土着者のリサイクル率は、おしなべて低い。衣類やビン・缶のリサイクル率のように他地域からの来住者でも低い品もあるが、その他の品については最下位である。逆に、関東以西からの来住者において、リサイクル率がもっとも高い。

この現象は、前節までの考察と矛盾する奇妙な現象である。仙台土着者は、方法への習熟という観点からも、近隣関係（近所づきあい）による支持という観点からも、もっともリサイクル率が高い、と予測したにもかかわらず、現実はそれと逆なのである。なぜだろうか。

いま示した表 4.7 の事実（仙台土着者はリサイクルをやる人が相対的に少なく、前住地が関東以西の人は相対的に多い）と、前節に示した表 4.5 の事実（仙台土着者の大多数は 30 年以上仙台に住みつづけており、関東以西からの転入者の仙台居住年数は相対的に短い）を合わせると、仙

[5] 「調査結果の概要」の図 6.3.3 には、全回答者についての集計結果が示されている。

台居住年数が短い人ほど（何らかの理由で）リサイクルを行う割合が大きい、という命題が導かれる。では、それは事実だろうか。

表 4.8 は、仙台市における居住年数とリサイクル率との関係を見たものである。表から分かるように、仙台居住年数とリサイクル率との間には単調な関係はない。総じて、居住年数 10 年以上（20 年未満）の人々のリサイクル率が高いことに気づく。

表 4.8　仙台居住年数別・各種リサイクル率　　%
「いつもリサイクルしている」人の比率　　実数

リサイクル品		仙台居住年数 10年未満	10年以上	20年以上	30年以上	合計
新聞紙・古雑誌	(Q7_A)	67.8	77.5	75.5	75.9	74.2
		143	138	142	211	634
牛乳パック	(Q7_B)	45.3	43.6	36.4	41.1	41.6
		96	78	68	113	355
トレイ	(Q7_C)	30.6	30.1	30.8	30.5	30.5
		64	53	57	80	254
ペットボトル	(Q7_D)	78.9	80.4	79.0	74.8	77.9
		168	144	147	205	664
ビン・缶	(Q7_E)	84.6	89.4	89.8	87.5	87.7
		181	160	168	245	754
電池（筒型）	(Q7_F)	66.4	74.0	74.1	70.6	71.0
		140	131	137	192	600
衣類	(Q7_G)	22.0	35.0	30.6	32.2	29.9
		46	62	57	88	253
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	%の基数	211	177	185	272	845

以上の結果をまとめてみよう。まず、表 4.7 から、仙台土着者のリサイクル率が低いことを見いだした。また、表 4.5 から、仙台土着者は、仙台居住年数が長い人が多いことが分かる。８割が 30 年以上住んでいるのである。しかし、表 4.8 を見ると、仙台居住年数が長い人（30 年以上住んでいる人）のリサイクル率は、決して低くない。また逆に、前住地が関東以西の人はリサイクル率が高かったのに、関東以西から来仙した人に多い仙台居住年数 10 年未満の人において、リサイクル率は必ずしも高くないのである。このように、リサイクル率が前住地によって異なり、仙台市永住者においては低く関東以西からの来住者において高いという事実の背後には、仙台居住の長さがあるわけではない。その作用は、単純なプラスでも単純なマイナスでもないのである。念の為、リサイクル率×仙台在住年数×前住地の３重クロス集計をとっても、一貫した関係は見出せない（表は略）。

それでは、前住地の違いがリサイクル率の違いに影響をもたらしているという事実は、何に帰因しているのだろうか。以下、この問いに答えていくことにするが、上記７つのリサイクル行動

すべてについて並行的な分析をするのは煩雑であり、冗長でもある。そこで、まず、この７つのリサイクル行動の類型化を試みよう。

6. リサイクル行動の類型化

７つのリサイクルがどのような要素で構成されているのかを検討しよう。因子分析（主成分法で因子抽出、ヴァリマックス回転）の結果、次のような因子負荷（成分）行列が得られた。

表 4.9　回転後の因子負荷行列

	因　子		
リサイクルの対象	1	2	共通性
新聞紙・古雑誌	0.529	0.403	0.4426
牛乳パック	0.190	0.826	0.7184
トレイ	0.139	0.833	0.7126
ペットボトル	0.820	0.175	0.7039
ビン・缶	0.887	0.097	0.7966
電池（筒型）	0.757	0.171	0.6017
衣類	0.135	0.600	0.3782
固有値	2.3868	1.9674	
寄与率（%）	34.1	28.1	

因子抽出法: 主成分分析
回転法: Kaiser の正規化を伴うヴァリマックス法

ペットボトル、ビン・缶、電池（筒型）のリサイクルは第１因子に負荷が高く、牛乳パックとトレイは第２因子に負荷が高い。新聞紙・古雑誌のリサイクルと衣類のリサイクルは、両者の中間型だが、新聞紙・古雑誌は第１因子寄り、衣類は第２因子寄りである。共通性の低い新聞紙・古雑誌と衣類を除いても、構造は変わらない（表は略）。

結局、リサイクル行動を構成する要素としては、因子分析で得られた二つの因子を考えれば良いだろう。この二つの因子は、表 4.9 の因子負荷行列から、第１因子は「制度化リサイクル因子」、第２因子は「自主的リサイクル因子」と名づけることができる。その理由は、次の通りである。第１因子に負荷の高いペットボトル、ビン・缶、電池（筒型）は、仙台市の家庭ごみ収集制度の中に組み入れられ、日常的に排出される。それに対して、第２因子に負荷の高い牛乳パックとトレイは、市のごみ収集制度の中には組み込まれていない。牛乳パックやトレイをリサイクルするためには、市民はスーパーマーケットなどの回収場所まで自主的に運ぶ必要があるのである。新聞紙・古雑誌のリサイクルと衣類のリサイクルが、この２種類の間に存在するのは、制度化という観点から見ても納得できる。新聞紙や古雑誌のリサイクルは、仙台市内では多くの場合、子供会などの集団資源回収に出している。また、古着のリサイクルは、個人間のネットワークだけで

なく、種々の地域集団、リサイクル業者など多くのチャンネルを通して行われている[6]。

以上の考えに基づき、以下では、２種類のリサイクル行動を対比しつつ、再び初めの問いに戻ろう。仙台土着者はリサイクル活動が不活発で、関東以西の出身者はそれが活発である。それは何故なのだろうか。

しかし、二つの因子を抽出した今､われわれはそれを踏まえて問いを精緻化することができる。そのために、まず、この二つの因子の値が前住地によってどのように異なっているかをみておこう。表 4.10 と図 4.1 は、その結果を示したものである。

表 4.10　因子得点の平均値と標準偏差（前住地別）

因　　子		前住地（Q2_4） 仙台市	宮城県	北日本	関東以西
制度的リサイクル因子	平均値	- 0.125	- 0.082	0.084	0.127
	標準偏差	1.113	1.121	0.882	0.829
自主的リサイクル因子	平均値	- 0.136	0.047	0.037	0.057
	標準偏差	1.006	1.022	0.975	0.993
回答者数		222	214	234	199

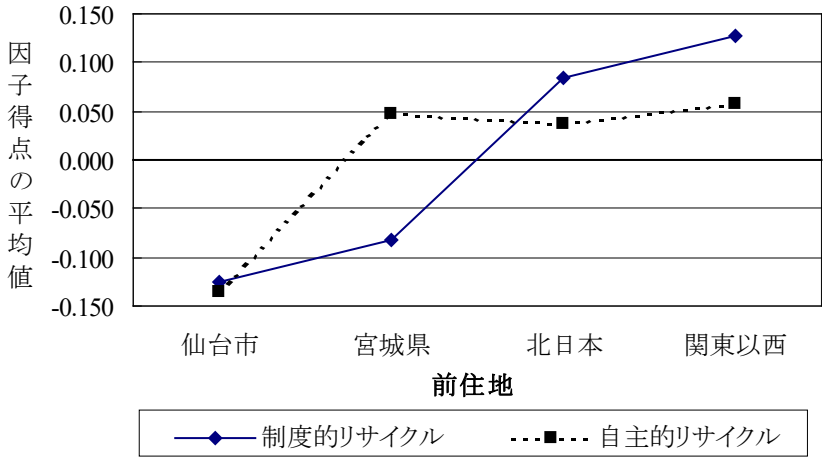


図4.1 前住地別･リサイクル因子得点の平均値

[6] この二つの因子と（他の章で用いている）リサイクル得点（合計値）とリサイクル得点（２分値）との間には、下記のような関係がある。

表 A　リサイクル行動に関する指標間の相関

	因子１	因子２	合計値	２分値
因子１	1	0	0.662	0.344
因子２		1	0.740	0.738
合計値			1	0.792
２分値				1

２分値にすると、特に因子１（制度リサイクル因子）との相関が低くなる。また、因子１よりも因子２の方が、合計値、２分値との相関が高いこともわかる。因子１と因子２との相関は、計算誤差のため、計算出力としてはごく小さい値がでてくるが、直交因子であることを踏まえて０としてある。

表 4.10 と図 4.1 から、リサイクル行動について先に抽出した二つの因子が異なった挙動を示すことが見てとれる。まず第１因子（制度的リサイクル因子）については、得点の平均値が仙台土着者でもっとも低く（つまり、リサイクルをもっとも行わず）、以下、宮城県、北日本、関東以西と、遠方からの来住者ほどリサイクルを行う傾向がある。さらに詳細に見ると、４つの地域は２つに分けることができる。仙台土着者と宮城県からの来住者は全体平均に比べてリサイクルを行わず、逆に北日本来住者と関東以西来住者は行う傾向がある。これに対して、第２因子（自主的リサイクル因子）の得点の平均値は、第１因子と比べて顕著な特色がある。仙台土着者だけが飛び抜けて値が低く（つまり、リサイクルをもっとも行わず）、他の３地域は小さな正の値である（つまり、平均に比べてリサイクルを行う傾向がある）。

なお、一元配置分散分析によれば第１因子については $F_{3, 810}=3.358$（$p=0.018$）、第２因子については $F_{3, 810}=1.882$（$p=0.131$）であり、前住地ごとの違いが（確定的とはいえないが）存在するものと考えて間違いないだろう。

そこで、われわれの問いは、第 1 因子の因子得点平均値と第２因子の因子得点平均値が、前住居地の違いによって上記のような値を示すのはなぜか、ということになる。

7.　リサイクル行動と環境配慮行動

この謎を解く第一歩として、リサイクル行動を構成する二つの因子が、種々の環境配慮行動とどのような関係にあるかを調べてみよう。

この調査でわれわれは、19 種類の環境配慮行動について実行の有無を測定した（問６）。その 19 変数を因子分析（主成分分析法）すると固有値１以上の因子が６個抽出され、それをヴァリマックス回転すると、得られた単純構造から、表 4.11 の表側に示した６つの因子が得られる。この６因子と先に抽出したリサイクル行動の２因子との相関関係を見ると、表 4.11 のようになる。

リサイクル因子１（制度的リサイクル因子）と強い関係を持つのは行動因子１（電気節約）と行動因子５（買い物）であり、行動因子６（有効利用）も弱い関係を持つ。また、リサイクル因子２（自主的リサイクル因子）と強い関係を持つのは、行動因子３（交通行動）以外のすべての因子である。リサイクルに関する二つの因子との関係で特に注目すべきは行動因子４（購買品）である。リサイクル因子２ともっとも関係の強いのは行動因子４（環境にやさしい商品の購入）だが、この行動因子４のリサイクル因子１との関係は小さい。ここからも、リサイクル因子２が積極的・自主的環境配慮行動を表していることが示唆される。

では、この違いは、何によって生まれるのだろうか。

表 4.11　環境配慮行動因子とリサイクル行動因子の相関

		リサイクル因子１（制度的リサイクル）	リサイクル因子２（自主的リサイクル）
	因子負荷の大きな行動（例）	ビン・缶、ペットボトル、電池	牛乳パック、トレイ
行動因子１（電気節約）	使用しない電灯の消灯	0.209	0.127
	冷暖房の温度調節	0.000	0.000
行動因子２（長持ち）	ものを買い換えずに使用	0.023	0.101
	ものを修理して使用	0.517	0.004
行動因子３（交通）	公共交通の利用	0.021	0.031
	徒歩・自転車の利用	0.545	0.366
行動因子４（購入品）	天然油脂性の洗剤の使用	0.055	0.212
	環境にやさしい商品の購入	0.115	0.000
行動因子５（容器包装）	過剰包装を断る	0.136	0.194
	買い物袋の持参	0.000	0.000
行動因子６（有効利用）	使い捨て商品の不買	0.074	0.149
	風呂の残り湯の利用	0.035	0.000

（凡例）　有効サンプル数　N　＝　825
１段目：Pearson 積率相関係数、２段目：有意確率 (両側)

8.　リサイクル行動に及ぼす前住地の影響：個人属性の違いによる影響の検討

前住地の違いによってリサイクル行動の違いが生じる理由としては、いろいろなものが考えられる。その中の一群の仮説は、前住地が違うと何らかの要因（それを X としよう）が異なり、その X の違いによってリサイクル行動が違う、というものである。ここで、X として何を想定するかによって、さまざまな仮説が考えられる。

仮説１（環境意識仮説）

環境意識の高い人はリサイクル行動を行う。他方、仙台市土着者は、環境意識が低く、宮城県、北日本、関東以西からの来住者は、順に環境意識が高くなる。したがって、仙台土着者はリサイクル行動を行う比率が一番低く、宮城県、北日本、関東以西からの来住者はリサイクル行動を行う比率が高い。詳細に見ると、環境意識自体が大別すると二分され、制度的リサイクルに対応する意識と自主的リサイクルに対応する意識がある。そこで、前住地ごとに見た環境意識も、リサイクル行動と照応する変動をする。

仮説２（年齢層・世代文化仮説）

リサイクルは比較的近年になって始まったものである。人々の行動は社会化された時期の文化に影響されるので、リサイクル行動率は年齢層によって異なる（高齢層はリサイクルが普及する以前に「家事担当者」として社会化され、若年層は未だ十分に「家事担当者」として社会化され

ていない)。ちなみに、リサイクル因子１の方が制度化が早い段階から始まったので、リサイクル因子１とリサイクル因子２を比べると、リサイクル因子２の方が相対的に若年層によって実施される。つまり、リサイクル１は中年層全体によって担われ、リサイクル２は相対的に若い中年層によって担われる。他方、仙台土着者には若年層と高齢層が多く、宮城県、北日本、関東以西からの来住者となるにつれて中年層の比率が増える。しかし、若い中年層の比率は、仙台土着者では少ないものの、宮城県、北日本、関東以西からの来住者においては、ほぼ同じである。

以上二つの仮説は、その構成要素を含めてすべてが成り立つならば、観察された事実――すなわち表 4.10 と図 4.1 に示した事実――を生じさせる。しかし、その前提は成り立つのだろうか。

まず、仮説１について検討しよう。

環境配慮意識としては、「環境問題に対する共感（問５）」を取りあげよう。環境配慮意識が強いほど得点が大きくなるように方向性を揃えて３項目の合計得点を計算し、前住地ごとに平均点を計算すると、仙台市（6.955)、宮城県（7.191)、北日本（7.578)、関東以西（7.427）となり、前住地ごとに有意な差がある〔$F_{3,839}$＝6.835、p=0.000〕。この平均値は、関東以西の値がやや低いことを除けば、おおよそ図 4.1 に示したリサイクル因子得点の平均値と似た動きをしている。二つのリサイクル因子の前住地別の動きと比較すると、「仙台市」－「宮城県」－「北日本」の関係についてはリサイクル因子１に近く、「北日本」－「関東以西」の関係はリサイクル因子２に似ている。一つの指標で見ている限り、このような複合的動きをするのはやむを得ない。では、二つのリサイクル因子と同じような動きをする環境配慮意識はないのだろうか。

問 27 には、６つの項目について環境配慮をしない行動に対する共感度をたずねているが、この項目を因子分析（主成分解）すると、固有値１以上の因子は１個である。因子数を外的に２に固定して抽出しヴァリマックス回転すると、固有値 1.79 と 1.23 の因子が得られる。寄与率を見ると、第１因子は（回転したにもかかわらず）多くの変数に満遍なく関係しているが、第２因子は、「環境にやさしい商品には、気に入ったものがないので、買いたくない」や「相手が不快に思うかもしれないので簡易包装を頼めない」など、対人的行為に負荷が高い。この二つの環境配慮意識因子と二つのリサイクル因子との相関を取ると、次のようになる。

表4.12　リサイクル因子と環境配慮意識因子との相関

	リサイクル因子１	リサイクル因子２
環境配慮意識因子１	0.068	0.130**
環境配慮意識因子２	0.055	0.094**

**：1%で有意（両側）

このように、相関は全体的にそれほど高くないが、相対的にはリサイクル因子２の方が高く、統計的に有意である。なお、この二つの環境配慮意識因子を前住地によって分散分析すると、特に環境配慮意識因子２の平均値はリサイクル因子２と似た動きを示すのだが､級内分散が大きく、

前住地ごとに差があるとはいえない。結局、環境意識仮説については、そのような傾向は見うけられるものの、それを根拠付ける明確な証拠は見当たらない。

次に、仮説２（年齢層・世代文化仮説）について検討しよう。

まず、一元配置分散分析によって、前住地ごとに年齢分布に差があるか否かを検討しよう。その結果は $F_{3,853}$＝ 0.610（p＝0.609）で、差は全くない。また、前住地ごとに年齢層分布をみると、先に仮説の中で記したような特徴は見られない。したがって、この仮説は成立しないと考えて良いだろう。さらに、個人データを用いて回帰分析を行うと、次のような結果が得られる。

リサイクル因子得点１＝ 0.249 － 0.0057×年齢　　（p=0.034）

リサイクル因子得点２＝ 0.316 － 0.0070×年齢　　（p=0.009）

両方とも回帰係数は５%水準で有意であり、年齢が上がるとリサイクルをする傾向にある。だが、回帰係数は小さく、年齢の影響が大きいとはいえない。以上から、仮説２を支持する結果は得られなかった、と判断せざるを得ない。

以上で、「個人属性の分布が前住地によって違うために前住地によってリサイクル行動が違っているのであって、真の原因変数は個人属性だ」というタイプの二つの仮説を検討した。その結果は、いずれも否定的であった。その他に、どのような原因が考えられるだろうか。

仮説３（学歴社会化仮説）

高等教育を受けることによって、人々は、新しい価値に接してそれを内面化する。リサイクル行動は、環境配慮価値という新しい価値の一つに基づく価値なので、高等教育卒業者はリサイクルを行う比率が高い。他方、高等教育卒業者の比率は、仙台土着者が一番低く、宮城県、北日本、関東以西からの流入者の順に高くなる。したがって、リサイクル率は仙台土着者が一番低く、関東以西からの流入者が一番高い。

この仮説の正否を見るために、前住地別の学歴を調べると、高等教育（短大・高専以上）卒業者の比率は、仙台土着者（19.0%）、宮城県（24.7%）、北日本（36.0%）、関東以西（38.6%）と順に高くなる。この傾向は、先に見たリサイクル因子（特にリサイクル因子１）の前住地別平均得点と似ている。そこで、真の原因変数が学歴であるか否かを見るために、リサイクル因子得点（５値）と学歴との関係を見ると、表 4.13 ようになる。

ちなみに、順位相関係数（Kendall の τ_b）は、因子１については 0.030（p＝0.275）、因子２については 0.085（p＝0.003）である。制度的に普及しているリサイクルに関係している因子１については学歴の影響が小さく、普及度が小さく人々の自主性に依存する度合いの多いリサイクルに関係している因子２においては学歴の影響が強いことが分かる。

このことから、学歴社会化仮説が示すメカニズムは存在している、ということができる。

表 4.13　学歴別・リサイクル因子得点（５分値）の分布

(a)　因子１（制度的リサイクル）

		学　歴					
		小・中学校	高校	専門学校	短大・高専	大学・院	合　計
しない	１.	22.6	20.7	22.2	19.9	11.8	19.9
	２.	22.6	15.5	15.3	15.6	11.8	15.6
	３.	14.5	24.0	22.2	22.7	35.3	24.1
	４.	17.7	19.9	17.4	22.0	25.5	20.3
する	５.	22.6	19.9	22.9	19.9	15.7	20.1
%の基数		62	367	144	141	102	816

(b)　因子２（自主的リサイクル）

		学　歴					
		小・中学校	高校	専門学校	短大・高専	大学・院	合　計
しない	１.	25.8	21.0	22.2	16.3	13.7	19.9
	２.	22.6	21.0	20.1	19.1	15.7	20.0
	３.	22.6	19.6	18.1	20.6	25.5	20.5
	４.	12.9	19.3	20.1	20.6	12.7	18.4
する	５.	16.1	19.1	19.4	23.4	32.4	21.3
%の基数		62	367	144	141	102	816

9.　結論と残された課題

リサイクル行動と地域移動歴（前住地）との間に見られる反直観的な事実――すなわち、仙台土着者はリサイクル率が低く、前住地が遠方の人ほどリサイクル率が高いという事実――は、前住地の違いの中に潜む学歴の違いによって部分的に説明できる、ということが明らかになった。また、前住地による年齢構成の違いによっては説明できず、前住地による環境意識の違いによってもほとんど説明できないことを明らかにした。

しかし、それがメカニズムのすべてでないことは、言うまでもない。少し考えただけでも、次のようなメカニズムが想定できる。

仮説４（制度変更仮説）

仙台市永住者は、無意識のうちに、これまでのやり方で廃棄する。しかし、制度の方は変化する。そこで、変化についていけず、結果的にリサイクル率が低くなる。来住者は、転入時に方法を認識するので、制度にそった行動をする傾向がある。

仮説５（マージマリティ仮説）

リサイクル行動は、自覚的行動なので、行為者の価値に基づいてなされる。したがって、行為

の意味を不断に自覚する力（自己対象化能力）が必要とされる。前住地が遠いほど、文化の落差が大きく、現状を対象化しやすい。したがって、前住地が遠い人ほどリサイクルをする傾向がある。

仮説６（文化落差・価値意識複合仮説）

制度的リサイクル行動は文化の差が大きいほど実行が困難である。他方、自主的リサイクル行動は環境意識が影響する。

仮説７（権威主義・環境意識複合仮説）

制度的リサイクルは権威主義の程度によって影響をうける。これに対して、自主的リサイクルは環境意識の影響をうける。

以上の仮説のうち、あるものは、理屈上は考えられるが、これまでに述べた事実と明らかに矛盾する（仮説４）。また、あるものについては、それを証明するための変数が今回の調査に含まれていない（仮説５）。さらに、あるものはリサイクル行動一般について述べ（仮説４、仮説５）、あるものは制度的リサイクルと自主的リサイクルの違いに着目している（仮説６、仮説７）。そのような仮説を含めて、地域移動歴がリサイクル行動に（さらに一般的には環境配慮行動に）どのように影響しているかを、さらに考える必要がある。

本稿は、そのような探求のための小さな礎石である。

【引用文献】

小松洋・阿部晃士・村瀬洋一・中原洪二郎・海野道郎, 1993, 「地域的コミュニケーションが環境保全行動におよぼす影響－家庭ごみ排出行動と近所づきあいとの関連について」『社会学研究』　60:115-135.

第 II 部

調査編

5 章　調査の企画と実施

1.　調査企画の経緯

現在の社会には、検討を要するさまざまな社会問題がある。その中のひとつとして環境問題があげられる。生活環境研究会は、東北大学文学部行動科学研究室を中心に結成されて以来、「スパイクタイヤ問題」や「ごみ問題」を通して、環境問題の解決の手段を探究してきた。1989 年には仙台市環境事業局（当時、現在は環境局）の委託で『生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査』を実施し、その結果を踏まえて、地域の共有物としてのごみ集積所をめぐる住民の意識と行動の関連（海野・松野，1990）やごみの分別に影響を与えている要因を明らかにした（海野ら，1991）。1991 年には、仙台市環境事業局（現環境局）の協力のもとに、『暮らしとごみに関する仙台市民意識調査』を実施し、地域的コミュニケーションがごみ排出行動に及ぼす影響（小松ら，1993）やごみ処理費用の負担原理と公平感（阿部ら，1993）について明らかにした。さらに、1993 年には、『生活と環境に関する仙台市民意識調査』を、仙台市環境局の協力のもとに実施し、ごみ有料化の合意条件（阿部ら，1995）や、ごみ減量行動に関する協力意思に影響する要因の構造（中野ら，1995；中野ら，1996）について明らかにした。

生活環境研究会ではこれまでの研究をふまえ、ごみ問題解決の一手段であるリサイクルに焦点を当てた今回の調査を、再び独自に企画することとなった。仙台市民を対象とした本調査の実施にあたっては、仙台市環境局の協力を得た。本調査では仙台市環境局に対して，住民基本台帳をもとにしたサンプリングを依頼した。また、仙台市のリサイクルの現状などついての情報を提供していただき、その問題点について互いに意見を交換しつつ、調査の企画と実施を行った。

2.　調査の目的

本調査の主な目的は、仙台市民の環境配慮行動に対する実行度や環境問題に対する意識を把握することである。環境に対する態度という観点からは、態度と意識の関係、とりわけ態度と意識が矛盾する場合に焦点を当てている。環境配慮行動という観点からは、種々の環境に配慮した行動の中でもリサイクル行動に焦点を当て、リサイクル行動における行動メカニズムを解明しようと試みている。また、リサイクルを阻害／促進する要因を探求して行くことも、本調査の主な目的のひとつである。

それでは、仙台市において実行可能なリサイクルはどのようなものであろうか。仙台市には、行政主導型のリサイクルと、民間（企業）主導型のリサイクルがある。行政主導型のリサイクル

としては、ビン・缶、ペットボトル、電池のリサイクルが上げられる。これは、週に１回、いつも利用しているごみステーションに資源回収用の箱が設置され、その中に、ビン・缶、ペットボトルを入れていくという方式をとっている。このタイプのリサイクルが、市民にとってもっともなじみのあるものであると思われる。このほかに、行政の後押しを受けて、主に子供会を中心に集団資源回収が行われている（町内会やマンションの自治会といった単位の場合もある）。これに対して、民間主導型のリサイクルとしては、資源回収業者が行っている新聞・古雑誌のリサイクルやスーパーにおける牛乳パックやプラスチックトレイ、ビン・缶、電池などのリサイクルがある。また、衣類に関してもスーツや制服のリサイクルがさまざまなルートで行われている。この他にもリサイクルされている資源はあるだろう。本調査では、これらのリサイクルの中でも、行政主導型の、ビン・缶、ペットボトル、電池のリサイクル、民間（企業）主導型の、新聞紙・古雑誌、牛乳パック、トレイ、衣類のリサイクルの実行メカニズムについて検討していく。

さらに、これらのリサイクルそれぞれに関して、(1) 回収物の種類や回収形態によって、リサイクルの実行度やコスト感、他者行動認知、リサイクルの有効性感覚がどのように異なるか、(2) リサイクルの制度の違いによって、リサイクルの実行度が異なるのか、(3) 属性と行動の関係はどうなっているのか、(4) 環境保全に対する意識が行動にどのような影響を与えるのか、(5) 他者に対する認知の違いによって、リサイクルの実行率が異なるか、というような問題を検討する。

3. 調査票の設計

3.1 基本方針

基本的には、標準的な定量的社会調査法にしたがって調査票の設計を行っている。調査票の設計に当たっては、前述の調査の目的を考慮するとともに、環境問題に関して実施された先行研究との比較可能性や生活環境研究会で今後も実施する調査との継続性を考慮した。具体的な質問項目は、回答者の属性や社会意識といった基本項目、環境配慮行動の実行度、環境問題に対する意識やリサイクルに伴うコスト感／満足感などの意識項目である。とくに、リサイクルに関する項目を多く採用した。

3.2 質問項目の構造

以上の基本方針に基づき、質問項目を作成した。その際、生活環境研究会が過去に行ったものも含めて、いくつかの先行研究を参考にした。以下の表は、調査項目の内容ごとに質問を分類し、先行調査における問いとの関連を示したものである。

【表 5.1 の見方】

(1) 本調査のすべての問について、質問の略称、問番号のほかに、本報告書の掲載ページを示した。「*」の記号がついているのは、本調査で独自に作成した質問である。簡略化のため、問は「Q」と表現している（例：問 1→Q2)。ただし、第 I 部で使用した変数およびクロス表に使用した属性変数は、除いている。なお、第 I 部の各章で使用している変数は、章末または章中に示してある。

(2) 生活環境研究会あるいは東北大学文学部行動科学研究室が実施・協力した先行調査については、調査の略称とその調査での問番号を示した。

(3) 他の機関による調査との関係については、「他の調査」の欄に調査の略称を示した。略称のあとの２桁の数字は、その調査が実施された年を示している。

(4) 質問文に一部修正を加えた場合には、問番号または調査の略称のあとに「＋」の記号をつけた。

【先行調査の名称と概要】

GOMI89：生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査

1989 年に仙台市環境事業局（現在は環境局）が仙台市民を対象に行った。生活環境研究会は調査票の作成、実査、分析、報告書作成を担当した。〔報告書：仙台市環境事業局（編）, 1989,『生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査報告書』仙台市環境事業局（発行).〕

GOMI91：暮らしとごみに関する仙台市民意識調査

1991 年に、仙台市環境事業局（現在は環境局）の協力のもと、生活環境研究会が企画・実施した。対象は仙台市民。〔報告書：生活環境研究会, 1992, 『暮らしとごみに関する仙台市民意識調査報告書』仙台市環境事業局（発行).〕

GOMI93：生活と環境に関する仙台市民意識調査

1993 年に仙台市環境局の協力のもと、生活環境研究会が企画・実施した。対象は仙台市民。〔報告書：生活環境研究会, 1994, 『生活と環境に関する仙台市民意識調査報告書』仙台市環境局（発行).〕

COOP90：環境と資源問題に関する組合員の意識調査

1990 年にみやぎ生活協同組合が家庭班員を対象に行った。生活環境研究会は、調査票の作成と結果の分析、報告書の作成を担当した。〔報告書：みやぎ生活協同組合生活文化部（編）, 1990, 『環境と資源問題に関する組合員の意識調査報告書』みやぎ生活協同組合生活文化部（発行).〕

SSM：社会階層と社会移動全国調査（略称：SSM 調査）

国民性調査とならび、日本における代表的な社会調査の一つである。1955 年以来、数多くの社会学者が協力して 10 年ごとに実施しており、最新の調査は 1995 年。〔報告書：原純輔（編）, 1990, 『現代日本の階層構造２　階層意識の動態』東京大学出版会.〕

国民性：日本人の国民性調査

統計数理研究所が、1953 年から 1998 年まで５年ごとに実施している。〔報告書：統計数理研究所国民性調査委員会（編）, 1999, 『国民性の研究　第 10 次全国調査 ―1998 年全国調査―』統計数理研究所；統計数理研究所国民性調査委員会, 1992, 『第５日本人の国民性 ―戦後昭和期総集―』出光書店.〕

NHK：日本人の意識調査

NHK 放送文化研究所が、1973 年から 1998 年まで５年ごとに実施している。〔報告書：NHK 放送文化研究所（編）, 2000, 『第５版 現代日本人の意識構造』NHK ブックス.〕

温暖化調査：地球温暖化問題に関する世論調査

内閣総理大臣官房広報室が、1998 年に実施した。〔報告書：内閣総理大臣官房広報室, 1998, 『**世論調査年鑑（平成 10 年）**』大蔵省印刷局.〕

D & P 98

Diekmann, A., and Preisendöfer, P が、1991 年に西ドイツとスイスで実施した。〔Diekmann, A., and Preisendöfer, P., 1998, ” Environmental Behavior:Discrepancies Between Aspirations and Reality,” Rationality and Society, 10(1): 71-102.〕

De Young 88-89

Raymond De Young がアメリカで実施した。〔De Young, Raymond, 1988-89, “Exploring the Difference Between Recyclers and Non-Recyclers: The Role of Information,” Journal of Environmental Systems, 18(4):341-351.〕

表 5.1　調査項目一覧

	GOMI2000（本調査）		GOMI89	GOMI91	GOMI93	COOP90	他の調査
	問番号	掲載ページ	問番号				略称
環境配慮行動の実行とその理由							
環境配慮行動の実行率	Q6	90 91 185 201 202 203		Q9+		Q7+Q8+ Q9+	D & P 98+
リサイクルの実行率	Q7	91 92 96 98 105 185 204-210		Q9+		Q6+	D & P 98+
牛乳パックのリサイクル実行の理由	Q8A	93 185			Q14b+		
牛乳パックのリサイクル不実行の理由	Q8B	93 185			Q14b+		
ビン･缶のリサイクル実行の理由	Q9A	93 186			Q14b+		
ビン･缶のリサイクル不実行の理由	Q9B	93 186			Q14b+		
状況別リサイクル協力意思							
回収方法別の牛乳パックのリサイクル協力意思	Q16*	49 187					
回収方法別の紙製の容器包装のリサイクル協力意思	Q17*	99 187					
刺激を加えられた際の参加意思	Q3*	99 100 191					

	GOMI2000（本調査）		GOMI89	GOMI91	GOMI93	COOP90	他の調査
	問番号	掲載ページ	問番号				略称
リサイクルの現状							
リサイクルの協力者	Q11*	94 186					
ふだんの買い物場所での回収状況	Q10*	186					
資源回収時の集積所の状態	Q35*	94 192					
資源ごみ排出時のルールの有無	Q28*	94 190					
リサイクルに対する意識							
リサイクルに対する意見	Q12*	95 186					
リサイクル取り組みの自己評価	Q14	187					D & P 98+
リサイクル取り組みの他者評価	Q15	187					D & P 98+
リサイクル実行に伴う障害に対する意見	Q19	97 98 188 211 212 213 214					De Young 88-89+
リサイクル実行に伴うコスト感	Q20*	96 188					
ごみ問題に対するリサイクルの有効性	Q21	95 188 215			Q6+		
物を大切に使うことに伴う満足感	Q22	97 189 216 217					De Young 88-89+
他者がリサイクルに取り組むなら自分はリサイクルに取り組まない	Q18	188					D & P 98+
他者がリサイクルに取り組んでいるとき自分はリサイクルに取り組むか	Q25*	189					
他者がリサイクルに取り組んでいないとき自分はリサイクルに取り組むか	Q26*	189					
環境問題に対する関心							
環境問題に対する意識	Q5	88 184 198 199 200					D & P 98+
自分はごみ問題の解決に影響を与えない	Q13	187					D & P 98+
環境問題に対する規範意識	Q23*	89 189 218 219 220 221					
環境配慮行動不実行の理由に対する共感	Q27*	190					
人間は自分が得をするように行動する	Q24	189					D & P 98+
消費行動							
リサイクル商品の購入状況	Q33*	102 192					
リサイクル商品を購入する理由	Q34A*	102 192					
リサイクル商品を購入しない理由	Q34B*	102 192					
再生トイレットペーパーの購入状況	Q31	101 191			Q30+		
エコショップに対する関心	Q32*	101 191					

	GOMI2000（本調査）		GOMI89	GOMI91	GOMI93	COOP90	他の調査
	問番号	掲載ページ	問番号				略称
属性							
仙台市における居住年数	Q1	183		Q1		Q1+	
以前住んでいた地域	Q2	183		Q2			
回答者の性別	Q44A	83 84 88 194	Q58	Q40	Q34	Q29	
回答者の年齢	Q44B	83 194	Q57+	Q40+	Q34	Q29	
回答者の学歴	Q45	84 195		Q41	Q35	Q30	
回答者の従業上の地位	Q46	83 92 195	Q61	Q42	Q36	Q31	
働いている回答者の平均勤務時間	Q47A*	195					
仕事場での環境問題の取り組み	Q47B*	195					
回答者の世帯構成人数	Q48	85 196	Q59+	Q37+	Q37	Q26+	
回答者の世帯収入	Q49	84 196		Q39	Q38		
家計支持者の従業上の地位	Q50A	197	Q60b	Q38B	Q39B		
家計支持者の従業先の規模	Q50B	197	Q60c	Q38C	Q39C		
家計支持者の職業	Q50C	197	Q60d	Q38D	Q39D	Q32-2	
社会意識・価値意識							
今の日本の社会は公平か	Q42	86 194		Q4	Q2	Q15	SSM85
階層帰属意識	Q43	86 194	Q37	Q23	Q15		SSM85, 国民性 98+
生活目標	Q3	184					NHK
自然と人間の関係	Q4	87 184			Q2+		国民性 98+
社会活動・地域参加・情報収集							
現在加入している団体	Q37	85 193			Q16+		
現在積極的に活動している団体	Q38*	193					
近所の人との付き合いの程度	Q36	103 105 192	Q19+	Q11+			
町内会の活発度	Q39*	103 105 193					
現在住んでいる地域に対する愛着	Q40	103 105 193		Q24+			
ごみ問題に対する知識等の情報源	Q29	104 190				Q20+	温暖化調査
配布物の熟読度	Q41	104 105 193	Q29+				

4. 調査対象者と標本抽出法

調査対象は、仙台市住民基本台帳（2000 年 1 月 1 日現在）に記載されている全人口（約 100 万人）から無作為に抽出した 1200 世帯である。調査対象は世帯であるが、抽出は世帯単位ではなく個人単位で行った。その理由は２つある。１つは、ごみ問題に取り組むにあたって、ごみの排出量の多い世帯が抽出される可能性が高くなるようにサンプリングを設定したほうがよい、と考えたためである。世帯単位で対象者を抽出する場合は、１人世帯も５人世帯も抽出される確率は同じである。これに対して、個人単位で対象者を抽出する場合は、１人世帯よりも５人世帯のほうが世帯人数に比例して抽出される確率が高くなる。また、ごみの量は世帯人数が多くなると増加する。ごみ問題の解決を考えるのであれば、ごみを多く出す人の行動を探ったほうが効果的であると考えられる。もう 1 つの理由としては、住民基本台帳の世帯情報を得ることが困難であったということがあげられる。以上の理由から、今回の調査では、調査対象は世帯ながら、抽出は個人で行うという方法を採用した。

サンプリングは、仙台市全人口を母集団とする二段無作為抽出法（確率比例法）によって行った。第１次抽出の作業は生活環境研究会が、第２次抽出の作業は仙台市環境局が担当した。本調査では、第１次抽出単位として、仙台市内 118 の小学校区から 30 校区を選出した。抽出された校区は表 5.2 の通りである。なお、世帯数が 300 に満たない小学校区は隣接校区と合併して１つの校区とみなしたが、今回の調査では、「生出・明石分校・坪沼」の合併小学校区が抽出された。

表 5.2　第１次抽出単位（小学校区）一覧

No.	小学校区名	抽出人数	人口数	No.	小学校区名	抽出人数	人口数
1	片平	40	8916	16	燕沢	40	7341
2	連坊小路	40	13124	17	大野田	40	11527
3	原町	40	15051	18	桜丘	40	10297
4	北六番町	40	8907	19	中野栄	40	8602
5	西多賀	40	11798	20	芦口	40	7746
6	六郷	40	12405	21	西中田	40	18108
7	高砂	40	9601	22	広瀬	40	13124
8	東長町	40	10370	23	根白石	40	2321
9	若林	40	8863	24	将監	40	8153
10	国見	40	14276	25	向陽台	40	11084
11	生出	40	2029	26	加茂	40	10893
12	鹿野	40	9887	27	寺岡	40	8146
13	台原	40	16180	28	虹の丘	40	6649
14	中山	40	11394	29	南吉成	40	9954
15	大和	40	13233	30	栗生	40	8605

第２次抽出単位（世帯：個人）は、第１次抽出単位である小学校区ごとにランダムに 40 人を抽出した。今回は仙台市のシステムの制約から、スタート番号を決定し一定の抽出間隔で対象者を抽出するのではなく、当該小学校区の名簿に掲載されている個人が、コンピュータが算出した乱数にしたがって無作為に抽出されている。したがって、対象者は当該小学校区全域にわたっている。標本数は、40 人×30 校区で 1200 世帯となる。

上述したように、世帯情報が得られなかったため、調査依頼のはがきの宛名は抽出された個人の名前を用いた。対象者が疑問を持たないようにするため、調査依頼はがきの中で宛名の説明を行い、伺いたいのは世帯の情報であるということを述べた（第 7 章 3.1 を参照）。そして、世帯内の「主な家事担当者」に記入をお願いした。

5.　調査実施の方法

調査対象世帯にあらかじめ調査票を郵送し、調査員が訪問して回収する、郵送併用の留め置き法を用いた。なお、調査票を郵送する前に、調査依頼のはがき（第 7 章 3.1 を参照）を対象世帯に郵送しておいた。

このような方法を用いる際、はがきを郵送してから調査票を郵送するまでの期間をどのくらいに設定するかという問題が生じる。調査依頼のはがきを郵送してから調査票を郵送する間の期間が比較的短ければ、受け取ったはがきの記憶が新しいため、調査票を受け取っても、調査対象者がそれほど疑問を持たないという利点がある。しかし、郵送事情によって、はがきが届く前に調査票が届いてしまい、調査側が想定している順序と逆になる場合がある、という欠点がある。これに対して、調査依頼はがきと調査票の送付時期の期間を長くとった場合は、郵送物が届く順序が前後することはないが、調査依頼はがきの記憶が薄れてしまい、新たに送付した調査票が何なのか、対象者が疑問をもつ可能性がある、という欠点がある。今回は、自記式の調査票であることを考慮し、対象者の記入期間を長く設けることを重視したため、調査依頼はがきを送付したあと、間を空けずに調査票を郵送する、という方法をとった。それぞれの日程は、以下の通りである。

調査依頼のはがき郵送：2000 年 1 月 28 日（金）
調査票郵送：2000 年 1 月 31 日（月）
調査票回収：2000 年 2 月 12 日（土）～14 日（月）

上記の日程のとおり、1 月 12 日から調査員が各対象者の世帯を訪問して調査票を回収した。12 日（土）から 14 日（月）までは、全校区を調査員が訪問し、15 日（火）は、未回収の世帯のある地区を重点的に訪問した。15 日までに回収できなかった世帯については、切手と封筒を対象者

にお渡しし、可能なかぎり郵送による返送をお願いした。配布した 1200 票のうち有効回収票は 1026 票であった。回収率は 85.5%である。

調査不能票および無効票は 174 票であり、その内訳を示したのが表 5.3 である。

表 5.3　調査不能票の内訳

													郵送依頼			無効票				
	小学校区名	人口数	該当数	回収数	住所不明	該当なし	転居	拒否	高齢	病気	小計		不在	在宅	小計	記入漏れ	いいかげん	白票	小計	有効回答数
1	片平	8916	40	27	0	0	0	5	0	0	5		6	2	8	0	0	0	0	27
2	連坊小路	13124	40	35	0	0	0	0	0	1	1		2	2	4	0	0	0	0	35
3	原町	15051	40	22	2	1	0	9	0	0	12		4	2	6	0	0	1	1	21
4	北六番町	8907	40	29	0	2	0	3	0	1	6		2	3	5	0	0	0	0	29
5	西多賀	11798	40	31	0	2	0	3	0	0	5		2	2	4	0	0	0	0	31
6	六郷	12405	40	34	0	0	0	0	1	1	2		1	3	4	1	0	0	1	33
7	高砂	9601	40	36	0	0	1	0	0	0	1		2	1	3	0	0	0	0	36
8	東長町	10370	40	32	0	0	0	1	0	1	2		3	3	6	0	0	0	0	32
9	若林	8863	40	32	0	0	0	4	1	0	5		2	1	3	0	0	0	0	32
10	国見	14276	40	33	0	0	0	1	0	0	1		5	1	6	1	0	0	1	32
11	生出	2029	40	37	0	0	0	2	0	0	2		1	0	1	0	0	0	0	37
12	鹿野	9887	40	29	0	0	0	4	0	0	4		5	2	7	0	0	0	0	29
13	台原	16180	40	34	0	0	1	3	0	0	4		1	1	2	0	0	0	0	34
14	中山	11394	40	35	0	0	0	1	0	0	1		4	0	4	2	0	0	2	33
15	大和	13233	40	34	0	0	0	3	0	0	3		3	0	3	0	0	0	0	34
16	燕沢	7341	40	34	0	0	0	1	1	0	2		4	0	4	0	0	0	0	34
17	大野田	11527	40	33	0	0	0	2	0	0	2		3	2	5	0	0	0	0	33
18	桜丘	10297	40	34	0	1	0	1	0	0	2		4	0	4	0	0	0	0	34
19	中野栄	8602	40	33	0	0	0	4	0	0	4		2	1	3	1	1	0	2	31
20	芦口	7746	40	39	0	0	0	0	0	0	0		1	0	1	0	0	0	0	39
21	西中田	18108	40	35	0	1	0	0	0	0	1		1	3	4	0	0	0	0	35
22	広瀬	13124	40	35	0	0	0	1	0	0	1		2	2	4	0	0	0	0	35
23	根白石	2321	40	33	0	0	0	2	2	1	5		0	2	2	1	0	0	1	32
24	将監	8153	40	29	0	1	0	4	0	0	5		1	5	6	0	0	0	0	29
25	向陽台	11084	40	34	0	0	0	2	0	0	2		3	1	4	0	0	0	0	34
26	加茂	10893	40	33	0	0	0	1	0	0	1		5	1	6	0	0	0	0	33
27	寺岡	8146	40	39	0	0	0	1	0	0	1		0	0	0	0	0	0	0	39
28	虹の丘	6649	40	37	0	0	0	2	0	0	2		1	0	1	0	0	0	0	37
29	南吉成	9954	40	34	1	0	0	3	0	0	4		0	2	2	0	0	0	0	34
30	栗生	8605	40	35	0	0	0	2	0	0	2		1	2	3	0	0	0	0	35
91-99	地区不明	—	—	37	—	—	—	—	—	—	—		—	—	—	0	0	0	0	37
	合計	308584	1200	1034	3	8	2	65	5	5	88		72	44	116	6	1	1	8	1026

「回収数」は、調査が終了した時点での調査票の回収数を示している。

「不能」票のうち「住所不明」は該当する番地がない場合を指す。「該当なし」は、抽出された対象者が当該住所に住んでいない場合、「転居」は対象者が転居していることが判明した場合を指している[1]。「住所不明」や「該当なし」、「転居」に関しては、調査地域の交番や、郵便配達係の方からできる限りの情報を集めた。

「拒否」は調査拒否を表している。また、「高齢」、「病気」は、高齢（目が不自由で字が読めないなど）や病気（入院など）で断られた場合を指している。

「郵送依頼」は、実査終了後に対象者に調査票を郵送するための切手と封筒を渡したもののうち、調査票が返送されていないものを示している。調査期間中、一度も対象者に会えず、最終日に郵送依頼の封筒をポストに入れた場合が「不在」、対象者またはその家族には会えたが、多忙なため調査票の回収期間内には記入できないといった理由から郵送をお願いした場合が「在宅」となっている。また、郵送依頼をしたものの中で、住所明記の上で返送された調査票は、当該調査地点の「回収数」の中に含まれている。住所が明記されずに返送された調査票は「地区不明」の「回収数」の中に含まれている。

「無効票」は、データが信用できなかったり十分な回答が得られていない等、分析に耐えないと調査実施者が判断した調査票を指している。回収した調査票をエディティング、コーディングをした際に、「記入漏れ」が多い調査票、回答が「いいかげん」な調査票（全ての回答番号が「４」であるなど）、まったく回答が記入されていない「白票」の調査票などを、無効票として除外した。最終的な「有効回答数」は、「回収数」から「無効票」の数を引いたものとなっている。

調査票の回収にあたっては、調査員が受け取り時に調査票を点検させてもらったり、調査票回収の直後にエディティングを行ったりすることで、できるだけ「無効票」がなくなるように努めた。エディティング実施後にみつかった疑問点については、次の日に対象者宅をあらためて訪問し、答えをお伺いする、という方法をとった。また、今回の調査では、家事担当者の方に回答をお願いしたが、調査票から記入者（回答者）が明らかに家事担当者ではないと思われる場合（たとえば、回答者の年齢が 10 歳で、調査票回収時に母親が家にいた場合など）は、調査員が家事担当者に調査の目的をあらためて説明し、調査票をお渡しし、調査票への記入を依頼した。

6. 粗品の購入

本調査は、ごみ問題に関する意識調査であるため、粗品は、「ごみ」と関係のある「仙台市指定ごみ袋」を用いた。GOMI93 でも「仙台市指定ごみ袋」を粗品として使用したが、このときは市

[1] 転居先が判明し、それが仙台市内であった場合は、調査票を再送付する必要があったが、今回は仙台市内に転居先がある対象者はいなかった。

販されている 30 枚入の指定ごみ袋（大：65ｃｍ×80 ㎝）を用意した。しかし、調査票の回収にあたる学生調査員の多くは徒歩で各家庭をまわるため、このサイズのごみ袋を訪問家庭の数だけ持って歩くには重量・容量ともに非常に負担になる。また、30 枚で 1 パックとなっているごみ袋を購入するのは、費用面でも負担が大きい。そこで、今回は「仙台市指定ごみ袋」を少量パックしたものを粗品として用いている新聞勧誘の例から、そのようなごみ袋を販売している業者を探しだし、粗品を注文した[2]。粗品は、本調査および予備調査のお礼に使用した。

【粗品依頼の経緯】

1．仙台市役所に「仙台市指定ごみ袋」を少量パックして販売しているところはないかと問い合わせたところ、市販されているもの以外はないという返事をいただいた。
2．朝日新聞八幡町販売所に問い合わせをしたところ、「仙台市指定ごみ袋」を少量パックしたものを取り扱っている業者を紹介していただいた。
3．業者と直接連絡を取り、粗品を注文し銀行振込で代金を支払った。

取り扱い業者	サンプレス（本社東京）
パック	５枚１組
注文数	1200
料金	1 パック 79 円

7.　予備調査

なお、本調査に先立ち、調査票の内容の検討を目的とした小規模な予備調査を２回行い、そこで得られた回答やコメントをもとに、調査票を改良した。予備調査の日程は以下の通りである。

第１回予備調査：1999 年 8 月（対象者 15 名）
第２回予備調査：1999 年 12 月（対象者 21 名）

【引用文献】

2 粗品注文の日程に関しては、第３部「資料」の「調査の記録」を参照。

阿部晃士・小松洋・村瀬洋一・中原洪二郎・海野道郎, 1993,「公平な費用負担原理と公平感 ―ごみ収集・処理の費用負担をめぐって―」『社会学年報』22：103-119.

阿部晃士・村瀬洋一・中野康人・海野道郎, 1995,「ごみ処理有料化の合意条件 ―仙台市における意識調査の計量分析―」『環境社会学研究』1:117-129.

小松洋・阿部晃士・村瀬洋一・中原洪二郎・海野道郎, 1993,「地域的コミュニケーションが環境保全行動におよぼす影響 ―家庭ごみ排出行動と近所づきあいとの関連について―」『社会学研究』60：115-135.

中野康人・阿部晃士・村瀬洋一・海野道郎, 1995,「環境問題の社会的ジレンマ―ごみ減量行動を事例として―」『社会学研究』63:109-134.

中野康人・阿部晃士・村瀬洋一・海野道郎, 1996,「社会的ジレンマとしてのごみ問題 ―ごみ減量行動協力意志に影響する要因の構造―」『環境社会学研究』2:123-139.

海野道郎・松野隆則, 1990,「地域社会における共有物の管理 ―ごみ集積所をめぐる仙台市民の意識と行動―」『日本文化研究所研究報告』別巻第 27 集：41-57.

海野道郎・松野隆則・小松洋・土場学, 1991,「地域社会における共有物の管理(2) ―ゴミの分別をめぐる仙台市民の意識と行動―」『日本文化研究所研究報告』別巻第 28 集：35-53.

第 6 章　調査結果の概要

1.　回答者の特徴

はじめに、回答者の性別、年齢、職業といった属性について述べ、回答者の特徴を整理する。

1.1　回答者の性別と年齢

当該世帯の主な家事担当者に回答を依頼しているため、回答者の 85%が女性、15%が男性である（図 6.1.1）。また、年代別にみてみると、20 代以下の回答者が全体の約 15%、30 代～40 代が約 50%、50 代～60 代が 30%、70 代以上が 6%となっている。

性別と年代の両方についてみてみると、女性の回答者の約半数は30代から40代が占めている。また、男性では 20 代がもっとも多くなっている（図 6.1.2）。

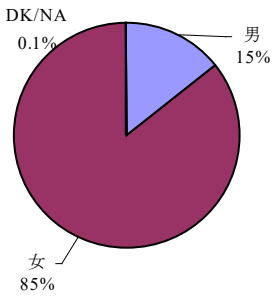


図6.1.1　性別

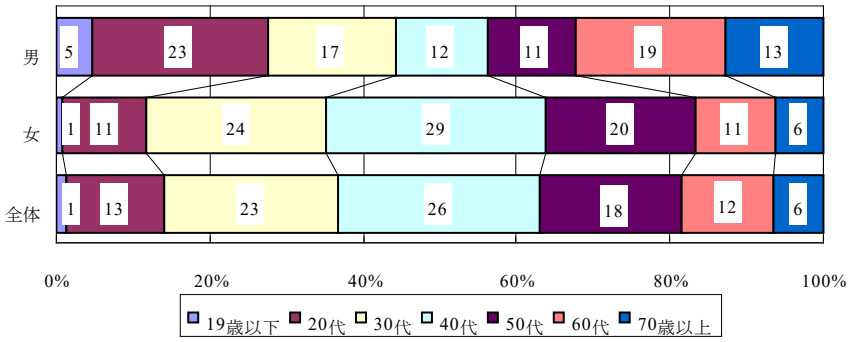


図6.1.2　性別と年齢

1.2　回答者の就業形態

「専業主婦」がもっとも多く全体の 40%ほどを占めている。次いで「臨時雇用」の 22%、「常時雇用」の 18%が続く。「経営者」、「学生」はほとんどいなかった。また、女性の回答者の 46%が「専業主婦」、25%が「臨時雇用」、14%が「常時雇用されている従業員」の方となっている。男性の半数は「常時雇用されている従業員」である（図 6.1.3）。

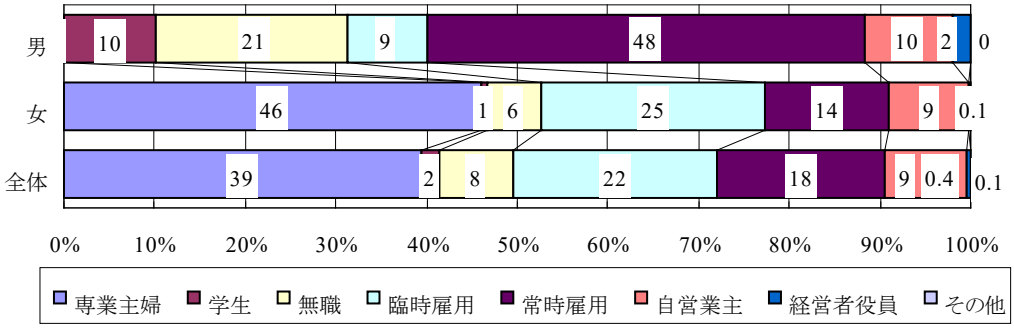


図6.1.3　性別と職業

1.3　回答者の学歴

「新制高校・高専」がもっとも多く 43%となっている。次に「専門学校」の 17%が続き、「短大」「大学」が 15%となっている。男女別にみてみると、女性、男性ともに「新制高校・高専」がもっとも多い。男性は「大学」の割合が高いのに対して、女性は「専門学校」、「短大・高専」の割合が高い（図 6.1.4）。

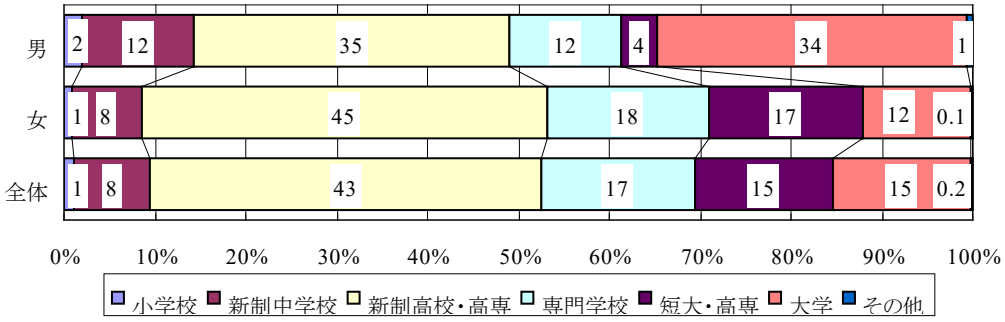


図6.1.4　性別と学歴

1.4　回答者の世帯収入

もっとも多いのが、「500 万円以上 600 万円未満」で 12%となっている。次いで「300 万円以上 400 万円未満」の 11%で、「400 万円以上 500 万円未満」の 10%、「1000 万円以上」の 10%が続く。この問は「わからない・答えない（DK/NA）」が他の問と比べて非常に多い（図 6.1.5）。1993 年に実施された「生活と環境に関する仙台市民意識調査」でも同様の質問を行っているが、当時の「わからない・答えない」は 4%であった。7 年間で、収入のような個人のプライバシーの保護に対する意識の変化がみられる。

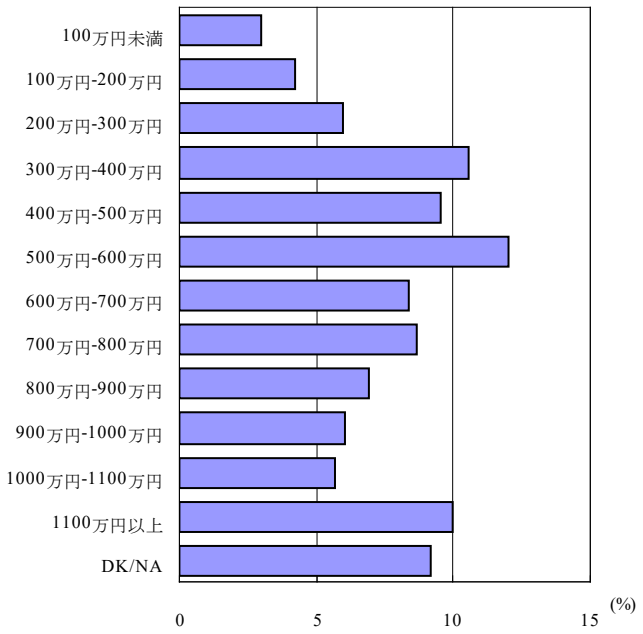


図6.1.5　世帯収入

1.5　回答者の世帯構成人数

もっとも多いのが「４人家族」で全体の 27%を占める。「３人家族」が 21%、「２人家族」が 18%となっており、世帯人数が４人以下である世帯が全体の 70%を占めている（図 6.1.6）。

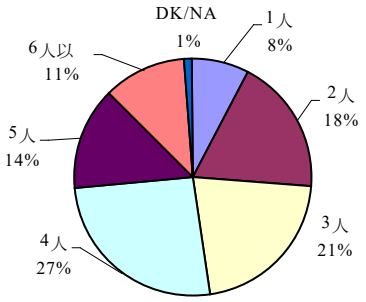


図6.1.6　世帯構成人数

1.6　回答者が現在加入している団体

回答者が現在どのような団体に加入しているかをたずねたところ、もっとも多かったのが「町内会」で、78%が加入している。「生協・消費者団体」に加入している人が 40%、「スポーツ・趣味・学習サークル」が 28%となっている（図 6.1.7）。

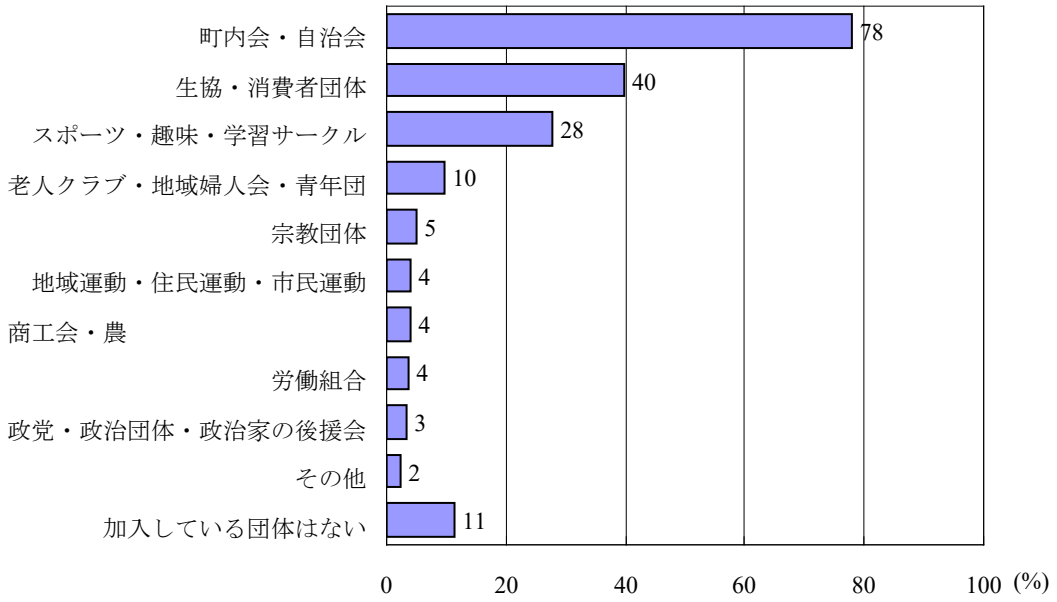


図6.1.7　現在加入している団体

1.7　公平感

今回の調査では、「公平でない」と感じている人が 21%で、「あまり公平ではない」を含めると 70%以上になる。多くの人が日本の社会は公平ではないと感じていると言える。これは、95 年に実施された『社会階層と社会移動全国調査（SSM95）』とほぼ同じような分布となっている（図 6.1.8）[1]。

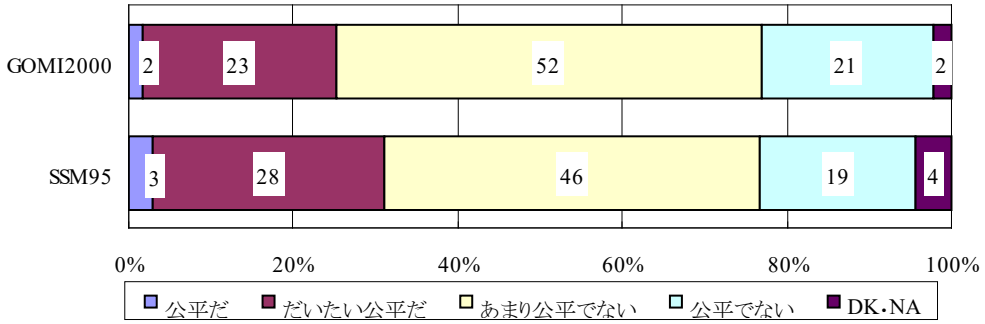


図6.1.8　公平感

1.8　階層帰属意識

もっとも多かったのが「中の下」の 50%である。次いで「中の上」の 24.3%、「下の上」の 16.8%となっている。回答者の中に中流意識が存在していると考えられる。こちらも公平感と同様に、95 年の『社会階層と社会移動全国調査』とほぼ同じ分布となっている（図 6.1.9）[2]。

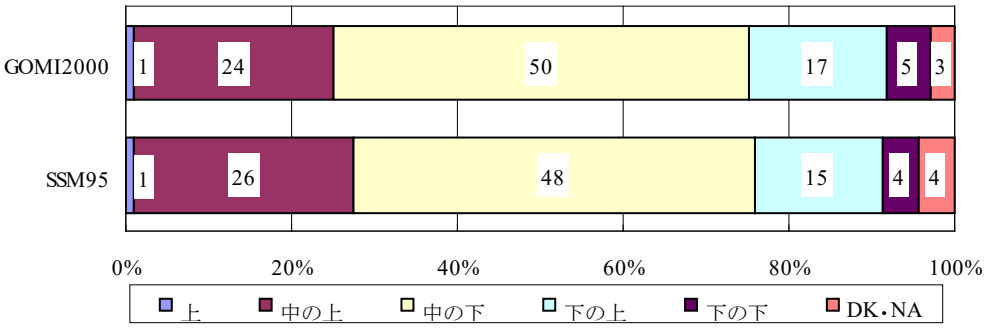


図6.1.9　階層帰属意識

[1] 図 6.1.8 のグラフの値は、95 年 SSM 調査（B 票）の単純集計の結果を参照した。『95 年 SSM 調査　基礎集計表』1995 年 SSM 調査研究会.
[2] 図 6.1.9 のグラフの値は、95 年 SSM 調査（B 票）の単純集計の結果を参照した。『95 年 SSM 調査　基礎集計表』1995 年 SSM 調査研究会.

2.　環境問題に対する関心

近年、環境問題に対する取り組みの重要性が新聞やテレビなどのマスコミで指摘されるようになった。行政や企業、市民の取り組みなども数多く取り上げられている。このような中で、仙台市民は環境問題に対しどのくらい関心をもっているのだろうか。

2.1　自然と人間の関係

自然と人間の関係についてどのような意見をもっているかをたずねた。「人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない」が 46%、「人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない」が 42%、「人間が幸福になるためには、自然を征服してゆかなければならない」が 1%、「その他」が 9%であった。「その他」の中の多くは、「自然と共存していかなければならない」というものであった（図 6.2.1）。

同じ質問が 1953 年から 50 年間続けて『国民性の研究 [3]』において行われている。それらの回答と、今回の回答をあわせてグラフにしたのが、図 6.2.2 である。1998 年に行われた前回の調査と比較すると、「自然に従う」がやや減少しているのに対して、「自然を利用する」がやや増加している。また、「自然を征服」は年々減少の傾向を見せていたが、今回のごみ調査では１%まで減少している。また、「その他」の回答は１%程度であったのに対し、今回の調査では９%になっている。このような結果になったのは、今回の「ごみ調査」では、主婦の女性が多いといった回答者の偏りの影響もあるかもしれない。ただ、上記の３つの選択肢ではおさまらないものを感じる回答者がこれまでに比べて多いという点が特徴的である（図 6.2.2）。

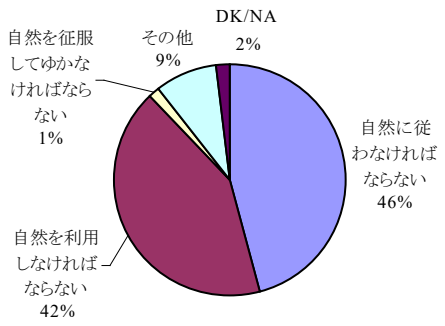


図6.2.1　自然と人間の関係に対する意見

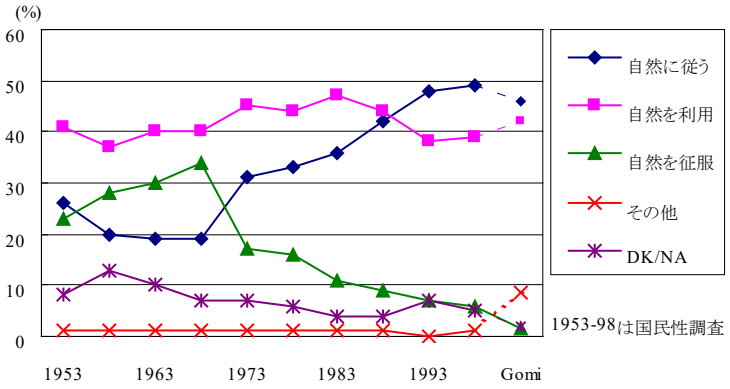


図6.2.2　自然と人間の関係に対する意見の変化

[3] 『国民性の研究　第 10 次全国調査− 1998 年全国調査－』統計数理研究所.

2.2　環境問題の深刻さの捉え方

「環境問題はそれほど深刻な問題ではない」と考える人は、「非常にそう思う」、「どちらかといえばそう思う」をあわせると全体の 15%である。これに対して、環境問題は「深刻な問題である」と考える人は 80%以上いる。ほとんどの人が、環境問題を深刻な問題として捉えているといえる。「今の生活習慣では環境問題は深刻化する」と考える人は、全体の 70%、また、「どちらかといえばそう思う」と考える人は、全体の 30%弱であることが明らかになった。「行政は環境保護にきちんと取り組んでいない」については、「どちらかといえばそう思う」が約 40%、「そう思う」が約 50%で、行政に対する評価は厳しいようである（図 6.2.3）。

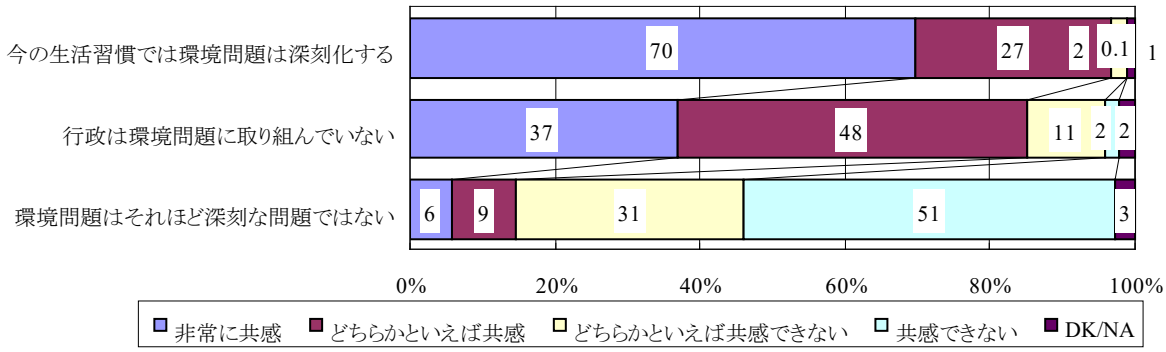


図6.2.3　環境問題に対する意識

「環境問題はそれほど深刻な問題ではない」という捉え方を性別でみると、男性のほうが、「それほど深刻な問題ではない」と考える人が多い（図 6.2.4）。「今の生活習慣では環境問題は深刻化する」に関しては、男女による違いはほとんどみられず、男女ともに環境問題は深刻化すると考えている（図 6.2.5）。

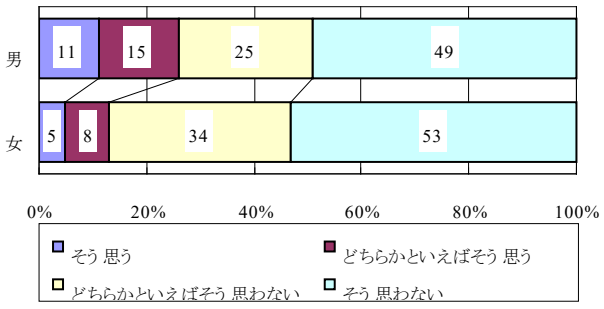


図6.2.4　環境問題はそれほど深刻な問題ではない

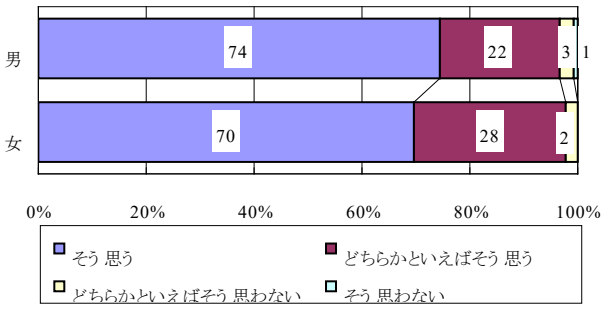


図6.2.5　今の生活習慣では環境問題は深刻化する

2.3　環境配慮行動に対する規範意識

環境問題に対する市民の意識は高いことがわかったが、環境問題の解決に向けてどのように行動していくべきだと考えているのだろうか。「ごみ問題解決のために環境に配慮すべき」という考えに「非常に共感」している人は 55%、「どちらかといえば共感」する人をあわせると、ほぼ全員がそう感じている。「他者の行動にかかわらず自分は環境に配慮すべき」、「手間がかかっても環境に配慮すべき」という考えに「非常に共感」している人は 40%前後、「快適さを我慢しても環境に配慮すべき」に「非常に共感」している人は約 25%となっている。規範意識に関するどの項目でも「どちらかといえば共感」をあわせると、やはり 90%前後の人が「環境に配慮すべき」という規範意識を持っていることが明らかになった（図 6.2.6）。しかし、他と比較すると「快適さを我慢する」については「共感」する人の割合が低い。生活の「快適さ」は犠牲にしづらいようである。

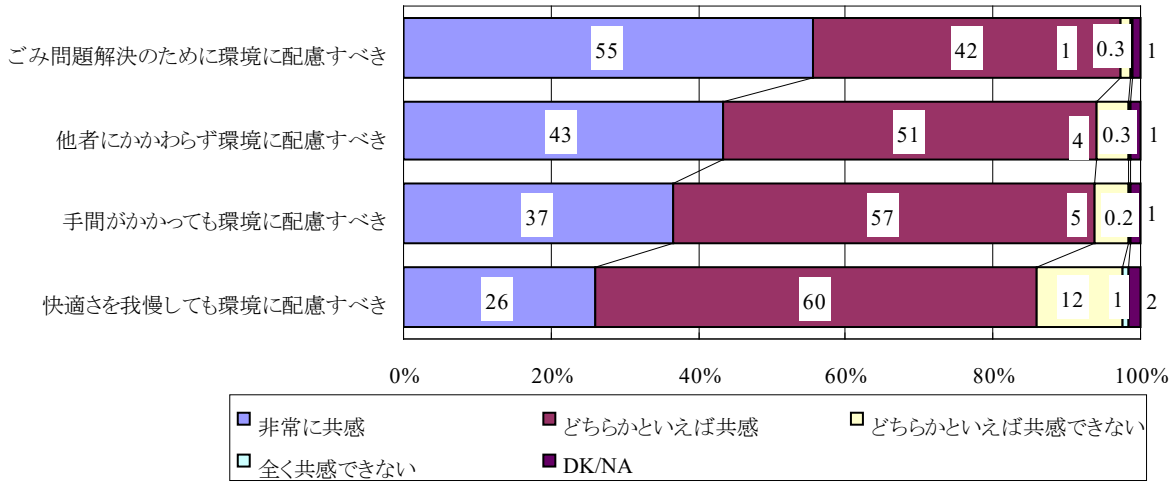


図6.2.6　環境配

3.　環境配慮行動の実行

多くの人が環境問題に対して高い関心を持っていることが明らかになった。それでは、リサイクルを含んだ環境配慮行動は、実際にどの程度実行されているのだろうか。

3.1　一般的な環境配慮行動の実行率

ほとんどの人が環境問題を深刻な問題として捉えているが、人びとは実際にどのくらい環境に配慮した行動に取り組んでいるのだろうか。19 種類の行動について、それぞれの実行率をみた（図6.3.1）。80%以上の世帯が「冷暖房の温度調整」、「使用しない電灯の消灯」といった、省エネに関わる行動や「ごみ排出のルールを守る」、「排水口にごみ受けを取り付ける」、「油を排水に捨てない」といった行動に取り組んでいる。これに対して、あまり取り組まれていない行動は、「買い物袋の持参」、「コンポストの使用」、「天然油脂性の洗剤の使用」、「使い捨て商品を買わない」、「環境家計簿」をつけるといった行動である。

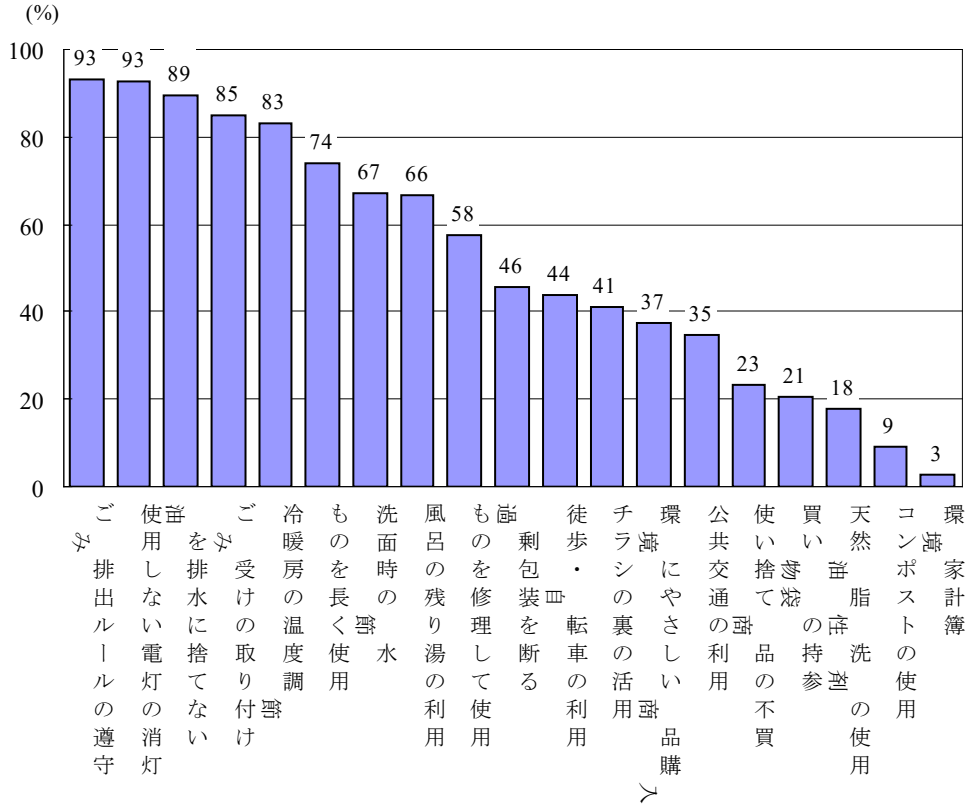


図6.3.1　環境配慮行動の実行率（複数回答）

また、１人あたり何種類の行動を行っているかをみてみると、19 種類すべてについて取り組んでいる人が 1026 人中２人であった。これとは対照的に、１つも取り組んでいない人は３人だった（図 6.3.2）。多くの人は何らかの環境配慮行動を実行しており、平均すると、ひとり 10 種類ぐらいの環境配慮行動に取り組んでいる。

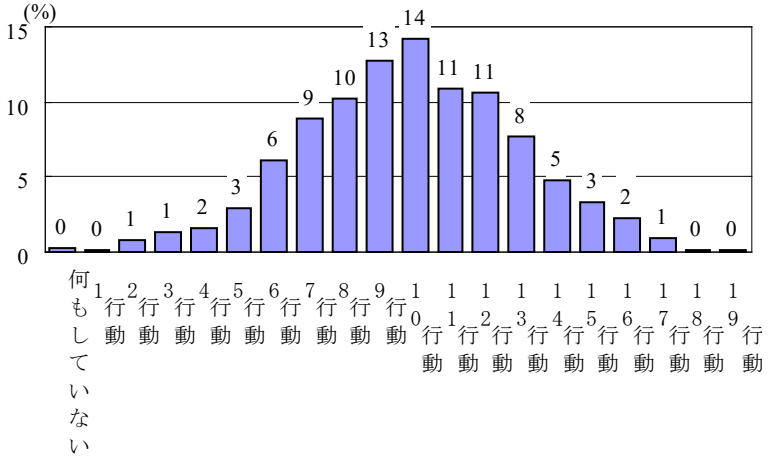


図6.3.2　環境配慮行動の取り組数

3.2　リサイクル行動の実行率

次に、リサイクル行動についてみていく（図 6.3.3）。古くから回収ルートのある「新聞紙・古雑誌」、仙台市で回収している「ビン・缶」、「ペットボトル」は 70%以上の世帯でいつもリサイクルされている。これに対して、スーパー等で回収がすすめられている「牛乳パック」、「トレイ」、また、「衣類」のリサイクルをいつもしている人は、「ビン・缶」などと比較するとまだまだ少ない。

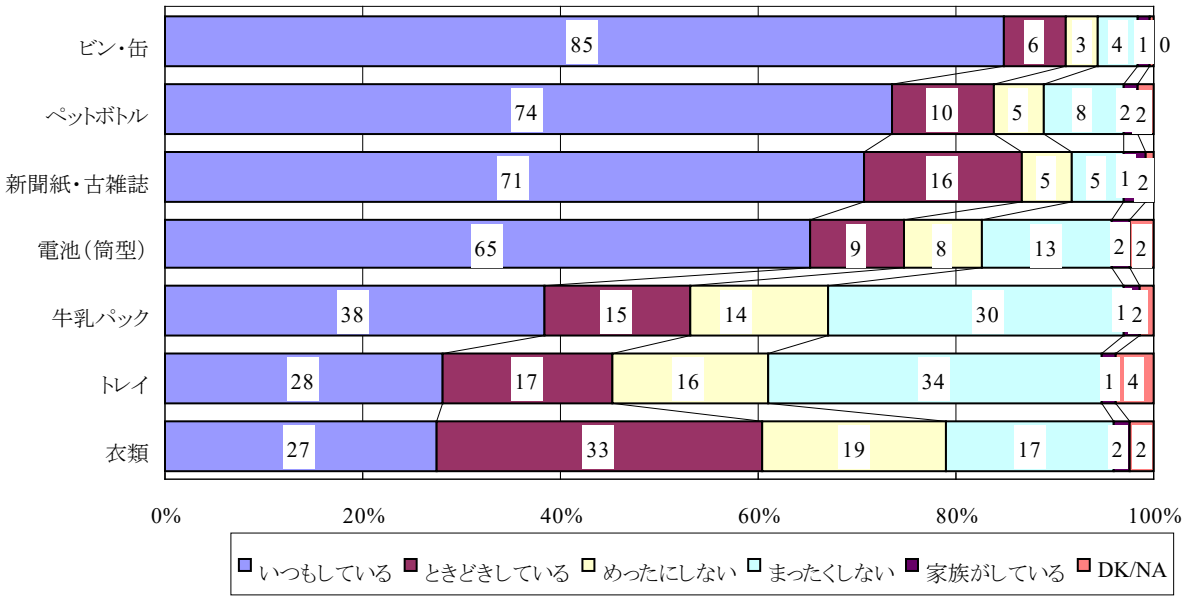


図6.3.3　リサイクルの実行率

3.3　就業形態によるリサイクル実行率の違い

リサイクルの実行には、性別や収入、家族構成など、さまざまな要因が関わっている。ここでは、就業形態によって、リサイクル実行率がどのように違うのかということに注目する。

図 6.3.4 に就業形態別のリサイクルの実行率を示した（就業形態のうち、「経営者（重役）役員」は、人数が少なかったので、分析から除外した）。ここで聞いているリサイクルの実行率は、「いつもしている」、「ときどきしている」と答えた回答者の比率（%）を表している。

結果をみると、「トレイ」をのぞくすべての資源物で、「専業主婦」がもっともリサイクルの実行率が高くなっている。「臨時雇用」、「無職」がそれに続くが、その実行率は「専業主婦」とそれほど変わらない。そして、「常時雇用の一般従業員」では実行率が低くなり、「学生」の実行率が最下位となっている。「自営業主」のみは、他の就業形態と実行率のパターンが異なる。「自営業種」の一般的な傾向としては、「臨時雇用」、「無職」よりやや実行率が低い程度だが、「トレイ」、「ペットボトル」では順位が入れかわる。とくに、「トレイ」では「専業主婦」をぬいて、もっとも高いリサイクル率を示している。

このような実行率の違いは、家庭内での役割や家事にかけることのできるの時間の長さによって説明できるかもしれない。今回の調査では、女性の回答者が多いので、「臨時雇用」の方はパートで働きながら主婦をしているケースが多いと考えられる。「無職」には年金生活者も含まれるので、高齢者で実際は専業主婦であるケースも多いことが予測される。これらのケースでは、家庭内で主婦の役目を果たしているという点で「専業主婦」と共通している。このために、「専業主婦」、「臨時雇用」、「無職」では、似たようなパターンを示していると考えられる。また、「常時雇用されている一般従業員」は、仕事が忙しく、リサイクルをするだけの時間の余裕がないという理由が考えられる。「学生」はどの資源物でもリサイクル実行率が低くなっている。そのパターンを詳しくみると、「ビン・缶」、「ペットボトル」などでは他の就業形態の人と比較してリサイクル率の差が小さいが、「トレイ」や「牛乳パック」、「衣類」では差が大きくなっている。「トレイ」や「牛乳パック」、「衣類」については、「学生」のひとり暮らしでは、そもそもリサイクルするほどのものがないのかもしれない。「自営業主」のリサイクル実行率のパターンが他の就業形態と比べて特殊である理由は、はっきりとはわからない。しかし、「自営業主」には、労働時間が長い、自宅と職場とが近い、比較的時間の融通がきくなど、特殊な事情があるため、このような結果になった可能性がある。

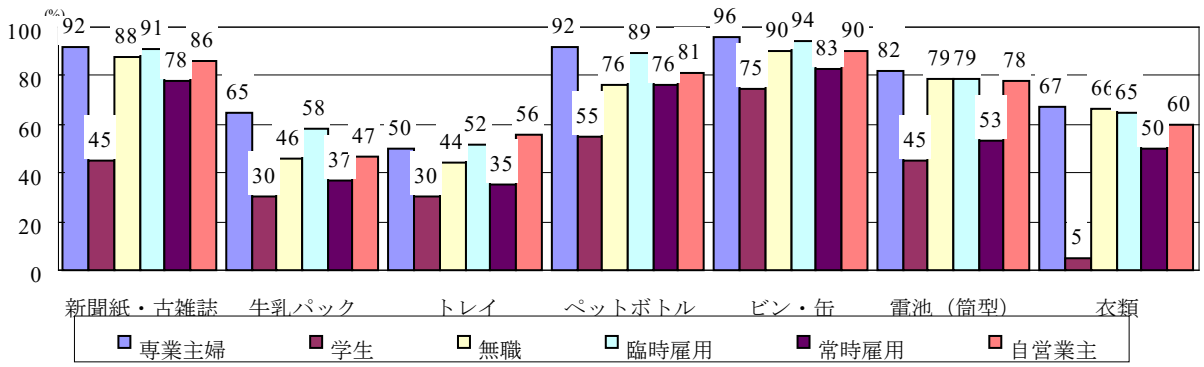


図6.3.4　就業形態によるリサイクルの実行率

3.4　リサイクル実行の理由

なぜリサイクルをしているのか、なぜリサイクルをしていないのか、その理由をたずねた（図6.3.5）。ここでは、いくつかのリサイクルの中でも、「牛乳パックのリサイクル」と「ビン･缶のリサイクル」の２つに焦点をあてている。リサイクルを実行している理由としては、牛乳パック、ビン･缶ともに、「ごみ問題の解決に役立つから」、「習慣となっているから」、「当然のことと思うから」という理由をあげた人が半数をこえている。これに対して、「リサイクルするのが楽しいから」、「友人･知人がしているから」という理由をあげた人はあまりいなかった。牛乳パックとビン･缶の間で大きな違いがみられるのは、「仙台市がすすめているから」という項目である。

3.5　リサイクル不実行の理由

リサイクルを実行しない理由としては、牛乳パック、ビン･缶ともに、「手間がかかるから」、「近くで回収していないから」、「忙しくて時間がないから」をあげている人が 30%前後いる。「ごみ問題の解決には役立たないから」、「自分だけしても仕方がないから」、「罪悪感がないから」という理由をあげる人は、ほとんどいなかった（図 6.3.6）。ビン･缶のリサイクルを実行しない理由として「リサイクル可能なことを知らなかった」、「方法がわからなかった」をあげている人の中には､仙台市が行っているビン･缶の資源回収がリサイクルであると考えていない人も多少含まれている。

「牛乳パック・ビン･缶を買わないから」という理由をあげている人は牛乳パックに多く、そもそも「牛乳を買わない」、「牛乳はビンで買う」人が少数派ではあるが存在することがわかった。また、牛乳パックの「その他」の回答から、家庭内で料理の際に牛乳パックを利用したり、ペン立てやいすなどを作ったりすることで、牛乳パックを再使用している人がいることもわかった。

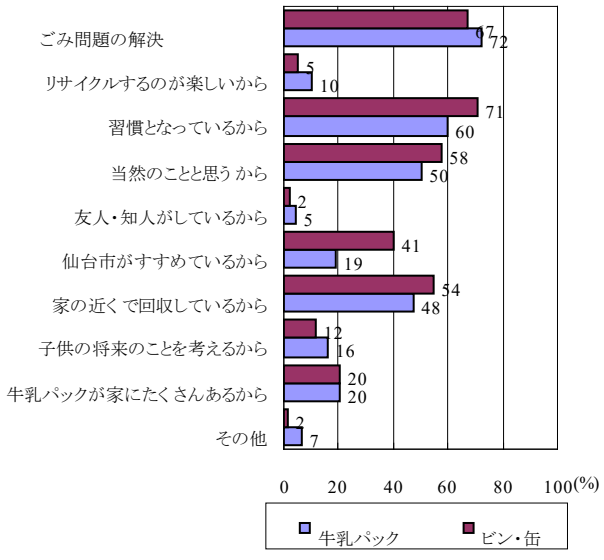


図6.3.5　リサイクル実行の理由（複数回答）

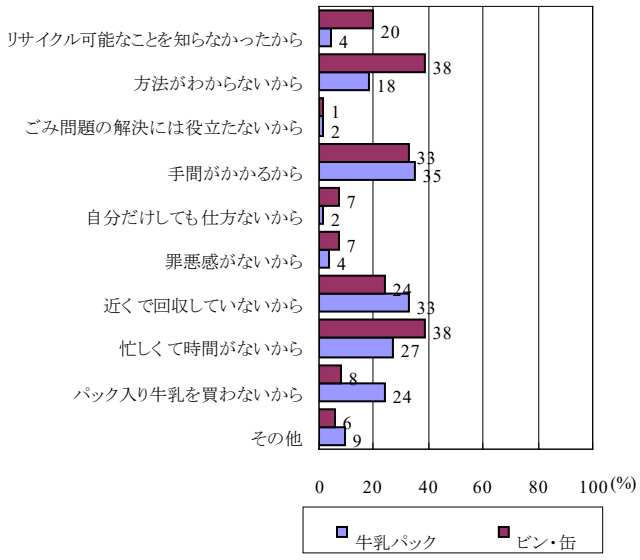


図6.3.6　リサイクル不実行の理由（複数回答）

3.6　リサイクル実行の協力者

それでは、リサイクルの実行の際に、家族の中では誰が主に協力してくれるのだろうか。もっとも多かったのは「配偶者」の 55%、次いで「子供（女）」29%、「子供（男）」25%であった（図 6.3.7）。また、それほど多いケースではないが、高齢の回答者で、一緒に住んでいないがよく訪ねてくる家族がリサイクルに協力してくれる場合もあることがわかった。

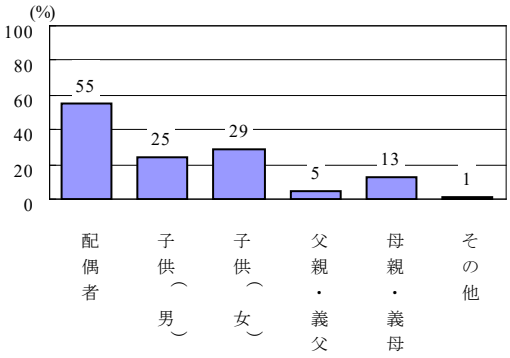


図6.3.7　リサイクルの協力者（複数回答）

3.7　資源ごみ回収時のごみ集積所の状態

3.7.1　袋の使用について

仙台市のルールでは、ビン・缶を出す際には、「袋」から出して回収箱に入れることになっている。そのルールはどの程度、守られているのだろうか。

「袋から出されている」のは 29%ほどで、「たまに袋ごと入れられている」が 35%、「しばしば袋ごと入れられている」が 22%、「いつも袋ごと入れられている」が 10%となっている。全体でみると、約 70%の集積所では袋が使用されている（図 6.3.8）。この理由の 1 つとして、仙台市のルールを知らないということが考えられる。また、回答者から寄せられた意見の中には、「ビンや缶が回収箱に入りきらない場合に、袋が使用される」というものもあった。

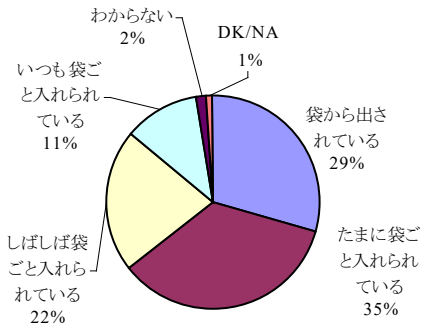


図6.3.8　回収時の袋の有無

3.7.2　資源ごみ排出時のルール

次に、ごみ集積所で資源ごみを出す際に、仙台市が定めたルール以外に何らかのルールが存在するかについてたずねた。「決まったルールがある」集積所が 23%以上、「暗黙のルールがある」集積所も 18%であることわかった（図 6.3.9）。ルールの内容は、「ビンならビンを、缶なら缶を同じ回収箱に入れる」、また「最初に出した人にしたがってビンや缶を入れていく」というものが多かった。ただし、出される量が多い場合は、最初に区別されていても混ざってしまうことがあったり、先でも述べたように袋が使用されることがあったりするようである。

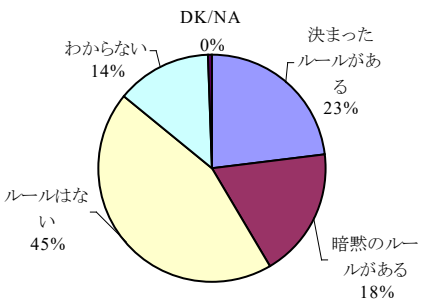


図6.3.9　ふだん利用するごみ集積
資源ごみ排出時のルール

4.　リサイクルに伴う手間・満足感

リサイクルを実行する理由、実行しない理由にはいろいろなものがあることがわかった。とくに実行しない理由として、手間や時間がかかることをあげている人は少なくないようである。それでは、リサイクルはどのように捉えられているのだろうか。

4.1　リサイクルの有効性

「リサイクルはごみ問題の解決に役立つ」と考えているかをたずねたところ、「非常に役立つ」と考えている人が半数以上いることがわかった。また、「どちらかといえば役立つ」と考えている人も 4 割以上いる（図 6.4.1）。環境問題に対する関心と同じように、ほとんどの人はリサイクルがごみ問題に対して有効であると考えているようである。

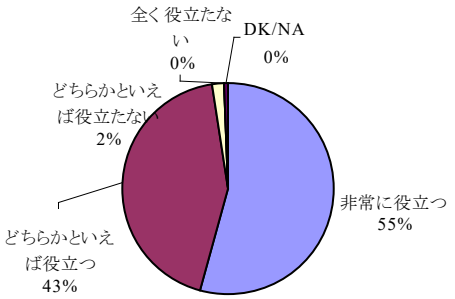


図6.4.1　ごみ問題に対するリサイクルの有効性

4.2　リサイクルに対する意見

リサイクルの実行には手間が伴う半面、節約ができるといった側面もある。また、リサイクルを通して近所の人とのコミュニケーションが促進する可能性もある。こういった側面はどのように捉えられているのかをみてみた（図 6.4.2）。その結果、リサイクルは「手間や時間がかかる」という考えに「非常に共感をもつ」人は 21%、「どちらかといえば共感をもつ」人は 55%で、70%以上の人が、リサイクルには手間が伴うと感じていることが明らかになった。リサイクルは「お金の節約になる」については、「非常に共感をもつ」人は 16%、「どちらかといえば共感をもつ」人は 46%で、60%の人はリサイクルによってお金が節約できると感じているようである。これに対して、リサイクルによって「近所の人と仲良くなれる」ということに「非常に共感をもつ」人は 6%、「どちらかといえば共感をもつ」人は 37%で、リサイクルは近所の人とのコミュニケーションの手段としてはあまり有効な手段だとは思われていないようである。

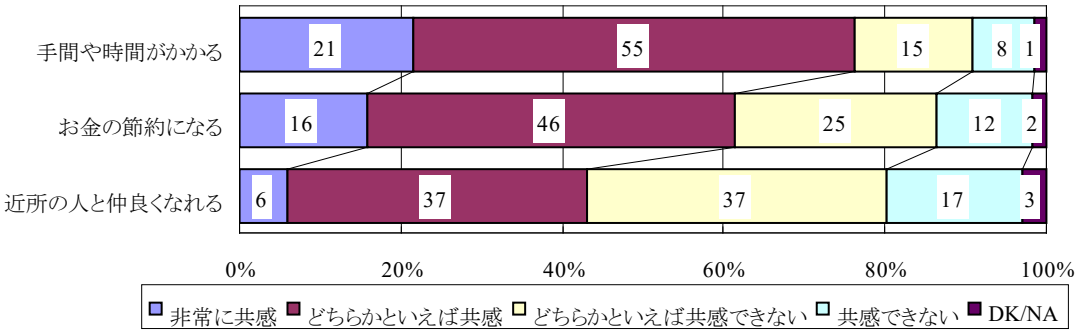


図6.4.2　リサイクルに対する意

4.3　リサイクルに伴う手間の感じ方

リサイクルの実行には手間や時間が伴うと考えられていることが明らかになったが、それでは実際に、それぞれのリサイクルはどのくらい手間がかかると感じているのだろうか。「ビン・缶」、「新聞紙」のリサイクルに伴う手間を感じている人は約 30%である。これに対して、「牛乳パック」のリサイクルは、60%の人が「手間がかかる」と感じている（図 6.4.3）。牛乳パックをリサイクルするためには「切って、洗って、乾かす」という作業が必要であり、また、回収を行っているスーパーなどにまで牛乳パックを持っていくことはかなりの負担になっているのではないだろうか。

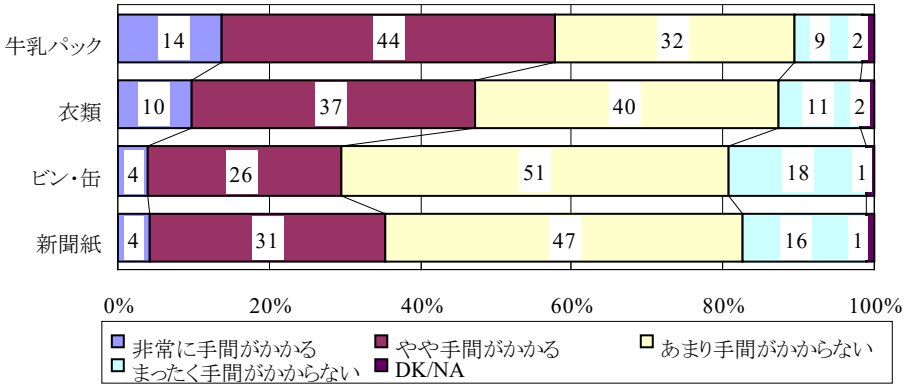


図6.4.3　リサイクルの実行に伴うコスト感

4.4　行動と手間の感じ方

手間の感じ方は、実際にリサイクルをしている人としていない人で異なるのだろうか。ここでは、手間がかかると答えた人がもっとも多かった牛乳パックのリサイクルに注目する。牛乳パックのリサイクルを実行している人と、実行していない人、それぞれに関して、リサイクルの手間をどのくらい感じているのかをみてみた（図 6.4.4）。

その結果、実際に牛乳パックをリサイクルしている場合は、「あまり手間がかからない」と感じている人が多いのに対して、リサイクルをしていない場合は、「非常に手間がかかる」、「やや手間がかかる」と答えている人が 80%ほどいることが明らかになった。このことから、実行しない状態のままだと、手間ばかりが大きくうつってしまい、ますます取り組みたくなくなるという悪循環におちいってしまう可能性があるが、実際にリサイクルに取り組んでみると意外と手間を感じない、またはリサイクルが習慣化することであまり手間を感じなくなる可能性があるといえる。

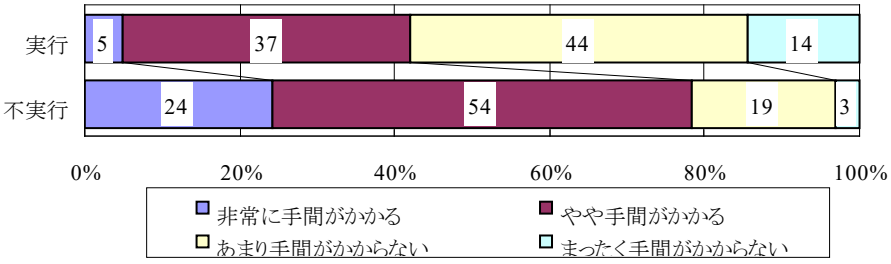


図6.4.4　牛乳パックリサイクルの実行と手間

4.5　リサイクルに伴う満足感

リサイクルには、手間ばかりが伴うのだろうか。リサイクルをすることで満足感を覚えるかということをたずねたところ、ほとんどの人がリサイクルや節約を行うことで満足感を覚えると考えていることがわかった（図 6.4.5）。手間を伴う一方で満足感も覚えるという点がリサイクルの特徴のようである。

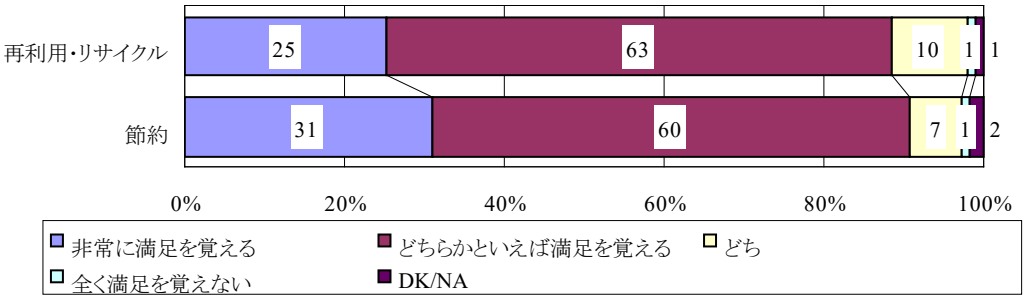


図6.4.5　物を大切に使うことに伴う満足感

4.6　リサイクルに伴う問題点

リサイクルはいつでも好きなときにできるわけではない。回収回数が週 1 回である、回収場所が昼間しか利用できないというように､時間などに制約がある｡実際にリサイクルするためには、ものをためておく場所があるかといった点も考慮しなくてはならない。また、ものによってリサイクルのルールも異なるため、そのルールを知っている必要もある。こういったスペースやルールの問題は、どのくらい実行の妨げになるのであろうか。

「ものをためておく場所がない」、「洗うのが大変」、「分別がわかりにくい」、「持っていくのが大変」ということが実行の障害になると考えている人は、どの問題においても 6 割前後いることがわかった。とくに、「ものをためておく場所がない」というスペースの問題が「大きな障害となる」と考えている人は他の問題に比べると非常に多い。これに対して、容器を洗うことはほかの問題に比べると、「あまり障害にならない」と考えている人が多い（図 6.4.6）。

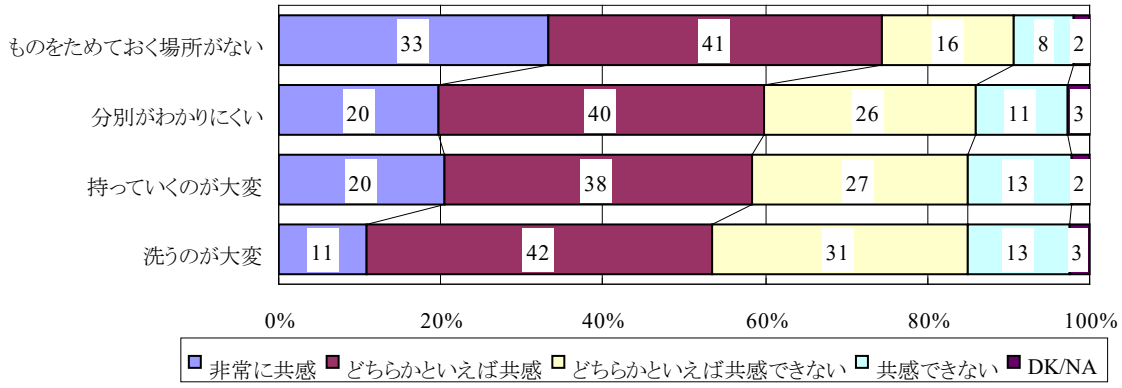


図6.4.6　リサイクル実行に伴う障害に対する認識

次に、リサイクルの実行にあたって「大きな障害となる」と考えられている「保存スペース」を多くとるビン･缶のリサイクルについてみてみる。リサイクルを実行している人と実行していない人で、それぞれの問題をどのくらい「障害になる」と感じているかについて比較した（図 6.4.7a、図 6.4.7b、図 6.4.7c、図 6.4.7d）。その結果、すべての問題において、ビン･缶のリサイクルを実行している人よりも実行していない人のほうが、その問題が障害になると考える傾向にあることがわかった。とくに、「洗うのが大変」、「分別がわかりにくい」、「持っていくのが大変」といった問題は、リサイクルを実行している人と比較すると、実行していない人のほうが障害になると考えている傾向が強く出ている。これに対して、「ものをためておく場所がない」という問題は、リサイクルを実行している人としていない人の間の違いはそれほど大きなものではなかった。

このことから、「洗うのが大変」、「分別がわかりにくい」、「持っていくのが大変」といった問題は、実際にリサイクルを体験することで解決できるかもしれない。というのは、作業の習慣化から「大変さ」が軽減する可能性や、リサイクルするにつれて知識が増えることから「分別のルールのわかりにくさ」といった問題がなくなる可能性があるためである。しかし、スペースの問題は、実行している人も「障害になる」と感じている問題である。その大変さは、なかなか簡単には解決できないと考えられる。回収の頻度を多くするなど、スペースの問題が解消できるようなリサイクルの仕組みをつくり、市民の負担を減らすことで、リサイクル行動を促進できる可能性がある。

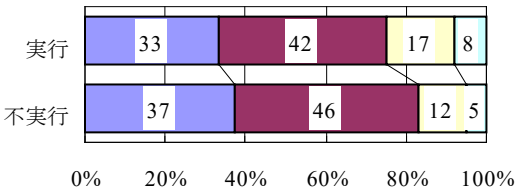


図6.4.7a　ビン･缶のリサイクルの実行とスペースの問題

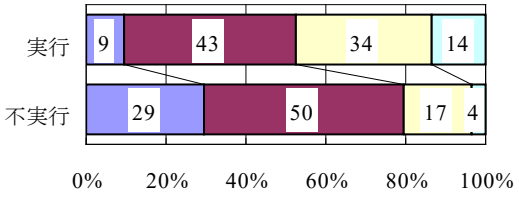


図6.4.7b　ビン･缶のリサイクルの実行と洗う大変さ

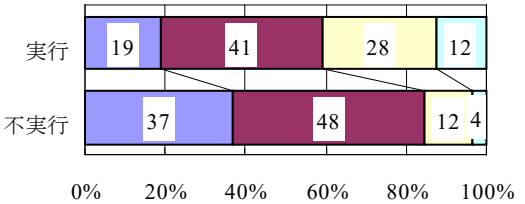


図6.4.7c　ビン･缶のリサイクルの実行と分別のわかりにくさ

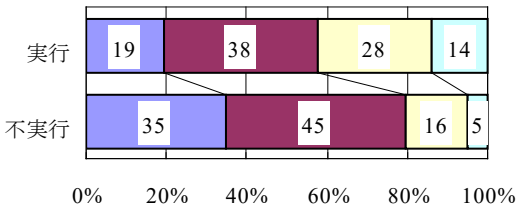
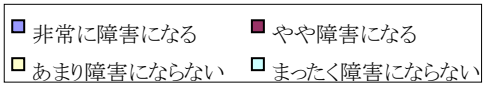


図6.4.7d　ビン･缶のリサイクルの実行と持っていく大変さ



5.　リサイクル行動の促進

リサイクル行動を促進するためには、どのような方法が有効であろうか。ここでは、リサイクルを促進する要因として、リサイクルの呼びかけとリサイクル制度を取りあげる。

5.1　リサイクルの参加の呼びかけ

リサイクルに参加するよう市民に呼びかける方法としては、どのようなものが有効であろうか。「チラシ」によるリサイクル参加の呼びかけ、「新聞広告」によるリサイクル参加の呼びかけ、「町内のリーダー（たとえば町内会長）」によるリサイクル参加の呼びかけという３つの方法で呼びかけられたときに、リサイクルに参加するかどうかをたずねた（図 6.5.1）。その結果、どの方法でも 60%以上の人が参加する気持ちがあるという結果になった。

しかしながら、各方法の影響力は少しずつ異なっており、新聞広告よりは、チラシのほうが、チラシよりは町内のリーダーによる呼びかけのほうが、参加する気持ちが強くなるようである。

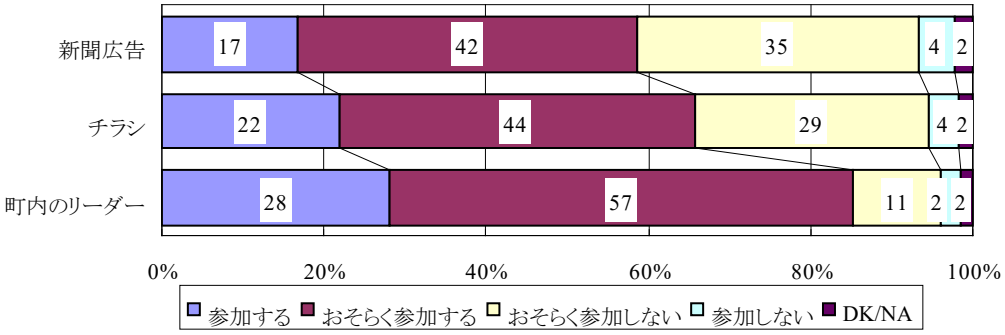


図6.5.1　リサイクルの参加の呼びかけとその反応

5.2　リサイクルの制度

リサイクル制度の変化は、リサイクル行動を促進するのだろうか。ここでは、どのような方法であれば、あるいは、リサイクルの制度がどのように変化すれば、市民の参加意思が強くなるか、についてみてみる。

5.2.1　回収方式の変化と協力意思

それでは、どのような方法であれば、または、リサイクルの制度がどのように変化すれば、市民の参加意思が強くなるのかについてみていく。まず、「牛乳パック」と「紙製の容器包装」の回収方法別の協力意思についてみてみる（図 6.5.2a、図 6.5.2b）。「協力できる」と答えた人がもっとも多かった形式は、どちらの場合も「ステーション方式」であり、「好きな日時に近くの回収所」にもっていく方式がそれに続く。「スーパー」にもっていく形式だと、「協力できる」と回答した人は「牛乳パック」で 40%、「紙製の容器包装」で 33%、「たぶん協力できる」と回答した人はどちらの場合も約 30%で、60%以上が協力できるとしている。「市の施設（コミュニティセンターなど）」にもっていく方式だと、「協力できる」と回答する人の割合が非常に低くなり、「たぶん協力できる」をあわせても 30%程度である。

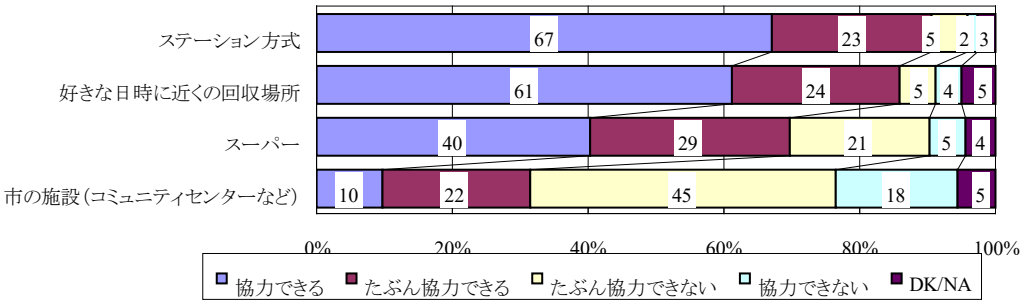


図6.5.2a　回収方法別の牛乳パックリサイクルに対する協力意思

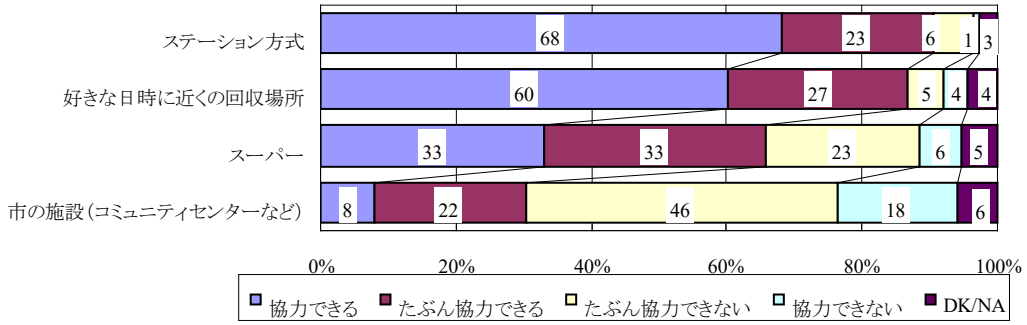


図6.5.2b　回収方法別の紙製容器包装リサイクルに対する協力意思

現在のステーション方式によるビン・缶のリサイクルの実行率は非常に高く、また、ステーション方式であれば、「牛乳パック」、「紙製の容器包装」のリサイクルも協力できると回答している人の割合も高いことが明らかになった。

5.2.2　制度の変化と協力意思

ステーション方式の方法が次のように変化した場合、参加意思がどの程度、変化するのだろうか。

「回収場所が近くなる」、「ごみの回収日と資源回収の日が同じになる」というように、回収方法が変化したならば、リサイクルに参加すると答える人が50%をこえている。「おそらく参加する」と答えた人をあわせると 90%以上の人がリサイクルに参加する意思をもつことがわかった。また、「回収回数」が増加することで、リサイクルに「参加する」と答えた人も 40%以上おり、「おそらく参加する」と答えた人をあわせると、こちらも参加意思をもっている人が 90%をこえるという結果になった（図 6.5.3）。リサイクルへの取り組みを阻んでいる原因として、「手間がかかる」、「ものをためておく場所がない」という問題があることがわかったが、「回収場所が近くなる」「回収回数が増える」といった制度の変化は、こういった障害を克服するための方法のひとつとして考えることができる。

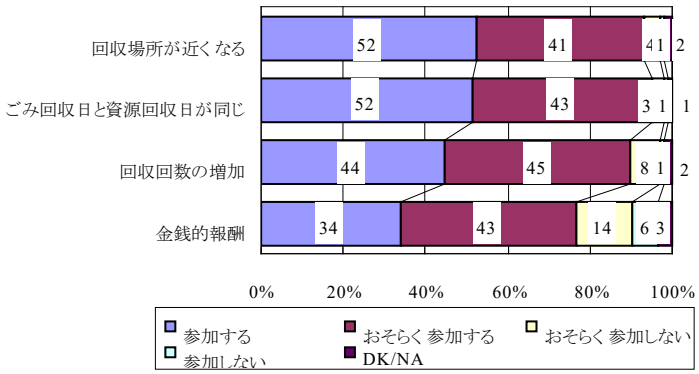


図6.5.3　制度の変化と参加意思

6.　リサイクル商品に対する関心

リサイクルは、資源として出されたものが再生されたあと、再生品が使用され、ものが循環していくことで、はじめてその輪が完成する。たんにリサイクルルートに資源を出すだけでなく、再生されたものを使用することについても、今後は考えていく必要がある。それでは、リサイクル商品は実際にどのくらい購入されているのだろうか。

6.1　エコショップに対する関心

まずは、エコショップに対する関心についてたずねた（図 6.6.1）。その結果、「近ければ行ってみたい」と考えている人が 80%以上いることが明らかになった。「少しくらい遠くても行ってみたい」をあわせると 90%以上の人が行ってみたいと考えているようである。

6.2　リサイクル商品の購入

6.2.1　再生紙を使用したトイレットペーパーの購入

次に、リサイクル商品に対する購入意思についてみていく。「再生紙を使用したトイレットペーパー」と「純パルプのトイレットペーパー」を比較し、値段の差がどのくらいまでなら「再生紙を使用したトイレットペーパー」を購入してもよいと考えているかについてたずねた（図6.6.2）。

「再生紙品が純パルプ品よりもかなり高くても購入する」人は2%、「少し高いならば購入する」人は7%であり、値段が純パルプ品よりも高く設定された場合に購入してもよいと考える人は10%であることがわかった。これに対して、「値段が同じであれば購入する」人は30%、「値段が安ければ購入」する人は56%であり、80%以上の人は、価格が純パルプ品と同じであるか、または安ければ購入する意思があることが明らかになった。しかし、肌に直接触れるという点から、「その他」の中では、「値段の問題ではなく肌触りがよければよい」といった回答もあった。

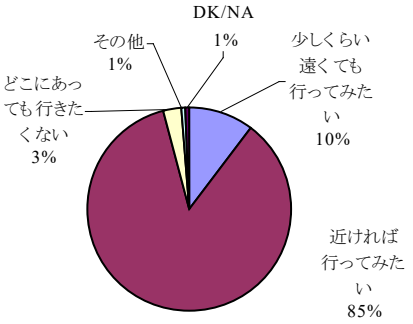


図6.6.1　エコショップに対する関心

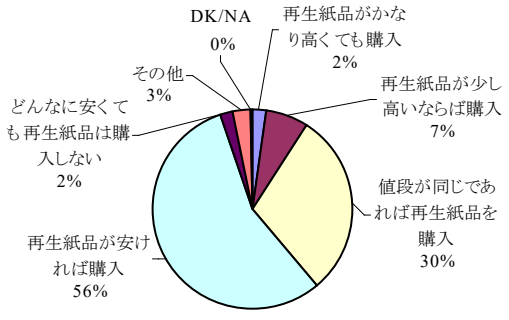


図6.6.2　再生紙使用のトイレットペーパーの購入

6.2.2　一般的なリサイクル商品の購入

それでは、実際にリサイクル商品はどの程度、購入されているのだろうか。リサイクル商品を「よく購入している」人は全体の 10%、「ときどき購入している」人をあわせると 60%以上である。これに対して、「あまり購入しない」人は 25%、「ほとんど購入しない」人は 10%となっており、リサイクル商品の購入に消極的な人もいる（図 6.6.3）。

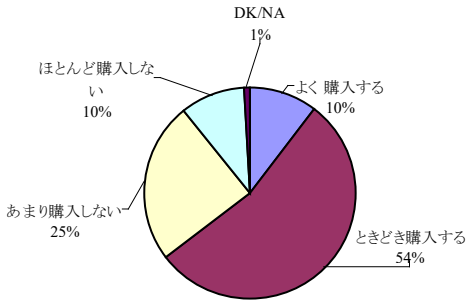


図6.6.3　リサイクル商品の購入

6.3　リサイクル商品の購入・未購入の理由

リサイクル商品を購入する理由、購入しない理由、それぞれについてたずねた。リサイクル商品を購入している場合は、「環境にやさしいから」、「価格が安いから」、「ふだん行く店にあるから」という理由をあげている人が多く、「品質がいいから」、「デザインが気に入っているから」、「友人がそうしているから」という理由をあげた人はほとんどいなかった（図 6.6.4a）。これに対して、リサイクル商品を購入していない場合は、「ふだん行く店にないから」という理由をあげている人が 6 割いることがわかった（図 6.6.4b）。リサイクル商品は、品質やデザインの面ではあまり支持されていないが、再生紙使用のトイレットペーパーのように価格が安い場合や、ふだん行く店においてあれば、今後購入される可能性があるといえる。

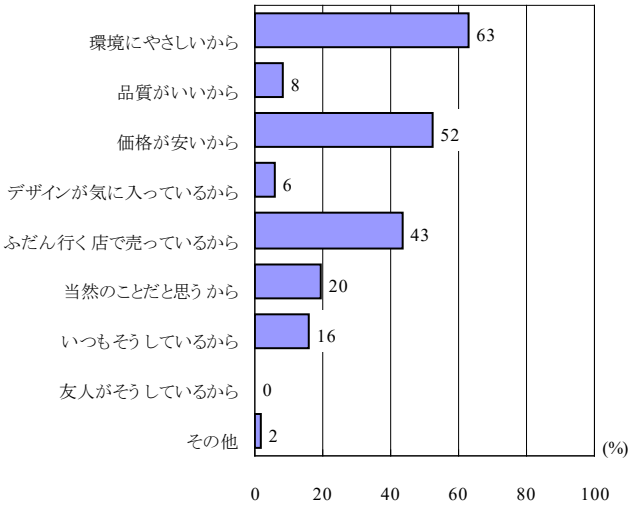


図6.6.4a　リサイクル商品購入の理由（複数回答）

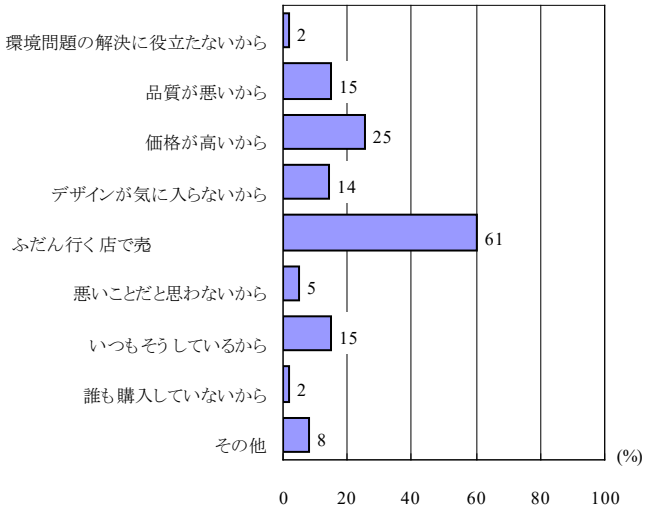


図6.6.4b　リサイクル商品未購入の理由（複数回答）

7.　地域との関わり

ここでは、回答者が地域とどのように関わっているのか、また、地域との関わりがリサイクル行動とどのような関係にあるのかについてみていく。

7.1　近所づきあい

近所の人との付き合いの程度についてみてみる（図 6.7.1)。「親しく話をする人も少しはいる」という人がもっとも多く、全体の約 40%を占めている。次いで多いのが、「挨拶をする人もいるが親しく話はしない」人で 29%となっており、「親しく話をする人が多い」人は 23%である。このことから、近所づきあいが非常に密な人はあまり多くないことがわかる。

7.2　町内会の活発度

町内会については、「少しは活発である」が 40%、「あまり活発ではない」が 25%、「非常に活発である」が約 10%となっている（図 6.7.2)。近所づきあいと同じように、活発に活動している町内会はあまり多くない。

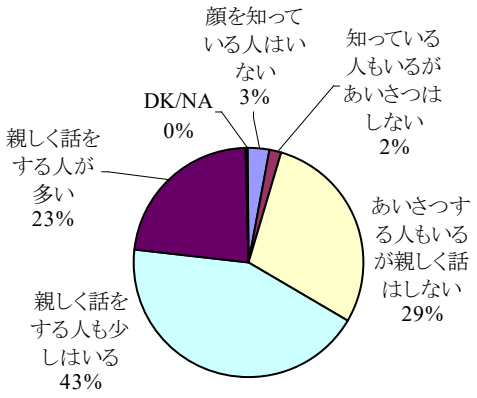


図6.7.1　近所の人

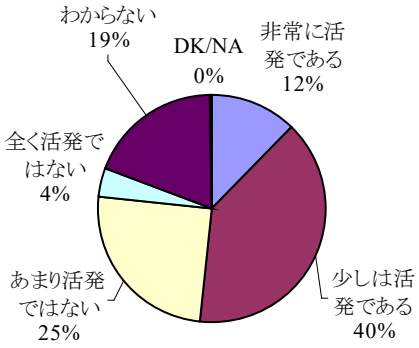


図6.7.2　町内会の活発度

7.3　地域に対する愛着

現在住んでいる地域に対してどの程度、愛着を感じているかをたずねた（図 6.7.3)。「町内」、「区」よりも「仙台市」に対して愛着を「非常に感じている」人が多い。愛着を「やや感じている」人をあわせると、現在自分の住んでいる「町内」、「区」、「市」に対しては 80%前後の人が愛着をもっている。また、愛着を感じている人ほどその地域に対する居住年数が長い傾向が見られる。

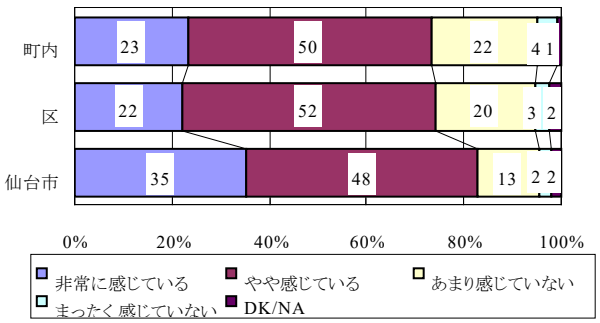


図6.7.3　現在住んでいる地域に対する愛着

7.4　配布物に対する関心

「回覧版」を「熱心に読む」人は 24%,「やや熱心に読む」人は 43%、「仙台市の広報」を「熱心に読む」人は 19%,「やや熱心に読む」人は 48%となっている。「回覧版」や「広報」が配布されない場合もあり、「回覧版」は 8%が自分の家には配布されないようである（図 6.7.4）。

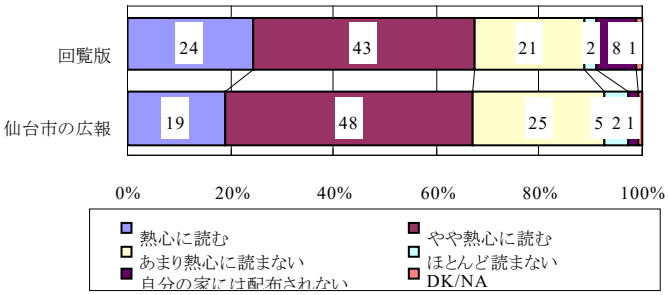


図6.7.4　配布物に対する関心

7.5　情報源

環境問題に対する知識はどこから得る場合が多いのだろうか。もっとも多かったのは「市の広報」である。次いで、「町内会の案内・回覧版」、「新聞記事」、「テレビ」が続く（図 6.7.5）。このように、環境問題に対する知識やごみ減量方法の情報源としては「市の広報」や「回覧版」がかなり利用されているが、7.4 で明らかになったように、広報や回覧版が配布されない世帯もある。

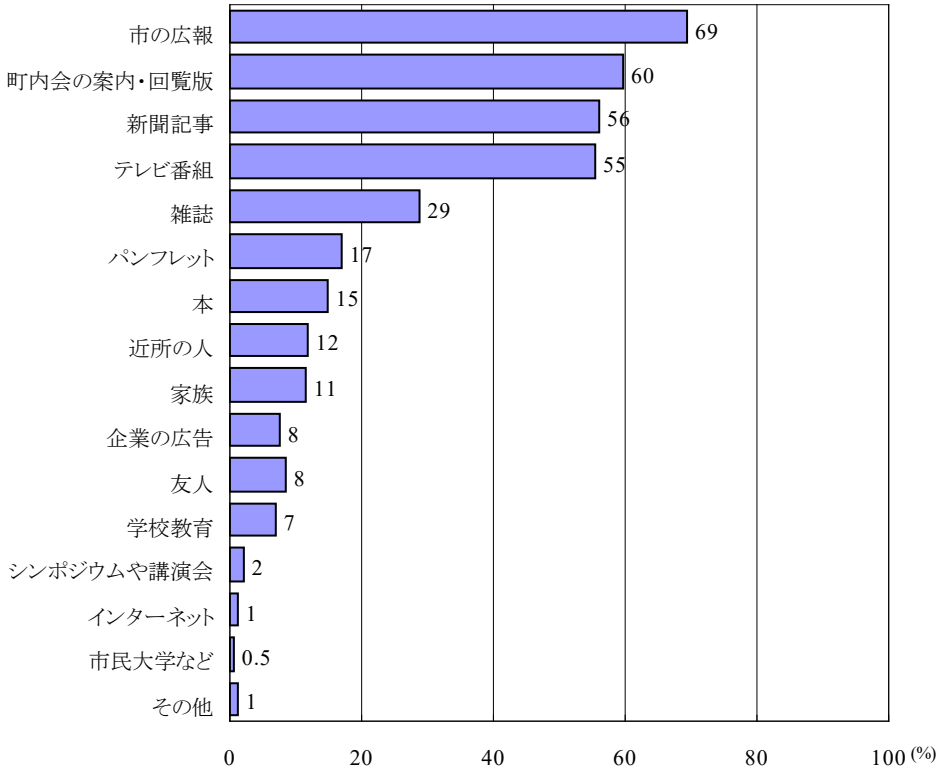


図6.7.5　ごみ問題に対する知識やごみ減量方法の情報源（複数回答）

7.6　リサイクルの実行と地域との関わり

リサイクルは行政や企業によってすすめられているが、仙台市でも、週に 1 回のビンや缶、ペットボトル等が回収されている。仙台市ではステーション方式が採択されているため、自分の家の近くのごみ集積所が利用される。ごみ集積所は隣人と共有である。したがって、町内の様子や近所づきあいがリサイクルの実行に影響を与えている可能性がある。「町内会の活発度」、「近所づきあいの程度」、「地域に対する愛着」、「配布物に対する関心の程度（広報）」によって、リサイクルの実行の程度が異なるかどうかをみてみた。ここでは、「新聞紙・古雑誌」、「牛乳パック」、「トレイ」、「ペットボトル」、「ビン・缶」、「電池（筒型）」、「衣類」のリサイクルに対して、「いつもしている」に 3 点、「ときどきしている」に 2 点、「めったにしない」に 1 点、「全くしない」「自分はしないが家族がしている」に 0 点を与え、すべての項目の点数を足したものをリサイクル実行の程度とした。

その結果、「近所づきあいの程度」、「町内会の活発度」、「地域に対する愛着」、「配布物に対する関心の程度（広報）」すべてにおいて、近所づきあいをしているほど、町内会の活動が活発であるほど、地域に対する愛着が強いほど、配布物（広報）を熟読するほど、リサイクルを実行する度合いが高いことが明らかになった（図 6.7.6a、図 6.7.6b、図 6.7.6c、図 6.7.6d）。

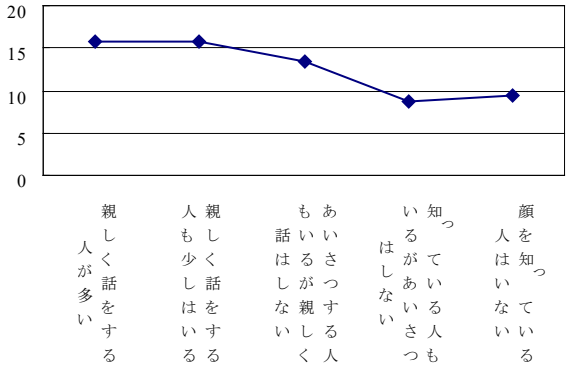


図6.7.6a　近所づきあいの程度とリサイクルの実行の程度

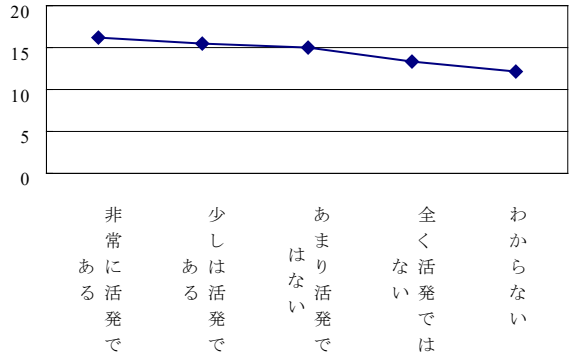


図6.7.6b　町内の活動の度合いとリサイクルの実行の程度

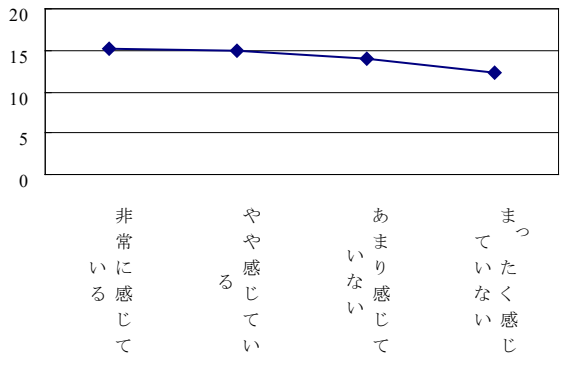


図6.7.6c　町内への愛着の度合いとリサイクルの実行の程度

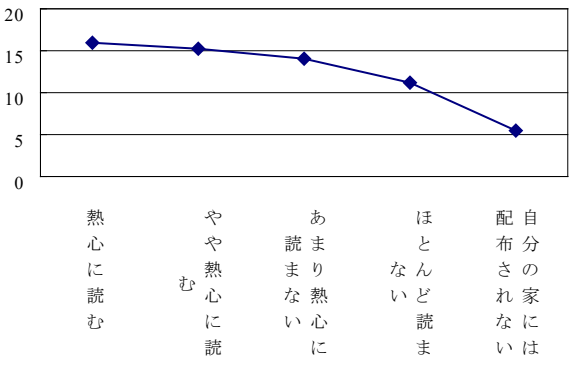


図6.7.6d　配布物（広報）の熟読の程度とリサイクルの実行の程度

8. まとめと今後の課題

本調査の目的は、リサイクル行動のメカニズムを検討することであった。最後に、本章で行った分析結果を、調査目的に即して簡単にまとめる。

まず、本調査の回答者の特性を述べる。当該世帯の家事担当者に回答をお願いしたため、回答者の 85%が女性であった。女性は 30 代から 40 代が約半数を占めているが、男性では 20 代から 30 代が 40%ほどである。就業形態をみてみると、女性回答者の 45%ほどが専業主婦であり、臨時雇用の 25%をあわせて、女性回答者の 70%ほどが主婦であると考えられる。男性は、常時雇用されている従業員がもっとも多く、約半数を占めている。

環境問題に対する関心

環境問題に対する意識をみてみると、ほとんどの人が「今の生活習慣では環境問題は深刻化する」と考えていることがわかる。また、環境配慮行動についての規範意識からもうかがえるように、80%以上の回答者が、「ごみ問題を解決するためには手間がかかっても」、あるいは「快適さを我慢しても」、「環境に配慮すべき」と考えていることがわかった。以上から、多くの人々は環境問題を深刻な問題と捉え、環境問題の一つであるごみ問題についても、解決のために環境配慮行動を行わなければならないと考えていることがわかった。

環境配慮行動の実行

ほぼ全世帯が何らかの環境配慮行動を実施している。行動別にみると、「ゴミ排出のルールを守る」、「使用しない電灯の消灯」、「油を排水に捨てない」、「ゴミ受けの取り付け」、「冷暖房の温度調節」などの環境配慮行動については、80%以上の世帯が実行していた。その一方で、「天然油脂洗剤の使用」や「コンポストの使用」、「環境家計簿」については、実施している世帯はあまり多くなかった。このように、環境配慮行動の中には実行率が高い行動と低い行動がある。それぞれの環境配慮行動が持つどのような性質がこのような実行率の差をもたらすのか、が今後の検討課題である。

リサイクル行動の実行

新聞紙、ビン・缶、ペットボトルのリサイクルは８割以上の世帯が実行している。牛乳パック、トレイ、衣類のリサイクルを実行している世帯は、５割前後である。

リサイクルの実行・不実行の理由

牛乳パック、ビン・缶のリサイクルの主な実行理由は、「ごみ問題の解決に役立つから」、「習慣となっているから」、「当然のことと思うから」であり、主な不実行理由は、「手間がかかるから」、「近くで回収していないから」、「忙しくて時間がないから」である。

「手間がかかる」、「近くで回収していない」という理由をあげている人は、牛乳パックに多い。牛乳パックのリサイクルは「切って、洗って、乾かす」必要があり、さらにスーパーが主な回収場所であるためだと考えられる。

リサイクルに伴う手間の感じ方

ビン・缶、新聞紙、衣類、牛乳パックの中では、牛乳パックがもっとも手間感が強い。また、リサイクル実行の有無によって手間の感じ方に違いが見られる。実行している場合は手間感が弱いが、実行していない場合は手間感が強い。実際にリサイクルに取り組んでみると、意外と手間を感じない、またはリサイクルが習慣化することであまり手間を感じなくなる可能性がある。

リサイクルに伴う問題点

「洗うのが大変」、「分別がわかりにくい」、「持っていくのが大変」、「ものをためておく場所がない」ことは、リサイクル実行の際にそれぞれ問題となるが、「ものをためておく場所がない」ことがもっとも大きな問題点である。リサイクルを実行していない人のほうが、各問題が障害になると考える傾向にあるが、「ものをためておく場所がない」という問題は、実行の有無による感じ方の違いはそれほど大きくない。このことから、スペースの問題は、なかなか簡単には解決できず、回収の頻度を多くするなど、スペースの問題が解消できるようなリサイクルの仕組みをつくる必要がある。

リサイクル行動と地域との関わり

回答者の地域との関わり方が、リサイクルの実行にどのような影響を及ぼしているのだろうか。ここでは、地域との関わりとして、「近所づきあいの程度」、「町内会の活発度」、「地域に対する愛着」、「市の広報の熟読度」を取りあげた。これらすべての項目において、近所づきあいをしているほど、町内会の活動が活発であるほど、地域に対する愛着が強いほど、配布物（広報）を熟読するほど、リサイクルを実行する度合いが高いことが明らかになった。

今回の調査結果から、ほとんどの人々が環境問題を深刻な問題と捉え、環境配慮行動をしなければならないと考えていることがわかった。しかし、全ての人が全ての環境配慮行動に取り組んでいるわけではない。多くの人々は、環境配慮行動を行いたいというモティベーションを持っているにもかかわらず、何らかの行動においては環境配慮行動を実行していないという状況に置かれている。本研究では、種々の環境配慮行動の中でも、ごみ問題の解決の一手段であると考えられるリサイクル行動に焦点を当て、リサイクルの実行メカニズムを検討してきた。そして、仙台市における居住年数や以前どこに住んでいたかといった属性、リサイクルに関わる意識、他者認知のような要因と、リサイクル行動との関わりについて検討してきた。今後は、リサイクル行動を阻害／促進する要因を探求するために、背後にある要因間の連関をより詳細に分析し、リサイクル実行のメカニズムを詳細に分析していく必要がある。また、リサイクル不実行の理由を分析することにより、リサイクルを促進するための政策的な提言を行うことが、今後の課題である。

第 7 章　調査資料

本調査の企画から実査・分析に至るすべての過程は、生活環境研究会で行なった。ここでは、調査を実施するに際してわれわれが用いた主な資料を盛り込んでいる。

本章は、（1）調査の日程、（2）実査の準備、（3）実査、（4）データ作成、（5）調査のお礼と結果のお知らせ、（6）調査票、（7）集計票の７つから構成される。調査の日程では、調査の企画から、実施、データの作成までの時間的な流れがわかるようになっている。実査の準備では、調査員の手引きなど、調査員の管理にかかわる資料を掲載した。実査では、調査実施に際して作成・利用した調査依頼状やお礼状などの資料である。データ作成では、コードを確定する際に用いたガイド類やデータ入力時に用いたデータ・フォームを掲載した。「調査のお礼と結果のお知らせ」は、調査終了後に回答者に送付した資料である。集計表は、基礎データとなる単純集計表と属性・社会意識との関連を見たクロス集計表を掲載している（クロス表は本報告書で使用されている主要な質問のみ）。これらの資料については、下の表に資料名や資料の特徴、その用途を記した。

この他にも、研究をすすめるにあたって実施したインタビューの記録や、予備調査の結果なども存在するが、ここでは割愛した。

資料名	表題	備考
2.1 調査員の手引き	調査員の手引き	学生調査員に対するインストラクション用の資料。
2.2 電話対応マニュアル	電話対応マニュアル	調査対象者からの問い合わせ電話に対する対応マニュアル。
2.3 調査地点の特徴	調査地点の特徴	調査地点の地理情報や交通手段の情報など。調査員の交通手段の検討に利用。
2.4 調査期間タイム・テーブル	調査期間タイム・テーブル	
2.5 回収票	回収票	調査員が携行。調査票の回収状況を記録。A4 白色。実際は、１地点２枚×30 地点であるが、ここではフォームのみを掲載。
2.6 定時連絡確認票	定時連絡確認票	実査時に調査本部で使用。調査員からの電話連絡により、各調査地点の回収状況を記入。フォームのみ掲載。

資料名	表題	備考
3.1 調査依頼状 1	調査ご協力のお願い	調査対象者に対する最初の調査依頼状。はがきに印刷。
3.2 調査依頼状 2	「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」 調査ご協力のお願い	調査票郵送時に同封。B5 版白色。
3.3 訪問票		調査票回収時に利用。調査対象の世帯が留守の場合に、調査員が連絡用に用いた。B6 版オレンジ色。
3.4 お礼状	御礼状	調査に協力いただいた方へのお礼状。調査票回収時に利用。B6 版藤色。
3.5 郵送依頼状	「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」 調査ご協力のお願い	原則として、実査の最終日に利用。調査期間中不在の世帯など、調査期間中の回収が不可能であった場合に調査票の郵送を依頼。B5 版白色。
4.1 エディティング・ガイド	エディティング・ガイド	調査期間中、調査票点検に使用。
4.2 コーディング･ガイド	コーディング･ガイド	データ・コードの確定に用いた。付録として、エディティング票のフォームを収録。B5 版白色。
4.3 データ・フォーム	データ・フォーマット	データインプット時に利用したデータ・フォーム。Microsoft Acsess を使用[1]。
5. 調査のお礼と結果のお知らせ	「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」 調査のお礼と結果のお知らせ	調査の回答者に対する調査結果の報告。報告には、速報値を用いている。
6. 調査票	「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」	B5 版クリーム色、16 ページ。

[1] Microsoft Acsess を利用した入力システムは、横尾剛 氏の卒業研究の成果である。
横尾剛，2000，『データの効率的入力システムの構築――入力フォームの作成から出力まで――』東北大大学文学部卒業論文.

1. 調査の日程

年月日	内 容
1999 年	
0507	「ごみ調査の計画」作成
0527	リサイクル商品の種類、牛乳パック・トレイのリサイクルの現状を把握するための聴き取り調査（みやぎ生協：大ゼミ）
0602	リサイクル商品の購入をテーマにした聴き取り（仙台市消費者協会：大ゼミ）
0603	リサイクル商品の種類、牛乳パック・トレイのリサイクルの現状を把握するための聴き取り（西友仙台長町店（ザ・モール）：大ゼミ）
0707-08	リサイクル商品の購入をテーマとした調査（大ゼミ）の実施
0802	「ごみ調査スケジュール」作成
0821	リサイクル商品に関する調査報告書の作成
0822-28	リサイクルの実行に関する予備調査（15 人を対象）
0917	企画書作成
0918-1011	本調査のテーマの先行研究のまとめ
1012-1115	調査票案（1）の作成
1118	調査票案（1）の改訂のための話し合い
1119	調査票案（2）の作成
1125	仙台市へのインタビューのための質問等をＦＡＸで送信
1125	仙台市環境局廃棄物事業部リサイクル推進課（以下、仙台市環境局と省略）との話し合い（第１回） 調査に関する計画 仙台のごみ行政についてのインタビュー 仙台市のごみ集積所の特徴などに関する調査を依頼 調査票案（2）を手渡す 仙台市環境局より協力の内諾を得る 仙台市環境局の調査要望項目（1）を伺う
1125-1209	調査票案（3）の作成
1210	仙台市環境局の調査要望項目（1）を含めた調査票案（3）を郵送
1210	仙台市環境局との話し合い（第２回） 仙台市のごみ集積所がどの程度きれいなのかなど、各地域のごみ集積所調査結果をいただく 調査票案（3）へのコメント サンプリング案は、案が出来次第、仙台市に連絡する
1210	仙台市環境局の調査要望項目（2）を伺う
1221	サンプリング案に関する話し合い（1）
1999 年	
1227	仙台市環境局にサンプリング案と仙台市環境局の調査要望項目（2）を含めた調査票案（4）をＦＡＸで送信する
1228	予備調査票用の調査票を作成
1228	予備調査の実施
2000 年	
0104	予備調査の実施
0105	予備調査の反省と調査票の改訂に関する話し合い 仙台市役所に「仙台市指定ごみ袋」に関する問い合わせ
0107	朝日新聞八幡町販売所に粗品に関する問い合わせ
0108	粗品のごみ袋の取り扱い業者（サンプレス（本社東京））から連絡 ５枚１組で 1200 セット届けてもらうことになる
0108	最終調査項目決定

年月日	内 容
2000 年	
0110	調査票案（5）の作成
0111	仙台市との話しあい（第３回） 調査票案（5）に対するコメントとサンプリングについて 情報システム課との交渉を依頼
0112	粗品に関する業者から確認の電話 0120 に 1200 セット配送決定 代金は銀行振込
0113	仙台市環境局よりサンプリングに関する電話をいただく 情報システム課の現状、可能なサンプリングについて伺う
0113	情報システム課で実行可能なサンプリング方法をふまえたサンプリング案を作成 調査票案（6）を作成
0114	仙台市との話し合い（第４回） サンプリング最終決定 調査票案（6）のコメントをもらう 仙台市の調査要望項目を最終確認 今後の予定を確認
0117	調査票の完成
0117	調査票を印刷所（プリントコープ）へ入稿
0119	研究室から仙台市に対するデータ供与依頼書を仙台市に届ける 調査票の完成版を手渡す。
0120	粗品のごみ袋が 1200 セット届く
0123	調査票の封筒詰め
0124	プリントコープから調査票・お願い状・訪問票・お礼状・お願いハガキの完成版を受け取る
0126	タックシールと調査票印刷版を仙台市に届ける
0128	タックシール印刷版・名簿原版を仙台市から受け取る 仙台市との間に「『ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査』における情報の提供に関する協定書」を交わし、情報提供の際に必要な事項を定めた
0128	調査員の確定と調査担当地区の確定
0128	対象者への調査依頼のはがきの発送
0130	住宅地図の作成
0131	調査対象者宛に調査票を発送
0207-08	調査員インストラクション
0209	調査員の保険加入
0212-14	調査票回収（本調査実施）
0215-17	エディティング（調査票の点検、編集） データ・フォームの作成
0304	コーディング打ち合わせ
0306-08	コーディング
0313-23	データインプット
0324	「速報案作成」
0413	「調査のお礼と結果のお知らせ（速報）」を印刷所へ入稿
0417	「調査のお礼と結果のお知らせ（速報）」を仙台市に送付
0424	「調査のお礼と結果のお知らせ（速報）」完成
0426	「調査のお礼と結果のお知らせ（速報）」を対象者へ発送

2. 実査準備

2.1 調査員の手引き

ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査
調査員の手引き

目次

1. 調査の概要……2
1.1　調査の目的
1.2　調査の体制と調査員の位置づけ
1.3　調査対象
1.4　調査票について
2. 調査員の仕事……3
2.1　仕事の概要
2.2　項目の種類と疑問への答え方
2.3　回収期間
2.4　回収の日程
2.5　経過報告・最終報告
2.6　毎日の定時連絡
2.7　現地までの経路と交通費
3. 調査不能への対応……8
3.1　死亡、移転などによる場合
3.2　サンプルの不協力による場合
4. その他……9
4.1　調査員の携行品
4.2　特に注意していただきたいこと
4.3　緊急時の連絡
5.回収票記入例……10
6. 調査回収の手順……11

2000年2月

生活環境研究会
連絡先　東北大学文学部行動科学研究室内
代表　海野道郎（東北大学文学部教授）
所在　〒980-8576　仙台市青葉区川内
TEL　022-217-6037
FAX　022-217-5972
担当　篠木・荒井・半澤

1. 調査の概要

1.1　調査の目的

環境問題の解決は社会の最重要課題の一つである。なぜなら、環境問題が解決できるかどうかに社会の存立がかかっているからである。中でも、われわれの日常生活によって生じるごみ問題は、個人の行動や社会の仕組みがとくに密接に関わっている典型的な事例である。ごみ問題は、最終ごみ処分場の確保のみならず、中間処理施設の建設の問題といった、ごみの処分に関る政策に大きく関っている。そして、この問題は基本的に、行政、企業、消費者それぞれのごみに対する姿勢を問いなおす問題でもある。

環境問題に対する社会科学の関わり方には、さまざまなものが考えられる。ごみ問題の場合には、特に、個人の行為と社会的結果との矛盾した関係が重要な焦点となる。たとえば、一人ひとりにとってはごみの分別などしない方が楽だが、そのような行動が集まると社会的に大きな問題が生じ（ダイオキシン汚染、ごみ処分場の不足など）、それが巡りめぐって当の個人にも損害を生じさせる。このような状況は、「社会的ジレンマ」と呼ばれ、社会科学の重要な研究対象である。ごみ問題は、この社会的ジレンマの構造をもっており、社会的に解決を迫られていると同時に、社会科学的にも重要な問題である。

われわれ生活環境研究会（東北大学文学部行動科学研究室内）は、ここ十数年来、社会的ジレンマという観点からごみ問題に取り組み、仙台市やみやぎ生協と協力して調査研究を行ってきた。そして今回、これまでの蓄積を踏まえ、仙台市環境局廃棄物事業部リサイクル推進課の協力を得て、仙台市民を対象とする「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」を企画した。この調査の主な目的は、ごみ問題を解決する一手段であるリサイクルに特に焦点を当て、リサイクル行動を促進させるためには何が必要かを探究していくことである。そのために、①リサイクルに対する市民のとりくみの現状とそれに対する意識を把握し、②リサイクル不実行の理由の特定し、③いかなる要因がリサイクル行動を促進するのかといった条件を明らかにしたいと考えている。

1.2　調査の体制と調査員の位置づけ

・調査主体：生活環境研究会（東北大学文学部行動科学研究室を中心とした研究グループ）

代　　表：海野道郎（東北大学文学部教授）
調査幹事：篠木幹子（大学院博士後期課程）
調査委員：荒井貴子（大学院博士前期課程）
　　半澤太一（大学院博士前期課程）
会　　員：松野隆則、小松洋、土場学、村瀬洋一、阿部晃士、中原洪二郎、中野康人

・調査資金：文部科学研究費
研究代表者氏名 海野道郎
基盤研究(C)、研究番号 10610139
研究課題名 リサイクル行動の計量社会学的研究―合理的選択理論を基盤として―
（ただし、研究費の受給に際して、調査内容に関する制約は一切受けておらず、内容に関する責任はすべて生活環境研究会にある。）

・調査員の位置づけ：調査員として雇用されている期間は、**生活環境研究会の代表として対象者と接することになる**。我々は、対象者の方々に、調査にご協力いただけないかと「お願い」する立場にある。調査員である皆さんも対象者に対して失礼のないように対応してほしい。また、調査の成否は調査票の回収率に大きく依存する。この調査が成功するかどうかは調査員の皆さんの肩にかかっている。3日間で、できるだけすべての調査票を回収できるように努力してほしい。

1.3　調査対象

・調査の対象者は、**仙台市の住民基本台帳**からくじ引きのような方法（無作為抽出）で選ばれた、1200世帯である。この抽出には仙台市の協力を得た。具体的には、仙台市内122の小学校区のうち、30校区を選び、さらに各校区ごとに40世帯を選んだ。

・調査票に記入をお願いするのは、1人世帯では当然ながら本人だが、2人以上の世帯では、原則として**家事を主に担当している方**（ごみを捨てたりしている方：主婦の方が多いと考えられる）となる。

・調査票の宛名は乳幼児から寝たきりの老人まで含まれている。これは、サンプリングの制約上生じたことである。宛名について何か聞かれたら、「データ管理等の問題で、特定の人を指定した抽出ができず、いろいろな人を含めた形になってしまったが、尋ねたいのは世帯の状況である」、「仙台市の協力を得て、抽出を行ったが、調査の責任は生活環境研究会にある」、「何か、質問やご意見等がある場合、こちらから連絡するので、連絡方法（電話番号等）を教えてほしい」といったことを伝える。また、「データの保護には十分に気を付け、情報が外に漏れることは決してない」ことも、あわせて伝える。

・家事の主な担当者が旅行などのため記入できないときは、他の家族の方に記入をお願いする。判断に困る場合は、研究会まで連絡して指示を仰ぐこと。

1.4　調査票について（調査票を参照）

内容：調査票には、次のような項目が含まれている。

- リサイクル、その他の環境配慮行動の実行度
- リサイクルの実行、不実行の理由
- 環境問題に対する意識
- 態度項目（公平感、階層帰属意識など）
- 基本属性（性別、年齢、職業など）

2. 調査員の仕事

2.1　仕事の概要

上述のようにして選ばれた各世帯には、すでに調査協力の依頼のハガキを送ってあり、調査票および「調査協力のお願い」も２月１日づけで郵送してある。調査員の皆さんには、**各世帯に出向いて、調査票を回収**していただくことになる。具体的には、以下の①～⑧が主な仕事となる。

①現地に出向き、対象世帯の所在を確かめ、訪問する。

②対象世帯が留守だった場合は、「訪問票」を置き、再訪問する。午前中・お昼頃・午後・夕方など時間帯を変えて、１日に可能な限り何度も訪問すること。

→ただし、今回の調査地域は、非常に範囲が広いので、なかなか何度も訪問ができないと思われる。ただ、何度もまわる努力はして欲しい。

③対象世帯の方がまだ回答を記入していなかった場合は、記入をお願いし、回収の日時・方法を相談して決め、再訪問する。１つの地区を複数の調査員が担当する場合は、特に注意する。

④調査票を回収し、回答者に「記入もれがないかどうかを、点検させていただいてよろしいでしょうか」と断ってから点検する。おおまかにみて記入もれがなければ、**礼を述べ、粗品を渡す**。また、調査票に関する感想などが聞ける場合は、聞いてから退出する。

→ただし、「答えられる項目しか答えない」と事前に連絡をいただいている対象者については、記入漏れの点検は行わない。このような対象者に関しては、回収票の備考の欄に記入してあるので、特に注意してほしい。

⑤退出後、もう一度記入もれがないかどうか細かく確認し、記入もれがあれば再び記入をお願いに行く。

⑥記入もれがないことを確認した後、調査票の表紙右上に**鉛筆でサンプル番号を付ける**（サンプル番号は、**対象者リストの横に記入してある【地点番号＋対象者番号】**）。

⑦回収した日時を、対象者リスト（回収票）の「経過」の欄に記入する。

⑧記入済みの調査票を郵送して返却してくださった対象者が何人かいる（回収票に明示）。そのような世帯も訪問し、粗品と御礼状と郵便代（切手）を渡して礼を述べる。もし留守の場合には、粗品と御礼状と郵便代（切手）をポストに入れておく。

→**最終日までに一度も接触が出来なかった対象者に対しては、その対象者全員の家のポストに、お願い状、切手、返信用封筒、御礼状、粗品を入れる**。

⑨回収した調査票を研究会に届け、点検を受ける。

2.2　項目の種類と疑問への答え方

回収などの時に、回答者から、個々の項目についての疑問が出ることが考えられる。そのときには次のように対応する。

・事実についての項目：回答者が分かるように説明する

・意見や態度についての項目：説明や解説をしてはならない。ただし、難しい文字を読むだけならよい。（「教えてやる」という態度をとってはならない。わかりにくい質問を作ったのは、研究会側の責任である。）

回答欄の決まり（回収の際には、次の点に留意して点検する）

・１重枠の中の答え：１つ選んで番号に○印をつける

・２重枠の中の答え：いくつでも選んで番号に○印をつける

・破線枠：回答欄ではない

※予想される質問に対する対応の仕方については、「3.2　サンプルの非協力の場合」を参照する。

2.3　回収期間

２月１２日（土）－２月１４日（月）

原則として3日間、9時から19時位までフルに利用して回収すること（研究会にあらかじめ調査時間を連絡している人は除く）。回答者の都合でそれ以外の時間に訪問する必要が生じた場合には、研究会に連絡する。3日間ですべての調査票を回収できるように努力すること。調査員の努力不足によって回収できない調査票が生じた場合には、15日以降に回収してもらう場合もある。

2.4　回収の日程

回収期間も限られているので、基本的に以下のような日程で行動すること。

調査前日まで

・対象者リストと地図を見て、訪問する対象者の家を確認し、地図上にマークをつけておく。特に**回収時間を指定している対象者については訪問時間を厳守する**。

・これまでの調査と異なり、調査範囲が非常に広い。そこで、配布された地図を見て、効率のよい訪問順序を考える。特に、クルマを利用するグループは、まわり方や連絡方法、連絡時間などをあらかじめ相談しておく。また、このグループは車を運転する調査員の電話番号（運転担当者は全員携帯所持）は必ず控えておく。

・それ以外で、どのように訪問すればよいかわからない場合は、研究会に相談する。

・**調査票およびこの手引きをよく読んで理解しておく**。

2月12日（土）

対象世帯のすべてを訪問する。

・現地に着いたらすぐに、現地に着いたことを研究会に電話連絡する。携帯電話の所有者は、自分の電話を利用してもかまわない。携帯電話をもっていない人は、公衆電話で連絡すること。

・昼の間に対象範囲の地理をのみこみ、訪問が夜になっても困らないようにする。

・対象世帯の所在が分からない場合は、早めに近所の商店や交番などで確かめる。

・訪問した世帯で、調査票に回答が記入してあった場合は礼を述べて回収し、粗品を渡す。まだ記入してなかった場合は調査の趣旨を説明した上で記入をお願いし、回収の日時と方法を相談する。訪問した世帯が不在だった場合は、訪問票を置いてくる。不在だが、記入済みの調査票が玄関先などに置いてあった場合には、御礼状と粗品を置いていく。

　→ただし、週末の朝なので、午前中は寝ている人もいるかもしれない。対象者に不快感を与えないよう、そのような家はあとにするなど、工夫をすること。

・正午から14時半の間の指定された時間に研究会に電話で定時連絡をする。

・全ての世帯を訪問し終わった後（不在だった世帯は19時になるまで何度か訪問する）、これから戻る旨を研究会に電話連絡する。

・研究会に戻って経過報告をする。

2月13日（日）

・前日に不在だった世帯および訪問し残した世帯があれば訪問する。

・回収の約束がある場合には忘れずに訪問すること。

・１日３回の電話連絡は初日と同じ。

2月14日（月）

・すべての対象世帯から調査票を回収できるよう努力する。
・調査票を回収できない場合には、その理由（転居・拒否など）を確認する。
・約束の日時に調査票を受け取れなかった場合には、何回か訪問を繰り返し調査票を受け取ってくること。
・１日３回の電話連絡は初日と同じ。

2.5　経過報告・最終報告

毎日の回収の成果を、原則としてその日の夜に、研究会に来て報告する。やむを得ない事情で不可能な場合には、必ず研究会に電話連絡し、次の日の朝に研究会に来て報告する。なお、すでに回収した調査票を必ず持参すること。

＊報告事項

1. 回収済みの調査票の点検
2. 調査不能世帯について
3. 交通費の使用状況について

経過報告１

2月12日（土）午後6時～午後9時までの間、または2月13日（日）午前8時～午前10時までの間の、適当な時間を選んで来室すること。

経過報告２

2月13日（日）午後6時～午後9時までの間、または2月14日（月）午前8時～午前10時までの間の、適当な時間を選んで来室すること。

最終報告

2月14日（月）午後6時～午後9時までの間、または2月15日（火）午前8時～午後10時までの間の、適当な時間を選んで来室すること。

2.6　毎日の定時連絡

原則として、朝現地に着いたときと、夕方現地を離れるときに研究会に連絡をいれる。また対象者からの伝達事項など、研究会から調査員への連絡が必要になる場合があるので、現地に着いた時と研究会に戻る時の電話連絡以外に、毎日正午から14:30の間の指定された時間に必ず１度は研究会に電話連絡（022-217-6037）すること。その他、困ったことが生じたらいつでも電話連絡する。なお、30人の調査員からの電話を受けなければならないので、簡潔な連絡をするように。ただし、調査本部からメッセージがある場合もあるので、研究会側の応答を確認してから切ること。

例：朝－「○○地区担当の××です。今現地に着きました。」
　　昼－「○○地区担当の××です。30世帯のうち△△世帯をまわり、□□票回収しました。」
　　夕方－「○○地区担当の××です。今から研究会に戻ります。」

昼の連絡時間：地区番号　01-10　12:00-12:30
11-20　12:30-13:00
21-30　13:00-13:30

2.7　現地までの経路と交通費

調査前の交通費支給は行わない。利用した経路と交通費をメモしておき、研究室での経過報告時に正直に、報告すること。交通費の利用状況によっては、交通費の一部を支給する可能性がある。

(1) 自動車を使用するグループ

自動車	運転	同乗者	悪天候同乗者
(1)	丹野	眞田	福富
(2)	猪田	宗形・佐藤	荒井
(3)	李		
(4)	井出／黒沢		高井・山本・田子
(5)	半澤	佐野	
(6)	山本	中川（達）	
(7)	蟹沢	大武	

＊天候が悪いときに、車に同乗しないで自分でまわる場合は、運転担当者にその旨を連絡すること。
＊自動車（4）は、12日は井出、13-14日は黒沢が担当。

(2) 自動車による担当地域のまわり方

どのように担当地区をまわるかは、基本的には、各グループにまかせる。ただし、初日は全地区をひとまず回ってほしいので、効率良く自動車を使うことを望む。運転担当者は必ず携帯電話をもつこと。また、同乗者は必ず連絡先の番号を控えておくこと。控えを無くした場合、また電話番号がわからない場合は、行動科学研究室（217-6037）に電話をして、運転担当者の電話番号を確認する。

方法　運転担当者に担当地域まで乗せてもらい、そこから歩いていける範囲は歩いて回る。担当地区内をバスで移動できる場合は、バスを利用する。お昼ごはんや休憩時間等に運転担当者と待ち合わせをし、歩いていくには遠く、バスも利用できない地区まで送ってもらう。

これまでの調査と異なり、担当地域が非常に広い範囲になっているのが今回の調査の特徴である。通常、調査は公共交通機関の利用しか認めておらず、自転車・原付きの使用も制限されているが、今回は保険などでカバーすることで、自動車・原付き・自転車の利用も可能とした。効率良く、担当地域を回るために、各自でいろいろと工夫してほしい。ただし、**事故には十分注意を払うこと**。また、天候不順のため、移動手段が無くなった場合などは、本部に連絡をして、指示を待つこと。

３．調査不能への対応

対象世帯が、移転などのいろいろな理由で調査できないことがある。このようなやむを得ない理由で調査不能となる場合は、このこと自体が大切なデータであるから、**調査不能の理由を、回収票にできるだけ詳しく記入**しておく。

3.1　移転などによる場合

対象世帯の移転などによる調査不能については、以下のように対応する。

①移転：仙台市内の移転の場合は、近所で移転先の住所を詳しく聞き、対象者リストに記入する。

②該当者なし：サンプル名簿に記入した住所（番地）のどの家に行ってもその名前の世帯が存在しないようなとき。交番などでよく確かめること。

③住所不明（尋ね当たらず）：サンプル名簿に記入した住所が見つからないようなとき。通称で調べるとすぐ分かることもあるので、該当住所の所在が不明のときは、早めに交番などに問い合わせるのがよい。飛番地になっていたり、番地がよく整備されていないときは特に注意すること。

→すでに住所不明・移転等がわかっている対象者は、まわらなくてよい。回収票の備考の欄に記入してあるので、注意すること。

その他、何回行っても留守（不在）だったり、調査に応じてくれない（拒否）場合がある。判断が難しい場合には、必ず研究会に連絡して指示を仰ぐ。しかし、調査員の努力不足による調査不能が多いような場合は、調査の結果の精度に関わることであるから、訪問を繰り返したり、時間を約束したりして調査できるように努めること。また、商店などの人や仕事中で手が離せない人を調査する場合は、手すきの時間や閉店時間などを聞いて再訪問する。

3.2　サンプルの非協力による場合

対象者が調査への協力を拒否しようとするときには、「調査ご協力のお願い」の趣旨を繰り返し、必要があれば次のようなことをつけ加える。

①対象世帯の選び方について：「住民票（住民基本台帳）の上でクジ引きをおこない、対象世帯を決めました。特別の理由があって、お宅を選んだのではありません。」

②プライバシーについて：「この調査は統計調査ですから、どのような意見の人が何％くらいいるか、世帯の人数によって意見が違うかどうか、住んでいる場所によって意見が違うかどうか、などということを、統計表の数字の上で発表するだけです。したがって、お宅（対象世帯）の名前は絶対に公表しませんし、他人にも見せません。」

③仙台市との関係：「問題の性質上、ごみ問題に関する情報の提供など、仙台市環境局にも協力していただいています。しかし、調査自体は、**生活環境研究会が自主的に企画して行っている調査です**。」

④**松森焼却場建設問題との関係**：「この調査の目的は、あくまでごみ問題、とくにリサイクルに関するみなさまの行動や態度を明らかにすることであり、松森の問題とはいっさい関係ありません。調査票をごらんいただければ、ごみ問題の中でもとくにリサイクルに焦点を当てていること、焼却施設に関する質問は含まれていないことがおわかりいただけると思います。」

⑤結果の利用：「調査に協力していただいた方々には、結果の概略を速報として４月中にお知らせします。」その後のことを尋ねられたら、「その後、新聞発表、報告書の作成と公表をするとともに、研究会の貴重な資料として、学会報告や論文執筆など学術的に利用させて頂きます。」

⑥その他：「他に適当な家がある」と言われたときは、「そのようなお宅ばかりの意見を聞いたのでは、全体の様子が分からないから、**いろいろな家庭の意見を聞く必要がある**のです」と答える。

⑦いくら説明しても主旨を理解してもらえない時は、質問票の表紙の問い合わせ先に尋ねてもらうよう頼む。

生活環境研究会
連絡先　東北大学文学部行動科学研究室内
TEL: 022-217-6037

【お願い】

調査の内容に対する不満、調査票の送付方法や対象者の抽出方法に対する不満など、対象者からさまざまなクレームをいわれる場合があると思います。それは、研究会の不手際であり、調査員の皆さんのせいではありません。しかし、冒頭での述べたように、調査員は研究会のメンバーとして考えられてしまう事も事実です。大変申し訳ないのですが、そのような場合は、分かる範囲でかまわないので、誠心誠意、調査の趣旨や回収方法を説明していただけると大変ありがたく思います。とくに、回収方法については、留守する場合はポスト等に調査票を入れていただいてもかまわない、ということも伝えてください。それでも、なおクレームがつく場合は、生活環境研究会の本部から連絡することを伝え、連絡先（電話番号等）を聞いて下さい。その場合は、研究会にその件についてなるべく早く報告してください。

４．その他

4.1　調査員の携行品

①調査票予備（2部）
②「調査ご協力のお願い」（5部）
③対象者リスト・回収票（1部）
④対象範囲の住宅地図（1部）
⑤訪問票（40枚）
⑥御礼状（40枚）
⑦粗品（ごみ袋40パック）
⑧調査員の手引

→ 研究会で用意したものを持参する

⑨学生証
⑩10円玉（カードの使えない公衆電話用）
⑪筆記具（鉛筆、消しゴム、メモ用紙など）
⑫雨具

→ 各自で用意する

4.2　特に注意すべきこと

①秘密保持：調査対象者の回答を他の人に見せたり、話したりは絶対にしない。調査員同士で回収票や対象者リストを見せ合ったり、対象者のプライバシーに関わる話をすることも避ける。また、対象者リストは対象者にも見せないように気を付ける（対象者リストは調査終了後、仙台市に返却する予定なので、汚してもかまいませんが、**決してなくさないでください**）。

②丁重な態度：調査に協力していただくということを忘れずに。また、対象者の方からクレームを言われた場合も、激怒したりせず、冷静に対応してください。

③交通手段：調査地までの交通機関は何を利用してもかまわないが、事前に報告すること。移動中に万が一事故が起きた場合は、基本的には学生教育研究災害障害保険で保証する。ただし、**事故にはくれぐれも注意すること**。

4.3　緊急時の連絡

何か問題が生じたときには、生活環境研究会（電話：217-6037）に連絡する。朝の８時から夜の９時ぐらいまでは、担当者が詰めている。この時間外（夜の９時から朝の８時まで）にどうしても連絡しなければならないことが起きた場合には、下記のいずれか（基本的には篠木）に連絡すること。

◎　篠木幹子（自宅）　　022-***-****　(090-****-****)
　　荒井貴子（PHS）　　070-****-****
　　半澤太一（自宅）　　022-***-****（070-****-****)

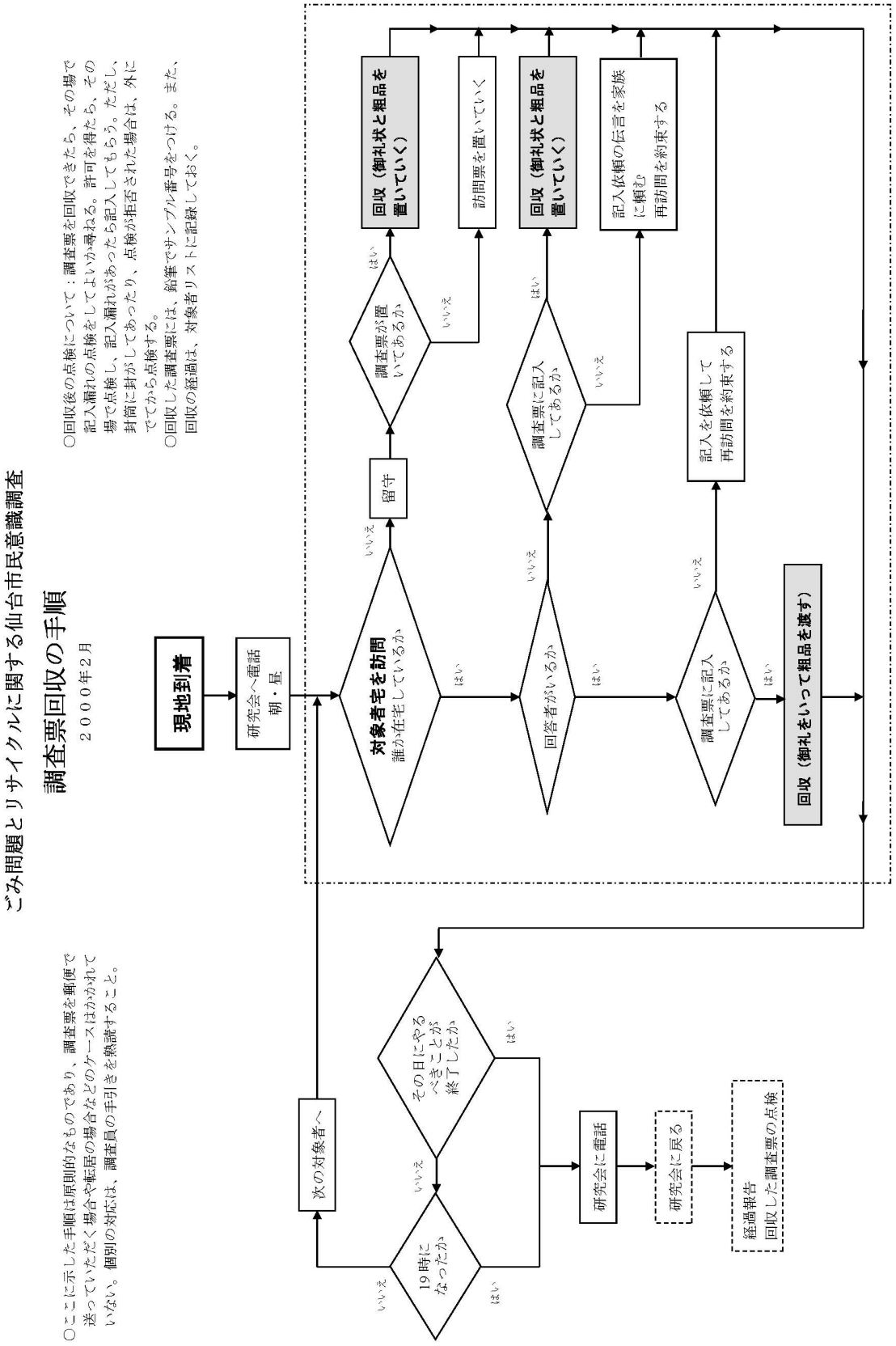
5.回収票記入例

例：・対象者が在宅で調査票が回収できた場合　→　在宅・回収
　　・対象者が留守で記入済みの調査票が置いてあった場合　→　ポスト・回収
　　・対象者が在宅であったが、調査票に未記入で再訪問を約束した場合　→　在宅・再訪問
　　・対象者が留守であったが、家族の者がいて記入の依頼をして再訪問の約束をした場合　→　不在・再訪問
　　・対象者宅にだれもいなかった場合　→　不在
　　・調査拒否・転居・調査不能など　→　事情を詳しく書く
　　※書き方はそれぞれの判断に任せる。分かりやすく記入してほしい。

例：回収票

	12日（土）	13日（日）	14日（月）	15日以降	備考
1001	不在（10:00、15:00,18:00）	在宅・再訪問（9:40）	ポスト・回収（11：30）		
1002	在宅・回収（10:30）				
1003	ポスト・回収（10:50）				ポスト回収・チャイムは鳴らさない
1004	不在（11:00、16:00,18:30）	不在（10:00、15:00,18:00）	在宅・再訪問（16：40）	2月17日18：00に訪問を約束	
1005	不在（11:30、16:30,19:30）	不在（10:30、15:30,18:30）	不在（10:00、15:00,18:00）		最終日にポストに封筒・切手をいれた

６．調査回収の手順


ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査
調査票回収の手順
２０００年２月
○ここに示した手順は原則的なものであり、調査票を郵便で送っていただく場合や転居の場合などのケースはかかれていない。個別の対応は、調査員の手引きを熟読すること。
○回収後の点検について：調査票を回収できたら、その場で記入漏れの点検をしてよいか尋ねる。許可を得たら、その場で点検し、記入漏れがあったら記入してもらう。ただし、封筒に封がしてあったり、点検が拒否された場合は、外にでてから点検する。
○回収した調査票には、鉛筆でサンプル番号をつける。また、回収の経過は、対象者リストに記録しておく。
現地到着
研究会へ電話
朝・昼
対象者宅を訪問
誰か在宅しているか
はい
いいえ
留守
調査票が置いてあるか
はい
いいえ
訪問票を置いていく
回収（御礼状と粗品を置いていく）
回答者がいるか
はい
いいえ
調査票に記入してあるか
はい
いいえ
回収（御礼状と粗品を置いていく）
記入依頼の伝言を家族に頼む
再訪問を約束する
調査票に記入してあるか
はい
いいえ
記入を依頼して再訪問を約束する
回収（御礼をいって粗品を渡す）
次の対象者へ
その日にやるべきことが終了したか
はい
いいえ
19時になったか
はい
いいえ
研究会に電話
研究会に戻る
経過報告
回収した調査票の点検

2.2 電話対応マニュアル

GOMI 調査 2000　電話対応マニュアル

担当者が電話を取った場合
【調査員手引きを熟読しておくこと】

↓

1．**担当**である旨を伝える

↓

2．電話をかけてきた人の**名前・住所**を伺う

↓

3．問い合わせの内容を伺う

・「調査に協力できない」

→「差し支えなければ、理由をお伺い出来ますでしょうか」

・「どうやって住所を調べたのか」

→「住民基本台帳をもとにしております。その際、仙台市にもご協力いただきました。情報の管理には、十分注意いたします」

・「どのようにして自分を選んだのか」

→「仙台市の全人口を対象に、その中からくじ引きのような方法で、1200 人を選びました。」

・「なぜ、子供（老人）の宛名なのか」

→「仙台市の全人口を対象に、その中からくじ引きのような方法で、1200 人を選びました。そのため、宛名は乳幼児を含めて、ご自身では回答しにくい方も含まれてしまいました。しかし、お伺いしたいのは、世帯の状況です。アンケートでは、お宅で主に家事を担当していらっしゃるかたに、ご記入をお願いしたいと考えております。」

↓

4．理由によって対応を考える

・「その日は留守にしている」

→「事前にご記入いただいて、ポストなど目立つところにおいていただければ結構です。」

・「体調が悪い」

→「もし、体調が回復されましたら、アンケート用紙にご記入ください。だめな場合は、調査員が当日お伺いした際に、その旨をお伝えください。」

・「家に来られて調査されては困る」（面接調査と勘違いしているとき）

→「この調査は面接調査ではありません。ご自分で事前にご記入いただく方法になっております。また、当日はポストなど目立つところに調査票を置いていただいても結構です」

担当者以外の人が電話を取った場合

↓

1．**担当者：篠木・荒井・半澤を探す**

↓

2．担当者がいた場合は、電話を交代する

↓

3．**担当者がいなかった場合**

「担当者が戻り次第、ご連絡申し上げます」

「**電話番号**をお伺いしてもよろしいでしょうか」といって、電話番号をメモする。

相手が**電話番号をいうのを拒否した場合**は、問い合わせの**内容をメモ**し、担当者にあとで伝える。

→ただし、この方法だと、調査時のフォローが難しくなるので、**できるだけ連絡手段を聞いてください**。

→その他、何か聞かれて答えられる場合は、左欄を参照して、答えてください。

・相手が調査方法を勘違いしている場合もあるので、趣旨を説明して、可能なかぎり説得する。
・また、判断に迷う場合は、相談し、のちほど連絡するなどの方法をとる。
・その場合は、**連絡先**を聞いておく。
・電話を受けたあとは、**「電話による問い合わせ」**にその内容を記録する。

No.	小学校区名	地点情報	公共交通機関のアクセス・ポイント	可能な交通手段	利用交通手段	
					手段（晴れ）	手段（天候悪）
1	片平	青葉区：東北大学片平キャンパス周辺		徒歩・自転車	自転車	自転車・バス・徒歩
2	連坊小路	若林区：仙台駅東口側。仙台一校、第二女子高周辺		バス・徒歩・自転車	自転車	自転車・バス・徒歩
3	原町	宮城野区：仙石線沿い	仙石線原町駅	JRバス・自転車も可能	自転車	自転車・仙石線・バス・徒歩
4	北六番丁	青葉区：上杉〜宮町	仙山線東照宮駅	JRバス・自転車	自転車	自転車・地下鉄・バス・徒歩
5	西多賀	太白区：国道 286 号線沿い		バス・原付・車	原付き	自動車（2）
6	六郷	若林区:国道 4 号線よりも東側。陸上自衛隊霞目飛行場近く		車	車（1）	
7	高砂	宮城野区：国道 45 号線・仙石線沿い	仙石線福田駅・陸前高砂駅	JRバス・車	自転車（自宅から）	バス・徒歩
8	東長町	太白区：郡山。旧 4 号線と 4 号線バイパスの間	東北本線長町駅	JR・バス・車・自転車	車（2）	
9	若林	若林区：4 号線バイパス沿い	地下鉄長町一丁目	地下鉄・バス・自転車	車（1）	
10	国見	青葉区：東北福祉大周辺		バス・自転車・徒歩	原付き	自動車（4）
11	生出	太白区：仙台南 IC・茂庭台の近く・国道 286 号線沿い			車（3）	
12	鹿野	太白区：国道 286 号線沿い		車	原付き	バス・徒歩
13	台原	青葉区：仙台泉線沿い		バス・原付・自転車	原付き	地下鉄・徒歩
14	中山	青葉区：新巻セントラルプラザ近く	地下鉄台原駅	地下鉄・バス・自転車	自転車	自動車（4）
15	大和	若林区：バイパス沿い		バス・自転車・原付	自転車	自動車（1）・自転車・バス

No.	小学校区名	地点情報	公共交通機関のアクセス・ポイント	可能な交通手段	利用交通手段	
					手段（晴れ）	手段（天候悪）
16	燕沢	宮城野区：石巻街道と国道４号線に挟まれた地域		バス・自転車	自転車（自宅から）	バス・徒歩
17	大野田	太白区：地下鉄富沢駅近く		バス・車	自動車（2）	
18	桜丘	青葉区：宮城学院女子大周辺	地下鉄富沢駅	地下鉄・バス・自転車	バイク	自動車（4）
19	中野栄	宮城野区：栄。国道 45 号線、仙石線沿い		バス・原付	バス＋自転車（石田宅）	バス・徒歩
20	芦口	太白区：三神峯公園・東北大学原子核理学研究施設から比較的近い	仙石線中野栄駅	JR・バス	原付き	バス・徒歩
21	西中田	太白区：東北本線沿い		バス・原付	自動車（2）	
22	広瀬	青葉区：国道 48 号線沿い	東北本線南仙台駅	JR・バス	自動車（5）	
23	根白石	泉区：	仙山線愛子駅・仙山線陸前落合駅	JR・バス・車	原付きまたは自転車（自宅から）	バス・徒歩
24	将監	泉区：仙台泉線沿い・泉区役所が近い		車	自動車（6）	
25	向陽台	泉区：国道４号線の近く。	地下鉄泉中央駅	JR・バス	自動車（6）	
26	加茂	泉区：環状線沿い		車・バス	自動車（7）	
27	寺岡	泉区：泉パークタウン		バス	地下鉄＋バス＋自転車（海野先生宅）	
28	虹の丘	泉区：三島学園の近く		地下鉄＋バス	自動車（7）	
29	南吉成	青葉区：環状線沿い		バス・原付	自動車（4）	
30	栗生	青葉区：国道 48 号線、仙山線沿い		バス	自動車（5）	

2.4 実査期間タイム・テーブル

調査期間タイム・テーブル

日	活動場所	時間	活動内容	備考
2 月 12 日（土）	仙台市内 30 の小学校区*	9：00 12：00 13：00 19：00 20：00	調査開始 　各地域における調査対象者の家を回り、調査票を回収する 休憩 調査票の回収 調査票の回収の終了 東北大学行動科学研究室に戻る 調査票の点検後、解散	各活動場所までは、徒歩・自転車･原動付き自転車・自動車・公共交通機関を利用して、移動する
2 月 13 日（日）	仙台市内 30 の小学校区	9：00 12：00 13：00 19：00 20：00	調査開始 　各地域における調査対象者の家を回り、調査票を回収する 休憩 調査票の回収 調査票の回収の終了 東北大学行動科学研究室に戻る 調査票の点検後、解散	各活動場所までは、徒歩・自転車･原動付き自転車・自動車・公共交通機関を利用して、移動する
2 月 14 日（月）	仙台市内 30 の小学校区	9：00 12：00 13：00 19：00 20：00	調査開始 　各地域における調査対象者の家を回り、調査票を回収する 休憩 調査票の回収 調査票の回収の終了 東北大学行動科学研究室に戻る 調査票の点検後、解散	各活動場所までは、徒歩・自転車･原動付き自転車・自動車・公共交通機関を利用して、移動する

*仙台市内 30 の小学校区は次の通り。

小学校区名：片平・連坊小路・原町・北六番丁・西多賀・六郷・高砂・東長町・若林・国見
生出・鹿野・台原・中山・大和・燕沢・大野田・桜丘・中野栄・芦口
西中田・広瀬・根白石・将監・向陽台・加茂・寺岡・虹の丘・南吉成・栗生

**サンプリングの結果により、活動地域が広範にわたっているためさまざまな移動手段を用いる。

2.5 回収票

回収票①

調査地点名＿＿＿＿＿＿＿＿番号＿＿＿

ID	12日	13日	14日	15日以降	備考
01					
02					
03					
04					
05					
06					
07					
08					
09					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

2.6 定時連絡確認票

定時連絡確認票

調査地点	12 日 午前	午後	夕方	その他	13 日 午前	午後	夕方	その他	14 日 午前	午後	夕方	その他
01 片平												
02 連坊小路												
03 原町												
04 北六番丁												
05 西多賀												
06 六郷												
07 高砂												
08 東長町												
09 若林												
10 国見（1）												
10 国見（2）												
11 生出												
12 鹿野												
13 台原												
14 中山												
15 大和												
16 燕沢												
17 大野田												
18 桜丘												
19 中野栄												
20 芦口												
21 西中田												
22 広瀬												
23 根白石												
24 将監												
25 向陽台												
26 加茂												
27 寺岡												
28 虹の丘												
29 南吉成												
30 栗生												

3. 実査資料

3.1 調査依頼状 1

調査ご協力のお願い

拝啓

皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、私ども生活環境研究会では、十数年来、ごみ問題を中心とした環境問題に関して研究を進めてまいりました。このたび、文部省科学研究費の助成を受けて、「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」を実施することになりました。そこで、貴宅にもご協力を賜りたく、連絡させていただいた次第です。

調査の対象となられる方々は、仙台市の住民基本台帳の中から1,200 人を、くじ引きのような方法（無作為抽出）を用い、私どもで選ばせていただきました。そのため、ハガキの宛名は、乳幼児を含め、ご自身では回答しにくい方であるかもしれませんが、おうかがいしたいのは**世帯**の状況です。質問用紙を後日、郵送いたしますので、貴宅で**家事をなさっている方**にご記入をお願いしたいと考えております。

【プライバシーについて】回答は統計的に処理され、また、無記名ですので、お名前などプライバシーに関する事柄が外部に漏れることはいっさいございません。

【回収方法】　**２月１２日（土）から１４日（月）**にかけ、学生調査員が直接お宅におうかがいいたしますので、質問用紙をお渡しください。

お忙しい中、誠に恐縮ではございますが、趣旨をご理解の上、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。なお、ご不明な点などがございましたら、下記までご連絡いただければ幸いに存じます。

敬具

調査主体：生活環境研究会　　（代表　東北大学文学部教授　海野道郎）
〒980-8576　仙台市青葉区川内　東北大学文学部行動科学研究室内
TEL:　０２２―２１７－６０３７（担当：篠木・荒井・半澤）

3.2 調査依頼状 2

「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」
調査ご協力のお願い

拝啓

厳寒の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

先日、はがきにて調査のお願いをいたしましたが、本日は、調査の質問用紙を同封いたします。

私ども生活環境研究会（東北大学文学部を拠点とする研究グループ）では、環境問題研究の一環として、1988 年から仙台市にてごみ問題に関する調査を進めてまいりました。このたび、文部省科学研究費の助成を受けて、新たに調査を行うことになり、ご協力を賜りたく、連絡させていただいた次第です。

調査における主な目的は、仙台市民の生活環境に直接関わる生活廃棄物の問題を取り上げ、とくにリサイクルに対して焦点を当て、市民の皆様がごみ問題やリサイクルについてどのようにお考えになり、またどのように行動されているのかを知ることです。本調査の実施にあたっては、仙台市環境局廃棄物事業部リサイクル推進課の協力を得ました。

調査の対象となられる方々は、仙台市の住民基本台帳の中から 1,200 人を、くじ引きのような方法(無作為抽出）を用い、私どもで選ばせていただきました。そのため、封筒の宛名は、乳幼児を含め、ご自身では回答しにくい方であるかもしれませんが、おうかがいしたいのは、**世帯**の状況です。また、質問の中には、ごみの捨て方や台所における行動など、かなり具体的なことをお聞きするものがあります。そこで、

1） **1人世帯**については、もちろん**ご本人**に、
2） **2人以上の世帯**については、**家事を主に担当しておられる方**に、

回答していただきたいと考えております。

この調査は市民の全体的な傾向を把握するために行うものであり、皆様方、一人ひとりのお考えを調べるものではないため、質問用紙には氏名を記入する欄を設けておりません。また、お寄せいただいたお答えは統計的に処理し数字や図表の形で公表いたしますので、一人ひとりのお答えやお名前が外部に漏れることはいっさいございません。

ご協力いただきました皆様には、調査結果をお届けするとともに、粗品を進呈させていただきます。お忙しいところ、誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

敬具

【質問用紙の回収】

下記の日程で学生調査員が伺う予定でおりますので、それまでにご記入の上、質問用紙をお渡しいただければ幸いに存じます。

回収期間　２月１２日（土）－ ２月１４日（月）

【問い合わせ先】

この調査に関してご不明の点などがございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

調査主体：生活環境研究会　　（代表　東北大学文学部教授　海野道郎）
980-8576　仙台市青葉区川内　東北大学文学部行動科学研究室内
TEL：０２２－２１７－６０３７（担当：篠木・荒井・半澤）

3.3 訪問票

様

先日お届けしました「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」の件で

おうかがいいたしました、学生調査員の＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

２月　　日（ 午前・午後 ）　　時にうかがいましたがご不在のようですので、

改めて　２月　　日（ 午前・午後 ）　　時ごろに、おうかがいいたします。

どうか調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】
生活環境研究会　　電話番号　022 － 217 － 6037（東北大学文学部行動科学研究室内）
（担当者：篠木・荒井・半澤）

＊なお、上記の日時にご不在の場合は、ご記入いただいた質問用紙を郵便受けなど
目立つところに置いてくださっても結構です。

3.4 お礼状

御礼状

このたびは、「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」にご協力いただき、まことにありがとうございました。ご協力いただいた御礼として、粗品を置いてまいります。
なお調査結果につきましては、集計の終了後、速報を郵送いたします。

２月　　日

時　　分

生活環境研究会（東北大学文学部行動科学研究室内）

学生調査員 ＿＿＿＿＿＿＿＿

2.5　郵送依頼状

3.5 郵送依頼書

「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」

調査ご協力のお願い

拝啓

春寒の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

先日、「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」の質問用紙を送らせていただき、2 月 12 日（土）から 14 日（月）にかけて、質問用紙の回収のために、貴宅を訪問させていただきました。調査期間中、御留守のようでしたので、返信用の封筒と粗品をポストに入れさせていただきます。お忙しいところ、誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただければ幸いに存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

【回答をお願いしたい方】

1）**1 人世帯**については**ご本人**

2）**2 人以上の世帯**については**家事を主に担当しておられる方**

【質問用紙の返送方法】

質問用紙に回答をご記入の上、返信用封筒に質問用紙を入れて、ポストに投函してください。

【問い合わせ先】

この調査に関してご不明の点などがございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

調査主体：生活環境研究会　（代表　東北大学文学部教授　海野道郎）

〒980-8576　仙台市青葉区川内　東北大学文学部行動科学研究室内

TEL：０２２－２１７－６０３７（担当：篠木・荒井・半澤）

4. データの作成

4.1 エディティング・ガイド

ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査
エディティング・ガイド

2000 年 2 月
東北大学行動科学研究室
海野･篠木･荒井

エディティングの手順

1．調査票にサンプル番号が記入されているかどうかを確認する。

2．エディターのサインを調査票の左上に記入する。エディターの記号は下記の通り。

海野　U(M)
篠木　S
荒井　A
半澤　H

3．訪問票などを参考に、調査対象者の家の様子や、誰が対応してくれたか、その対応はどうであったかといった情報を聞き、エディティング票[1]に記入する。

4．回答のチェックをする。

(1) 記入漏れがないかどうかを確認する。

・回答者が故意に記入していない欄と、記入漏れの欄を確定する。

・前後の問や全体的に見て、記入していない場合が多い場合は、「記入漏れ」と考える。家の雰囲気や対象者の対応、調査員の状況を考慮し、もう一度、聞きに行ってもらうかどうかを決定する。

・全体的に回答がきちんと記入されていて、１、２個所、記入していない欄がある場合は、「故意に記入していない」と考える。

(2) 一つだけ選ぶ問で二つ以上選択されている場合は、次のように処理する。

・2 つ選択されている→コイン

・3 つ以上選択されている→くじ

(3) 複数選択の問で、<u>○がついていないとき</u>は、次のように処理する。

・問 6、問 11、問 29、問 37、問 38 に関しては、「何もしていない」等の選択肢があり、あえてはまる項目が無くても、最後の選択肢に○を付けてもらう形式になっている。

①前後の問に記入してある場合

・問6　「20　何もしていない」
・問 11　「7　一緒に住んでいる家族はいない」
・問 29　「18　どこからも情報を得ていない」
・問 37　「11　加入している団体はない」
・問 38　「11　積極的に活動している団体はない」

[1] 付録として添付。

②前後の問や全体的にあまり記入されていない場合

・DK/NA 扱いとする。

(4) 枝分かれの問いに対しては、次のように処理する。

・枝分かれの問の場合、回答してほしい問ではなく、非該当にあたる方の問に、回答者が間違って答えている場合があるので、その点を確認する。間違って回答してある場合でも、情報として残すという観点から、そのままデータを入力する。ただし、集計レベルで、気をつける。注意する問いは、下記の通りである。

・問 8（牛乳パックリサイクル実行･不実行の理由）
・問 9（ビン・缶リサイクル実行･不実行の理由）
・問 34-A（購入の理由）
・問 34-B（非購入の理由）

(5) 非該当にあたる問に注意する。

・非該当がでるのは、次の通り。

・問 8（牛乳パックリサイクル実行･不実行の理由）
・問 9（ビン・缶リサイクル実行･不実行の理由）
・問 34-A（購入の理由）
・問 34-B（非購入の理由）
・問 47-A、問 47-B：問 46 で 1 または 2 と答えた場合、非該当となる。
・問 50-B、問 50-C：問 50 の(A)で 1、2、3 のとき、は非該当となる

(6) 自記式の欄（たとえば、「その他」「具体的に」）で、字が読めない場合には、家の様子や調査員の状況等を見て、再訪問して回答を聞き直すかどうかを判断する。また、速報を発送後、具体的に書かれたものをアフターコーディングし、データ入力し、分析に利用する。

(7) その他、注意すべき問

・問 2（転居）

・問 2 都道府県名は、県名コード表を参照して、コード番号を記入する。
・区市町村は、次のようにコード番号を記入する（コーディングガイド参照）。

区　1
市　2
町　3
村　4

・問 50(A)（職業）

・○がついていない場合は、エディターが「その他」を参考にコーディングする。

※調査員の待機状況をみて、時間のかかる作業は後回しにする。その箇所には、付箋等を貼る。

調査番号_____　**調査地点**_____

エディティング票

対象者番号	エディター	家の様子（どんな家か）	調査票を渡してくれた人	渡してくれたときの状況	調査の感想・その他
01					
02					
03					
04					
05					

4.2 コーディング・ガイド

ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査
コーディング・ガイド

目次

1. 有効票／無効票の判断・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. ID、エディターサイン、コーダーサイン について・ 2
3. 問番号の割り振り・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
4. 回答タイプ別コーディング方法・・・・・・・・・・ 3
ひとつだけ選択する問、
および程度を評価する問・・・・・・・・・・・・・・ 3
複数選択の問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
自記式の問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
御意見欄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
5. 注意が必要な問・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
（付録）コード一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

2000 年 3 月
東北大学行動科学研究室
海野･篠木･荒井

1. 有効票／無効票の判断

回収した調査票のうち、つぎのような票は無効とする。

・いいかげんな回答
・白票
・子供の回答
・途中放棄

2. ID、エディターサイン、コーダーサインについて

調査票の表紙には、ID、エディターサイン、コーダーサインが記入されている。ID は表紙の右上に、エディターサイン、およびコーダーサイン（○で囲まれている）は左上に記入されている。

なお、ID 番号は、地点番号（2 桁）＋サンプル番号（2 桁）からなっている。ただし、郵送によって回収した票については、ID がわかるものについてはその番号をあて、不明の場合には消印をもとに郵便局を特定して 91 番以降のコードをつけ、各地区内で、到着順に ID をあてる（表 1 参照）。

表 1．第 1 次抽出単位（小学校区）一覧

NO.	小学校区名	NO.	小学校区名	NO.	小学校区名	NO.	郵便局
1	片平	11	生出	21	西中田	91	中央仙台
2	連坊小路	12	鹿野	22	広瀬	92	仙台東
3	原町	13	台原	23	根白石	93	仙台北
4	北六番町	14	中山	24	将監	94	仙台南
5	西多賀	15	大和	25	向陽台	95	若林
6	六郷	16	燕沢	26	加茂	96	泉
7	高砂	17	大野田	27	寺岡	97	泉西
8	東長町	18	桜丘	28	虹の丘	98	宮城愛子
9	若林	19	中野栄	29	南吉成	99	その他
10	国見	20	芦口	30	栗生		

3. 問番号の割り振り

問番号は、基本的に調査票と同じであるが、データ入力のときに用いる問番号との対応に関して若干の注意が必要である。

・複数選択の問

（問 6、問 8-A、問 8-B、問 9-A、問 9-B、問 10、問 11、問 29、問 34-A、問 34-B、問 37、問 38）

複数選択の問では、各選択肢に 1,2,･･･で問番号があてられている。

・問 2

問 2-A　転居経験の有無
問 2-B　転居前に居住していた都道府県
問 2-C　転居前に居住していた区市町村

・問 44
　問 44-A　性別
　問 44-B　年齢
・問 48（世帯構成）
　問 48-A　0-5 歳の居住人数
　問 48-B　6-12 歳の居住人数
　　：
　　：
　問 48-H　60 歳以上の居住人数

4. 回答タイプ別コーディング方法

回答の形式にはつぎの４種類がある。

・ひとつだけ選択する問　　例：問 3、問 4
・複数選択の問　　例：問 6、問 8
・程度を評価する問　　例：問 5、問 7
・自記式の問（地名や数字を直接記入する問）　例：問 1、問 44
・御意見欄
・家事担当

各タイプごとに、コーディング方法を説明する。

［ひとつだけ選択する問、および程度を評価する問］

・ひとつだけ選択されている場合
　選択された番号がそのままコードとなるので、記入の必要はない。
・２つ以上選択されている場合
　サイコロでランダムにコードを確定する。問の右側に決定したコードを記入する。
・何も選択されていない場合
　DK/NA 扱いとする。問の右側に「コーディング一覧表」で指示されているコードを記入する。

※最後の選択肢に「その他」があり、具体的に記入されている場合がある。その内容が選択肢のどれかにあてはまると判断できる場合には、その選択肢をコードする。「わからない」と書いてある場合には、DK/NA とする。具体的に記入されている場合で、規定のコードに分類不可能な場合は、あとからアフターコーディングをおこなうので、現時点では「その他」のコードをあてる。

［複数選択の問］

・ひとつ以上の項目が選択されている場合

各項目ごとに選択されていれば「1」、選択されていなければ「0」と記入する。

・どの項目にも○がつけられていない場合

複数選択の場合、すべての選択肢が「0」なのか、DK/NA なのかの判断が必要になる。

・問 10、問 11 は、つぎのように対処する。

・前後の間に記入してある場合

全ての項目の端に「0」を記入する。

・前後の間や全体的にあまり記入されていない場合

DK/NA 扱いとする。すべての項目の端に「9」と記入する。

・問 6、問 29、問 37、問 38 に関しては、「何もしていない」等の選択肢があり、あてはまる項目が無くても、最後の選択肢に○を付けてもらう形式になっている。

・前後の間に記入してある場合

以下のようにコードをつける。新コードを端に記入する。

・問 6	問 6-1~6-19	0
	問 6-20	1
・問 29	問 29-1~17	0
	問 29-18	1
・問 37	問 37-1~37-10	0
	問 37-11	1
・問 38	問 37-1~37-10	0
	問 37-11	1

・前後の間や全体的にあまり記入されていない場合

DK/NA 扱いとする。すべての項目の端に「9」と記入する。

・問 8-A、問 8-B、問 9-A、問 9-B、問 34-A、問 34-B は、すべての項目を 0 とする。

※最後の選択肢に「その他」があり、具体的に記入されている場合がある。その内容が選択肢のどれかにあてはまると判断できる場合には、その選択肢を「1」とコードする。「わからない」と書いてある場合には、全ての質問項目を「9」とする。具体的に記入されている場合で、規定のコードに分類不可能な場合は、あとからアフターコーディングをおこなうので、現時点では「その他」のコードをあてる。

［自記式の問］

・問 1（仙台市の居住年数）

そのままの年数がコードとなる（2 桁）。「3 カ月」、「1 年半」等、端数で答えている場合には、6 カ月未満は切り捨て、6 カ月以上は切り上げる。問 2-A（転居）で「1　生まれてからずっと仙台市に住んでいる」が選択されている場合に、問 48-B（年齢）よりも居住年数が長いときのは年齢を居住年数とした。問 48-B（年齢）よりも居住年数が短いときには、そのままとする。

例：3 カ月　　00
　　1 年　　01
　　1 年半　　02
　　10 年　　10

・問 2-A（転居）

選択された番号がコードとなる（ひとつだけ選択してもらう問と同じ）。

・問 2-B（以前住んでいた都道府県名）*1

県名コード表を参照して、コード番号を記入する（2 桁）。

・問 2-C（区市町村）*1

次のようにコード番号を記入する。

東京都特別区　　1
市　　2
町　　3
村　　4

*1 問 2-B、問 2-C は、問 2-A で「1　生まれてからずっと仙台市に住んでいる」が選択されている場合には非該当となる。また、記入漏れが多いので、『全国市町村要覧』などを参考にして、必要な情報を補う。

・問 44-B（年齢）

記入された年齢がそのままコードとなる（2 桁）。

・問 48-A~48-H

それぞれの年代について、記入された人数がそのままコードとなる（1 桁）。それぞれの端にコードを記入する。

［御意見欄］

御意見欄は、後ほどアフターコーディングをするが、現時点では記入されているかどうかだけ、御意見欄の右側にコードをふる。

記入されている　　1
記入されていない　0

［家事担当］

エディティング票の情報や調査票から回答者が家事を担当していると考えられる場合には「1」、家事を担当していないと考えられる場合には「0」、わからない場合には「9」とした。家事担当と考えるのは次の 2 通りである。

・ひとり暮らしの場合
・同居者がいる場合で、問 46 で「1　専業主婦」と答えているとき、あるいは女性が回答しているとき

それ以外の場合は、「9」とした。

5. 注意が必要な問

・非該当
　・前の問の回答によって、とばされる問

前の問が未記入の場合は、それ以降の関連する問は DK/NA 扱いとなるので、DK/NA コードを記入する。前の問の指示にしたがってとばされている場合に、非該当にあたるコードを記入する。

・問 2-B（以前住んでいた都道府県）
　問 2-C（以前住んでいた区市町村）　］問 2-A で 1 のとき、非該当
・問 47-A（一日の勤務時間）
　問 47-B（仕事場での環境配慮行動）　］問 46 で 1~3 のとき、非該当
・問 50-A（収入の多い人の職業）　］本人回答の場合、非該当
・問 50-B（勤務先の従業員数）　］問 50-A で 1~3 のとき、非該当
　問 50-C（職業分類）　］問 50-A で本人該当の場合、問 46 で 1~3 のとき非該当

　・枝分かれの問[*2]

枝分かれを指示する問が未記入の場合は、それ以降の関連する問は DK/NA 扱いとなるので、DK/NA コードを記入する。枝分かれの問によって非該当となる問は、非該当のコードを記入しなくてもよい。

・問 8（牛乳パックリサイクル実行･不実行の理由）
　問 8-A-1~10］問 7-B で 3~5 のとき、非該当
　問 8-B-1~10］問 7-B で 1,2 のとき、非該当
・問 9（ビン・缶リサイクル実行･不実行の理由）
　問 9-A-1~10］問 7-E で 3~5 のとき、非該当
　問 9-B-1~10］問 7-E で 1,2 のとき、非該当
・問 34-A（購入の理由）
　問 34-A-1-9］問 33 で 3,4 のとき、非該当
・問 34-B（非購入の理由）
　問 34-B-1~9］問 33 で 1,2 のとき、非該当

[*2] 枝分かれの問の場合、非該当にあたる方の問に回答者が間違って答えている場合がある。間違って回答してある場合、情報として残すという観点から、そのままデータを入力する。

・問 7（リサイクルの実行）

問 7 が記入漏れで、問 8（牛乳パックリサイクル実行・不実行の理由）、問 9（ビン・缶リサイクル実行・不実行の理由）に回答しているケースがある。この場合は、問 8-A、あるいは問 9-A に回答しているか、問 8-B、あるいは問 9-B に回答しているかによって、つぎのように対処する。

・問 8-A、あるいは問 9-A に回答している場合

「1　いつもしている」、「2　ときどきしている」をランダムに決定。

・問 8-B、あるいは問 9-B に回答している場合

「3　めったにしない」、「4　全くしない」をランダムに決定。

・問 11（リサイクル協力者）

どこにも○がつけられていない場合には、問 48（世帯構成）からひとり暮らしであると考えられる場合には、「7　一緒に住んでいる家族はいない」に該当すると考える。また、「7　一緒に住んでいる家族はいない」に○がつけられている場合でも、問 48 からひとり暮らしではないと考えられる場合には「一緒に住んでいる家族でリサイクルに協力してくれる家族はいない」と誤解したと考え、「1」から「7」まですべてを 0 とする。

・問 28（規範）

「1　決まったルールがある」、「2　決まったルールはないが、暗黙のルールのようなものはある」に○がつけられている場合でも、「具体的に：」の内容が明らかに仙台市で決められたルールである場合には、回答者が行政で決められたルールをごみ集積所でのローカルなルールであると誤解していると考えられるため、「3　決まったルールはない」のコードをつける。また、1　決まったルールがある」、「2　決まったルールはないが、暗黙のルールのようなものはある」に○がつけられている場合でも、「具体的に：」の欄が空欄の場合や記入していても内容がよくわからないときには、「1　決まったルールがある」は「5」、「2　決まったルールはないが、暗黙のルールのようなものはある」は「6」とする。

・問 33（リサイクル商品の購入）

問 33 が記入漏れで、問 34 に回答しているケースがある。この場合は、問 34-A に回答しているか、問 34-B に回答しているかによってつぎのように対処する。

・問 34-A に回答している場合

「1　よく購入する」、「2　ときどき購入する」をランダムに決定。

・問 34-B に回答している場合

「3　あまり購入しない」、「4　ほとんど購入しない」をランダムに決定。

・問 37（加入団体）

問 38 の積極的に活動している団体に○がつけられていて、問 37 で○がつけられていない場合、該当する団体のコードを「1」とする。

・問 48（世帯構成）

記入されていない年代は、「0」を記入するが、本人が抜けている場合があるのでつぎのように対処する。

問 44-B（年齢）をみる
- → 問 48 の該当する年代に人数が記入されていない → 該当する年代に「1」を記入
- → 問 48 の該当する年代に人数が記入されているが、成人が 1 人しかいない、あるいは、2 世代、3 世代同居しているようだが、回答者の配偶者（本当は本人）がいないと考えられるとき
  - → 問 50-A（家計支持者の雇用形態）をみる
    - → 問 50-A に記入されていない → 該当する年代の人数は変更なし
    - → 問 50-A に記入されている
      - → 問 46（回答者の職業）と同じ → 該当する年代の人数は変更なし
      - → 問 46（回答者の職業）と異なる
        - → 問 11（リサイクル協力者）をみる
          - → 問 11 の「1　配偶者」に○がついている → 該当する年代に 1 を足す
          - → 問 11 の「1　配偶者」に○がついていない

↓

エディティング表を参照して、
本人抜けと確定できない場合には変更なし

・問 46（回答者の雇用形態）

「8　その他」に記入されているときは、その内容をもとにコードを決定する。「8　その他」に何も書かれていない場合やその内容だけでは判断できない場合は、DK/NA とする。また、「7　経営者（重役）役員」については、問 50-A が非該当で、問 50-B の回答が「1　なし」、「2　1－9 人」のときには「6　自営業者または家族従業者」になおす。

・問 47-A（回答者の労働時間）

コードは 3 桁で、最初 2 桁が整数、3 桁目が小数点第一位、単位は時間である。この形式にしたがって、新コードをつける。

例：4 時間　　040
　　4 時間 30 分　045
　　10 時間　　100

・問 50-A（家計支持者の雇用形態）

「8　その他」に記入されているときは、その内容をもとにコードを決定する。「8　その他」に何も書かれていない場合やその内容だけでは判断できない場合は、DK/NA とする。また、「7　経営者（重役）役員」については、問 50-B の回答が「1　なし」、「2　1－9 人」のときには「6　自営業者または家族従業者」になおす。

問 46 と問 50-A が同じで、問 48 に該当する成人が他にいないときには、家計支持者が回答者であると考えられるので、非該当の「8」をふる*3。

*3「該当する成人が他にいない」とは、たとえば、回答者が一人暮らしの場合や、配偶者がいるにもかかわらず男性が回答している場合など。

・問 50-B（家計支持者の従業先の規模）

「8　わからない」に○がつけられている場合には「9」とコードする。問 46（回答者の雇用形態）、問 50-A（家計支持者の雇用形態）で「1　専業主婦」、「2　無職」、または「3　学生」のときは、「8」とする*4。

*4 問 50-A で回答者該当のときには、問 46 で「1　無職」、「2　専業主婦」、「3　学生」で「8」となる。

・問 50-C（家計支持者の職業分類）

「8　その他」に○がつけられていて、「具体的に：」に記入されているときは、その内容をもとにコードを決定する。「8　その他」に何も書かれていない場合やその内容だけでは判断できない場合は、DK/NA とする。また、「4　管理的職業」については、問 50-B の回答が「1　なし」、「2　1－9 人」のときには「1　事務的職業」になおす。

コード一覧

問番号	桁数		新コード	D.K･N.A.	非該当
ID	4	調査票右上の ID 番号を入力			
問 1	2	年数をそのまま入力		99	
問 2-A	1	選択された番号		9	
問 2-B 以前住んでいた県	2	北海道	01	99	問 2-A で 1 88
		青森	02		
		岩手	03		
		宮城	04		
		秋田	05		
		山形	06		
		福島	07		
		茨城	08		
		栃木	09		
		群馬	10		
		埼玉	11		
		千葉	12		
		東京	13		
		神奈川	14		
		新潟	15		
		富山	16		
		石川	17		
		福井	18		
		山梨	19		
		長野	20		
		岐阜	21		
		静岡	22		
		愛知	23		
		三重	24		
		滋賀	25		
		京都	26		
		大阪	27		
		兵庫	28		
		奈良	29		
		和歌山	30		
		鳥取	31		
		島根	32		
		岡山	33		
		広島	34		
		山口	35		
		徳島	36		
		香川	37		
		愛媛	38		
		高知	39		
		福岡	40		
		佐賀	41		
		長崎	42		
		熊本	43		
		大分	44		
		宮崎	45		
		鹿児島	46		
		沖縄	47		
		国外	48		

問番号	桁数		新コード	D.K･N.A.	非該当
問 2-C 以前住んで いた区市町村	1	区	1	9	問 2-A で 1 8
		市	2		
		町	3		
		村	4		
問 3	1	選択された番号		9	
問 4	1	選択された番号		9	
問 5-A~5-C	1	選択された番号		9	
問 6-1~6-20	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	9*1	
問 7-A~7-G	1	選択された番号		9	
問 8-A-1~ 8-A-10	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	問 7-B で 1,2、問 8-A-1~8-A-10 すべて未記入 9	問 7-B で 3~5 8*2
問 8-B-1~ 8-B-10	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	問 7-B で 3~5、問 8-B-1~8-B-10 すべて未記入 9	問 7-B で 1,2 8*2
問 9-A-1~ 9-A-10	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	問 7-E で 1,2、問 9-B-1~9-B-10 すべて未記入 9	問 7-E で 3~5 8*2
問 9-B-1~ 9-B-10	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	問 7-E で 3~5、問 9-B-1~9-B-10 すべて未記入 9	問 7-E で 1,2 8*2
問 10-1~ 10-7	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	問 10-1~10-7 すべて未記入 9	
問 11-1~ 11-7	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	9*3	
問 12-A~12-C	1	選択された番号		9	
問 13	1	選択された番号		9	
問 14	1	選択された番号		9	
問 15	1	選択された番号		9	
問 16-A~16-D	1	選択された番号		9	
問 17-A~17-D	1	選択された番号		9	
問 18	1	選択された番号		9	
問 19-A~19-D	1	選択された番号		9	
問 20-A~20-D	1	選択された番号		9	
問 21	1	選択された番号		9	
問 22-A~22-B	1	選択された番号		9	
問 23-A~23-D	1	選択された番号		9	
問 24	1	選択された番号		9	
問 25	1	選択された番号		9	

問番号	桁数		新コード	D.K･N.A.	非該当
問 26	1	選択された番号		9	
問 27-A~27-F	1	選択された番号		9	
問 28	1	選択された番号		9*4	
問 29-1~ 29-18	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	9*1	
問 30-A~30-L	1	選択された番号		9	
問 31	1	選択された番号		9	
問 32	1	選択された番号		9	
問 33	1	選択された番号		9	
問 34-A-1~ 34-A-9	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	問 33 で 1,2、 問 34-A-1~34-A-9 すべて未記入 9	問 33 で 3,4 8*2
問 34-B-1~ 34-B-9	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	問 33 で 3,4、 問 34-B-1~34-B-9 すべて未記入 9	問 33 で 1,2 8*2
問 35	1	選択された番号		9	
問 36	1	選択された番号		9	
問 37-1~ 37-11	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	9*1,*5	
問 38-1~ 39-11	1	○がついている場合 何もついていない場合	1 0	9*1,*5	
問 39	1	選択された番号		9	
問 40-A~40-C	1	選択された番号		9	
問 41-A~41-B	1	選択された番号		9	
問 42	1	選択された番号		9	
問 43	1	選択された番号		9	
問 44-A	1	選択された番号		9	
問 44-B	2	記入された年齢を入力		99	
問 45	1	選択された番号		9	
問 46	1	選択された番号		9	
問 47-A	3	記入された時間を入力 4 時間 4 時間 30 分 10 時間	 040 045 100	問 46 で 4~8 999	問 46 で 1~3 888
問 47-B	1	選択された番号		問 46 で 4~8 9	問 46 で 1~3 8
問 48-A~ 48-H	1	記入された人数を入力 何も記入されていない場合	 0		
問 49	2	選択された番号 5		99	
問 50-A	1	選択された番号		9	回答者該当で 8*6
問 50-B~50-C	1	選択された番号*7		問 50-A で 4~8 かつ未記入 9	問 50-A で 1~3 8*8

問番号	桁数		新コード	D.K･N.A.	非該当
御意見欄	1	記入されている 記入されていない	1 0		
家事担当	1	回答者が家事担当者である*9 回答者が家事担当者ではない わからない	1 0 9		

注）

*1 これらの問は、複数選択であるが、あてはまる項目が無くても、最後の選択肢に○を付けてもらう形式になっている。 全ての項目に○がついていない場合でも、前後の問の記入状況により、対処の仕方が異なる。

①前後の問に記入してある場合

問 6	問 6-1~6-19	0
	問 6-20	1
問 29	問 29-1~17	0
	問 29-18	1
問 37	問 37-1~37-10	0
	問 37-11	1
問 38	問 37-1~37-10	0
	問 37-11	1

②前後の問や全体的にあまり記入されていない場合は、DK･NA とする。

*2 回答してほしい問ではなく、非該当にあたる方の問に、間違って回答してある場合でも、情報として残すという観点から、そのままデータを入力する。

*3 どこにも○がつけられていない場合、問 48（世帯構成）からひとり暮らしであると考えられる場合には、「7　一緒に住んでいる家族はいない」に該当すると考える。また、「7　一緒に住んでいる家族はいない」に○がつけられている場合でも、問 48 からひとり暮らしではないと考えられる場合には、「1」から「7」まですべてを 0 とする。

*4「1　決まったルールがある」、「2　決まったルールはないが、暗黙のルールのようなものはある」に○がつけられている場合でも、「具体的に：」の内容が行政ルールである場合は「3　決まったルールはない」のコードをつける。また、1　決まったルールがある」、「2　決まったルールはないが、暗黙のルールのようなものはある」に○がつけられている場合でも、「具体的に：」の欄が空欄の場合や記入していても内容がよくわからないときには、「1　決まったルールがある」は「5」、「2　決まったルールはないが、暗黙のルールのようなものはある」は「6」とする。

*5 問 38 の積極的に活動している団体に○がつけられていて、問 37 で○がつけられていない場合、該当する団体のコードを「1」とする。

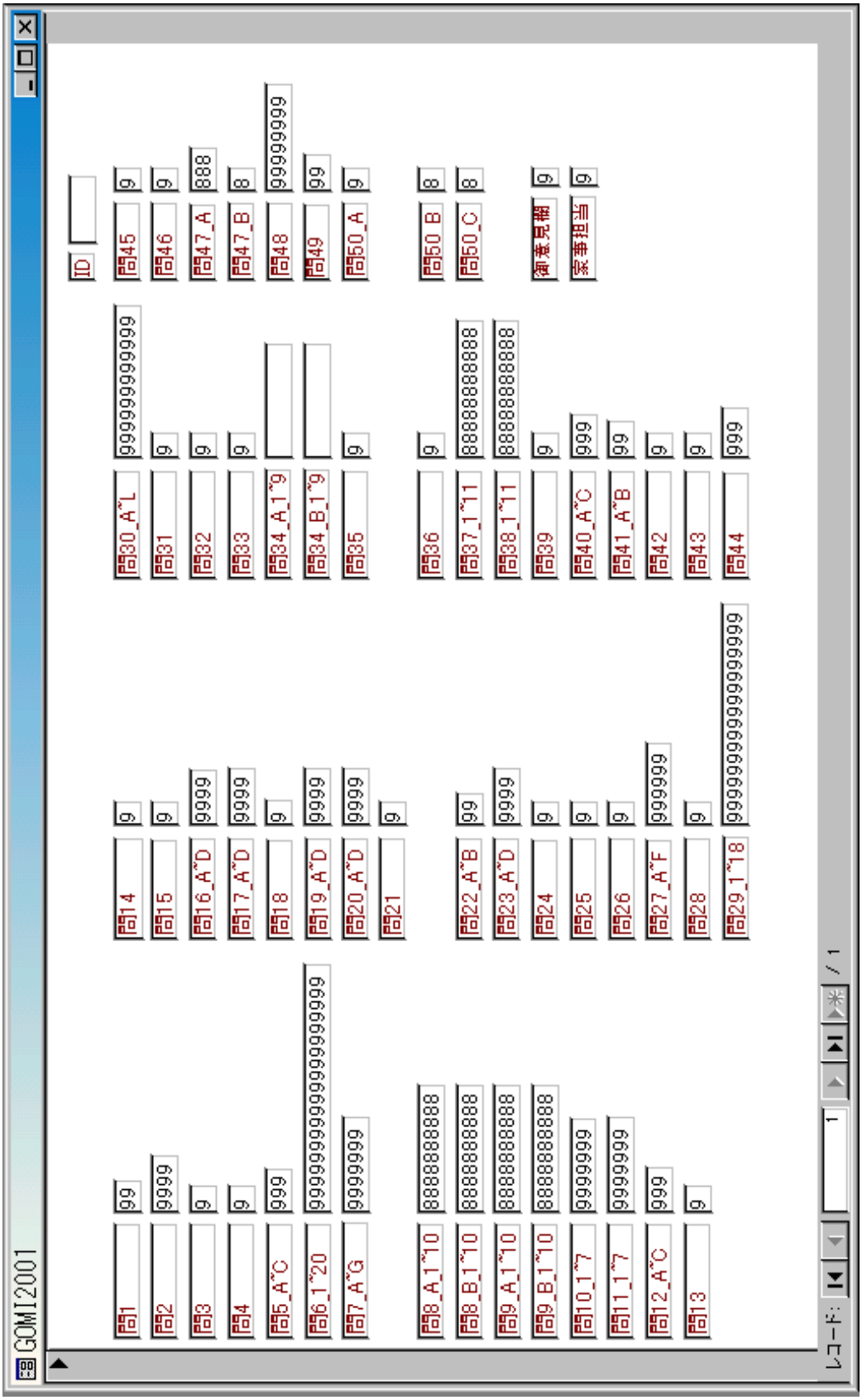
*6問 46 と問 50-A が同じで、問 48 に該当する成人が他にいないときには、家計支持者が回答者であると考えられるので、非該当の「8」をふる。

*7「8　わからない」に○がつけられている場合には「9」へコードする。問 46（回答者の雇用形態）、問 50-A（家計支持者の雇用形態）で「1　専業主婦」、「2　無職」、または「3　学生」のときは、「8」とする。

*8問 50-A で回答者該当のときには、問 46 で「1　無職」、「2　専業主婦」、「3　学生」で「8」となる。

*9回答者が家事担当であると考えるたのは、ひとり暮らしの場合、女性が回答している場合の 2 通り。それ以外の場合は、「9」とした。

4.3 データ・フォーム


GOM12001
ID
問1
問2
問3
問4
問5_A~C
問6_1~20
問7_A~G
問8_A_1~10
問8_B_1~10
問9_A_1~10
問9_B_1~10
問10_1~7
問11_1~7
問12_A~C
問13
問14
問15
問16_A~D
問17_A~D
問18
問19_A~D
問20_A~D
問21
問22_A~B
問23_A~D
問24
問25
問26
問27_A~F
問28
問29_1~18
問30_A~L
問31
問32
問33
問34_A_1~9
問34_B_1~9
問35
問36
問37_1~11
問38_1~11
問39
問40_A~C
問41_A~B
問42
問43
問44
問45
問46
問47_A
問47_B
問48
問49
問50_A
問50_B
問50_C
御意見欄
家事担当
レコード:
/ 1

5. 調査のお礼と結果のお知らせ

ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査

お礼と結果のお知らせ

2000年４月

調 査 主 体 ： 生 活 環 境 研 究 会
（代表：東北大学大学院文学研究科
教授　海野道郎）

先日は、私どもが実施いたしました「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」にご協力いただき、まことにありがとうございました。皆様のご理解により、貴重な調査結果を得ることができ、深く感謝しております。

このたび、調査結果のお知らせを作成いたしましたので、ご覧いただければ幸いに存じます。これは、主な項目について結果を要約したものです。ただし、なるべく早く結果をお知らせしたいということから、結果は確定前の速報値を用いておりますので、後ほど一部修正の可能性もあります。今後、さらに調査結果をまとめたあと、詳しい分析を行う予定でおります。また、これらの結果に関する記者発表を行う予定でおります。

「ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査」について

私ども生活環境研究会では1989年、1991年、1993年に、仙台市において環境問題に関する調査研究を続けてまいりました。今回の調査は環境問題の中でもとくにリサイクルに焦点をあて、1200世帯を対象に2000年2月12日から14日にかけて回収を行ったものです。回答をお寄せいただいた世帯は1026世帯で、回収率は85.5%でした。今までの研究結果の蓄積をふまえつつ、今回の調査を分析することによって、環境問題の解決にむけて、少しでも貢献できればと考えております。

内容をご覧いただくにあたって

1）各グラフの数字は、とくにことわりがない限り、全回答（1026票）に対するパーセントです。ただし、小数点以下は四捨五入しています。また、非常に小さい値（パーセンテージ）は表示していませんので、合計は必ずしも100%にはなりません。
2）わからない／答えない(Don't Know / No Answer)回答はのぞいて分析しています。
3）複数回答とある問は、「あてはまるものをいくつでも選んでください」という形式の問です。
4）グラフの数値は速報値ですので、他に引用される場合は生活環境研究会までご連絡ください。

1．調査の概要

ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査

回収期間：2000年2月12日（土）～14日（月）
調査主体：生活環境研究会
調査対象：仙台市内の1200世帯
回 収 率 ：1026票（85.5%）

今回の調査では、仙台市内の約40万世帯のうち1200世帯に回答をお願いしました。対象者の抽出にあたっては、仙台市内の小学校区123のうち30校区を選び、その後それぞれの校区ごとに住民基本台帳からくじ引きのような方法（確率比例抽出法）で40世帯を選びました。

1.1　回答者の性別と年齢

世帯の中で家事を主に担当している方に回答をお願いしたため、回答者の85%が女性、15%が男性となっています。また、年代別に見てみると、20代以下の回答者が全体の15%、30代～40代が50%、50代～60代が30%、70代以上が7%となっています。

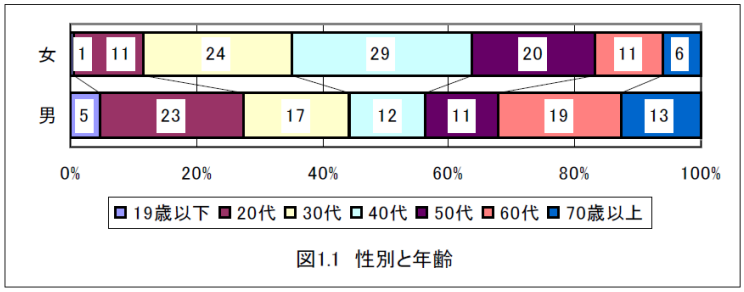


図1.1　性別と年齢

性別と年代の両方について見てみると、女性の回答者の約半数は30代から40代が占めています。また、男性では20代がもっとも多くなっています。

1.2　回答者の就業形態

さらに詳しく回答者の特徴を見てみると、女性の回答者の46%が「専業主婦」、25%が「臨時雇用」、14%が「常時雇用されている従業員」の方となっています。また、男性の半数は「常時雇用されている従業員」です。

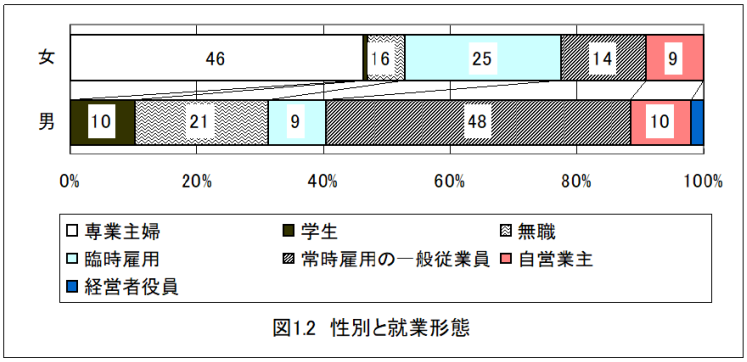


図1.2　性別と就業形態

２．環境問題に対する関心

近年、環境問題に対する取り組みの重要性が新聞やテレビなどのマスコミで指摘されるようになりました。行政や企業、市民の取り組みなども数多く取り上げられています。このような中で、仙台市民は環境問題に対して、どのくらい関心を持っているのでしょうか。

2.1　環境問題の深刻さのとらえ方

「環境問題はそれほど深刻な問題ではない」と考える人は、「非常にそう思う」、「どちらかといえばそう思う」をあわせると全体の1.5割です。これに対して、環境問題は「深刻な問題である」と考える人は８割以上います。ほとんどの人が、環境問題を深刻な問題としてとらえているといえるでしょう。

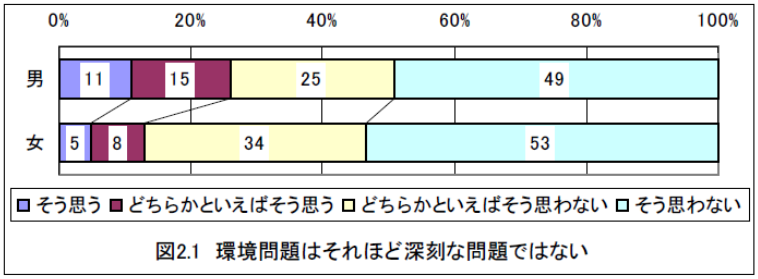


図2.1　環境問題はそれほど深刻な問題ではない

このとらえ方が性別によって異なるかどうかを見てみました。その結果、男性の方が、「それほど深刻な問題ではない」と考える人が多いことがわかりました。

2.2　今後の予測

「今の生活習慣では環境問題は深刻化する」と考える人は、全体の７割、また、「どちらかといえばそう思う」と考える人は、全体の３割弱であることが明らかになりました。ほとんどの人が、今のままでは環境問題は深刻になると感じているようです。性別による違いを見てみたところ、男女による違いはほとんど見られず、男女ともに環境問題は深刻化すると考えていることがわかりました。

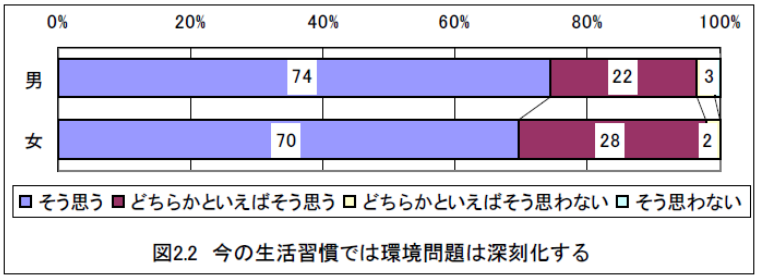


図2.2　今の生活習慣では環境問題は深刻化する

これらの結果から、仙台市民の多くは、環境問題は現在深刻な問題であり、なおかつ、今の生活習慣を続けていれば、環境問題はより深刻化する一方であると考えているようです。

３．環境配慮行動の実行率

3.1　一般的な環境配慮行動の実行率

ほとんどの人が環境問題を深刻な問題としてとらえていることがわかりましたが、人びとは実際にどのくらい環境に配慮した行動に取り組んでいるのでしょうか。19種類の行動について、それぞれの実行率を見てみました。８割以上の世帯で取り組まれている行動は、「冷暖房の温度調整」、「使用しない電灯の消灯」といった、省エネにかかわる行動、「ごみ排出のルールを守る」、「排水口にごみ受けを取り付ける」、「油を排水に捨てない」といった行動でした。これに対して、あまり取り組まれていない行動は、「買い物袋の持参」、「コンポストの使用」、「天然油脂性の洗剤の使用」、「使い捨て商品を買わない」、「環境家計簿」をつけるといった行動でした。これら19種類の行動にまったく取り組んでいない人は1026人中４人でした。したがって、ほとんどすべての人が何らかの環境配慮行動を実行しているといえるでしょう。

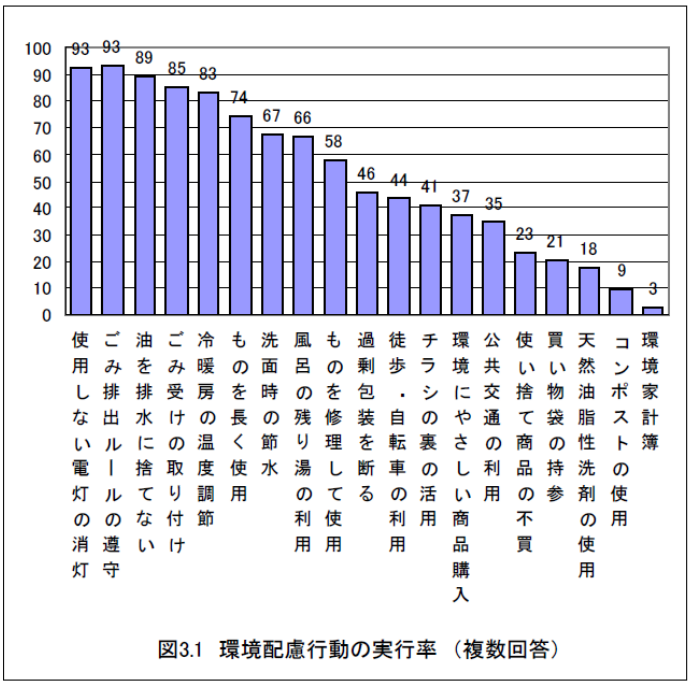


図3.1　環境配慮行動の実行率（複数回答）

3.2　リサイクル行動の実行率

次に、リサイクル行動について見ていきます。古くから回収ルートのある「新聞紙・古雑誌」、仙台市で回収している「ビン・缶」、「ペットボトル」は７割以上の世帯でいつもリサイクルされています。これに対して、スーパー等で回収が進められている「牛乳パック」、「トレイ」、また、「衣類」のリサイクルをいつもしている人は、まだ少ないようです。

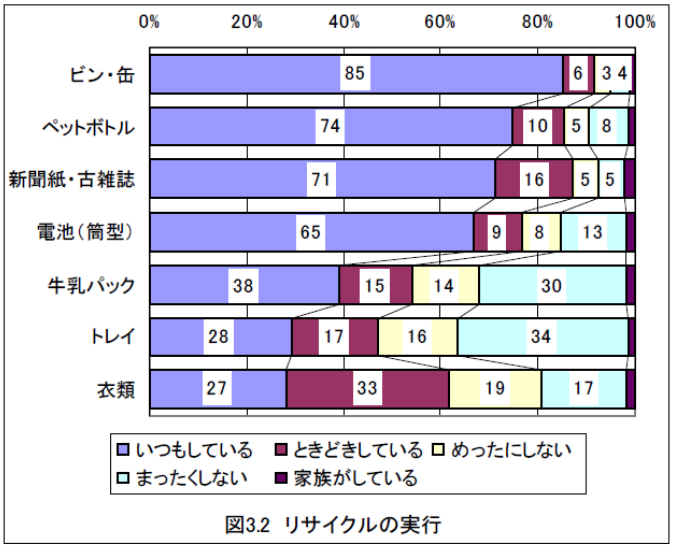


図3.2　リサイクルの実行

3.3　就業形態によるリサイクル実行率の違い

リサイクルの実行には、性別や収入、家族構成など、さまざまな要因がかかわってきます。ここでは、就業形態によって、リサイクル実行率がどのように違うのかということに注目します。

図3.3に就業形態別のリサイクルの実行率を示しました。（就業形態のうち、「経営者（重役）役員」は、人数が少なかったので、分析からのぞいています。）ここでの、リサイクルの実行率は、「いつもしている」、「ときどきしている」と答えた回答者の比率(%)を表しています。

結果を見てみると、「トレイ」をのぞくすべての資源物で、「専業主婦」がもっともリサイクルの実行率が高くなっています。「臨時雇用」、「無職」がそれにつづきますが、その実行率は「専業主婦」とそれほど変わりません。そして、「常時雇用の一般従業員」では実行率が低くなり、「学生」の実行率が最下位となっています。「自営業主」のみは、他の就業形態と実行率のパターンが異なります。「自営業種」の一般的な傾向としては、「臨時雇用」、「無職」よりやや実行率が低いくらいですが、「トレイ」、「ペットボトル」では順位が入れかわります。とくに、「トレイ」では「専業主婦」をぬいて、もっとも高いリサイクル率をしめしています。

このような実行率の違いは、家庭内での役割や家事にかけることのできるの時間の長さによって説明できるかもしれません。今回の調査では、女性の回答者が多いので、「臨時雇用」の方はパートで働きながら主婦をしているケースが多いと考えられます。「無職」には年金生活者も含まれますので、高齢の方で実際は専業主婦であるケースも多いでしょう。これらのケースでは、家庭内で主婦の役目を果たしているという点で「専業主婦」と共通しています。このために、「専業主婦」、「臨時雇用」、「無職」では、似たようなパターンを示していると考えられます。また、「常時雇用されている一般従業員」は、仕事が忙しく、リサイクルをするだけの時間の余裕がないのかもしれません。「学生」はどの資源物でもリサイクル実行率が低くなっています。そのパターンを詳しく見ると、「ビン・缶」、「ペットボトル」などでは他の就業形態の人と比較してリサイクル率の差が小さいのですが、「トレイ」や「牛乳パック」、「衣類」では差が大きくなっています。「トレイ」や「牛乳パック」、「衣類」については、「学生」のひとり暮らしでは、そもそもリサイクルするほどのものがないのかもしれません。「自営業主」のリサイクル実行率のパターンが他の就業形態とくらべて特殊である理由は、はっきりとはわかりません。しかし、「自営業主」には、労働時間が長い、自宅と職場とが近い、比較的時間の融通がきくなど、特殊な事情があるので、このような結果になった可能性があります。

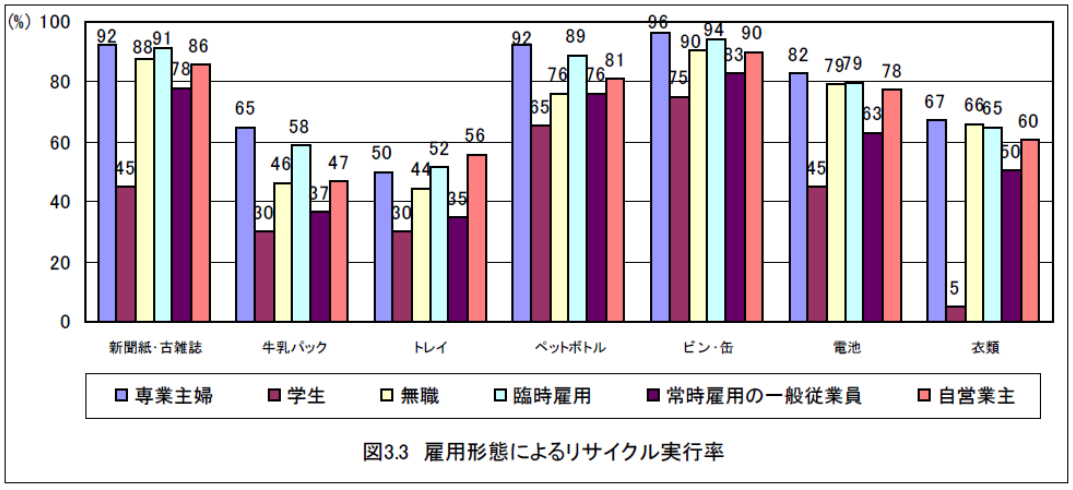


図3.3　雇用形態によるリサイクル実行率

3.4　リサイクル実行の理由

なぜリサイクルをしているのか、なぜリサイクルをしていないのか、それぞれについて、その理由をたずねました。ここでは、いくつかのリサイクルの中でも、「牛乳パックのリサイクル」と「ビン･缶のリサイクル」の２つに焦点をあてています。リサイクルを実行している理由としては、牛乳パック、ビン･缶ともに、「ごみ問題の解決に役立つから」、「当然のことと思うから」という理由をあげた人が半数をこえています。これに対して、「リサイクルするのが楽しいから」、「友人･知人がしているから」という理由をあげた人はあまりいませんでした。牛乳パックとビン･缶の間で大きな違いがみられるのは、「習慣となっているから」、「仙台市が進めているから」の２項目です。どちらもビン･缶のリサイクルの大きな理由として考えられていることがわかりました。

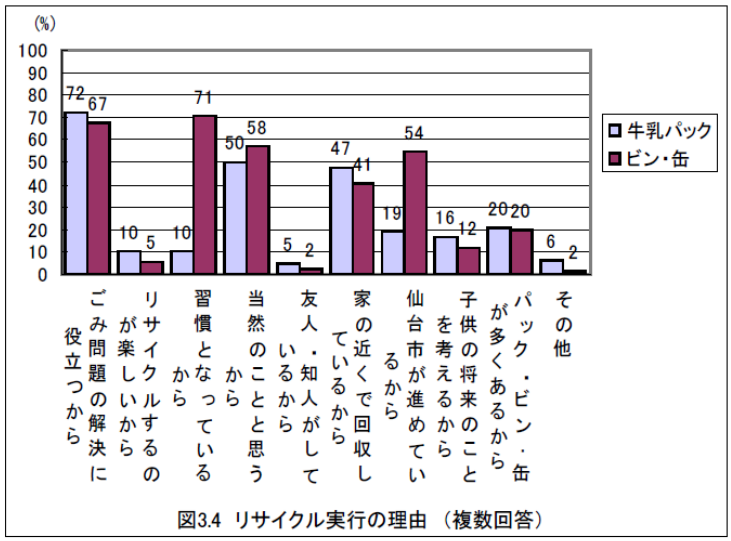


図3.4　リサイクル実行の理由　（複数回答）

3.5　リサイクル不実行の理由

リサイクルを実行しない理由としては、牛乳パック、ビン･缶ともに、「手間がかかるから」、「近くで回収していないから」、「忙しくて時間がないから」をあげている人が３割前後います。「ごみ問題の解決には役立たないから」、「自分だけしても仕方がないから」、「罪悪感がないから」という理由をあげる人は、ほとんどいませんでした。ビン･缶のリサイクルを実行しない理由として「リサイクル可能なことを知らなかった」、「方法がわからなかった」をあげている人の中には、仙台市が行っているビン･缶の資源回収がリサイクルであると考えていない人も多少含まれています。

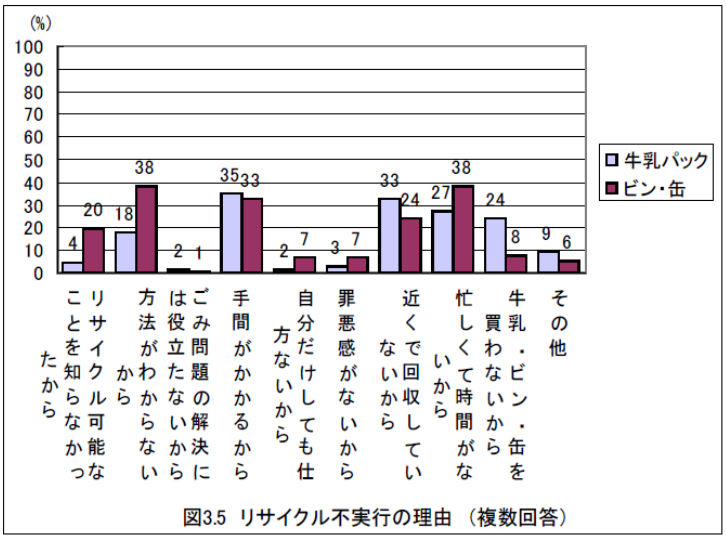


図3.5　リサイクル不実行の理由　（複数回答）

「牛乳パック･ビン･缶を買わないから」という理由をあげている人は牛乳パックに多く、そもそも「牛乳を買わない」、「牛乳はビンで買う」人が少数派ですが存在することがわかりました。また、牛乳パックの「その他」の回答から、家庭内で料理の際に使ったり、ペン立てやいすなどをつくることで、牛乳パックを再使用している人がいることがわかりました。

4．リサイクルにともなう手間・満足感

リサイクルを実行する理由、実行しない理由にはいろいろなものがあることがわかりました。とくに実行しない理由として、手間や時間がかかることをあげている人は少なくないようです。それでは、リサイクルはどのようにとらえられているのでしょうか。

4.1　リサイクルの有効性

「リサイクルはごみ問題の解決に役立つ」と考えているかをたずねたところ、「非常に役立つ」と考えている人が半数以上います。また、「どちらかといえば役立つ」と考えている人も４割以上いることがわかりました。環境問題に対する関心と同じように、ほとんどの人はリサイクルがごみ問題に対して有効であると考えているようです。

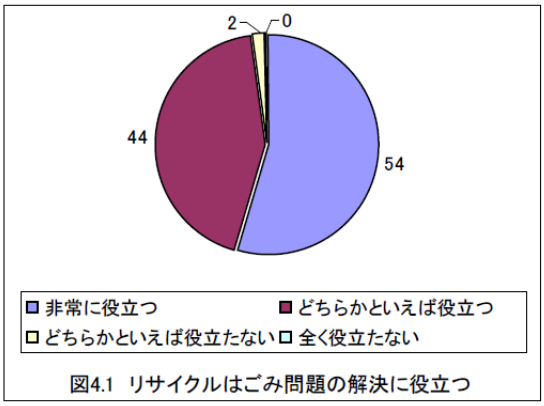


図4.1　リサイクルはごみ問題の解決に役立つ

4.2　リサイクルにともなう手間の感じ方

「リサイクルはどのくらい手間がかかる」と感じるかについてたずねたところ、「ビン･缶」、「新聞紙」のリサイクルにともなう手間を感じている人は約３割であることがわかりました。これに対して、「牛乳パック」のリサイクルは、６割の人が「手間がかかる」と感じています。牛乳パックをリサイクルするためには「切って、洗って、乾かす」という作業をしなければならず、また、回収を行っているスーパーなどにまで牛乳パックを持っていくことはかなりの負担になっているようです。

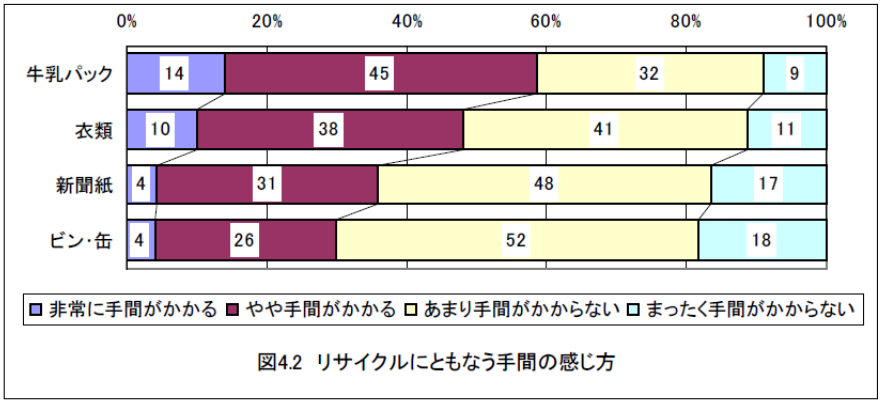


図4.2　リサイクルにともなう手間の感じ方

4.3　行動と手間の感じ方

それでは、手間を感じるかどうかは、実際にリサイクルをしている人としていない人で異なるのでしょうか。ここでは、手間がかかると答えた人がもっとも多かった牛乳パックのリサイクルに注目します。牛乳パックのリサイクルを実行している人と、実行していない人、それぞれに関して、リサイクルの手間をどのくらい感じているのかを見てみました。

その結果、実際に牛乳パックをリサイクルしている場合は、「あまり手間がかからない」と感じている人が多いのに対して、リサイクルをしていない場合は、「非常に手間がかかる」、「やや手間がかかる」と答えている人が８割ほどいることが明らかになりました。このことから、実行しない状態のままだと、手間ばかりが大きくうつってしまい、ますます取り組みたくなくなるという悪循環におちいってしまう可能性がありますが、実際にリサイクルに取り組んでみると意外と手間を感じない、またはリサイクルが習慣化することであまり手間を感じなくなる可能性が考えられます。

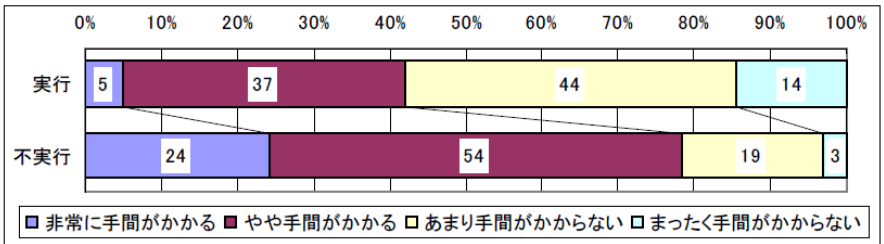


図4.3　牛乳パックリサイクルの実行と手間

4.4　リサイクルにともなう満足感

リサイクルには、手間ばかりがともなうのでしょうか。リサイクルをすることで満足感を覚えるかということをたずねたところ、ほとんどの人がリサイクルや節約を行うことで満足感を覚えると考えていることがわかりました。リサイクルには手間をともないますが、その一方で満足感も覚えるという点がリサイクルの特徴のようです。

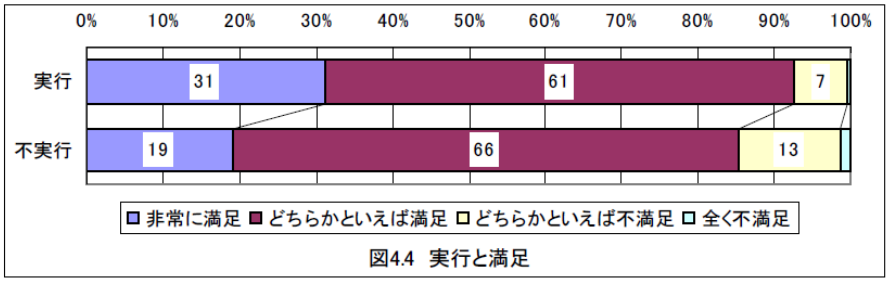


図4.4　実行と満足

4.5　リサイクルにともなう問題点

リサイクルはいつでも好きなときにできるわけではありません。回収日が週 1 回だったり、回収場所が昼間しか利用できないというように、時間などに制約があります。実際にリサイクルするためには、ものをためておく場所があるかといった点も考えなくてはなりません。また、ものによってリサイクルのルールも異なるため、そのルールを知っている必要もあります。こういったスペースやルールの問題は、どのくらい実行の妨げになるのでしょうか。

「ものをためておく場所がない」、「洗うのがたいへん」、「分別がわかりにくい」、「持っていくのがたいへん」ということが実行の障害になると考えている人は、どの問題においても 6 割前後いることがわかりました。とくに、「ものをためておく場所がない」というスペースの問題が「大きな障害となる」と考えている人は他の問題に比べると非常に多いことがわかります。これに対して、容器を洗うことはほかの問題に比べると、「あまり障害にならない」と考えている人が多いようです。

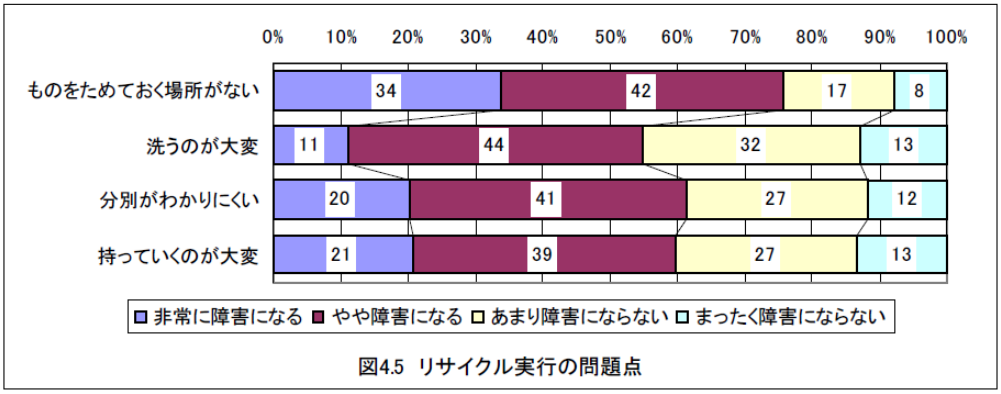


図4.5　リサイクル実行の問題点

次に、保存スペースを多くとると考えられるビン･缶のリサイクルについてみてみます。リサイクルを実行している人と実行していない人で、それぞれの問題をどのくらい「障害になる」と感じているかについて比べてみました。その結果、すべての問題において、ビン･缶のリサイクルを実行している人よりも実行していない人のほうが、その問題が障害になると考える傾向にあることがわかりました。とくに、「洗うのがたいへん」、「分別がわかりにくい」、「持っていくのがたいへん」といった問題は、リサイクルを実行している人と比較すると、実行していない人のほうが障害になると考えている傾向が強く出ています。これに対して、「ものをためておく場所がない」という問題は、リサイクルを実行している人としていない人の間の違いはそれほど大きなものではありませんでした。

このことから、「洗うのがたいへん」、「分別がわかりにくい」、「持っていくのがたいへん」といった問題は、実際にリサイクルを体験することで解決できるかもしれません。というのは、作業の習慣化から「大変さ」が軽減する可能性や、リサイクルするにつれて知識が増えることから「分別のルールのわかりにくさ」といった問題がなくなる可能性もあるからです。しかし、スペースの問題は、実行している人も「障害になる」と感じている問題です。その大変さは、なかなか簡単には解決できないと考えられます。回収の頻度を多くするなど、スペースの問題が解消できるようなリサイクルの仕組みをつくり、市民の負担を減らすことで、リサイクル行動を促進できる可能性があります。

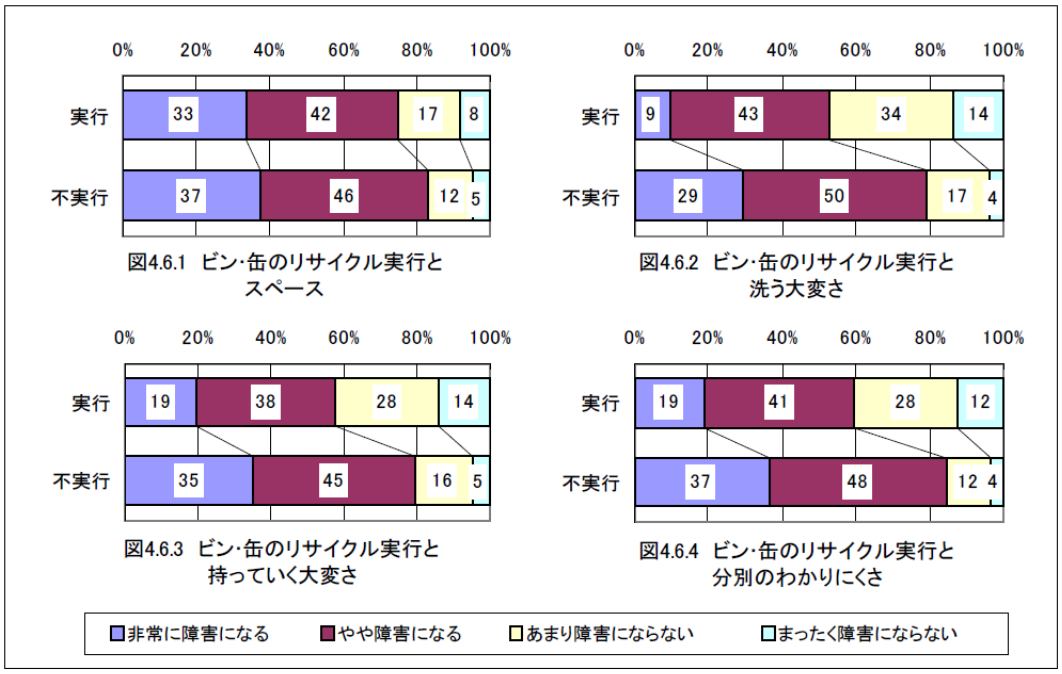


図4.6.1　ビン･缶のリサイクル実行とスペース

図4.6.2　ビン･缶のリサイクル実行と洗う大変さ

図4.6.3　ビン･缶のリサイクル実行と持っていく大変さ

図4.6.4　ビン･缶のリサイクル実行と分別のわかりにくさ

4.6　リサイクルの参加を促進させる要因

リサイクルに参加するよう市民に呼びかける方法としては、どのようなものが有効でしょうか。「チラシ」によるリサイクル参加の呼びかけ、「新聞広告」によるリサイクル参加の呼びかけ、「町内のリーダー（たとえば町内会長）」によるリサイクル参加の呼びかけの３つの方法で呼びかけられたときに、リサイクルに参加するかどうかをたずねました。その結果、どの方法でも６割以上の人が参加する気持ちがあるという結果になりました。

しかしながら、各方法の影響力は少しずつ異なっているようで、新聞広告よりは、チラシのほうが、チラシよりは町内のリーダーによる呼びかけのほうが、参加する気持ちが強くなるようです。

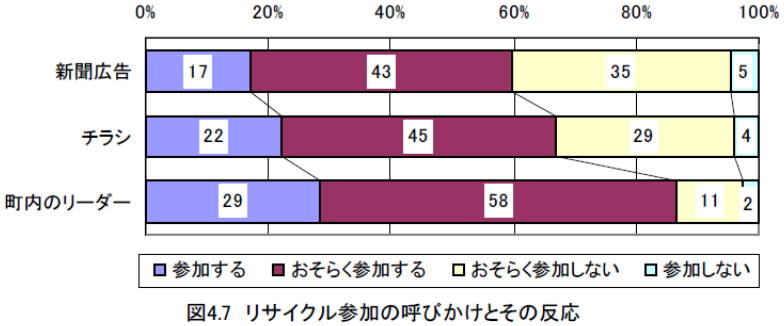


図4.7　リサイクル参加の呼びかけとその反応

５．リサイクル商品に対する関心

リサイクルは、資源として出されたものが再生されたあと、再生品が使用され、ものが循環していくことで、はじめてその輪が完成します。たんにリサイクルルートに資源を出すだけでなく、再生されたものを使用することについても、今後は考えていかなくてはなりません。それでは、リサイクル商品は実際にどのくらい購入されているのでしょうか。

5.1　リサイクル商品の購入

リサイクル商品を「よく購入している」人は全体の１割、「ときどき購入している」人をあわせると６割以上です。これに対して、「あまり購入しない」人は2.5割、「ほとんど購入しない」人は１割となっており、リサイクル商品の購入に消極的な人もいるようです。

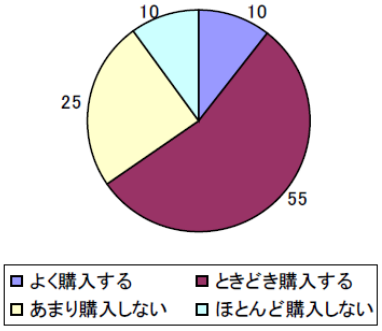


図5.1　リサイクル商品の購入

5.2　リサイクル商品の購入、未購入の理由

リサイクル商品を購入する理由、購入しない理由、それぞれについてたずねました。リサイクル商品を購入している場合は、「環境にやさしいから」、「価格が安いから」、「ふだん行く店にあるから」という理由をあげている人が多く、「品質がいいから」、「デザインが気に入っているから」、「友人がそうしているから」という理由をあげた人はほとんどいませんでした。これに対して、リサイクル商品を購入していない場合は、「ふだん行く店にないから」という理由をあげている人が６割いることがわかりました。リサイクル商品は、品質やデザインの面ではあまり支持されていませんが、価格が安い場合や、ふだん行く店においてあれば、今後購入される可能性があるといえるでしょう。

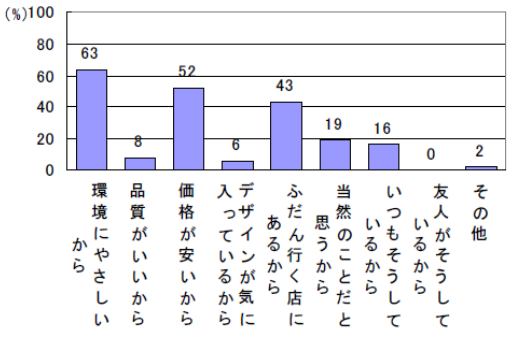


図5.2.1　リサイクル商品購入の理由（複数回答）

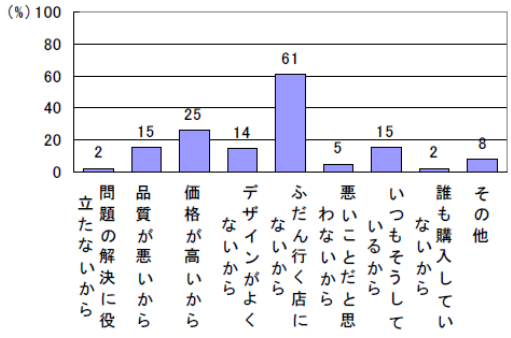


図5.2.2　リサイクル商品未購入の理由（複数回答）

６．未来に向けて

いままで、リサイクルがどのくらい取り組まれているのか、リサイクルにはどのくらい手間がかかるのか、リサイクルをするにあたって何が問題なのか、ということについて見てきました。最後に、リサイクルの制度がどのように変化すれば、市民の参加意志が高くなるのかについて見てみましょう。「回収場所が近くなる」、「ごみの回収日と資源回収の日が同じになる」というように、リサイクルの制度が変化したならば、リサイクルに参加すると答える人が５割をこえています。「おそらく参加する」と答えた人をあわせると９割以上の人がリサイクルに参加する意志を持っていることがわかりました。また、「回収回数」が増加することで、リサイクルに「参加する」と答えた人も４割以上おり、「おそらく参加する」と答えた人をあわせると、こちらも参加意志を持っている人が９割をこえるという結果になりました。リサイクルへの取り組みを阻んでいる原因として、「手間がかかる」、「ものをためておく場所がない」ということがわかりましたが、「回収場所が近くなる」「回収回数が増える」といった制度の変化は、こういった障害を克服するための方法のひとつとして考えることができるでしょう。

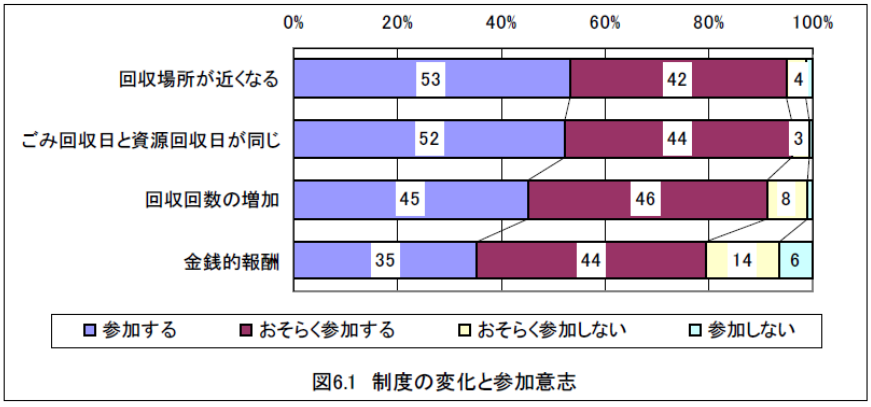


図6.1　制度の変化と参加意志

以上の集計によって、リサイクルに対する取り組みの実態や人々のリサイクルのとらえ方などが明らかになりましたが、今後は、環境問題に対する関心と行動の間の関係や、意識や行動を規定している要因について明らかにしたいと考えております。そのために、人々の意識や行動と、回答者の属性（性別、年齢、職業など）や、社会意識（満足感、公平感、階層帰属意識）の関連を、統計的な分析法（多変量解析法）を用いて分析を行い、リサイクル行動を妨げている要因を制御し、リサイクル行動を促進する要因を探求することで、ごみ問題の解決に何らかの形で貢献したいと考えております。

なお、さらに詳しい調査結果の内容をご覧になりたい方は、下記までご連絡ください。また、今回の調査についてのご感想やご意見･ご希望などがありましたら、お寄せいただければ幸いに存じます。

生活環境研究会では、調査に協力してくださるモニターを募集しています。関心を持たれた方は、下記までお問い合わせください。お手数をおかけしますが、よろしくお願い申しあげます。

〒980－7586　仙台市青葉区川内　東北大学文学部　行動科学研究室内
生活環境研究会
電話　022－217－6037（担当：篠木・荒井）

6. 調査票

ごみ問題とリサイクルに関する仙台市民意識調査

2000 年 2 月

調 査 主 体 ： 生 活 環 境 研 究 会
（代表：東北大学文学部教授
海 野 道 郎）
調査問い合わせ電話：022-217-6037
東北大学文学部行動科学研究室内
（担当：篠木、荒井、半澤）

◆回答をお願いしたい方について

これからおうかがいする質問の中には、ごみの捨て方など、生活についてかなり具体的なことをお聞きするものがあります。そこで、

1） 1人世帯については、もちろん**ご本人**が
2） 2人以上の世帯については、**家事を主に担当しておられる方**が

お答えください。

◆回収について

ご記入いただいた調査票は、そのままお宅に保管し、学生調査員がお宅におうかがいしたときにお渡しください。回収期間は次の通りです。

回収期間：２月１２日（土）から１４日（月）まで

記入上の注意

1. この調査は試験やクイズではありませんから、正しい答えや誤った答えがあるわけではありません。あなた自身のお考えをありのままに記入してください。
2. 答えの欄が一重の枠 [ ] で囲まれている質問では、枠内の選択肢の中からあてはまるものを1つ選び、その番号を○で囲んでください。
3. 答えの欄が二重の枠 [[ ]] で囲まれている質問では、枠内の選択肢の中からあてはまるものを複数選び（1つでもかまいません）、その番号を○で囲んでください。
4. 数字や番号・具体例などを枠内に記入していただく質問については、なるべくくわしく、明確に記入してください。枠内に書ききれない場合には、欄外にご記入ください。
5. 筆記具は、何でもかまいませんが、必ず黒色のものをお使いください。また、お答えを訂正するときには、前の答えをしっかり消すか、×をつけるなどして、訂正したことをはっきりと示してください。

それでは、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
はじめに、お住まいのことなどをおうかがいします。

問 1　あなたは、仙台市（旧泉市、宮城町、秋保町を含む）に**何年前から**お住まいですか。
【仙台市外へ引っ越しをされて、また戻ってこられた方は、通算ではなく、**最後に仙台に戻ってこられてからの年数**をお答えください】

□　年前から

問 2　あなたは、仙台に移ってこられる前には、どちらにお住まいでしたか。

1　生まれてからずっと仙台市（旧泉市、宮城町、秋保町を含む）に住んでいる

2　□　都・道・府・県

□　区（東京都のみ）・市・町・村

問 3　人によって生活の目標もいろいろですが、次の中で、あなたの生活目標に一番近いものはどれですか。あてはまるものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

1　その日その日を、自由に楽しく過ごす
2　しっかりと計画をたてて、豊かな生活を築く
3　身近な人たちと、なごやかな毎日を送る
4　みんなと力を合わせて、世の中をよくする
5　その他　具体的に：

次に、環境問題について、ご意見をおうかがいします。

問 4　「自然」と「人間」の関係について、次のような意見があります。次の意見の中で**真実に近い（本当のことに近い）**と思うものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

1　人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない
2　人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
3　人間が幸福になるためには、自然を征服してゆかなければならない
4　その他　具体的に：

問 5　環境問題に対する次のような意見に、あなたはどのくらい共感できますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない
A　私たちが今と同じ生活習慣を続けていると、環境問題は深刻になる一方である	1	2	3	4
B　行政は、いまだに環境保護にきちんと取り組んでいない	1	2	3	4
C　環境問題は誇張されて伝えられており、実際はそれほど深刻な問題ではない	1	2	3	4

問 6　あなたは、次にあげるような行動を実行していますか。実行している行動をすべて選んで、番号に○をつけてください。実行している行動が 1 つもない場合は「20　何もしていない」に○をつけてください。

1	洗面のとき、水を流しっぱなしにしない	11	生ごみはコンポストでたい肥化する
2	風呂の残り湯を洗濯に使うなど節水につとめる	12	天然油脂性の洗剤を使う
3	冷暖房の温度の調整をしている	13	台所の排水口にごみ受けを取り付ける
4	使用しない電灯を消す	14	使用後の油を排水に捨てない
5	チラシの裏などを活用し、紙くずを増やさない	15	過剰包装を断る
6	使えるうちは新しいものに買い替えない	16	環境にやさしい商品を購入する
7	物が壊れても、直せるうちは捨てずに修理する	17	使い捨て商品を買わない
8	できるだけ公共交通を利用する	18	買い物カゴ・布袋を持って買い物に行く
9	できるだけ歩いたり、自転車を利用する	19	環境家計簿を付ける
10	ルールを守ってごみを捨てる	20	何もしていない

問 7　あなたは、次にあげるものをリサイクルしていますか。それぞれにあてはまるものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

	いつもしている	ときどきしている	めったにしない	全くしない	自分はしないが家族がしている
A　新聞紙・古雑誌	1	2	3	4	5
B　牛乳パック	1	2	3	4	5
C　トレイ	1	2	3	4	5
D　ペットボトル	1	2	3	4	5
E　ビン・缶	1	2	3	4	5
F　電池（筒型）	1	2	3	4	5
G　衣類	1	2	3	4	5

問 8　牛乳パックのリサイクルについてさらに詳しくお聞きします。**問 7 の『B　牛乳パックのリサイクル』の回答をお確かめください**。

(A)【問 7 の『B 牛乳パックのリサイクル』で 1、2 を選ばれた方にお聞きします】牛乳パックのリサイクルをしている理由には、いろいろあると思います。次の中からあてはまるものを**いくつでも選んで**、番号に○をつけてください。

1	ごみ問題の解決に役に立つから
2	リサイクルするのが楽しいから
3	習慣となっているから
4	当然のことと思うから
5	友人・知人がしているから
6	仙台市がすすめているから
7	家の近くで回収しているから
8	子供の将来のことを考えるから
9	牛乳パックが家にたくさんあるから
10	その他　具体的に：

(B)【問 7『B 牛乳パックのリサイクル』で 3、4、5 を選ばれた方にお聞きします】牛乳パックのリサイクルをしていない理由には、いろいろあると思います。次の中からあてはまるものを**いくつでも選んで**、番号に○をつけてください。

1	リサイクルできることを知らなかったから
2	どうすればよいか方法がわからないから
3	ごみ問題の解決には役に立たないから
4	手間がかかるから
5	自分だけしても仕方がないと思うから
6	やらないことに罪悪感がないから
7	近くで回収しているところがないから
8	仕事などに忙しくて時間がないから
9	パック入りの牛乳を買わないから
10	その他　具体的に：

問 9　ビン・缶のリサイクルについてさらに詳しくお聞きします。**問 7 の『E　ビン・缶のリサイクル』の回答をお確かめください**。

(A)【問 7 の『E ビン・缶のリサイクル』で 1、2 を選ばれた方にお聞きします】ビン・缶のリサイクルをしている理由には、いろいろあると思います。次の中からあてはまるものを**いくつでも選んで**、番号に○をつけてください。

1	ごみ問題の解決に役に立つから
2	リサイクルするのが楽しいから
3	習慣となっているから
4	当然のことと思うから
5	友人・知人がしているから
6	仙台市がすすめているから
7	家の近くで回収しているから
8	子供の将来のことを考えるから
9	ビン・缶が家にたくさんあるから
10	その他　具体的に：

(B)【問 7 の『E ビン・缶のリサイクル』で 3、4、5 を選ばれた方にお聞きします】ビン・缶のリサイクルをしていない理由には、いろいろあると思います。次の中からあてはまるものを**いくつでも選んで**、番号に○をつけてください。

1	リサイクルできることを知らなかったから
2	どうすればよいか方法がわからないから
3	ごみ問題の解決には役に立たないから
4	手間がかかるから
5	自分だけしても仕方がないと思うから
6	やらないことに罪悪感がないから
7	近くで回収しているところがないから
8	仕事などに忙しくて時間がないから
9	ビン・缶入りの商品を買わないから
10	その他　具体的に：

問 10　あなたがふだんよく買い物するところでは、次のようなものの回収を行っていますか。回収を行っているものを**すべて選んで**、番号に○をつけてください。

1	牛乳パック	6	電池
2	トレイ	7	その他
3	ビン		
4	缶		
5	ペットボトル		

具体的に：

問 11　あなたが一緒に住んでいるご家族で、ふだんよくリサイクルに協力してくれるのは誰ですか。あてはまるものを**すべて選んで**、番号に○をつけてください。

1	配偶者	6	その他
2	子供（男の子）		
3	子供（女の子）		
4	父親、義父		
5	母親、義母	7	一緒に住んでいる家族はいない

具体的に：

問 12　あなたは、次のような意見に対して、どのくらい**共感**できますか。あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない
A　リサイクルには、手間や時間がかかる	1	2	3	4
B　リサイクルすると、お金の節約になることもある	1	2	3	4
C　リサイクルは、近所の人と仲良くなれるよい機会だ	1	2	3	4

問 13　「自分がリサイクルに取り組んでも、ごみ問題の解決には影響を与えない」という意見に、あなたは、どのくらい**共感**できますか。あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

1	非常に共感できる
2	どちらかといえば共感できる
3	どちらかといえば共感できない
4	全く共感できない

問 14　あなたは、**自分自身**がどのくらいリサイクルに取り組んでいると思いますか。

1	よくリサイクルに取り組んでいる
2	少しはリサイクルに取り組んでいる
3	あまりリサイクルに取り組んでいない
4	まったくリサイクルに取り組んでいない

問 15　あなたは、**他の人**がどのくらいリサイクルに取り組んでいると思いますか。

1	よくリサイクルに取り組んでいる
2	少しはリサイクルに取り組んでいる
3	あまりリサイクルに取り組んでいない
4	まったくリサイクルに取り組んでいない

問 16　あなたは、**牛乳パック**の資源回収を次のような方法で行うとするならば、協力できますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

	協力できる	たぶん協力できる	たぶん協力できない	協力できない
A　現在の資源ごみの回収と同じ回収方法（ステーション方式）	1	2	3	4
B　市の施設（コミュニティセンターなど）に持っていく回収方法	1	2	3	4
C　近所のスーパーの店頭に持っていく回収方法	1	2	3	4
D　好きな曜日・好きな時間に家の近くの回収場所に持っていく方法	1	2	3	4

問 17　あなたは、牛乳パック以外の**紙製の容器包装**（菓子箱など）の資源回収を次のような方法で行うとするならば、協力できますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

	協力できる	たぶん協力できる	たぶん協力できない	協力できない
A　現在の資源ごみの回収と同じ回収方法（ステーション方式）	1	2	3	4
B　市の施設（コミュニティセンターなど）に持っていく回収方法	1	2	3	4
C　近所のスーパーの店頭に持っていく回収方法	1	2	3	4
D　好きな曜日・好きな時間に家の近くの回収場所に持っていく方法	1	2	3	4

問 18　「他の人がリサイクルに取り組むことでごみ問題が解決するのであれば、自分はリサイクルに取り組まない」という意見に、あなたは、どのくらい**共感**できますか。あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

1	非常に共感できる
2	どちらかといえば共感できる
3	どちらかといえば共感できない
4	全く共感できない

問 19　あなたは、次のようなことによって、どのくらいリサイクルの実行が**妨げられる**と思いますか。あなたのお考えに最も近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

	非常に障害になる	やや障害になる	あまり障害にならない	全く障害にならない
A　ものをためておく場所がない	1	2	3	4
B　洗ったりするのがたいへんだ	1	2	3	4
C　分別の方法が分かりにくい	1	2	3	4
D　回収場所まで持っていくのがたいへんだ	1	2	3	4

問 20　次にあげるような行動は、実行にどのくらい**手間がかかる**と、あなたは感じますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

	非常に手間がかかる	やや手間がかかる	あまり手間がかからない	全く手間がかからない
A　新聞紙のリサイクル	1	2	3	4
B　牛乳パックのリサイクル	1	2	3	4
C　ビン・缶のリサイクル	1	2	3	4
D　衣類のリサイクル	1	2	3	4

問 21　あなたは、リサイクルが「ごみ問題の解決」に**役立つ**と思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

1	非常に役立つ
2	どちらかといえば役立つ
3	どちらかといえば役立たない
4	全く役立たない

問 22　あなたは、次のような意見に、どのくらい**共感**できますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない
A　ものを再利用したり、リサイクルすると、満足感をおぼえる	1	2	3	4
B　節約すると、満足感をおぼえる	1	2	3	4

問 23　あなたは、次のような意見にどのくらい**共感**できますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない
A　ごみ問題の解決のために、われわれは環境に配慮した行動をするべきだ	1	2	3	4
B　他の人がどのように行動するとしても、われわれは環境に配慮した行動をするべきだ	1	2	3	4
C　たとえ手間がかかるとしても、われわれは環境に配慮した行動をするべきだ	1	2	3	4
D　快適さや好みは多少我慢しても、われわれは環境に配慮した行動をするべきだ	1	2	3	4

問 24　「人間は、環境に少しくらい悪影響を与えても、たいていは自分が得をするように行動するものだ」という意見に、あなたは、どのくらい**共感**できますか。あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

1	非常に共感できる
2	どちらかといえば共感できる
3	どちらかといえば共感できない
4	全く共感できない

問 25　他の人がリサイクルに**取り組んでいる**状況を考えてください。そのとき、**あなた自身は**リサイクルに取り組みますか、それとも取り組みませんか。

1	取り組む	2	おそらく取り組む	3	おそらく取り組まない	4	取り組まない

問 26　他の人がリサイクルに**取り組んでいない**状況を考えてください。そのとき、**あなた自身は**リサイクルに取り組みますか、それとも取り組みませんか。

1	取り組む	2	おそらく取り組む	3	おそらく取り組まない	4	取り組まない

問 27　人はいろいろな理由で環境に配慮した行動をしたりしなかったりします。次のような理由に、あなたはどのくらい共感できますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない
A 「環境にやさしい商品」には、なかなか気にいったものがないので、買いたくない	1	2	3	4
B 快適に暮らしたいので、暑いときは冷房を、寒いときは暖房を使ってしまう	1	2	3	4
C 仕事で必要なので、たいていの所に自動車で行く	1	2	3	4
D 受け取る相手が不快に思うかもしれないので、簡易包装を頼めない	1	2	3	4
E 家の中にも外にもコンポスト容器を置く場所がないので、生ごみはそのまま捨てる	1	2	3	4
F 清潔にしていないと仕事に支障があるので、頻繁にお風呂に入ったり洗濯をして水を多量に使用せざるをえない	1	2	3	4

問 28　あなたが利用しているごみ集積所（またはコンテナボックス）では、資源ごみを回収箱に出すときに、行政で決められたルール以外に、何らかのルールがありますか（たとえば、「ビンならビンを、缶なら缶を同じ回収箱に入れる」など）。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1　決まったルールがある
　【具体的に：　　】
2　決まったルールはないが、暗黙のルールのようなものはある
　【具体的に：　　】
3　決まったルールはない
4　わからない

問 29　あなたは、ごみ問題に対する知識やごみ減量法についての情報を、何から手に入れていますか。あてはまるものをいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

1	本	11	学校教育
2	雑誌	12	企業の広告
3	新聞記事	13	家族
4	パンフレット	14	近所の人
5	市の広報	15	友人
6	テレビ番組	16	町内会の案内・回覧板
7	インターネット	17	その他　具体的に：
8	シンポジウムや講演会		
9	市民大学などの社会教育事業		
10	生協や消費者団体などの活動報告	18	どこからも情報を得ていない

問 30　今の状態は別として、次のような場合、あなたは、リサイクルに**参加**しますか、それとも参加しませんか。あてはまるものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

	参加する	おそらく参加するだろう	おそらく参加しないだろう	参加しない
A　行政や民間団体などのチラシによって、リサイクルへの参加を呼びかけられたとき	1	2	3	4
B　行政や民間団体などの新聞広告によって、リサイクルの参加を呼びかけられたとき	1	2	3	4
C　町内のリーダーに参加を頼まれたとき	1	2	3	4
D　友人に参加を頼まれたとき	1	2	3	4
E　皆の前でリサイクルへの参加を表明したとき	1	2	3	4
F　署名等によってリサイクルへの参加を表明したとき	1	2	3	4
G　ごみを回収する日に資源回収（リサイクル）が行われるようになったとき	1	2	3	4
H　資源回収（リサイクル）が行われる回数が今よりも多くなったとき	1	2	3	4
I　資源回収の場所が今よりも近くなったとき	1	2	3	4
J　自分たちが行っているリサイクルの効果に関する情報がかえってきたとき	1	2	3	4
K　参加すればお金がもらえるとき	1	2	3	4
L　参加しないと罰を受けるとき	1	2	3	4

問 31　いま、あなたはスーパーの日用品売り場にいるとします。あなたの前には次のような２種類のトイレットペーパーがあります。

商品 A【純パルプ品】	再生紙を使用していないトイレットペーパー
商品 B【再生紙品】	再生紙を使用したトイレットペーパー

あなたはどのような場合に、**商品 B【再生紙品】**を選びますか。あなたのお考えにもっとも近いものを**１つ選んで**、番号に○をつけてください。

1　【再生紙品】が【純パルプ品】よりかなり高くても、【再生紙品】を購入する
2　【再生紙品】が【純パルプ品】より少し高いならば、【再生紙品】を購入する
3　【再生紙品】と【純パルプ品】の値段が同じであれば、【再生紙品】を購入する
4　【再生紙品】が【純パルプ品】よりも安ければ、【再生紙品】を購入する
5　どんなに安くても【再生紙品】は購入しない
6　その他　具体的に：

問 32　エコショップ(環境にやさしい商品を専門に販売している店)ができたならば、あなたはそのお店に行ってみたいと思いますか。あてはまるものを**1つ選んで**、番号に○をつけてください。

1　少しくらいお店が遠くても行ってみたい
2　お店があまり遠ければ行かないが、近ければ行ってみたい
3　お店がどこにあっても、行きたくない
4　その他　具体的に：

問 33　あなたは、日用品などを購入するときに、リサイクル商品を購入することがありますか。あてはまるものを**1つ選んで**、番号に○をつけてください。

1　よく購入する
2　ときどき購入する
3　あまり購入しない
4　ほとんど購入しない

問 34-A【問 33 で 1、2 を選ばれた方にお聞きします】リサイクル商品を購入する理由には、いろいろあると思います。次の中から、あてはまるものを**いくつでも選んで**、番号に○をつけてください。

1　環境にやさしいから
2　品質がいいから
3　価格が安いから
4　デザインが気に入っているから
5　ふだん行く店で売っているから
6　当然のことだと思うから
7　いつもそうしているから
8　友人がそうしているから
9　その他　具体的に：

問 34-B【問 33 で 3、4 を選ばれた方にお聞きします】リサイクル商品を購入しない理由には、いろいろあると思います。次の中から、あてはまるものを**いくつでも選んで**、番号に○をつけてください。

1　環境問題の解決には役に立たないから
2　品質が悪いから
3　価格が高いから
4　デザインが気に入らないから
5　ふだん行く店で売っていないから
6　悪いことだと思わないから
7　いつもそうしているから
8　誰も購入していないから
9　その他　具体的に：

問 35　あなたが利用しているごみ集積所（またはコンテナボックス）では、資源回収のときに、ビンや缶が回収箱に袋ごと入れられていますか。

1　袋から出されている
2　たまに袋ごと入れられている
3　しばしば袋ごと入れられている
4　いつも袋ごと入れられている
5　わからない

ここで地域のことなどについて、あなたの意見をおうかがいします。

問 36　あなたは近所の人たちと、ふだんどのような付き合いをしていますか。もっとも近いものを**1つ選んで**、番号に○をつけてください。

1	顔を知っている人はいない
2	顔を知っている人もいるが、あいさつはしない
3	あいさつする人もいるが、親しく話してはいない
4	親しく話をする人も少しはいる
5	親しく話をする人が多い

問 37　あなたは、次にあげるような団体に現在加入していますか。**加入している団体すべての番号に**、○をつけてください。加入している団体が何もない方は、「11　加入している団体はない」に○をつけてください。

1	町内会、自治会	7	宗教団体
2	老人クラブ、地域婦人会、青年団	8	生協、消費者団体
3	商工会、農協、漁協、同業者組合などの団体	9	地域運動、住民運動、市民運動などの団体
4	労働組合	10	その他　具体的に：
5	スポーツ・趣味・娯楽の団体やサークル、学習・研究サークル		
6	政党、政治団体、政治家の後援会	11	加入している団体はない

問 38　あなたは、次にあげるような団体において、積極的に活動していますか。**積極的に活動している団体すべての番号に**、○をつけてください。積極的に活動している団体が何もない方は、「11　積極的に活動している団体はない」に○をつけてください。

1	町内会、自治会	7	宗教団体
2	老人クラブ、地域婦人会、青年団	8	生協、消費者団体
3	商工会、農協、漁協、同業者組合などの団体	9	地域運動、住民運動、市民運動などの団体
4	労働組合	10	その他　具体的に：
5	スポーツ・趣味・娯楽の団体やサークル、学習・研究サークル		
6	政党、政治団体、政治家の後援会	11	積極的に活動している団体はない

問 39 あなたの住んでいる地区では**町内会の活動**は活発ですか、それとも活発ではありませんか。

1	非常に活発である
2	少しは活発である
3	あまり活発ではない
4	全く活発ではない
5	わからない

問 40　あなたは、次の地域に対して、どのくらい**愛着**を感じていますか。それぞれについてあなたのお考えに最も近いものを**1 つ選んで**、番号に○をつけてください。

	非常に感じている	やや感じている	あまり感じていない	全く感じていない
A　現在お住まいの町内	1	2	3	4
B　現在お住まいの区	1	2	3	4
C　仙台市	1	2	3	4

問 41　あなたは、次のものをどのくらい熱心に読んでいますか。それぞれについてあてはまるものを**1 つ選んで**、番号に○をつけてください。

	熱心に読んでいる	やや熱心に読んでいる	あまり熱心に読んでいない	ほとんど読んでいない	自分の家には配布されない
A　仙台市の広報	1	2	3	4	5
B　回覧板	1	2	3	4	5

問 42　一般的にいって、いまの日本の社会は**公平**だと思いますか、それとも思いませんか。

1	公平だ	2	だいたい公平だ	3	あまり公平でない	4	公平でない

問 43　仮に、現在の日本の社会全体を、以下に書いてあるように５つの層に分けるとすれば、**あなた自身**はどれに入ると思いますか。

1	上	2	中の上	3	中の下	4	下の上	5	下の下

あなたご自身のことについて、おうかがいします。

問 44　あなたの性別と年齢をお答えください。

1	男	2	女

［　　］歳

問 45　あなたが最後にいらっしゃった学校（中退も含む）は次の中のどれですか。現在学生の方は、在籍中の学校をお答えください。

1　小学校（旧制尋常小学校なども含む）
2　新制中学（旧制高等小学校なども含む）
3　新制高校（旧制中学校なども含む）
4　専門学校（新制高校卒業後入学したもの）
5　短大・高専（旧制高等学校なども含む）
6　大学（大学院も含む）
7　その他　具体的に：

問 46　あなたご自身のお仕事は大きく分けて以下のどれにあたりますか。

1　専業主婦（内職やパート、家族従業をしていない方）
2　学生
3　無職（専業主婦や学生以外の年金生活者の方など）
4　臨時雇用、パート、アルバイト、内職
5　常時雇用されている一般従業員（常勤の会社員、公務員など）
6　自営業主または家族従業者
7　経営者（重役）役員
8　その他　具体的に：

右の頁の上（問 48）へ

問 47-A　【問 46 で 4、5、6、7、8 を選んだ方にお聞きします】あなたの一日の勤務時間は、平均してどのくらいですか。【たとえば、4 時間 30 分の場合は 4.5 と記入してください】

時間

問47-B　あなたの仕事場では、環境問題に取り組んでいますか。

1　組織的に環境問題に取り組んでいる
2　組織的には取り組んでいないが、個人的に環境に配慮した行動をしている人はいる
3　組織的に取り組んでおらず、個人的に環境に配慮した行動をしている人もいない
4　わからない
5　その他　具体的に：

ここで、あなたのご家族についておうかがいします。多少、立ち入った質問もございますが、プライバシーに関することが外部に漏れることはいっさいありませんし、調査結果の分析のときにぜひとも必要ですので、お答えくださいますようお願いいたします。

問 48 あなたが仙台でご一緒にお住まいになっているご家族には、次の年代の方が何人いますか。**あなた自身も含めて**お答えください。なお、**単身赴任などで別居されているご家族がいる場合は、その方を除いて**、お答えください。

0－ 5 歳	人	30－39 歳	人
6－12 歳	人	40－49 歳	人
13－19 歳	人	50－59 歳	人
20－29 歳	人	60 歳以上	人

問 49　現在同居されている家族全体（ただし**単身赴任、出稼ぎの方は含めて**お答えください）で、昨年 1 年間のお宅の収入は、税込みでいくらくらいですか。

【お願い！！】　学生の方などで独り暮らしをされており、どなたかから仕送りを受けている場合には、仕送りも含めた、あなた自身の収入をお答えください。

1	100 万円未満	7	600 万円以上 700 万円未満
2	100 万円以上 200 万円未満	8	700 万円以上 800 万円未満
3	200 万円以上 300 万円未満	9	800 万円以上 900 万円未満
4	300 万円以上 400 万円未満	10	900 万円以上 1000 万円未満
5	400 万円以上 500 万円未満	11	1000 万円以上 1100 万円未満
6	500 万円以上 600 万円未満	12	1100 万円以上

問 50　ご家族の中で、一番収入の多い方のお仕事について、いくつかおうかがいします。

【お願い！！】　単身赴任や出稼ぎなどで一緒にお住みでない方も含めて、お宅で一番収入の多い方についてお答えください。ただし、該当するのが**ご本人の場合は次の頁の(B)へお進みください**。

(A)　その方のお仕事は大きく分けて以下のどれにあたりますか。

1　無職（専業主婦や学生以外の年金生活者の方など）
2　専業主婦（内職やパート、家族従業をしていない方）
3　学生
4　臨時雇用、パート、アルバイト、内職
5　常時雇用されている一般従業員（常勤の会社員、公務員など）
6　自営業主または家族従業者
7　経営者（重役）役員
8　その他　具体的に：

末尾にある「ご意見欄」への記入をお願いいたします。

(B)　従業員（雇われている人）は、会社全体で何人くらいですか。【たとえば、○○株式会社仙台支社にお勤めの方は、仙台支社ではなく、○○株式会社全体の人数をお答えください】

1	なし	5	100－999 人
2	1－ 9 人	6	1000 人以上
3	10－29 人	7	官公庁（公務員）
4	39－99 人	8	わからない

(C) その方は従業先でどのようなお仕事をしていますか。どこに分類できるかわからない場合は、「7　その他」に○をつけ、具体的な仕事内容を書いてください。

1	事務的職業（庶務・人事・経理などの事務一般など）	
2	販売的職業（小売業、卸、不動産仲介、保険外交を含む）	
3	熟練・労務的職業（理容師、調理師、工員、運転手、警備員、建設作業員など）	
4	管理的職業（企業・官公庁における課長職以上のもの）	
5	専門的職業（医師、弁護士、教師、技術者など専門的知識を要するもの）	
6	農林水産業（ただし、第二種兼業や農水産加工は含まない）	
7	その他	具体的に：

これで質問は終わりです。長い間、めんどうな質問にお答えいただき、誠にありがとうございました。たいへん恐縮ですが、はじめに戻って、**記入漏れや書き間違いがないかどうか**、ご確認をお願いいたします。

皆さまからいただいたお答えは、貴重な資料として活用させていただきます。なお、この調査についてのご意見やご感想、環境問題などに関するご意見などを、下にご記入いただければ幸いです。書ききれない場合は、余白や別紙にお書きいただいても結構です。

［御意見］

5. 集計表

5.1 単純集計表 [1]

問 1　仙台市における居住年数

	%
10 年未満	24.9
10 年以上 20 年未満	20.0
20 年以上 30 年未満	21.1
30 年以上 40 年未満	14.2
40 年以上 50 年未満	7.8
50 年以上 60 年未満	5.9
60 年以上 70 年未満	3.3
70 年以上	1.8
DK/NA	1.1
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 2a　以前住んでいた地域

	%
生まれてからずっと仙台市	26.8
仙台市以外の地域	72.2
DK/NA	1.0
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 2b　以前住んでいた県

	%		%		%
ずっと仙台市	26.8	東京	5.9	奈良	0.1
北海道	2.2	神奈川	4.3	島根	0.1
青森	3.3	新潟	1.0	岡山	0.1
岩手	5.1	山梨	0.2	広島	0.2
宮城	24.3	長野	0.6	徳島	0.1
秋田	3.4	岐阜	0.2	香川	0.1
山形	4.9	静岡	0.8	福岡	0.2
福島	6.1	愛知	0.4	大分	0.1
茨城	0.7	三重	0.1	沖縄	0.1
栃木	0.5	滋賀	0.1	国外	0.6
群馬	0.4	京都	0.2	DK/NA	1.5
埼玉	1.7	大阪	0.9		
千葉	1.9	兵庫	1.0		
計					100.0
（%の基数）					(1026)

問 2c　以前住んでいた市区町村

[1] 質問文は内容を損なわない程度に簡略化した。質問文の詳細は、本章の 6.を参照されたい。

	%
ずっと仙台市	26.8
東京都 23 区	4.5
仙台市以外の市	40.2
町	11.5
村	0.5
DK/NA	16.6
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 3　生活目標

	%
自由に楽しく過ごす	20.0
計画をたてて豊かな生活を築く	22.4
なごやかな毎日を送る	46.5
世の中をよくする	6.7
その他	3.2
DK/NA	1.2
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 4　自然と人間の関係に対する意見

	%
自然に従わなければならない	45.9
自然を利用しなければならない	42.1
自然を征服してゆかなければならない	1.5
その他	8.6
DK/NA	1.9
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 5　環境問題に対する意識

	A 今の生活習慣では環境問題は深刻化する	B 行政は環境問題に取り組んでいない	C 環境問題はそれほど深刻な問題ではない
非常に共感	69.6	37.0	5.7
どちらかといえば共感	27.2	48.0	8.9
どちらかといえば共感できない	2.1	10.9	31.5
共感できない	0.1	1.8	51.4
DK/NA	1.0	2.3	2.6
計	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 6　環境配慮行動の実行率

	%		%
洗面時の節水	67.2	コンポストの使用	9.3
風呂の残り湯の利用	66.5	天然油脂性の洗剤の使用	17.6
冷暖房の温度調節	83.3	排水口のごみ受けの取り付け	85.0
使用しない電灯の消灯	92.6	油を排水に捨てない	89.4
チラシの裏の活用	40.9	過剰包装を断る	45.5
ものを買い換えずに使用	74.1	環境にやさしい商品の購入	37.4
ものを修理して使用	57.7	使い捨て商品の不買	23.1
公共交通の利用	34.9	買い物袋の持参	20.6
徒歩・自転車の利用	43.7	環境家計簿	2.9
ごみ排出時のルールの遵守	93.0	なにもしていない	0.3

注：複数回答で、%の基数は 1026

問 7　リサイクルの実行率

	A 新聞紙	B 牛乳	C トレイ	D ペット	E ビン・	F 電池	F 衣類
いつもしている	70.8	38.4	28.2	73.6	84.8	65.3	27.5
ときどきしている	15.9	14.8	17.1	10.3	6.3	9.5	32.8
めったにしない	5.1	13.8	15.8	5.1	3.2	7.8	18.6
まったくしない	5.2	29.8	33.7	7.9	4.1	13.2	17.0
家族がしている	2.3	1.8	1.5	1.6	1.1	1.9	1.8
DK/NA	0.8	1.4	3.8	1.6	0.5	2.4	2.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 8A　牛乳パックのリサイクル実行の理由

	%
ごみ問題の解決に役立つから	73.2
リサイクルするのが楽しいから	10.4
習慣となっているから	60.4
当然のことと思うから	50.5
友人・知人がしているから	4.8
仙台市が進めているから	18.9
家の近くで回収しているから	48.1
子供の将来のことを考えるから	16.6
牛乳パックが家にたくさんあるから	21.1
その他	6.5

注：複数回答で、%の基数は 558

問 8B　牛乳パックのリサイクル不実行の理由

	%
リサイクル可能なことを知らなかったから	4.0
方法がわからないから	18.3
ごみ問題の解決には役立たないから	1.3
手間がかかるから	35.3
自分だけしても仕方ないから	0.9
罪悪感がないから	3.6
近くで回収していないから	32.7
忙しくて時間がないから	26.8
パック入り牛乳を買わないから	24.4
その他	9.4

注：複数回答で、%の基数は 459

問 9A　ビン･缶のリサイクル実行の理由

	%
ごみ問題の解決に役立つから	67.4
リサイクルするのが楽しいから	5.4
習慣となっているから	71.0
当然のことと思うから	57.7
友人・知人がしているから	1.9
仙台市が進めているから	40.6
家の近くで回収しているから	54.7
子供の将来のことを考えるから	11.7
牛乳パックが家にたくさんあるから	20.3
その他	1.6

注：複数回答で、%の基数は 929

問 9B　ビン･缶のリサイクル不実行の理由

	%
リサイクル可能なことを知らなかったから	21.3
方法がわからないから	40.0
ごみ問題の解決には役立たないから	0.0
手間がかかるから	30.7
自分だけしても仕方ないから	2.7
罪悪感がないから	5.3
近くで回収していないから	26.7
忙しくて時間がないから	37.3
パック入り牛乳を買わないから	8.0
その他	5.3

注：複数回答で、%の基数は 75

問 10　ふだんの買い物場所での回収状況

	%
牛乳パックの回収	70.8
トレイの回収	73.4
ビンの回収	15.6
缶の回収	22.6
ペットボトルの回収	26.0
電池の回収	9.7
その他	0.4

注：複数回答で、%の基数は 1026

問 11　リサイクルの協力者

	%
配偶者	55.5
子供（男）	24.6
子供（女）	28.8
父親・義父	5.1
母親・義母	12.9
その他	1.2
一緒に住んでいる家族はいない	7.9

注：複数回答で、%の基数は 1026

問 12　リサイクルに対する意見

	A 手間や時間	B お金の節約	C 近所の人と
非常に共感	21.4	15.9	6.0
どちらかといえば共感	54.7	45.6	37.0
どちらかといえば共感できない	14.8	25.0	37.2
共感できない	7.6	11.8	16.8
DK/NA	1.5	1.8	2.9
計	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 13　自分がリサイクルに取り組んでも
ごみ問題の解決には影響を与えない

	%
非常に共感	6.8
どちらかといえば共感	26.8
どちらかといえば共感できない	36.1
共感できない	28.8
DK/NA	1.6
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 14　リサイクル取り組みの自己評価

	%
よく取り組んでいる	16.0
少しは取り組んでいる	64.4
あまり取り組んでいない	17.0
まったく取り組んでない	2.4
DK/NA	0.2
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 15　リサイクル取り組みの他者評価

	%
よく取り組んでいる	9.6
少しは取り組んでいる	65.3
あまり取り組んでいない	22.0
まったく取り組んでない	1.2
DK/NA	1.9
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 16　回収方法別の牛乳パックのリサイクル協力意思

	A ステーション方式	B 市の施設	C スーパー	D 好きな日時に近くの回収場所
協力できる	67.2	9.6	40.2	61.3
たぶん協力できる	23.5	21.9	29.4	24.5
たぶん協力できない	5.2	44.9	20.8	5.3
協力できない	1.6	18.0	5.3	4.0
DK/NA	2.6	5.5	4.4	5.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 17　回収方法別の紙製の容器包装のリサイクル協力意思

	A ステーション方式	B 市の施設	C スーパー	D 好きな日時に近くの回収場所
協力できる	68.0	8.1	33.1	60.0
たぶん協力できる	22.6	22.2	32.6	26.6
たぶん協力できない	5.9	46.2	22.9	5.5
協力できない	0.8	17.5	6.2	3.5
DK/NA	2.6	5.9	5.2	4.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 18　他の人がリサイクルに取り組むなら自分はリサイクルに取り組まない

	%
非常に共感	1.9
どちらかといえば共感	8.6
どちらかといえば共感できない	25.7
共感できない	62.3
DK/NA	1.5
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 19　リサイクル実行に伴う障害に対する意見

	A ものをためておく場所がない	B 洗うのが大変	C 分別がわかりにくい	D 持っていくのが大変
非常に共感	33.1	10.9	19.8	20.5
どちらかといえば共感	41.1	42.5	40.1	37.9
どちらかといえば共感できない	16.3	31.5	26.1	26.5
共感できない	7.6	12.6	11.4	13.0
DK/NA	1.9	2.5	2.6	2.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 20　リサイクル実行に伴うコスト感

	A 新聞紙のリサイクル	B 牛乳パックのリサイクル	C ビン･缶のリサイクル	D 衣類のリサイクル
非常に手間がかかる	4.3	13.7	4.0	9.8
やや手間がかかる	31.1	44.0	25.5	37.3
あまり手間がかからない	47.2	31.8	51.2	40.1
まったく手間がかからない	16.5	9.0	18.1	11.0
DK/NA	1.0	1.6	1.2	1.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 21　ごみ問題に対するリサイクルの有効性

	%
非常に役立つ	54.2
どちらかといえば役立つ	43.4
どちらかといえば役立たない	1.8
全く役立たない	0.2
DK/NA	0.5
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 22　物を大切に使うことに伴う満足感

	A 再利用リサイクルに伴う満足感	B 節約に伴う満足感
非常に共感	25.3	31.1
どちらかといえば共感	63.1	59.6
どちらかといえば共感できない	9.6	6.5
全く共感できない	1.0	1.1
DK/NA	1.0	1.7
計	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 23　環境問題に対する規範意識

	A ごみ問題解決のために環境に配慮すべき	B 他者にかかわらず環境に配慮すべき	C 手間がかかっても環境に配慮すべき	D 快適さを我慢しても環境に配慮すべき
非常に共感	55.5	43.4	36.5	25.9
どちらかといえば共感	41.7	50.8	57.1	59.9
どちらかといえば共感できない	1.5	4.2	4.7	11.6
全く共感できない	0.3	0.3	0.2	0.9
DK/NA	1.1	1.4	1.5	1.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 24 人間は環境に少しくらい悪影響を与えてもたいていは自分が得をするように行動する

	%
非常に共感	6.9
どちらかといえば共感	32.5
どちらかといえば共感できない	40.4
全く共感できない	18.9
DK/NA	1.3
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 25 他の人がリサイクルに取り組んでいるとき自分はリサイクルに取り組むか

	%
取り組む	36.7
おそらく取り組む	58.8
恐らく取り組まない	3.8
取り組まない	0.3
DK/NA	0.4
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 26　他の人がリサイクルに取り組んでいないとき自分はリサイクルに取り組むか

	%
取り組む	22.0
おそらく取り組む	57.2
恐らく取り組まない	19.6
取り組まない	0.8
DK/NA	0.4
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 27　環境配慮行動不実行の理由に対する共感

	A 気に入った商品がないから買わない	B 快適に過ごしたいから省エネしない	C 仕事で使うのでたいてい車で行く	D 相手を考えると簡易包装できない	E 場所がないのでコンポストを使わない	F 清潔にするために水を頻繁に使用する
非常に共感	4.1	23.7	21.2	9.0	28.9	17.9
どちらかといえば共感	42.0	58.1	43.9	40.7	41.9	47.9
どちらかといえば共感できない	43.5	13.7	23.7	36.9	17.7	25.6
共感できない	8.5	3.6	8.4	11.6	9.7	6.7
DK/NA	1.9	0.9	2.8	1.8	1.7	1.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 28　自分が利用するごみ集積所の資源ごみ排出時のルール

	%
決まったルールがある	23.0
暗黙のルールがある	18.4
ルールはない	44.3
わからない	13.7
DK/NA	0.5
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 29　ごみ問題に対する知識やごみ減量法の情報源

	%
本	14.7
雑誌	28.8
新聞記事	55.9
パンフレット	16.9
市の広報	69.5
テレビ番組	55.4
インターネット	1.2
シンポジウムや講演会	2.2
市民大学など	0.5
生協や消費者団体などの活動報告	25.1
学校教育	7.1
企業の広告	7.6
家族	11.4
近所の人	11.9
友人	8.5
町内会の案内・回覧版	59.6
その他	1.1
どこからも情報を得ていない	2.8

注：複数回答で、%の基数は 1026

問 30　刺激をもちいてリサイクル参加を呼びかけられた際の参加意思

	A チラシ	B 新聞広告	C 町内のリーダー	D 友人	E 口頭によるコミットメント	F 書くことによるコミットメント
参加する	21.8	16.8	28.1	28.8	35.5	26.9
おそらく参加する	44.0	41.8	57.1	58.9	50.1	54.5
おそらく参加しない	28.8	34.7	10.8	8.2	8.9	13.3
参加しない	3.8	4.5	2.4	2.0	2.4	2.3
DK/NA	1.7	2.2	1.6	2.0	3.1	3.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

	G ごみ回収日と資源回収日が同	H 回収回数の増加	I 回収場所が近くなる	J 情報のフィードバック	K 金銭的報酬	L 罰
参加する	51.7	44.4	52.2	36.6	33.9	40.2
おそらく参加する	43.4	45.1	40.9	51.8	42.7	43.8
おそらく参加しない	3.2	7.6	3.8	7.2	13.7	7.3
参加しない	0.7	1.1	1.2	1.6	6.2	4.7
DK/NA	1.1	1.8	1.9	2.8	3.4	4.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 31　再生紙使用のトイレットペーパーの購入状況

	%
再生紙品がかなり高くても購入	2.2
再生紙品が少し高いならば購入	6.9
値段が同じであれば再生紙品を購入	29.7
再生紙品が安ければ購入	55.8
どんなに安くても再生紙品は購入しない	1.9
その他	2.9
DK/NA	0.4
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 32　エコショップに対する関心

	%
少しくらい遠くても行ってみたい	10.3
近ければ行ってみたい	85.6
どこにあっても行きたくない	2.6
その他	0.9
DK/NA	0.6
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 33　リサイクル商品の購入状況

	%
よく購入する	10.3
ときどき購入する	54.4
あまり購入しない	24.6
ほとんど購入しない	9.8
DK/NA	0.9
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 34A　リサイクル商品を購入する理由

	%
環境にやさしいから	63.4
品質がいいから	8.1
価格が安いから	52.3
デザインが気に入っているから	5.6
ふだん行く店で売っているから	43.4
当然のことだと思うから	19.6
いつもそうしているから	16.1
友人がそうしているから	0.3
その他	2.0

注：複数回答で、%の基数は 664

問 34B　リサイクル商品を購入しない理由

	%
環境問題の解決に役立たないから	2.0
品質が悪いから	14.7
価格が高いから	25.7
デザインが気に入らないから	14.2
ふだん行く店で売っていないから	60.7
悪いことだと思わないから	4.3
いつもそうしているから	14.7
誰も購入していないから	1.7
その他	8.1

注：複数回答で、%の基数は 346

問 35　資源回収時の集積所の状態

	%
袋から出されている	29.3
たまに袋ごと入れられている	34.9
しばしば袋ごと入れられている	21.9
いつも袋ごと入れられている	11.2
わからない	1.8
DK/NA	0.9
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 36　近所の人との付き合いの程度

	%
顔を知っている人はいない	2.9
知っている人もいるがあいさつはしない	1.8
あいさつする人もいるが親しく話はしない	29.0
親しく話をする人も少しはいる	43.1
親しく話をする人が多い	23.0
DK/NA	0.2
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 37　現在加入している団体

	%
町内会・自治会	77.9
老人クラブ・地域婦人会・青年団	10.1
商工会・農協・漁協・同業者組合	4.0
労働組合	3.8
スポーツ・趣味・学習サークル	28.4
政党・政治団体・政治家の後援会	3.6
宗教団体	5.3
生協・消費者団体	40.0
地域運動・住民運動・市民運動	4.2
その他	2.4
加入している団体はない	11.3

注：複数回答で、%の基数は 1026

問 38　現在積極的に活動している団体

	%
町内会・自治会	27.3
老人クラブ・地域婦人会・青年団	6.3
商工会・農協・漁協・同業者組合	1.9
労働組合	1.0
スポーツ・趣味・学習サークル	24.8
政党・政治団体・政治家の後援会	1.5
宗教団体	3.7
生協・消費者団体	8.8
地域運動・住民運動・市民運動	3.1
その他	1.9
加入している団体はない	47.3

注：複数回答で、%の基数は 1026

問 39　町内会の活発度

	%
非常に活発である	12.1
少しは活発である	39.5
あまり活発ではない	25.2
全く活発ではない	3.9
わからない	19.0
DK/NA	0.3
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 40　現在住んでいる地域に対する愛着

	A 町内	B 区	C 仙台市
非常に感じている	23.2	22.0	35.2
やや感じている	50.2	52.2	47.8
あまり感じていない	21.8	20.5	12.7
まったく感じていない	3.9	2.9	2.2
DK/NA	0.9	2.3	2.1
計	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 41　配布物の熟読度

	A 仙台市の広報	B 回覧版
熱心に読む	19.1	24.5
やや熱心に読む	48.1	43.1
あまり熱心に読まない	25.4	21.3
ほとんど読まない	4.9	2.3
自分の家には配布されない	1.7	7.7
DK/NA	0.9	1.1
計	100.0	100.0

注：%の基数はすべて 1026

問 42　今の日本の社会は公平か

	%
公平だ	1.8
だいたい公平だ	23.4
あまり公平でない	51.7
公平でない	21.0
DK/NA	2.2
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 43　階層帰属意識

	%
上	0.9
中の上	24.3
中の下	50.0
下の上	16.8
下の下	5.3
DK/NA	2.8
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 44A　性別

	%
男	14.5
女	85.4
DK/NA	0.1
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 44B　年齢

	%
19 歳以下	1.3
20 代	12.7
30 代	22.5
40 代	26.1
50 代	18.3
60 代	11.9
70 歳以上	6.3
DK/NA	0.9
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 45　学歴

	%
小学校	1.1
新制中学校	8.2
新制高校・高専	42.7
専門学校	16.8
短大・高専	14.9
大学	15.0
その他	0.2
DK/NA	1.2
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 46　回答者本人の職業形態

	%
専業主婦	38.5
学生	1.9
無職	8.3
臨時雇用	22.1
常時雇用の一般従業員	18.3
自営業主	8.8
経営者役員	0.4
その他	0.1
DK/NA	1.6
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 47A　働いている回答者の平均勤務時間

	%
4 時間未満	8.0
4 時間以上 6 時間未満	24.9
6 時間以上 8 時間未満	17.9
8 時間以上 10 時間未満	34.6
10 時間以上	10.1
DK/NA	4.6
計	100.0

注：%の基数は 526

問 47b　仕事場での環境問題への取り組み

	%
組織的に取り組んでいる	32.9
個人的に行動している人がいる	33.8
組織的にも個人的にも取り組んでいない	11.2
わからない	16.3
その他	0.6
DK/NA	5.1
計	100.0

注：%の基数は 526

問 48（1）　世帯構成人数

	0－5 歳	6－12 歳	13－19 歳	20－29 歳	30－39 歳	40－49 歳	50－59 歳	60 歳以上
0 人	78.6	75.1	72.3	64.1	65.5	62.3	67.3	61.6
1 人	14.0	15.4	16.6	20.9	17.9	20.1	19.0	16.6
2 人	5.8	7.2	8.8	12.9	15.2	16.2	12.7	18.8
3 人	0.6	1.3	1.1	1.0	0.4	0.4	0.0	1.7
4 人	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0	0.1	0.0	0.4
DK/NA	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

注：%の基数は 1026

問 48（2）　世帯構成人数

	%
1 人	7.9
2 人	18.4
3 人	21.2
4 人	25.6
5 人	14.4
6 人以上	11.4
DK/NA	1.0
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 49　世帯収入

	%
100 万円未満	3.0
100 万円以上 200 万円未満	4.2
200 万円以上 300 万円未満	5.9
300 万円以上 400 万円未満	10.5
400 万円以上 500 万円未満	9.6
500 万円以上 600 万円未満	12.0
600 万円以上 700 万円未満	8.4
700 万円以上 800 万円未満	8.7
800 万円以上 900 万円未満	6.9
900 万円以上 1000 万円未満	6.0
1000 万円以上 1100 万円未満	5.7
1100 万円以上	9.9
DK/NA	9.2
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 50A　世帯内で一番収入の多い人の職業形態

	%
無職	9.4
専業主婦	0.3
学生	1.4
臨時雇用	3.3
常時雇用の一般従業員	63.8
自営業主	12.7
経営者役員	4.2
DK/NA	5.0
計	100.0
（%の基数）	(1026)

問 50B　一番収入の多い人の会社規模

	%
なし	3.1
1－9 人	11.9
10－29 人	6.2
39－99 人	9.6
100－999 人	18.3
1000 人以上	18.4
官公庁（公務員）	10.5
DK/NA	22.1
計	100.0

注：%の基数は 915

問 50C　一番収入の多い人の職業形態

	%
事務的職業	14.4
販売的職業	17.7
熟練・労務的職業	17.5
管理的職業	13.0
専門的職業	19.6
農林水産業	0.5
その他	1.1
DK/NA	16.2
計	100.0

注：%の基数は 915

5.2　クロス集計表

問 5A　環境問題に対する次のような意見に、あなたはどのくらい共感できますか。
『私たちが今と同じ生活習慣を続けていると、環境問題は深刻になる一方である』

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない	DK/NA	%の基数
総計	69.6	27.2	2.1	0.1	1.0	**1026**
性別（Q44A）						
男	73.8	22.1	2.7	0.7	0.7	**149**
女	68.8	28.1	2.1	0.0	1.0	**876**
年齢（年代別）（Q44B）						
19 歳以下	76.9	15.4	7.7	0.0	0.0	**13**
20 代	66.2	30.0	2.3	0.0	1.5	**130**
30 代	70.6	29.0	0.4	0.0	0.0	**231**
40 代	74.3	25.0	0.4	0.0	0.4	**268**
50 代	70.7	25.5	3.2	0.0	0.5	**188**
60 代	63.9	28.7	4.1	0.0	3.3	**122**
70 歳以上	60.0	29.2	7.7	1.5	1.5	**65**
学歴（Q45）						
小学校	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0	**11**
新制中学校	50.0	40.5	7.1	0.0	2.4	**84**
新制高校	69.4	26.9	2.7	0.2	0.7	**438**
専門学校	69.2	29.7	0.6	0.0	0.6	**172**
短大・高専	70.6	26.8	1.3	0.0	1.3	**153**
大学	82.5	16.9	0.6	0.0	0.0	**154**
その他	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）						
専業主婦	68.4	28.6	1.5	0.0	1.5	**395**
学生	85.0	15.0	0.0	0.0	0.0	**20**
無職	61.2	29.4	7.1	1.2	1.2	**85**
臨時雇用	70.5	27.3	1.8	0.0	0.4	**227**
常時雇用の一般従業員	72.9	26.1	1.1	0.0	0.0	**188**
自営業主	71.1	24.4	4.4	0.0	0.0	**90**
経営者役員	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	**1**
世帯収入（Q49）						
400 万円未満	68.3	27.2	3.3	0.0	1.2	**243**
400 万円以上 600 万円未満	67.0	30.3	2.3	0.0	0.5	**221**
600 万円以上 800 万円未満	73.7	25.7	0.6	0.0	0.0	**175**
800 万円以上	70.0	26.1	2.1	0.3	1.6	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）						
事務的職業	63.6	34.1	2.3	0.0	0.0	**132**
販売的職業	70.4	28.4	0.6	0.0	0.6	**162**
熟練・労務的職業	68.1	30.0	1.9	0.0	0.0	**160**
管理的職業	77.3	21.8	0.0	0.0	0.8	**119**
専門的職業	77.7	21.8	0.0	0.0	0.6	**179**
農林水産業	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	**5**
その他	70.0	20.0	10.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）						
2 人以下	68.1	26.7	3.3	0.0	1.9	**270**
3 人	70.6	28.4	0.9	0.0	0.0	**218**
4 人	67.3	30.8	1.5	0.0	0.4	**263**
5 人以上	72.5	23.4	2.6	0.4	1.1	**265**
居住年数（Q1）						
10 年以下	72.1	25.4	1.8	0.0	0.7	**280**
11 年以上 20 年以下	68.4	29.1	1.9	0.0	0.5	**206**
21 年以上 30 年以下	70.0	27.3	1.4	0.0	1.4	**220**
31 年以上	68.3	27.4	3.3	0.3	0.7	**303**
自然と人間の関係（Q4）						
自然に従う	74.5	23.6	1.3	0.2	0.4	**471**
自然を利用する	65.7	31.3	2.1	0.0	0.9	**432**
自然を征服する	66.7	20.0	13.3	0.0	0.0	**15**
その他	71.6	25.0	3.4	0.0	0.0	**88**
公平感（Q42）						
公平だ	61.1	27.8	5.6	0.0	5.6	**18**
だいたい公平だ	64.2	33.3	2.1	0.0	0.4	**240**
あまり公平でない	68.3	28.9	2.3	0.2	0.4	**530**
公平でない	81.9	14.9	1.9	0.0	1.4	**215**
階層帰属意識（Q43）						
上	55.6	33.3	11.1	0.0	0.0	**9**
中の上	69.9	27.3	1.6	0.0	1.2	**249**
中の下	69.4	27.5	2.5	0.2	0.4	**513**
下の上	71.5	25.6	1.2	0.0	1.7	**172**
下の下	75.9	22.2	1.9	0.0	0.0	**54**

問 5B　環境問題に対する次のような意見に、あなたはどのくらい共感できますか。
『行政は、今だに環境保護にきちんと取り組んでいない』

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない	DK/NA	%の基数
総計	37	48.0	10.9	1.8	2.3	**1026**
性別 （Q44A）						
男	28.2	49.0	16.1	3.4	3.4	**149**
女	38.6	47.7	10.0	1.5	2.2	**876**
年齢（年代別） （Q44B）						
19 歳以下	30.8	61.5	7.7	0.0	0.0	**13**
20 代	35.4	53.1	8.5	0.8	2.3	**130**
30 代	43.7	49.8	5.6	0.4	0.4	**231**
40 代	43.3	46.3	7.8	2.2	0.4	**268**
50 代	38.3	41.5	14.9	2.7	2.7	**188**
60 代	22.1	49.2	20.5	3.3	4.9	**122**
70 歳以上	18.5	50.8	20.0	1.5	9.2	**65**
学歴 （Q45）						
小学校	36.4	45.5	9.1	0.0	9.1	**11**
新制中学校	21.4	44.0	25.0	7.1	2.4	**84**
新制高校	35.8	48.6	11.6	1.8	2.1	**438**
専門学校	39.5	47.7	8.7	1.7	2.3	**172**
短大・高専	41.2	48.4	7.2	0.0	3.3	**153**
大学	42.9	48.1	7.8	0.6	0.6	**154**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態 （Q46）						
専業主婦	34.7	52.2	9.6	1.3	2.3	**395**
学生	45.0	50.0	5.0	0.0	0.0	**20**
無職	23.5	50.6	17.6	3.5	4.7	**85**
臨時雇用	43.6	41.9	10.1	2.2	2.2	**227**
常時雇用の一般従業員	35.6	50.5	11.2	1.6	1.1	**188**
自営業主	43.3	37.8	14.4	2.2	2.2	**90**
経営者役員	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	**1**
世帯収入 （Q49）						
400 万円未満	35.4	48.6	11.1	1.6	3.3	**243**
400 万円以上 600 万円未満	33.9	50.7	11.3	3.2	0.9	**221**
600 万円以上 800 万円未満	46.3	43.4	8.6	0.0	1.7	**175**
800 万円以上	35.7	48.1	11.6	1.8	2.8	**387**
一番収入の多い人の職業 （Q50C）						
事務的職業	30.3	56.8	11.4	1.5	0.0	**132**
販売的職業	40.7	46.9	8.6	2.5	1.2	**162**
熟練・労務的職業	41.9	44.4	11.9	1.9	0.0	**160**
管理的職業	37.8	52.1	7.6	0.8	1.7	**119**
専門的職業	42.5	46.4	6.7	1.7	2.8	**179**
農林水産業	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	**5**
その他	40.0	30.0	10.0	20.0	0.0	**10**
世帯人数 （Q48）						
2 人以下	33.0	49.6	10.7	2.6	4.1	**270**
3 人	39.0	45.9	12.8	1.8	0.5	**218**
4 人	36.9	50.2	9.9	1.1	1.9	**263**
5 人以上	39.6	46.0	10.9	1.5	1.9	**265**
居住年数 （Q1）						
10 年以下	41.4	50.0	6.4	0.7	1.4	**280**
11 年以上 20 年以下	40.8	45.1	10.7	1.9	1.5	**206**
21 年以上 30 年以下	35.0	49.1	10.0	2.3	3.6	**220**
31 年以上	32.3	46.9	16.5	2.3	2.0	**303**
自然と人間の関係 （Q4）						
自然に従う	41.0	46.3	9.1	1.7	1.9	**471**
自然を利用する	31.9	50.9	12.7	2.3	2.1	**432**
自然を征服する	33.3	26.7	33.3	0.0	6.7	**15**
その他	45.5	50.0	4.5	0.0	0.0	**88**
公平感 （Q42）						
公平だ	27.8	44.4	5.6	11.1	11.1	**18**
だいたい公平だ	25.4	55.4	14.6	2.1	2.5	**240**
あまり公平でない	37.7	49.2	10.9	1.1	0.9	**530**
公平でない	52.1	34.9	8.4	1.9	2.8	**215**
階層帰属意識 （Q43）						
上	33.3	44.4	22.2	0.0	0.0	**9**
中の上	34.5	51.0	11.2	1.2	2.0	**249**
中の下	35.3	50.1	11.3	1.4	1.9	**513**
下の上	43.6	42.4	8.7	2.9	2.3	**172**
下の下	50.0	37.0	7.4	3.7	1.9	**54**

問 5C　環境問題に対する次のような意見に、あなたはどのくらい共感できますか。
『環境問題は誇張されて伝えられており、実際はそれほど深刻な問題ではない』

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない	DK/NA	%の基数
総計	5.7	8.9	31.5	51.4	2.6	**1026**
性別 （Q44A）						
男	10.7	14.8	24.2	47.7	2.7	**149**
女	4.8	7.9	32.8	51.9	2.6	**876**
年齢（年代別） （Q44B）						
19 歳以下	7.7	7.7	23.1	61.5	0.0	**13**
20 代	2.3	5.4	33.1	56.9	2.3	**130**
30 代	2.2	7.8	33.3	56.7	0.0	**231**
40 代	3.4	5.6	33.2	57.1	0.7	**268**
50 代	9.0	9.6	31.4	46.8	3.2	**188**
60 代	14.8	14.8	26.2	38.5	5.7	**122**
70 歳以上	6.2	21.5	26.2	35.4	10.8	**65**
学歴 （Q45）						
小学校	9.1	27.3	18.2	36.4	9.1	**11**
新制中学校	15.5	22.6	27.4	29.8	4.8	**84**
新制高校	5.7	8.0	37.0	47.5	1.8	**438**
専門学校	6.4	9.3	28.5	52.3	3.5	**172**
短大・高専	2.6	6.5	28.8	58.8	3.3	**153**
大学	1.3	4.5	26.0	67.5	0.6	**154**
その他	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	**2**
本人職業形態 （Q46）						
専業主婦	4.8	8.1	33.9	50.9	2.3	**395**
学生	0.0	5.0	35.0	60.0	0.0	**20**
無職	10.6	18.8	25.9	37.6	7.1	**85**
臨時雇用	4.4	6.2	33.0	54.6	1.8	**227**
常時雇用の一般従業員	4.3	9.0	28.7	57.4	0.5	**188**
自営業主	7.8	11.1	28.9	46.7	5.6	**90**
経営者役員	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	**4**
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	**1**
世帯収入 （Q49）						
400 万円未満	8.6	14.4	25.5	47.3	4.1	**243**
400 万円以上 600 万円未満	3.6	7.7	41.6	45.7	1.4	**221**
600 万円以上 800 万円未満	5.7	9.1	28.0	55.4	1.7	**175**
800 万円以上	4.9	5.9	31.0	55.3	2.8	**387**
一番収入の多い人の職業 （Q50C）						
事務的職業	2.3	4.5	36.4	56.8	0.0	**132**
販売的職業	4.9	5.6	34.6	53.1	1.9	**162**
熟練・労務的職業	10.0	10.0	35.0	45.0	0.0	**160**
管理的職業	1.7	8.4	28.6	59.7	1.7	**119**
専門的職業	2.8	4.5	32.4	57.5	2.8	**179**
農林水産業	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0	**5**
その他	0.0	10.0	20.0	70.0	0.0	**10**
世帯人数 （Q48）						
2 人以下	7.0	11.1	30.0	47.4	4.4	**270**
3 人	6.9	9.2	29.8	52.8	1.4	**218**
4 人	4.2	5.3	35.7	53.6	1.1	**263**
5 人以上	4.2	10.2	31.3	52.1	2.3	**265**
居住年数 （Q1）						
10 年以下	3.2	5.0	30.0	60.4	1.4	**280**
11 年以上 20 年以下	4.4	6.8	30.6	56.8	1.5	**206**
21 年以上 30 年以下	5.0	7.7	33.6	50.0	3.6	**220**
31 年以上	8.9	14.5	32.0	41.6	3.0	**303**
自然と人間の関係 （Q4）						
自然に従う	7.0	7.0	29.7	53.5	2.8	**471**
自然を利用する	3.2	12.7	34.5	47.7	1.9	**432**
自然を征服する	40.0	6.7	26.7	26.7	0.0	**15**
その他	3.4	1.1	27.3	67.0	1.1	**88**
公平感 （Q42）						
公平だ	0.0	22.2	22.2	44.4	11.1	**18**
だいたい公平だ	6.3	13.8	33.8	43.8	2.5	**240**
あまり公平でない	4.7	7.0	35.3	51.5	1.5	**530**
公平でない	6.5	6.5	20.0	64.2	2.8	**215**
階層帰属意識 （Q43）						
上	11.1	22.2	44.4	22.2	0.0	**9**
中の上	4.4	8.0	33.7	51.4	2.4	**249**
中の下	4.5	8.8	33.1	51.9	1.8	**513**
下の上	8.7	7.6	24.4	55.8	3.5	**172**
下の下	11.1	14.8	24.1	48.1	1.9	**54**

問 6（1/3）　あなたは、次にあげるような行動を実行していますか（実行率）。

	洗面時の節水	風呂の残り湯の利用	冷暖房の温度調節	使用しない電灯の消灯	チラシの裏の活用	ものを買い換えずに使用	ものを修理して使用	%の基数
総計	67.2	66.5	83.3	92.6	40.9	74.1	57.7	**1026**
性別（Q44A）								
男	62.4	49.7	72.5	89.9	34.2	75.8	64.4	**149**
女	67.9	69.3	85.2	93.0	42.1	73.7	56.5	**876**
年齢（年代別）（Q44B）								
19 歳以下	46.2	23.1	69.2	61.5	38.5	46.2	38.5	**13**
20 代	60.0	60.0	69.2	88.5	31.5	61.5	40.8	**130**
30 代	66.2	74.0	81.8	93.5	36.4	71.9	56.3	**231**
40 代	66.0	68.3	88.1	95.1	37.3	78.4	59.7	**268**
50 代	68.1	64.9	87.2	92.6	44.7	76.6	58.5	**188**
60 代	83.6	68.9	88.5	94.3	59.0	77.9	68.9	**122**
70 歳以上	61.5	53.8	81.5	90.8	50.8	81.5	69.2	**65**
学歴（Q45）								
小学校	72.7	72.7	90.9	100.0	54.5	81.8	81.8	**11**
新制中学校	66.7	65.5	79.8	88.1	46.4	73.8	64.3	**84**
新制高校	68.9	67.1	83.6	93.4	40.9	76.7	55.3	**438**
専門学校	68.6	67.4	78.5	90.1	35.5	72.7	61.0	**172**
短大・高専	60.1	71.9	89.5	94.8	39.9	76.5	61.4	**153**
大学	67.5	58.4	84.4	92.9	44.8	65.6	51.3	**154**
その他	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	**2**
本人職業形態（Q46）								
専業主婦	71.4	72.9	88.6	94.2	44.1	76.2	61.0	**395**
学生	60.0	15.0	75.0	80.0	35.0	55.0	55.0	**20**
無職	67.1	62.4	83.5	91.8	52.9	76.5	64.7	**85**
臨時雇用	67.0	71.4	81.1	91.6	37.9	73.1	52.0	**227**
常時雇用の一般従業員	58.0	57.4	76.6	92.6	31.9	67.0	51.1	**188**
自営業主	68.9	58.9	81.1	91.1	44.4	80.0	63.3	**90**
経営者役員	75.0	50.0	75.0	100.0	25.0	100.0	100.0	**4**
その他	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）								
400 万円未満	64.6	60.5	77.8	88.5	47.3	74.1	62.1	**243**
400 万円以上 600 万円未満	65.6	67.0	84.6	94.6	43.4	78.7	60.6	**221**
600 万円以上 800 万円未満	69.7	70.9	82.9	92.6	38.3	72.6	51.4	**175**
800 万円以上	68.5	68.0	86.3	94.1	36.7	72.1	56.1	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）								
事務的職業	64.4	64.4	81.8	92.4	33.3	66.7	47.0	**132**
販売的職業	66.0	66.7	84.0	88.9	31.5	71.0	52.5	**162**
熟練・労務的職業	63.8	73.8	77.5	90.0	41.3	72.5	56.3	**160**
管理的職業	68.1	70.6	90.8	96.6	38.7	76.5	59.7	**119**
専門的職業	66.5	68.2	82.1	95.5	44.7	72.1	57.5	**179**
農林水産業	100.0	60.0	100.0	100.0	20.0	100.0	80.0	**5**
その他	90.0	50.0	60.0	80.0	60.0	90.0	30.0	**10**
世帯人数（Q48）								
2 人以下	63.0	57.4	78.9	91.1	42.6	70.0	58.5	**270**
3 人	69.7	70.2	86.2	93.6	37.6	75.2	59.6	**218**
4 人	68.1	68.4	84.8	93.2	39.2	75.3	54.8	**263**
5 人以上	68.3	70.2	84.9	92.8	44.5	75.8	58.1	**265**
居住年数（Q1）								
10 年以下	61.1	66.8	82.5	93.2	38.9	67.9	50.7	**280**
11 年以上 20 年以下	64.1	63.1	85.0	93.2	42.7	76.2	58.3	**206**
21 年以上 30 年以下	68.6	65.5	82.7	90.0	37.3	80.5	60.0	**220**
31 年以上	74.3	69.6	83.8	93.7	44.9	74.6	61.7	**303**
自然と人間の関係（Q4）								
自然に従う	67.7	68.6	81.1	91.9	43.3	77.3	60.1	**471**
自然を利用する	65.7	63.2	85.2	93.1	36.1	70.8	54.4	**432**
自然を征服する	66.7	46.7	73.3	86.7	40.0	46.7	46.7	**15**
その他	69.3	72.7	88.6	94.3	56.8	78.4	63.6	**88**
公平感（Q42）								
公平だ	88.9	72.2	83.3	88.9	66.7	77.8	77.8	**18**
だいたい公平だ	71.3	60.8	80.8	91.7	35.8	75.0	55.4	**240**
あまり公平でない	64.9	68.3	84.7	92.8	41.1	73.0	58.1	**530**
公平でない	66.0	67.4	82.3	93.0	45.1	74.4	56.7	**215**
階層帰属意識（Q43）								
上	55.6	33.3	66.7	88.9	22.2	22.2	33.3	**9**
中の上	68.3	61.8	85.9	95.2	42.2	72.7	61.8	**249**
中の下	66.7	68.2	82.3	91.0	39.8	73.5	54.6	**513**
下の上	65.1	68.6	83.7	95.3	43.0	81.4	60.5	**172**
下の下	72.2	64.8	83.3	88.9	48.1	70.4	63.0	**54**

問 6（2/3）　あなたは、次にあげるような行動を実行していますか（実行率）。

	公共交通の利用	徒歩・自転車の利用	ごみ排出時のルールの遵守	コンポストの使用	天然油脂性の洗剤使用	排水口にごみ受け取り付け	油を排水に捨てない	%の基数
総計	34.9	43.7	93.0	9.3	17.6	85.0	89.4	**1026**
性別（Q44A）								
男	32.9	40.3	86.6	9.4	20.1	81.2	73.8	**149**
女	35.2	44.3	94.1	9.2	17.2	85.6	92.0	**876**
年齢（年代別）（Q44B）								
19 歳以下	23.1	46.2	69.2	7.7	15.4	61.5	38.5	**13**
20 代	22.3	40.0	83.1	1.5	10.0	82.3	78.5	**130**
30 代	22.1	37.2	94.4	4.3	10.8	88.3	91.3	**231**
40 代	31.0	40.3	95.9	9.7	16.8	87.3	93.7	**268**
50 代	39.4	47.9	94.7	13.3	21.8	84.0	92.0	**188**
60 代	54.1	59.0	96.7	16.4	29.5	86.1	92.6	**122**
70 歳以上	72.3	46.2	87.7	16.9	29.2	78.5	86.2	**65**
学歴（Q45）								
小学校	72.7	54.5	90.9	9.1	27.3	81.8	90.9	**11**
新制中学校	42.9	47.6	89.3	15.5	17.9	79.8	86.9	**84**
新制高校	33.3	42.9	93.2	7.3	15.3	86.1	91.1	**438**
専門学校	40.1	48.3	90.7	8.7	20.3	83.1	88.4	**172**
短大・高専	33.3	39.9	95.4	9.8	18.3	85.0	92.8	**153**
大学	27.9	41.6	94.8	12.3	20.1	88.3	83.8	**154**
その他	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0	50.0	100.0	**2**
本人職業形態（Q46）								
専業主婦	35.9	45.1	95.7	9.4	18.2	86.6	93.2	**395**
学生	10.0	30.0	75.0	0.0	25.0	70.0	50.0	**20**
無職	63.5	48.2	94.1	17.6	28.2	76.5	84.7	**85**
臨時雇用	34.8	46.3	94.3	8.8	15.4	88.1	94.7	**227**
常時雇用の一般従業員	28.2	40.4	87.2	7.4	14.9	83.5	82.4	**188**
自営業主	22.2	32.2	93.3	10.0	14.4	86.7	86.7	**90**
経営者役員	0.0	25.0	75.0	0.0	25.0	75.0	100.0	**4**
その他	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	**1**
世帯収入（Q49）								
400 万円未満	38.7	46.1	90.5	9.1	18.9	81.9	84.0	**243**
400 万円以上 600 万円未満	35.7	44.8	91.9	7.2	13.6	88.2	92.3	**221**
600 万円以上 800 万円未満	31.4	42.9	96.0	7.4	16.6	82.3	95.4	**175**
800 万円以上	33.6	41.9	93.8	11.4	19.6	86.3	88.4	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）								
事務的職業	34.1	38.6	93.2	6.8	9.8	84.1	89.4	**132**
販売的職業	27.2	40.7	93.8	4.9	10.5	87.7	91.4	**162**
熟練・労務的職業	30.0	39.4	88.1	5.6	16.3	87.5	87.5	**160**
管理的職業	37.0	48.7	96.6	10.1	22.7	83.2	94.1	**119**
専門的職業	30.7	48.6	94.4	11.7	21.2	86.0	91.6	**179**
農林水産業	20.0	40.0	100.0	20.0	0.0	100.0	100.0	**5**
その他	20.0	50.0	100.0	10.0	30.0	80.0	80.0	**10**
世帯人数（Q48）								
2 人以下	41.5	44.1	90.7	9.3	18.9	81.5	83.0	**270**
3 人	34.4	50.9	93.6	11.9	19.7	86.2	93.6	**218**
4 人	30.8	39.9	92.8	7.6	16.0	89.0	93.2	**263**
5 人以上	31.7	42.3	95.1	9.1	15.8	83.8	89.1	**265**
居住年数（Q1）								
10 年以下	28.6	43.6	92.9	2.5	11.4	83.6	87.1	**280**
11 年以上 20 年以下	36.4	44.7	94.7	9.7	19.9	88.8	91.7	**206**
21 年以上 30 年以下	35.0	40.5	90.5	8.6	21.8	83.6	89.1	**220**
31 年以上	39.3	44.9	93.4	16.2	18.8	86.1	90.8	**303**
自然と人間の関係（Q4）								
自然に従う	31.6	41.6	92.8	9.3	17.4	85.4	90.7	**471**
自然を利用する	39.4	47.0	92.4	8.1	16.9	85.0	89.1	**432**
自然を征服する	40.0	26.7	86.7	13.3	6.7	66.7	66.7	**15**
その他	26.1	43.2	96.6	14.8	26.1	87.5	86.4	**88**
公平感（Q42）								
公平だ	44.4	66.7	88.9	5.6	11.1	100.0	83.3	**18**
だいたい公平だ	35.0	40.8	93.8	12.1	17.5	84.2	90.0	**240**
あまり公平でない	34.7	44.5	93.8	8.9	18.7	84.3	90.6	**530**
公平でない	33.5	42.3	90.2	7.4	15.3	87.9	86.0	**215**
階層帰属意識（Q43）								
上	22.2	33.3	77.8	0.0	11.1	88.9	66.7	**9**
中の上	29.7	39.4	95.6	8.8	18.1	87.1	90.0	**249**
中の下	37.8	45.6	92.8	10.5	18.7	84.4	92.0	**513**
下の上	34.9	44.2	93.6	8.1	14.5	84.9	86.0	**172**
下の下	29.6	48.1	83.3	7.4	14.8	81.5	75.9	**54**

問 6（3/3）　あなたは、次にあげるような行動を実行していますか（実行率）。

	過剰包装を断る	環境にやさしい商品購入	使い捨て商品の不買	買い物袋の持参	環境家計簿	なにもしていない	%の基数
総計	45.5	37.4	23.1	20.6	2.9	0.3	**1026**
性別（Q44A）							
男	27.5	29.5	16.8	14.1	2.0	1.3	**149**
女	48.5	38.7	24.2	21.7	3.1	0.1	**876**
年齢（年代別）（Q44B）							
19 歳以下	23.1	23.1	15.4	7.7	0.0	7.7	**13**
20 代	34.6	20.8	12.3	9.2	1.5	0.8	**130**
30 代	47.2	36.4	18.6	14.7	3.0	0.0	**231**
40 代	51.1	40.7	22.4	22.0	1.5	0.0	**268**
50 代	50.5	38.8	29.3	21.8	2.7	0.0	**188**
60 代	42.6	45.9	29.5	34.4	6.6	0.8	**122**
70 歳以上	36.9	43.1	35.4	33.8	6.2	0.0	**65**
学歴（Q45）							
小学校	72.7	36.4	36.4	18.2	9.1	0.0	**11**
新制中学校	29.8	31.0	38.1	21.4	7.1	0.0	**84**
新制高校	43.6	34.9	21.9	18.7	3.2	0.5	**438**
専門学校	51.2	36.0	22.1	21.5	2.3	0.6	**172**
短大・高専	51.6	42.5	22.9	26.1	2.6	0.0	**153**
大学	46.1	44.8	16.9	19.5	0.6	0.0	**154**
その他	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）							
専業主婦	49.4	39.5	25.3	27.3	2.3	0.3	**395**
学生	20.0	25.0	10.0	10.0	5.0	0.0	**20**
無職	40.0	43.5	38.8	25.9	5.9	1.2	**85**
臨時雇用	50.7	37.9	19.8	15.9	3.5	0.4	**227**
常時雇用の一般従業員	37.2	29.8	13.3	12.2	2.7	0.0	**188**
自営業主	44.4	38.9	27.8	16.7	2.2	0.0	**90**
経営者役員	50.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	**4**
その他	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）							
400 万円未満	41.2	34.6	22.6	23.5	3.7	0.8	**243**
400 万円以上 600 万円未満	45.2	33.0	23.5	14.5	3.6	0.5	**221**
600 万円以上 800 万円未満	48.6	33.7	23.4	18.3	2.9	0.0	**175**
800 万円以上	47.0	43.4	23.0	23.3	2.1	0.0	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）							
事務的職業	38.6	37.1	20.5	14.4	1.5	0.0	**132**
販売的職業	42.0	29.6	19.1	19.8	0.6	0.6	**162**
熟練・労務的職業	41.9	31.9	20.6	13.1	3.8	0.6	**160**
管理的職業	54.6	48.7	31.1	26.9	3.4	0.0	**119**
専門的職業	49.7	38.0	18.4	17.9	1.1	0.0	**179**
農林水産業	20.0	20.0	60.0		40.0	0.0	**5**
その他	60.0	50.0	40.0	20.0	10.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）							
2 人以下	45.2	38.5	22.6	21.5	5.6	1.1	**270**
3 人	45.9	34.9	23.4	22.9	1.4	0.0	**218**
4 人	45.2	35.7	22.4	22.8	1.1	0.0	**263**
5 人以上	45.7	39.6	23.8	15.8	3.0	0.0	**265**
居住年数（Q1）							
10 年以下	42.9	33.6	20.4	18.9	2.9	0.7	**280**
11 年以上 20 年以下	53.9	40.8	23.8	22.3	2.4	0.0	**206**
21 年以上 30 年以下	45.0	34.1	22.7	22.7	1.8	0.0	**220**
31 年以上	43.9	41.3	25.7	20.1	4.3	0.3	**303**
自然と人間の関係（Q4）							
自然に従う	46.7	38.0	24.2	20.4	1.9	0.2	**471**
自然を利用する	42.1	35.9	21.8	20.6	3.7	0.2	**432**
自然を征服する	40.0	26.7	6.7	6.7	20.0	0.0	**15**
その他	62.5	44.3	28.4	25.0	1.1	1.1	**88**
公平感（Q42）							
公平だ	22.2	38.9	44.4	16.7	11.1	0.0	**18**
だいたい公平だ	42.9	37.1	20.0	20.4	2.5	0.4	**240**
あまり公平でない	47.5	40.2	22.8	19.6	3.8	0.2	**530**
公平でない	46.0	30.7	24.7	22.3	0.9	0.5	**215**
階層帰属意識（Q43）							
上	11.1	33.3	33.3	22.2	11.1	11.1	**9**
中の上	48.6	38.6	20.9	22.1	2.0	0.0	**249**
中の下	46.4	39.4	22.4	19.7	4.1	0.4	**513**
下の上	42.4	34.3	22.7	18.6	0.6	0.0	**172**
下の下	40.7	24.1	37.0	25.9	3.7	0.0	**54**

問 7A　あなたは、次にあげるものをリサイクルしていますか。
『新聞紙・古雑誌』

	いつも している	ときどき している	めったに しない	まったく しない	家族が している	DK/NA	%の基数
総計	70.8	15.9	5.1	5.2	2.3	0.8	**1026**
性別　(Q44A)							
男	53.0	21.5	8.7	14.1	2.0	0.7	**149**
女	73.9	15.0	4.5	3.5	2.4	0.8	**876**
年齢（年代別）　(Q44B)							
19 歳以下	53.8	0.0	7.7	23.1	15.4	0.0	**13**
20 代	40.0	26.2	11.5	18.5	3.1	0.8	**130**
30 代	70.6	17.3	5.6	4.3	1.7	0.4	**231**
40 代	80.6	13.4	3.4	0.7	1.9	0.0	**268**
50 代	71.3	18.1	3.2	2.7	4.3	0.5	**188**
60 代	79.5	10.7	3.3	3.3	0.0	3.3	**122**
70 歳以上	76.9	9.2	6.2	4.6	1.5	1.5	**65**
学歴　(Q45)							
小学校	81.8	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	**11**
新制中学校	73.8	10.7	8.3	3.6	2.4	1.2	**84**
新制高校	71.0	17.1	3.7	4.8	2.5	0.9	**438**
専門学校	67.4	16.9	7.6	5.2	2.9	0.0	**172**
短大・高専	73.2	14.4	3.3	5.2	2.6	1.3	**153**
大学	70.1	16.9	6.5	5.8	0.6	0.0	**154**
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態　(Q46)							
専業主婦	80.3	11.9	4.1	2.3	1.0	0.5	**395**
学生	25.0	20.0	20.0	25.0	10.0	0.0	**20**
無職	70.6	12.9	4.7	7.1	1.2	3.5	**85**
臨時雇用	72.7	17.6	4.8	2.6	1.3	0.9	**227**
常時雇用の一般従業員	56.9	20.7	6.4	11.2	4.3	0.5	**188**
自営業主	64.4	21.1	4.4	4.4	5.6	0.0	**90**
経営者役員	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入　(Q49)							
400 万円未満	59.7	18.5	7.8	9.5	2.5	2.1	**243**
400 万円以上 600 万円未満	69.7	16.7	6.8	5.4	1.4	0.0	**221**
600 万円以上 800 万円未満	76.6	14.9	3.4	2.3	1.7	1.1	**175**
800 万円以上	75.7	14.2	3.1	3.6	3.1	0.3	**387**
一番収入の多い人の職業　(Q50C)							
事務的職業	68.9	16.7	6.8	4.5	3.0	0.0	**132**
販売的職業	71.0	16.0	2.5	6.8	2.5	1.2	**162**
熟練・労務的職業	70.6	16.3	6.3	3.8	3.1	0.0	**160**
管理的職業	78.2	15.1	3.4	0.0	3.4	0.0	**119**
専門的職業	70.9	15.6	5.6	6.7	0.6	0.6	**179**
農林水産業	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**5**
その他	60.0	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数　(Q48)							
2 人以下	56.3	20.7	8.9	11.5	1.1	1.5	**270**
3 人	72.0	14.2	5.5	4.6	2.8	0.9	**218**
4 人	74.5	17.9	3.0	2.7	1.1	0.8	**263**
5 人以上	80.8	10.9	2.6	1.1	4.5	0.0	**265**
居住年数　(Q1)							
10 年以下	61.4	20.4	8.2	7.1	1.8	1.1	**280**
11 年以上 20 年以下	72.3	15.0	4.9	3.4	2.9	1.5	**206**
21 年以上 30 年以下	71.8	14.5	4.1	5.9	3.6	0.0	**220**
31 年以上	76.6	14.2	3.3	3.6	1.7	0.7	**303**
自然と人間の関係　(Q4)							
自然に従う	71.8	15.7	5.1	4.2	2.1	1.1	**471**
自然を利用する	69.9	15.7	5.8	5.6	2.5	0.5	**432**
自然を征服する	46.7	40.0	0.0	13.3	0.0	0.0	**15**
その他	76.1	14.8	2.3	3.4	3.4	0.0	**88**
公平感　(Q42)							
公平だ	72.2	5.6	0.0	11.1	0.0	11.1	**18**
だいたい公平だ	69.2	15.8	5.0	5.4	4.6	0.0	**240**
あまり公平でない	73.2	16.8	4.3	3.2	1.9	0.6	**530**
公平でない	66.5	15.8	7.4	8.4	1.4	0.5	**215**
階層帰属意識　(Q43)							
上	55.6	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	**9**
中の上	73.9	14.5	4.8	3.2	3.6	0.0	**249**
中の下	72.7	15.0	5.5	4.5	1.8	0.6	**513**
下の上	64.0	19.8	5.8	5.8	2.9	1.7	**172**
下の下	61.1	22.2	1.9	13.0	0.0	1.9	**54**

問 7B　あなたは、次にあげるものをリサイクルしていますか。
『牛乳パック』

	いつも している	ときどき している	めったに しない	まったく しない	家族が している	DK/NA	%の基数
総計	38.4	14.8	13.8	29.8	1.8	1.4	**1026**
性別　(Q44A)							
男	22.1	9.4	14.8	48.3	2.0	3.4	**149**
女	41.2	15.8	13.7	26.6	1.7	1.0	**876**
年齢（年代別）　(Q44B)							
19 歳以下	23.1	7.7	23.1	38.5	7.7	0.0	**13**
20 代	18.5	8.5	16.9	54.6	0.8	0.8	**130**
30 代	41.1	16.0	17.3	23.4	1.7	0.4	**231**
40 代	48.1	15.7	12.7	21.6	1.9	0.0	**268**
50 代	38.8	13.8	12.2	30.9	2.1	2.1	**188**
60 代	36.9	22.1	10.7	26.2	1.6	2.5	**122**
70 歳以上	32.3	10.8	9.2	38.5	1.5	7.7	**65**
学歴　(Q45)							
小学校	45.5	9.1	18.2	27.3	0.0	0.0	**11**
新制中学校	31.0	13.1	16.7	34.5	0.0	4.8	**84**
新制高校	36.5	13.9	13.7	32.4	2.3	1.1	**438**
専門学校	37.2	17.4	12.8	29.1	2.3	1.2	**172**
短大・高専	47.1	17.0	12.4	20.3	2.0	1.3	**153**
大学	40.9	14.9	13.0	29.9	0.6	0.6	**154**
その他	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態　(Q46)							
専業主婦	45.1	18.7	12.9	21.8	0.5	1.0	**395**
学生	20.0	10.0	35.0	30.0	5.0	0.0	**20**
無職	30.6	14.1	15.3	32.9	1.2	5.9	**85**
臨時雇用	42.7	15.4	11.0	28.2	1.8	0.9	**227**
常時雇用の一般従業員	26.6	9.6	14.4	44.7	3.2	1.6	**188**
自営業主	35.6	11.1	13.3	36.7	3.3	0.0	**90**
経営者役員	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	**4**
その他	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入　(Q49)							
400 万円未満	26.3	15.6	14.8	38.7	1.6	2.9	**243**
400 万円以上 600 万円未満	34.4	14.9	15.4	33.9	0.0	1.4	**221**
600 万円以上 800 万円未満	44.0	16.0	12.6	25.1	1.7	0.6	**175**
800 万円以上	45.7	13.7	12.9	24.0	2.8	0.8	**387**
一番収入の多い人の職業　(Q50C)							
事務的職業	37.9	15.2	15.2	28.0	3.8	0.0	**132**
販売的職業	37.7	16.0	13.6	29.6	1.2	1.9	**162**
熟練・労務的職業	32.5	9.4	14.4	41.3	1.9	0.6	**160**
管理的職業	47.9	19.3	11.8	21.0	0.0	0.0	**119**
専門的職業	41.9	14.0	13.4	30.2	0.0	0.6	**179**
農林水産業	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	**5**
その他	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数　(Q48)							
2 人以下	24.4	13.0	13.3	43.3	1.5	4.4	**270**
3 人	39.4	12.8	17.4	30.3	0.0	0.0	**218**
4 人	44.1	15.6	11.8	26.2	1.9	0.4	**263**
5 人以上	46.8	17.7	12.8	18.9	3.4	0.4	**265**
居住年数　(Q1)							
10 年以下	41.1	12.5	14.6	30.7	0.4	0.7	**280**
11 年以上 20 年以下	38.3	15.0	17.0	25.7	1.9	1.9	**206**
21 年以上 30 年以下	35.5	14.5	11.4	34.5	3.2	0.9	**220**
31 年以上	37.6	17.2	12.9	28.4	2.0	2.0	**303**
自然と人間の関係　(Q4)							
自然に従う	40.3	13.8	15.5	27.4	1.5	1.5	**471**
自然を利用する	36.8	16.4	11.6	31.9	2.1	1.2	**432**
自然を征服する	13.3	13.3	13.3	46.7	6.7	6.7	**15**
その他	44.3	12.5	14.8	27.3	1.1	0.0	**88**
公平感　(Q42)							
公平だ	44.4	22.2	5.6	16.7	0.0	11.1	**18**
だいたい公平だ	37.5	11.7	15.4	31.7	2.9	0.8	**240**
あまり公平でない	39.1	17.2	13.0	28.1	1.5	1.1	**530**
公平でない	37.7	12.1	14.4	33.5	1.4	0.9	**215**
階層帰属意識　(Q43)							
上	33.3	22.2	11.1	33.3	0.0	0.0	**9**
中の上	39.8	16.1	14.9	27.3	1.2	0.8	**249**
中の下	42.9	13.5	13.5	26.7	1.9	1.6	**513**
下の上	29.1	16.9	14.5	36.6	2.3	0.6	**172**
下の下	27.8	13.0	13.0	42.6	0.0	3.7	**54**

問 7C　あなたは、次にあげるものをリサイクルしていますか。
『トレイ』

	いつも している	ときどき している	めったに しない	まったく しない	家族が している	DK/NA	%の基数
総計	28.2	17.1	15.8	33.7	1.5	3.8	**1026**
性別（Q44A）							
男	21.5	12.1	16.8	42.3	2.7	4.7	**149**
女	29.3	17.9	15.6	32.2	1.3	3.7	**876**
年齢（年代別）（Q44B）							
19 歳以下	7.7	15.4	7.7	61.5	7.7	0.0	**13**
20 代	16.9	13.1	15.4	52.3	1.5	0.8	**130**
30 代	24.2	17.3	21.2	34.2	0.9	2.2	**231**
40 代	34.0	18.7	19.0	26.5	1.1	0.7	**268**
50 代	32.4	17.0	11.7	32.4	2.7	3.7	**188**
60 代	29.5	21.3	8.2	28.7	0.8	11.5	**122**
70 歳以上	30.8	9.2	12.3	32.3	1.5	13.8	**65**
学歴（Q45）							
小学校	27.3	0.0	45.5	27.3	0.0	0.0	**11**
新制中学校	23.8	10.7	15.5	35.7	1.2	13.1	**84**
新制高校	26.9	18.7	14.2	35.6	1.6	3.0	**438**
専門学校	27.9	15.1	15.7	34.9	1.7	4.7	**172**
短大・高専	31.4	15.7	20.3	27.5	2.0	3.3	**153**
大学	32.5	20.1	14.3	31.8	0.6	0.6	**154**
その他	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）							
専業主婦	29.1	18.5	17.2	30.9	0.5	3.8	**395**
学生	20.0	10.0	25.0	40.0	5.0	0.0	**20**
無職	25.9	14.1	12.9	31.8	2.4	12.9	**85**
臨時雇用	29.5	21.6	14.1	33.0	0.4	1.3	**227**
常時雇用の一般従業員	23.4	10.1	15.4	43.6	3.7	3.7	**188**
自営業主	37.8	16.7	11.1	30.0	2.2	2.2	**90**
経営者役員	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）							
400 万円未満	22.2	13.6	16.0	41.6	1.2	5.3	**243**
400 万円以上 600 万円未満	25.3	15.8	13.6	38.5	0.9	5.9	**221**
600 万円以上 800 万円未満	29.7	18.3	21.1	28.0	1.7	1.1	**175**
800 万円以上	32.8	19.4	14.5	28.7	1.8	2.8	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）							
事務的職業	25.8	13.6	22.0	34.1	1.5	3.0	**132**
販売的職業	25.9	22.8	13.0	35.8	0.6	1.9	**162**
熟練・労務的職業	24.4	14.4	13.1	43.8	2.5	1.9	**160**
管理的職業	31.1	19.3	16.8	29.4	0.8	2.5	**119**
専門的職業	30.7	15.6	19.6	30.7	0.6	2.8	**179**
農林水産業	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	**5**
その他	20.0	10.0	10.0	60.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）							
2 人以下	22.6	14.8	14.1	38.9	1.1	8.5	**270**
3 人	30.3	15.1	14.7	36.7	2.3	0.9	**218**
4 人	26.2	18.3	18.6	33.8	1.1	1.9	**263**
5 人以上	34.3	19.2	15.8	26.0	1.5	3.0	**265**
居住年数（Q1）							
10 年以下	27.1	16.8	17.1	36.8	0.4	1.8	**280**
11 年以上 20 年以下	29.1	14.1	19.9	32.5	1.9	2.4	**206**
21 年以上 30 年以下	28.2	17.3	13.2	35.5	2.3	3.6	**220**
31 年以上	28.7	19.1	13.5	30.7	1.7	6.3	**303**
自然と人間の関係（Q4）							
自然に従う	31.2	15.7	18.0	29.7	1.5	3.8	**471**
自然を利用する	25.7	18.3	14.1	36.8	1.6	3.5	**432**
自然を征服する	20.0	0.0	0.0	73.3	0.0	6.7	**15**
その他	28.4	21.6	15.9	31.8	1.1	1.1	**88**
公平感（Q42）							
公平だ	27.8	16.7	16.7	27.8	0.0	11.1	**18**
だいたい公平だ	27.5	19.2	15.0	33.8	1.3	3.3	**240**
あまり公平でない	28.9	16.0	16.4	33.8	1.3	3.6	**530**
公平でない	26.0	18.1	15.8	34.9	2.3	2.8	**215**
階層帰属意識（Q43）							
上	22.2	11.1	22.2	44.4	0.0	0.0	**9**
中の上	28.1	21.7	18.1	28.1	1.2	2.8	**249**
中の下	30.4	17.2	15.0	32.9	1.4	3.1	**513**
下の上	24.4	11.0	15.1	42.4	2.9	4.1	**172**
下の下	25.9	14.8	11.1	40.7	0.0	7.4	**54**

問 7 D　あなたは、次にあげるものをリサイクルしていますか。
『ペットボトル』

	いつも している	ときどき している	めったに しない	まったく しない	家族が している	DK/NA	%の基数
総計	73.6	10.3	5.1	7.9	1.6	1.6	**1026**
性別　(Q44A)							
男	54.4	14.8	6.0	18.1	2.7	4.0	**149**
女	76.9	9.6	4.9	6.1	1.4	1.1	**876**
年齢（年代別）　(Q44B)							
19 歳以下	46.2	7.7	7.7	38.5	0.0	0.0	**13**
20 代	59.2	13.1	9.2	16.2	1.5	0.8	**130**
30 代	77.5	10.4	4.8	4.8	1.7	0.9	**231**
40 代	81.7	9.0	3.4	4.5	1.5	0.0	**268**
50 代	74.5	11.7	4.3	7.4	1.1	1.1	**188**
60 代	70.5	12.3	5.7	6.6	2.5	2.5	**122**
70 歳以上	64.6	4.6	4.6	12.3	1.5	12.3	**65**
学歴　(Q45)							
小学校	72.7	0.0	27.3	0.0	0.0	0.0	**11**
新制中学校	66.7	14.3	4.8	8.3	1.2	4.8	**84**
新制高校	71.0	11.4	5.3	9.4	1.6	1.4	**438**
専門学校	77.3	8.1	4.7	6.4	2.3	1.2	**172**
短大・高専	79.7	9.2	3.9	4.6	1.3	1.3	**153**
大学	76.6	8.4	3.9	8.4	1.3	1.3	**154**
その他	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態　(Q46)							
専業主婦	82.3	8.9	4.1	3.3	0.5	1.0	**395**
学生	50.0	15.0	10.0	25.0	0.0	0.0	**20**
無職	64.7	5.9	8.2	11.8	1.2	8.2	**85**
臨時雇用	75.3	12.3	4.0	5.7	1.3	1.3	**227**
常時雇用の一般従業員	62.8	12.8	6.4	13.3	4.3	0.5	**188**
自営業主	71.1	8.9	4.4	13.3	1.1	1.1	**90**
経営者役員	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	**4**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入　(Q49)							
400 万円未満	63.8	13.6	5.8	14.0	0.8	2.1	**243**
400 万円以上 600 万円未満	74.2	10.4	4.5	6.8	1.4	2.7	**221**
600 万円以上 800 万円未満	76.6	12.0	4.0	4.0	1.7	1.7	**175**
800 万円以上	78.0	7.5	5.4	6.5	2.1	0.5	**387**
一番収入の多い人の職業　(Q50C)							
事務的職業	70.5	12.1	4.5	9.1	3.8	0.0	**132**
販売的職業	79.6	5.6	3.7	9.3	1.2	0.6	**162**
熟練・労務的職業	69.4	12.5	8.1	6.9	2.5	0.6	**160**
管理的職業	79.8	12.6	2.5	2.5	1.7	0.8	**119**
専門的職業	73.7	10.6	5.0	8.9	0.6	1.1	**179**
農林水産業	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	**5**
その他	80.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数　(Q48)							
2 人以下	60.0	13.0	5.9	15.6	1.5	4.1	**270**
3 人	77.1	9.6	4.6	6.4	1.4	0.9	**218**
4 人	79.1	11.0	5.3	3.0	1.1	0.4	**263**
5 人以上	79.6	7.5	3.8	6.0	2.3	0.8	**265**
居住年数　(Q1)							
10 年以下	72.9	7.9	7.1	11.4	0.4	0.4	**280**
11 年以上 20 年以下	77.2	8.7	4.9	6.3	1.9	1.0	**206**
21 年以上 30 年以下	74.1	12.3	4.1	5.5	2.3	1.8	**220**
31 年以上	71.6	12.5	4.0	6.9	2.0	3.0	**303**
自然と人間の関係　(Q4)							
自然に従う	74.3	10.4	4.5	7.6	1.7	1.5	**471**
自然を利用する	73.6	10.4	5.6	6.9	1.6	1.9	**432**
自然を征服する	46.7	20.0	6.7	20.0	0.0	6.7	**15**
その他	76.1	10.2	3.4	9.1	1.1	0.0	**88**
公平感　(Q42)							
公平だ	66.7	16.7	0.0	5.6	0.0	11.1	**18**
だいたい公平だ	72.5	10.8	6.7	7.5	0.8	1.7	**240**
あまり公平でない	74.5	10.9	4.7	6.8	1.9	1.1	**530**
公平でない	73.0	7.9	4.7	11.2	1.9	1.4	**215**
階層帰属意識　(Q43)							
上	66.7	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	**9**
中の上	75.9	8.0	4.8	8.0	1.2	2.0	**249**
中の下	74.9	10.1	5.3	6.4	1.6	1.8	**513**
下の上	72.7	10.5	4.7	8.7	2.9	0.6	**172**
下の下	55.6	22.2	3.7	18.5	0.0	0.0	**54**

問７E　あなたは、次にあげるものをリサイクルしていますか。
『ビン・缶』

	いつも している	ときどき している	めったに しない	まったく しない	家族が している	DK/NA	%の基数
総計	84.8	6.3	3.2	4.1	1.1	0.5	**1026**
性別（Q44A）							
男	70.5	10.7	4.7	9.4	2.7	2.0	**149**
女	87.3	5.6	3.0	3.1	0.8	0.2	**876**
年齢（年代別）（Q44B）							
19 歳以下	61.5	7.7	0.0	30.8	0.0	0.0	**13**
20 代	66.2	11.5	6.9	13.8	0.8	0.8	**130**
30 代	85.7	5.2	4.3	2.6	1.7	0.4	**231**
40 代	92.5	3.7	1.9	0.7	1.1	0.0	**268**
50 代	92.6	3.7	1.1	1.6	0.5	0.5	**188**
60 代	82.0	11.5	4.1	2.5	0.0	0.0	**122**
70 歳以上	78.5	9.2	1.5	6.2	1.5	3.1	**65**
学歴（Q45）							
小学校	72.7	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	**11**
新制中学校	84.5	7.1	3.6	4.8	0.0	0.0	**84**
新制高校	85.6	5.9	3.0	3.7	1.1	0.7	**438**
専門学校	82.0	8.1	2.9	5.2	1.2	0.6	**172**
短大・高専	86.9	6.5	3.3	2.0	0.7	0.7	**153**
大学	87.0	3.9	1.9	5.8	1.3	0.0	**154**
その他	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）							
専業主婦	90.4	5.8	2.5	1.3	0.0	0.0	**395**
学生	60.0	15.0	5.0	20.0	0.0	0.0	**20**
無職	77.6	10.6	1.2	7.1	1.2	2.4	**85**
臨時雇用	87.7	6.2	2.2	2.6	0.9	0.4	**227**
常時雇用の一般従業員	77.7	4.8	5.9	8.0	3.2	0.5	**188**
自営業主	83.3	5.6	3.3	5.6	1.1	1.1	**90**
経営者役員	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	**4**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）							
400 万円未満	75.7	11.1	3.7	8.6	0.4	0.4	**243**
400 万円以上 600 万円未満	85.5	5.4	4.5	3.2	0.9	0.5	**221**
600 万円以上 800 万円未満	89.7	5.7	2.3	0.6	0.6	1.1	**175**
800 万円以上	87.9	4.1	2.6	3.4	1.8	0.3	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）							
事務的職業	84.1	6.1	3.0	3.8	3.0	0.0	**132**
販売的職業	86.4	3.7	2.5	6.2	0.6	0.6	**162**
熟練・労務的職業	83.1	6.9	5.6	3.8	0.6	0.0	**160**
管理的職業	93.3	2.5	1.7	0.8	1.7	0.0	**119**
専門的職業	83.2	7.8	2.8	4.5	0.6	1.1	**179**
農林水産業	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**5**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）							
2 人以下	73.7	8.9	6.3	9.6	0.7	0.7	**270**
3 人	88.5	6.0	1.8	2.3	0.9	0.5	**218**
4 人	89.7	5.7	1.5	2.3	0.4	0.4	**263**
5 人以上	89.1	4.5	2.3	1.5	2.3	0.4	**265**
居住年数（Q1）							
10 年以下	80.0	7.9	4.3	7.5	0.4	0.0	**280**
11 年以上 20 年以下	87.4	4.9	2.9	1.9	1.9	1.0	**206**
21 年以上 30 年以下	85.5	5.9	2.3	3.2	1.8	1.4	**220**
31 年以上	87.8	6.3	3.0	2.6	0.3	0.0	**303**
自然と人間の関係（Q4）							
自然に従う	87.0	6.4	3.4	1.7	1.1	0.4	**471**
自然を利用する	83.6	5.8	3.5	5.3	1.2	0.7	**432**
自然を征服する	73.3	6.7	0.0	20.0	0.0	0.0	**15**
その他	83.0	9.1	0.0	6.8	1.1	0.0	**88**
公平感（Q42）							
公平だ	77.8	11.1	0.0	5.6	0.0	5.6	**18**
だいたい公平だ	83.8	6.7	3.8	4.6	0.8	0.4	**240**
あまり公平でない	86.0	7.0	2.6	2.8	1.3	0.2	**530**
公平でない	84.2	4.7	3.7	6.0	0.9	0.5	**215**
階層帰属意識（Q43）							
上	66.7	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	**9**
中の上	86.3	4.8	3.2	3.6	1.2	0.8	**249**
中の下	86.2	6.4	3.5	2.5	0.8	0.6	**513**
下の上	85.5	5.2	2.3	4.7	2.3	0.0	**172**
下の下	66.7	14.8	3.7	14.8	0.0	0.0	**54**

問 7F　あなたは、次にあげるものをリサイクルしていますか。
『電池（筒型）』

	いつも している	ときどき している	めったに しない	まったく しない	家族が している	DK/NA	%の基数
総計	65.3	9.5	7.8	13.2	1.9	2.4	**1026**
性別（Q44A）							
男	43.0	10.1	12.1	28.2	2.7	4.0	**149**
女	69.2	9.4	7.1	10.5	1.7	2.2	**876**
年齢（年代別）（Q44B）							
19 歳以下	15.4	0.0	15.4	61.5	7.7	0.0	**13**
20 代	41.5	13.8	13.1	29.2	1.5	0.8	**130**
30 代	68.4	10.8	7.4	11.3	1.7	0.4	**231**
40 代	75.7	7.8	7.1	7.1	1.5	0.7	**268**
50 代	72.3	4.8	8.5	9.6	2.1	2.7	**188**
60 代	58.2	13.1	5.7	13.1	1.6	8.2	**122**
70 歳以上	66.2	10.8	1.5	12.3	1.5	7.7	**65**
学歴（Q45）							
小学校	72.7	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	**11**
新制中学校	58.3	11.9	3.6	16.7	2.4	7.1	**84**
新制高校	64.4	9.4	8.9	13.7	2.1	1.6	**438**
専門学校	65.7	7.6	6.4	15.7	2.3	2.3	**172**
短大・高専	72.5	10.5	5.9	7.8	0.7	2.6	**153**
大学	64.9	9.1	9.7	13.0	1.3	1.9	**154**
その他	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）							
専業主婦	71.9	8.4	6.8	9.4	1.0	2.5	**395**
学生	30.0	15.0	15.0	35.0	5.0		**20**
無職	62.4	10.6	4.7	11.8	2.4	8.2	**85**
臨時雇用	70.5	7.9	7.5	11.9	0.9	1.3	**227**
常時雇用の一般従業員	49.5	12.2	10.6	21.8	3.7	2.1	**188**
自営業主	67.8	8.9	5.6	13.3	3.3	1.1	**90**
経営者役員	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）							
400 万円未満	56.0	9.5	8.2	19.8	2.9	3.7	**243**
400 万円以上 600 万円未満	62.9	10.0	7.7	14.5	2.3	2.7	**221**
600 万円以上 800 万円未満	69.1	10.9	10.3	8.0	0.0	1.7	**175**
800 万円以上	70.8	8.5	6.5	10.6	1.8	1.8	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）							
事務的職業	62.9	10.6	9.1	13.6	3.0	0.8	**132**
販売的職業	64.8	11.1	8.0	14.2	0.6	1.2	**162**
熟練・労務的職業	58.8	13.8	8.8	15.6	3.1	0.0	**160**
管理的職業	76.5	5.9	5.9	10.1	0.8	0.8	**119**
専門的職業	67.0	8.9	8.4	11.7	1.1	2.8	**179**
農林水産業	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	**5**
その他	50.0	10.0	10.0	30.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）							
2 人以下	51.9	10.4	10.4	21.1	2.2	4.1	**270**
3 人	65.1	9.2	8.7	11.5	2.8	2.8	**218**
4 人	74.1	8.4	5.3	10.3	0.4	1.5	**263**
5 人以上	70.9	10.2	6.0	9.4	2.3	1.1	**265**
居住年数（Q1）							
10 年以下	60.0	10.4	9.6	17.9	1.1	1.1	**280**
11 年以上 20 年以下	67.0	10.2	7.8	11.2	1.5	2.4	**206**
21 年以上 30 年以下	70.0	5.5	9.1	10.5	3.2	1.8	**220**
31 年以上	67.0	10.6	5.0	12.2	1.7	3.6	**303**
自然と人間の関係（Q4）							
自然に従う	63.1	11.0	9.6	12.3	1.3	2.8	**471**
自然を利用する	68.3	8.3	5.3	13.2	2.5	2.3	**432**
自然を征服する	53.3	0.0	13.3	33.3	0.0	0.0	**15**
その他	68.2	9.1	6.8	12.5	2.3	1.1	**88**
公平感（Q42）							
公平だ	55.6	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1	**18**
だいたい公平だ	63.8	12.1	6.7	12.9	1.7	2.9	**240**
あまり公平でない	67.4	8.1	8.5	11.7	2.1	2.3	**530**
公平でない	62.8	9.3	7.4	17.7	1.9	0.9	**215**
階層帰属意識（Q43）							
上	55.6	11.1	0.0	33.3	0.0	0.0	**9**
中の上	71.5	8.8	7.2	8.8	0.8	2.8	**249**
中の下	64.9	10.1	8.4	12.3	2.1	2.1	**513**
下の上	61.6	9.3	7.6	16.9	2.9	1.7	**172**
下の下	55.6	5.6	7.4	25.9	1.9	3.7	**54**

問７G　あなたは、次にあげるものをリサイクルしていますか。
『衣類』

	いつもしている	ときどきしている	めったにしない	まったくしない	家族がしている	DK/NA	%の基数
総計	27.5	32.8	18.6	17	1.8	2.3	**1026**
性別（Q44A）							
男	14.8	16.8	22.1	35.6	6.7	4.0	**149**
女	29.7	35.5	18.0	13.8	0.9	2.1	**876**
年齢（年代別）（Q44B）							
19 歳以下	15.4	0.0	46.2	38.5	0.0	0.0	**13**
20 代	11.5	23.8	26.2	36.9	0.8	0.8	**130**
30 代	27.7	34.6	22.1	13.0	1.3	1.3	**231**
40 代	32.1	42.9	13.1	10.1	1.1	0.7	**268**
50 代	29.3	32.4	18.6	14.4	2.7	2.7	**188**
60 代	29.5	27.9	13.9	19.7	2.5	6.6	**122**
70 歳以上	32.3	23.1	16.9	18.5	3.1	6.2	**65**
学歴（Q45）							
小学校	36.4	9.1	18.2	18.2	9.1	9.1	**11**
新制中学校	27.4	26.2	13.1	26.2	2.4	4.8	**84**
新制高校	28.3	32.4	18.3	17.8	2.1	1.1	**438**
専門学校	27.9	30.8	20.9	15.1	1.7	3.5	**172**
短大・高専	28.1	41.8	18.3	8.5	0.7	2.6	**153**
大学	23.4	34.4	20.1	18.8	1.3	1.9	**154**
その他	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）							
専業主婦	29.4	36.2	17.7	13.2	0.8	2.8	**395**
学生	5.0	0.0	50.0	40.0	5.0	0.0	**20**
無職	36.5	25.9	15.3	16.5	1.2	4.7	**85**
臨時雇用	28.2	35.2	18.1	16.3	0.4	1.8	**227**
常時雇用の一般従業員	21.3	28.2	20.2	25.0	3.7	1.6	**188**
自営業主	24.4	34.4	18.9	14.4	5.6	2.2	**90**
経営者役員	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）							
400 万円未満	23.5	25.1	22.6	23.5	2.5	2.9	**243**
400 万円以上 600 万円未満	29.0	31.2	16.7	19.0	1.4	2.7	**221**
600 万円以上 800 万円未満	26.9	37.7	17.7	13.7	2.3	1.7	**175**
800 万円以上	29.5	36.4	17.6	13.2	1.3	2.1	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）							
事務的職業	19.7	37.1	22.0	18.9	2.3	0.0	**132**
販売的職業	21.6	36.4	19.1	21.6	0.6	0.6	**162**
熟練・労務的職業	25.0	33.1	15.0	22.5	3.8	0.6	**160**
管理的職業	33.6	42.9	12.6	8.4	0.8	1.7	**119**
専門的職業	31.3	33.0	17.9	14.0	0.6	3.4	**179**
農林水産業	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	**5**
その他	30.0	10.0	40.0	20.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）							
2 人以下	18.9	27.0	21.1	26.7	2.2	4.1	**270**
3 人	25.7	28.9	22.0	17.9	2.3	3.2	**218**
4 人	26.6	41.8	15.6	14.4	0.8	0.8	**263**
5 人以上	38.9	33.2	16.2	9.1	1.9	0.8	**265**
居住年数（Q1）							
10 年以下	21.1	32.1	21.1	23.6	0.4	1.8	**280**
11 年以上 20 年以下	30.6	35.9	18.0	11.7	1.5	2.4	**206**
21 年以上 30 年以下	30.0	34.1	15.9	16.4	2.3	1.4	**220**
31 年以上	28.7	31.4	18.5	15.5	2.6	3.3	**303**
自然と人間の関係（Q4）							
自然に従う	28.5	32.1	19.1	16.6	1.9	1.9	**471**
自然を利用する	25.5	33.8	18.3	18.1	1.9	2.5	**432**
自然を征服する	26.7	33.3	20.0	20.0	0.0	0.0	**15**
その他	34.1	31.8	18.2	12.5	1.1	2.3	**88**
公平感（Q42）							
公平だ	22.2	22.2	16.7	22.2	0.0	16.7	**18**
だいたい公平だ	26.3	31.3	22.5	15.8	1.7	2.5	**240**
あまり公平でない	26.6	36.8	18.1	14.7	2.1	1.7	**530**
公平でない	30.7	27.0	15.8	24.2	1.4	0.9	**215**
階層帰属意識（Q43）							
上	11.1	22.2	11.1	55.6	0.0	0.0	**9**
中の上	25.7	39.4	19.3	12.0	1.2	2.4	**249**
中の下	28.7	32.2	19.5	15.0	2.3	2.3	**513**
下の上	25.6	26.2	19.8	25.0	1.7	1.7	**172**
下の下	27.8	31.5	11.1	29.6	0.0	0.0	**54**

問 19A　あなたは次のようなことによって、どのくらいリサイクルの実行が妨げれらると思いますか。
『ものをためておく場所がない』

	非常に障害になる	やや障害になる	あまり障害にならない	まったく障害にならない	DK/NA	%の基数
総計	33.1	41.1	16.3	7.6	1.9	**1026**
性別 （Q44A）						
男	28.9	41.6	19.5	7.4	2.7	**149**
女	33.8	41.1	15.8	7.6	1.7	**876**
年齢（年代別） （Q44B）						
19 歳以下	23.1	46.2	15.4	15.4	0.0	**13**
20 代	42.3	45.4	10.0	0.8	1.5	**130**
30 代	42.0	47.2	7.8	1.7	1.3	**231**
40 代	32.5	41.0	16.8	9.7	0.0	**268**
50 代	29.8	38.8	19.1	10.6	1.6	**188**
60 代	21.3	33.6	30.3	13.1	1.6	**122**
70 歳以上	18.5	35.4	21.5	12.3	12.3	**65**
学歴 （Q45）						
小学校	18.2	9.1	36.4	27.3	9.1	**11**
新制中学校	20.2	38.1	22.6	14.3	4.8	**84**
新制高校	33.3	41.6	15.5	8.2	1.4	**438**
専門学校	35.5	40.1	15.1	7.0	2.3	**172**
短大・高専	37.3	37.3	17.0	6.5	2.0	**153**
大学	34.4	48.7	13.6	3.2	0.0	**154**
その他	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態 （Q46）						
専業主婦	31.1	43.8	17.5	5.3	2.3	**395**
学生	25.0	55.0	15.0	5.0	0.0	**20**
無職	22.4	32.9	22.4	15.3	7.1	**85**
臨時雇用	37.0	37.0	16.3	9.3	0.4	**227**
常時雇用の一般従業員	37.2	46.3	12.2	3.2	1.1	**188**
自営業主	32.2	33.3	15.6	17.8	1.1	**90**
経営者役員	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入 （Q49）						
400 万円未満	36.2	39.9	15.2	6.2	2.5	**243**
400 万円以上 600 万円未満	34.8	39.4	14.0	9.5	2.3	**221**
600 万円以上 800 万円未満	30.9	48.6	12.0	7.4	1.1	**175**
800 万円以上	31.3	39.5	20.2	7.5	1.6	**387**
一番収入の多い人の職業 （Q50C）						
事務的職業	37.1	40.2	16.7	4.5	1.5	**132**
販売的職業	32.7	43.8	14.2	6.8	2.5	**162**
熟練・労務的職業	36.3	38.8	15.6	8.1	1.3	**160**
管理的職業	37.0	44.5	12.6	5.0	0.8	**119**
専門的職業	37.4	45.8	12.3	3.9	0.6	**179**
農林水産業	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	**5**
その他	30.0	50.0	10.0	10.0	0.0	**10**
世帯人数 （Q48）						
2 人以下	33.3	36.3	18.5	8.5	3.3	**270**
3 人	33.9	40.8	16.5	8.3	0.5	**218**
4 人	35.7	45.2	13.7	4.2	1.1	**263**
5 人以上	29.1	43.0	16.2	9.8	1.9	**265**
居住年数 （Q1）						
10 年以下	41.8	43.2	10.7	2.9	1.4	**280**
11 年以上 20 年以下	35.4	42.7	16.0	5.8	0.0	**206**
21 年以上 30 年以下	32.7	40.0	15.5	8.6	3.2	**220**
31 年以上	23.4	39.9	21.8	12.5	2.3	**303**
自然と人間の関係 （Q4）						
自然に従う	31.0	40.1	18.3	9.3	1.3	**471**
自然を利用する	35.0	41.2	14.6	6.9	2.3	**432**
自然を征服する	20.0	60.0	13.3	6.7	0.0	**15**
その他	38.6	42.0	14.8	3.4	1.1	**88**
公平感 （Q42）						
公平だ	44.4	16.7	33.3	5.6	0.0	**18**
だいたい公平だ	26.3	45.0	17.9	9.2	1.7	**240**
あまり公平でない	30.2	44.3	16.8	7.4	1.3	**530**
公平でない	46.5	33.0	11.6	6.5	2.3	**215**
階層帰属意識 （Q43）						
上	22.2	66.7	0.0	11.1	0.0	**9**
中の上	31.3	45.8	14.9	6.4	1.6	**249**
中の下	30.4	42.5	17.9	7.6	1.6	**513**
下の上	39.5	34.9	13.4	9.9	2.3	**172**
下の下	44.4	29.6	16.7	7.4	1.9	**54**

問 19B　あなたは次のようなことによって、どのくらいリサイクルの実行が妨げれらると思いますか。
『洗ったりするのがたいへんだ』

	非常に障害になる	やや障害になる	あまり障害にならない	まったく障害にならない	DK/NA	%の基数
総計	10.9	42.5	31.5	12.6	2.5	**1026**
性別 （Q44A）						
男	19.5	41.6	28.2	7.4	3.4	**149**
女	9.4	42.7	32.1	13.5	2.4	**876**
年齢（年代別） （Q44B）						
19 歳以下	38.5	38.5	7.7	15.4	0.0	**13**
20 代	19.2	50.8	23.1	5.4	1.5	**130**
30 代	10.0	48.1	31.2	9.1	1.7	**231**
40 代	7.8	45.9	32.5	13.4	0.4	**268**
50 代	11.2	34.6	33.5	16.5	4.3	**188**
60 代	8.2	39.3	32.0	18.9	1.6	**122**
70 歳以上	6.2	26.2	41.5	13.8	12.3	**65**
学歴 （Q45）						
小学校	9.1	9.1	63.6	9.1	9.1	**11**
新制中学校	4.8	34.5	38.1	17.9	4.8	**84**
新制高校	10.5	46.3	28.1	12.8	2.3	**438**
専門学校	13.4	41.3	29.1	13.4	2.9	**172**
短大・高専	10.5	34.6	39.9	12.4	2.6	**153**
大学	13.0	46.8	29.9	9.7	0.6	**154**
その他	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態 （Q46）						
専業主婦	6.8	41.3	35.4	13.2	3.3	**395**
学生	30.0	35.0	20.0	15.0	0.0	**20**
無職	4.7	36.5	32.9	18.8	7.1	**85**
臨時雇用	9.3	46.3	31.7	11.9	0.9	**227**
常時雇用の一般従業員	20.7	46.3	26.1	5.3	1.6	**188**
自営業主	12.2	38.9	24.4	23.3	1.1	**90**
経営者役員	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入 （Q49）						
400 万円未満	13.2	39.1	30.5	13.6	3.7	**243**
400 万円以上 600 万円未満	9.5	46.6	28.5	11.8	3.6	**221**
600 万円以上 800 万円未満	9.7	45.7	29.7	13.1	1.7	**175**
800 万円以上	10.9	40.8	34.6	12.1	1.6	**387**
一番収入の多い人の職業 （Q50C）						
事務的職業	11.4	47.7	29.5	9.1	2.3	**132**
販売的職業	6.2	45.1	34.6	11.7	2.5	**162**
熟練・労務的職業	14.4	48.8	25.0	10.6	1.3	**160**
管理的職業	9.2	41.2	31.9	15.1	2.5	**119**
専門的職業	17.9	41.3	31.8	8.4	0.6	**179**
農林水産業	0.0	20.0	0.0	80.0	0.0	**5**
その他	0.0	50.0	40.0	10.0	0.0	**10**
世帯人数 （Q48）						
2 人以下	13.7	40.7	28.1	13.3	4.1	**270**
3 人	9.6	43.6	30.3	14.7	1.8	**218**
4 人	11.4	41.4	36.5	8.7	1.9	**263**
5 人以上	8.3	44.2	31.3	14.3	1.9	**265**
居住年数 （Q1）						
10 年以下	12.9	41.1	30.7	12.5	2.9	**280**
11 年以上 20 年以下	8.3	47.1	32.5	10.7	1.5	**206**
21 年以上 30 年以下	14.1	45.0	27.7	10.5	2.7	**220**
31 年以上	8.3	39.9	33.7	15.5	2.6	**303**
自然と人間の関係 （Q4）						
自然に従う	8.7	42.5	32.1	14.6	2.1	**471**
自然を利用する	12.7	41.2	31.5	11.6	3.0	**432**
自然を征服する	13.3	53.3	20.0	13.3	0.0	**15**
その他	11.4	47.7	30.7	9.1	1.1	**88**
公平感 （Q42）						
公平だ	5.6	33.3	38.9	11.1	11.1	**18**
だいたい公平だ	9.2	44.2	26.3	17.1	3.3	**240**
あまり公平でない	9.8	43.6	34.2	10.6	1.9	**530**
公平でない	15.3	40.5	28.4	13.5	2.3	**215**
階層帰属意識 （Q43）						
上	22.2	44.4	11.1	22.2	0.0	**9**
中の上	10.0	43.0	32.5	10.4	4.0	**249**
中の下	9.4	43.3	31.6	13.6	2.1	**513**
下の上	11.6	42.4	32.0	12.2	1.7	**172**
下の下	20.4	48.1	16.7	13.0	1.9	**54**

問 19C　あなたは次のようなことによって、どのくらいリサイクルの実行が妨げれらると思いますか。
『分別の方法が分かりにくい』

	非常に障害になる	やや障害になる	あまり障害にならない	まったく障害にならない	DK/NA	%の基数
総計	19.8	40.1	26.1	11.4	2.6	**1026**
性別 （Q44A）						
男	22.1	40.9	27.5	6.0	3.4	**149**
女	19.4	39.8	25.9	12.3	2.5	**876**
年齢（年代別） （Q44B）						
19 歳以下	38.5	53.8	0.0	7.7	0.0	**13**
20 代	34.6	48.5	15.4	0.8	0.8	**130**
30 代	25.5	46.8	19.5	6.5	1.7	**231**
40 代	15.7	41.0	28.7	13.8	0.7	**268**
50 代	13.8	32.4	29.8	18.6	5.3	**188**
60 代	14.8	31.1	33.6	18.9	1.6	**122**
70 歳以上	9.2	32.3	41.5	6.2	10.8	**65**
学歴 （Q45）						
小学校	9.1	45.5	36.4	9.1	0.0	**11**
新制中学校	14.3	23.8	36.9	19.0	6.0	**84**
新制高校	17.6	41.3	26.9	11.9	2.3	**438**
専門学校	24.4	32.0	26.2	14.5	2.9	**172**
短大・高専	16.3	45.8	26.1	9.2	2.6	**153**
大学	29.9	48.1	15.6	5.2	1.3	**154**
その他	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態 （Q46）						
専業主婦	19.5	40.5	24.1	12.9	3.0	**395**
学生	45.0	45.0	5.0	5.0	0.0	**20**
無職	16.5	22.4	41.2	14.1	5.9	**85**
臨時雇用	16.7	42.3	29.1	10.1	1.8	**227**
常時雇用の一般従業員	27.1	44.1	20.2	6.4	2.1	**188**
自営業主	14.4	37.8	28.9	17.8	1.1	**90**
経営者役員	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	**4**
その他	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入 （Q49）						
400 万円未満	23.0	36.2	24.7	11.9	4.1	**243**
400 万円以上 600 万円未満	20.8	39.8	25.3	10.0	4.1	**221**
600 万円以上 800 万円未満	16.0	41.1	30.3	10.9	1.7	**175**
800 万円以上	18.9	42.1	25.6	12.1	1.3	**387**
一番収入の多い人の職業 （Q50C）						
事務的職業	21.2	47.7	25.0	4.5	1.5	**132**
販売的職業	21.0	42.6	25.9	8.0	2.5	**162**
熟練・労務的職業	20.0	43.8	22.5	13.1	0.6	**160**
管理的職業	19.3	38.7	26.9	13.4	1.7	**119**
専門的職業	27.9	43.6	20.1	7.3	1.1	**179**
農林水産業	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	**5**
その他	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数 （Q48）						
2 人以下	25.9	40.4	22.2	7.8	3.7	**270**
3 人	19.7	36.2	24.8	16.5	2.8	**218**
4 人	16.7	44.1	28.5	8.4	2.3	**263**
5 人以上	17.4	38.1	29.1	14.0	1.5	**265**
居住年数 （Q1）						
10 年以下	24.3	43.6	20.4	8.6	3.2	**280**
11 年以上 20 年以下	17.5	44.7	25.2	11.7	1.0	**206**
21 年以上 30 年以下	18.6	43.2	23.6	11.8	2.7	**220**
31 年以上	18.5	32.0	33.7	13.2	2.6	**303**
自然と人間の関係 （Q4）						
自然に従う	17.6	41.4	24.8	14.0	2.1	**471**
自然を利用する	20.8	38.4	29.4	8.6	2.8	**432**
自然を征服する	20.0	26.7	13.3	33.3	6.7	**15**
その他	29.5	43.2	18.2	9.1	0.0	**88**
公平感 （Q42）						
公平だ	11.1	38.9	22.2	16.7	11.1	**18**
だいたい公平だ	17.5	40.8	25.0	14.2	2.5	**240**
あまり公平でない	18.7	40.8	28.3	10.2	2.1	**530**
公平でない	26.0	40.0	21.9	9.8	2.3	**215**
階層帰属意識 （Q43）						
上	33.3	33.3	22.2	11.1	0.0	**9**
中の上	16.5	41.8	28.1	10.4	3.2	**249**
中の下	20.1	39.4	26.5	12.1	1.9	**513**
下の上	21.5	41.9	22.1	11.0	3.5	**172**
下の下	25.9	38.9	24.1	9.3	1.9	**54**

問 19D　あなたは次のようなことによって、どのくらいリサイクルの実行が妨げれらると思いますか。
『回収場所まで持っていくのがたいへんだ』

	非常に障害になる	やや障害になる	あまり障害にならない	まったく障害にならない	DK/NA	%の基数
総計	20.5	37.9	26.5	13	2.1	**1026**
性別（Q44A）						
男	22.8	34.2	28.9	11.4	2.7	**149**
女	20.1	38.5	26.1	13.2	2.1	**876**
年齢（年代別）（Q44B）						
19 歳以下	38.5	38.5	0.0	23.1	0.0	**13**
20 代	27.7	48.5	18.5	3.8	1.5	**130**
30 代	28.6	41.6	20.3	7.8	1.7	**231**
40 代	14.9	39.2	34.3	11.2	0.4	**268**
50 代	18.1	32.4	23.4	22.3	3.7	**188**
60 代	14.8	26.2	35.2	21.3	2.5	**122**
70 歳以上	13.8	36.9	29.2	13.8	6.2	**65**
学歴（Q45）						
小学校	9.1	27.3	54.5	0.0	9.1	**11**
新制中学校	11.9	28.6	34.5	20.2	4.8	**84**
新制高校	18.0	36.5	27.2	16.4	1.8	**438**
専門学校	22.1	39.5	21.5	14.5	2.3	**172**
短大・高専	20.9	41.2	28.8	7.2	2.0	**153**
大学	29.9	43.5	20.8	5.2	0.6	**154**
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）						
専業主婦	19.2	38.2	26.1	13.4	3.0	**395**
学生	35.0	40.0	10.0	15.0	0.0	**20**
無職	10.6	34.1	31.8	18.8	4.7	**85**
臨時雇用	19.4	37.4	30.4	12.3	0.4	**227**
常時雇用の一般従業員	28.2	42.6	19.7	7.4	2.1	**188**
自営業主	20.0	27.8	31.1	21.1		**90**
経営者役員	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	**4**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）						
400 万円未満	19.3	40.7	23.0	14.4	2.5	**243**
400 万円以上 600 万円未満	19.9	34.4	30.3	12.7	2.7	**221**
600 万円以上 800 万円未満	20.6	40.6	25.1	12.6	1.1	**175**
800 万円以上	21.4	37.0	27.1	12.4	2.1	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）						
事務的職業	17.4	47.0	24.2	9.1	2.3	**132**
販売的職業	19.1	40.7	24.1	14.2	1.9	**162**
熟練・労務的職業	23.8	34.4	26.9	13.8	1.3	**160**
管理的職業	21.0	34.5	31.1	10.9	2.5	**119**
専門的職業	32.4	38.5	21.8	7.3	0.0	**179**
農林水産業	0.0	20.0	0.0	80.0	0.0	**5**
その他	10.0	50.0	30.0	10.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）						
2 人以下	22.2	37.8	25.2	11.5	3.3	**270**
3 人	22.5	33.5	26.6	16.1	1.4	**218**
4 人	21.3	42.6	25.9	9.1	1.1	**263**
5 人以上	16.6	35.8	29.1	16.2	2.3	**265**
居住年数（Q1）						
10 年以下	27.5	36.8	23.2	9.6	2.9	**280**
11 年以上 20 年以下	18.4	45.1	24.3	11.2	1.0	**206**
21 年以上 30 年以下	19.5	37.3	25.5	15.5	2.3	**220**
31 年以上	16.5	35.3	30.4	15.8	2.0	**303**
自然と人間の関係（Q4）						
自然に従う	16.8	38.6	27.2	15.5	1.9	**471**
自然を利用する	21.3	38.2	27.8	10.6	2.1	**432**
自然を征服する	33.3	6.7	33.3	26.7	0.0	**15**
その他	36.4	36.4	15.9	10.2	1.1	**88**
公平感（Q42）						
公平だ	16.7	16.7	38.9	16.7	11.1	**18**
だいたい公平だ	20.8	36.3	25.8	14.6	2.5	**240**
あまり公平でない	17.7	40.4	28.3	11.9	1.7	**530**
公平でない	27.9	35.8	22.8	12.6	0.9	**215**
階層帰属意識（Q43）						
上	55.6	22.2	11.1	11.1	0.0	**9**
中の上	19.3	37.8	30.5	9.2	3.2	**249**
中の下	18.3	38.6	26.9	14.4	1.8	**513**
下の上	22.7	37.8	22.1	15.7	1.7	**172**
下の下	35.2	31.5	20.4	13.0	0.0	**54**

問 21　あなたは、リサイクルが「ごみ問題の解決」に役立つと思いますか。

	非常に役立つ	どちらかといえば役立つ	どちらかといえば役立たない	全く役立たない	DK/NA	%の基数
総計	54.2	43.4	1.8	0.2	0.5	**1026**
性別 （Q44A）						
男	52.3	43.0	3.4	1.3	0.0	**149**
女	54.5	43.5	1.5	0.0	0.6	**876**
年齢（年代別） （Q44B）						
19 歳以下	38.5	53.8	0.0	7.7	0.0	**13**
20 代	50.8	45.4	3.8	0.0	0.0	**130**
30 代	52.8	45.9	0.4	0.0	0.9	**231**
40 代	57.8	40.7	1.5	0.0	0.0	**268**
50 代	53.7	43.6	1.6	0.5	0.5	**188**
60 代	49.2	45.1	4.1	0.0	1.6	**122**
70 歳以上	64.6	35.4	0.0	0.0	0.0	**65**
学歴 （Q45）						
小学校	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0	**11**
新制中学校	51.2	45.2	3.6	0.0	0.0	**84**
新制高校	51.4	45.0	2.5	0.5	0.7	**438**
専門学校	56.4	42.4	0.6	0.0	0.6	**172**
短大・高専	54.9	44.4	0.0	0.0	0.7	**153**
大学	59.7	38.3	1.9	0.0	0.0	**154**
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態 （Q46）						
専業主婦	55.9	42.0	1.8	0.0	0.3	**395**
学生	50.0	45.0	5.0	0.0	0.0	**20**
無職	56.5	41.2	1.2	0.0	1.2	**85**
臨時雇用	49.3	48.0	1.8	0.4	0.4	**227**
常時雇用の一般従業員	52.1	44.1	2.1	0.5	1.1	**188**
自営業主	58.9	40.0	1.1	0.0	0.0	**90**
経営者役員	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入 （Q49）						
400 万円未満	53.9	42.4	2.5	0.8	0.4	**243**
400 万円以上 600 万円未満	52.0	46.6	0.0	0.0	1.4	**221**
600 万円以上 800 万円未満	48.6	48.6	2.9	0.0	0.0	**175**
800 万円以上	58.1	39.8	1.8	0.0	0.3	**387**
一番収入の多い人の職業 （Q50C）						
事務的職業	51.5	46.2	1.5	0.0	0.8	**132**
販売的職業	55.6	42.6	1.2	0.6	0.0	**162**
熟練・労務的職業	51.3	45.0	3.1	0.0	0.6	**160**
管理的職業	50.4	47.9	1.7	0.0	0.0	**119**
専門的職業	58.7	39.7	1.7	0.0	0.0	**179**
農林水産業	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	**5**
その他	70.0	30.0	0.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数 （Q48）						
2 人以下	49.3	46.7	2.6	0.4	1.1	**270**
3 人	58.3	39.0	2.3	0.5	0.0	**218**
4 人	52.1	46.4	0.8	0.0	0.8	**263**
5 人以上	58.1	40.4	1.5	0.0	0.0	**265**
居住年数 （Q1）						
10 年以下	50.7	46.8	2.1	0.4	0.0	**280**
11 年以上 20 年以下	60.2	37.4	1.9	0.0	0.5	**206**
21 年以上 30 年以下	54.1	44.1	0.9	0.0	0.9	**220**
31 年以上	53.5	43.6	2.0	0.3	0.7	**303**
自然と人間の関係 （Q4）						
自然に従う	57.7	39.3	2.3	0.0	0.6	**471**
自然を利用する	53.0	45.8	0.9	0.2	0.0	**432**
自然を征服する	53.3	40.0	0.0	0.0	6.7	**15**
その他	48.9	46.6	3.4	1.1	0.0	**88**
公平感 （Q42）						
公平だ	66.7	27.8	5.6	0.0	0.0	**18**
だいたい公平だ	53.8	44.6	1.3	0.0	0.4	**240**
あまり公平でない	53.4	45.1	0.8	0.0	0.8	**530**
公平でない	56.3	38.6	4.2	0.9	0.0	**215**
階層帰属意識 （Q43）						
上	44.4	33.3	11.1	11.1	0.0	**9**
中の上	55.4	43.4	1.2	0.0	0.0	**249**
中の下	54.6	43.5	1.4	0.0	0.6	**513**
下の上	52.3	43.0	2.9	0.6	1.2	**172**
下の下	59.3	38.9	1.9	0.0	0.0	**54**

問 22A　あなたは、次のような意見に、どのくらい共感できますか。
『ものを再利用したり、リサイクルすると、満足感をおぼえる』

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない	DK/NA	%の基数
総計	25.3	63.1	9.6	1	1	**1026**
性別（Q44A）						
男	29.5	56.4	12.1	0.7	1.3	**149**
女	24.7	64.3	9.1	1.0	0.9	**876**
年齢（年代別）（Q44B）						
19 歳以下	38.5	38.5	15.4	7.7	0.0	**13**
20 代	21.5	63.1	13.1	1.5	0.8	**130**
30 代	22.1	68.4	8.7	0.4	0.4	**231**
40 代	25.0	63.8	10.4	0.7	0.0	**268**
50 代	22.9	65.4	9.0	1.6	1.1	**188**
60 代	34.4	55.7	7.4	0.8	1.6	**122**
70 歳以上	33.8	55.4	6.2	0.0	4.6	**65**
学歴（Q45）						
小学校	36.4	54.5	9.1	0.0	0.0	**11**
新制中学校	32.1	54.8	9.5	0.0	3.6	**84**
新制高校	24.0	63.7	10.3	1.1	0.9	**438**
専門学校	23.8	69.2	5.8	0.6	0.6	**172**
短大・高専	24.8	66.7	6.5	1.3	0.7	**153**
大学	27.3	56.5	14.9	1.3	0.0	**154**
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）						
専業主婦	24.8	67.6	6.6	0.3	0.8	**395**
学生	40.0	45.0	15.0	0.0	0.0	**20**
無職	29.4	58.8	7.1	0.0	4.7	**85**
臨時雇用	23.3	62.6	11.5	2.2	0.4	**227**
常時雇用の一般従業員	20.7	64.9	13.8	0.0	0.5	**188**
自営業主	32.2	52.2	10.0	4.4	1.1	**90**
経営者役員	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）						
400 万円未満	30.5	56.8	11.1	0.4	1.2	**243**
400 万円以上 600 万円未満	20.4	67.9	8.6	2.3	0.9	**221**
600 万円以上 800 万円未満	22.9	65.1	10.3	0.6	1.1	**175**
800 万円以上	26.1	63.3	9.0	0.8	0.8	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）						
事務的職業	24.2	66.7	8.3	0.8	0.0	**132**
販売的職業	21.0	65.4	11.7	1.2	0.6	**162**
熟練・労務的職業	26.3	62.5	10.0	0.6	0.6	**160**
管理的職業	26.1	63.0	10.9	0.0	0.0	**119**
専門的職業	21.8	67.0	8.4	1.7	1.1	**179**
農林水産業	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	**5**
その他	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）						
2 人以下	25.2	60.4	11.1	1.1	2.2	**270**
3 人	27.1	63.3	9.2	0.5	0.0	**218**
4 人	24.3	64.3	9.9	1.5	0.0	**263**
5 人以上	25.7	65.3	7.5	0.4	1.1	**265**
居住年数（Q1）						
10 年以下	24.3	64.6	9.6	1.1	0.4	**280**
11 年以上 20 年以下	23.3	65.5	9.2	1.5	0.5	**206**
21 年以上 30 年以下	22.3	65.5	10.5	0.0	1.8	**220**
31 年以上	29.4	59.4	8.9	1.3	1.0	**303**
自然と人間の関係（Q4）						
自然に従う	28.0	61.4	8.3	1.5	0.8	**471**
自然を利用する	24.8	64.1	10.0	0.2	0.9	**432**
自然を征服する	20.0	66.7	13.3	0.0	0.0	**15**
その他	18.2	69.3	10.2	2.3	0.0	**88**
公平感（Q42）						
公平だ	44.4	38.9	5.6	5.6	5.6	**18**
だいたい公平だ	23.3	69.2	5.8	1.3	0.4	**240**
あまり公平でない	24.0	64.5	10.6	0.4	0.6	**530**
公平でない	29.8	55.8	12.1	1.4	0.9	**215**
階層帰属意識（Q43）						
上	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0	**9**
中の上	25.7	65.5	7.2	0.8	0.8	**249**
中の下	23.6	64.9	9.7	0.6	1.2	**513**
下の上	27.9	59.3	11.6	0.6	0.6	**172**
下の下	37.0	48.1	11.1	3.7	0.0	**54**

問 22B　あなたは、次のような意見に、どのくらい共感できますか。
『節約すると、満足感をおぼえる』

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない	DK/NA	%の基数
総計	31.1	59.6	6.5	1.1	1.7	**1026**
性別 （Q44A）						
男	29	58	8	3	1	**149**
女	32	60	6	1	2	**876**
年齢（年代別） （Q44B）						
19 歳以下	46	38	8	8	0	**13**
20 代	35	54	8	2	1	**130**
30 代	31	61	6	1	1	**231**
40 代	29	64	6	1	0	**268**
50 代	28	61	7	2	2	**188**
60 代	35	57	7	0	2	**122**
70 歳以上	32	55	3	0	9	**65**
学歴 （Q45）						
小学校	36	55	0	0	9	**11**
新制中学校	33	56	6	0	5	**84**
新制高校	32	58	8	1	1	**438**
専門学校	28	66	4	1	1	**172**
短大・高専	33	61	4	1	2	**153**
大学	29	60	8	2	1	**154**
その他	50	0	50	0	0	**2**
本人職業形態 （Q46）						
専業主婦	31	62	4	0	2	**395**
学生	45	50	5	0	0	**20**
無職	33	56	6	0	5	**85**
臨時雇用	30	59	8	2	0	**227**
常時雇用の一般従業員	27	61	9	3	1	**188**
自営業主	38	50	9	2	1	**90**
経営者役員	50	50	0	0	0	**4**
その他	0	0	100	0	0	**1**
世帯収入 （Q49）						
400 万円未満	31	59	6	1	3	**243**
400 万円以上 600 万円未満	27	67	4	1	0	**221**
600 万円以上 800 万円未満	37	52	7	2	2	**175**
800 万円以上	30	59	8	1	2	**387**
一番収入の多い人の職業 （Q50C）						
事務的職業	30	60	8	2	1	**132**
販売的職業	32	60	6	1	1	**162**
熟練・労務的職業	31	60	7	1	1	**160**
管理的職業	30	62	6	1	1	**119**
専門的職業	30	61	6	1	2	**179**
農林水産業	60	40	0	0	0	**5**
その他	20	70	10	0	0	**10**
世帯人数 （Q48）						
2 人以下	30	58	7	1	3	**270**
3 人	31	62	5	0	1	**218**
4 人	30	61	7	1	1	**263**
5 人以上	34	58	6	1	1	**265**
居住年数 （Q1）						
10 年以下	35	57	6	1	1	**280**
11 年以上 20 年以下	31	59	8	1	1	**206**
21 年以上 30 年以下	29	62	6	1	2	**220**
31 年以上	30	60	7	1	2	**303**
自然と人間の関係 （Q4）						
自然に従う	34	58	6	1	1	**471**
自然を利用する	29	61	7	1	2	**432**
自然を征服する	47	47	7	0	0	**15**
その他	24	67	6	2	1	**88**
公平感 （Q42）						
公平だ	39	50	0	6	6	**18**
だいたい公平だ	30	64	5	0	1	**240**
あまり公平でない	30	61	7	1	1	**530**
公平でない	35	52	9	1	2	**215**
階層帰属意識 （Q43）						
上	11	67	0	22	0	**9**
中の上	30	62	6	0	2	**249**
中の下	29	61	7	1	2	**513**
下の上	34	57	8	1	1	**172**
下の下	43	50	6	0	2	**54**

問 23A　あなたは、次のような意見にどのくらい共感できますか。
『ごみ問題の解決のために、我々は環境に配慮した行動をするべきだ』

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない	DK/NA	%の基数
総計	55.5	41.7	1.5	0.3	1.1	**1026**
性別（Q44A）						
男	57.0	38.3	1.3	1.3	2.0	**149**
女	55.3	42.2	1.5	0.1	0.9	**876**
年齢（年代別）（Q44B）						
19 歳以下	69.2	15.4	7.7	7.7	0.0	**13**
20 代	43.8	52.3	2.3	0.0	1.5	**130**
30 代	50.6	46.8	1.7	0.0	0.9	**231**
40 代	61.6	37.7	0.7	0.0	0.0	**268**
50 代	53.7	42.6	1.1	1.1	1.6	**188**
60 代	64.8	32.8	1.6	0.0	0.8	**122**
70 歳以上	58.5	36.9	1.5	0.0	3.1	**65**
学歴（Q45）						
小学校	36.4	63.6	0.0	0.0	0.0	**11**
新制中学校	54.8	36.9	6.0	1.2	1.2	**84**
新制高校	53.4	44.5	0.9	0.5	0.7	**438**
専門学校	52.9	44.8	0.0	0.0	2.3	**172**
短大・高専	54.2	42.5	1.3	0.0	2.0	**153**
大学	68.2	29.9	1.9	0.0	0.0	**154**
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）						
専業主婦	55.9	42.5	0.5	0.0	1.0	**395**
学生	65.0	30.0	5.0	0.0	0.0	**20**
無職	57.6	36.5	3.5	0.0	2.4	**85**
臨時雇用	54.6	42.7	1.8	0.4	0.4	**227**
常時雇用の一般従業員	52.1	44.7	1.1	0.5	1.6	**188**
自営業主	56.7	38.9	2.2	1.1	1.1	**90**
経営者役員	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）						
400 万円未満	55.1	38.3	3.3	1.2	2.1	**243**
400 万円以上 600 万円未満	52.0	46.6	1.4	0.0	0.0	**221**
600 万円以上 800 万円未満	62.3	34.9	1.1	0.0	1.7	**175**
800 万円以上	54.5	44.2	0.5	0.0	0.8	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）						
事務的職業	53.8	45.5	0.0	0.0	0.8	**132**
販売的職業	50.6	44.4	1.9	1.2	1.9	**162**
熟練・労務的職業	51.3	46.9	1.9	0.0	0.0	**160**
管理的職業	54.6	45.4	0.0	0.0	0.0	**119**
専門的職業	58.7	39.1	0.6	0.0	1.7	**179**
農林水産業	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	**5**
その他	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）						
2 人以下	55.9	39.6	2.2	0.4	1.9	**270**
3 人	60.1	37.6	1.4	0.5	0.5	**218**
4 人	52.5	45.2	1.5	0.4	0.4	**263**
5 人以上	54.3	43.4	0.8	0.0	1.5	**265**
居住年数（Q1）						
10 年以下	54.6	42.1	2.1	0.4	0.7	**280**
11 年以上 20 年以下	55.3	43.2	1.0	0.0	0.5	**206**
21 年以上 30 年以下	55.0	42.3	0.5	0.0	2.3	**220**
31 年以上	57.4	39.3	2.0	0.7	0.7	**303**
自然と人間の関係（Q4）						
自然に従う	62.0	36.1	1.1	0.0	0.8	**471**
自然を利用する	49.3	47.5	1.9	0.5	0.9	**432**
自然を征服する	40.0	53.3	6.7	0.0	0.0	**15**
その他	61.4	34.1	1.1	1.1	2.3	**88**
公平感（Q42）						
公平だ	72.2	22.2	0.0	0.0	5.6	**18**
だいたい公平だ	56.3	42.9	0.4	0.0	0.4	**240**
あまり公平でない	53.6	44.2	1.9	0.0	0.4	**530**
公平でない	60.0	34.9	1.9	1.4	1.9	**215**
階層帰属意識（Q43）						
上	33.3	44.4	11.1	11.1	0.0	**9**
中の上	56.2	41.8	0.8	0.0	1.2	**249**
中の下	55.4	42.1	1.8	0.0	0.8	**513**
下の上	56.4	41.9	0.6	0.6	0.6	**172**
下の下	57.4	33.3	3.7	1.9	3.7	**54**

問 23B　あなたは、次のような意見にどのくらい共感できますか。
『他人がどのように行動するとしても、我々は環境に配慮した行動をするべきだ』

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない	DK/NA	%の基数
総計	43.4	50.8	4.2	0.3	1.4	**1026**
性別（Q44A）						
男	43.6	49.0	5.4	1.3	0.7	**149**
女	43.4	51.0	4.0	0.1	1.5	**876**
年齢（年代別）（Q44B）						
19 歳以下	53.8	38.5	0.0	7.7	0.0	**13**
20 代	30.8	60.8	7.7	0.0	0.8	**130**
30 代	42.0	52.8	4.8	0.0	0.4	**231**
40 代	45.5	51.5	2.6	0.4	0.0	**268**
50 代	43.6	49.5	4.8	0.5	1.6	**188**
60 代	54.1	41.0	3.3	0.0	1.6	**122**
70 歳以上	44.6	47.7	0.0	0.0	7.7	**65**
学歴（Q45）						
小学校	18.2	63.6	9.1	0.0	9.1	**11**
新制中学校	47.6	44.0	6.0	0.0	2.4	**84**
新制高校	41.1	52.5	4.8	0.7	0.9	**438**
専門学校	47.1	48.3	2.9	0.0	1.7	**172**
短大・高専	37.3	58.8	2.0	0.0	2.0	**153**
大学	51.9	44.8	3.2	0.0	0.0	**154**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）						
専業主婦	46.3	49.4	2.5	0.0	1.8	**395**
学生	50.0	45.0	5.0	0.0	0.0	**20**
無職	49.4	43.5	3.5	0.0	3.5	**85**
臨時雇用	40.1	51.5	7.0	0.9	0.4	**227**
常時雇用の一般従業員	38.3	55.3	4.8	0.5	1.1	**188**
自営業主	43.3	53.3	2.2	0.0	1.1	**90**
経営者役員	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）						
400 万円未満	44.9	46.5	5.8	0.8	2.1	**243**
400 万円以上 600 万円未満	40.3	52.5	5.9	0.0	1.4	**221**
600 万円以上 800 万円未満	47.4	49.7	0.6	0.6	1.7	**175**
800 万円以上	42.4	53.0	3.9	0.0	0.8	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）						
事務的職業	40.2	53.8	6.1	0.0	0.0	**132**
販売的職業	37.0	53.7	7.4	0.6	1.2	**162**
熟練・労務的職業	40.0	53.8	6.3	0.0	0.0	**160**
管理的職業	40.3	58.0	0.8	0.0	0.8	**119**
専門的職業	48.6	49.2	0.6	0.0	1.7	**179**
農林水産業	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	**5**
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）						
2 人以下	42.6	50.0	3.7	0.4	3.3	**270**
3 人	49.1	44.5	5.5	0.5	0.5	**218**
4 人	39.2	57.4	2.7	0.4	0.4	**263**
5 人以上	44.2	50.6	4.5	0.0	0.8	**265**
居住年数（Q1）						
10 年以下	40.7	53.2	4.6	0.4	1.1	**280**
11 年以上 20 年以下	42.7	51.9	4.9	0.0	0.5	**206**
21 年以上 30 年以下	43.2	52.7	2.3	0.0	1.8	**220**
31 年以上	46.9	47.2	4.0	0.7	1.3	**303**
自然と人間の関係（Q4）						
自然に従う	47.3	46.9	4.2	0.2	1.3	**471**
自然を利用する	38.4	56.0	4.2	0.2	1.2	**432**
自然を征服する	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	**15**
その他	53.4	40.9	3.4	1.1	1.1	**88**
公平感（Q42）						
公平だ	55.6	27.8	11.1	0.0	5.6	**18**
だいたい公平だ	43.3	52.5	3.3	0.0	0.8	**240**
あまり公平でない	41.5	53.4	4.2	0.2	0.8	**530**
公平でない	48.8	44.2	4.7	0.9	1.4	**215**
階層帰属意識（Q43）						
上	44.4	44.4	0.0	11.1	0.0	**9**
中の上	45.0	51.4	2.4	0.0	1.2	**249**
中の下	40.7	52.8	5.1	0.2	1.2	**513**
下の上	49.4	46.5	2.9	0.6	0.6	**172**
下の下	42.6	48.1	5.6	0.0	3.7	**54**

問 23C　あなたは、次のような意見にどのくらい共感できますか。
『たとえ手間がかかるとしても、我々は環境に配慮した行動をするべきだ』

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない	DK/NA	%の基数
総計	36.5	57.1	4.7	0.2	1.5	**1026**
性別（Q44A）						
男	39.6	53.7	3.4	1.3	2.0	**149**
女	36.1	57.6	4.9	0.0	1.4	**876**
年齢（年代別）（Q44B）						
19 歳以下	46.2	46.2	0.0	7.7	0.0	**13**
20 代	23.8	64.6	10.8	0.0	0.8	**130**
30 代	29.4	65.8	3.9	0.0	0.9	**231**
40 代	41.0	55.2	3.7	0.0	0.0	**268**
50 代	36.2	56.9	4.8	0.5	1.6	**188**
60 代	50.8	44.3	3.3	0.0	1.6	**122**
70 歳以上	43.1	46.2	3.1	0.0	7.7	**65**
学歴（Q45）						
小学校	27.3	63.6	0.0	0.0	9.1	**11**
新制中学校	44.0	48.8	4.8	0.0	2.4	**84**
新制高校	34.0	58.2	5.9	0.5	1.4	**438**
専門学校	38.4	58.1	2.3	0.0	1.2	**172**
短大・高専	35.9	58.2	3.9	0.0	2.0	**153**
大学	40.3	55.2	4.5	0.0	0.0	**154**
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態（Q46）						
専業主婦	36.5	59.0	3.3	0.0	1.3	**395**
学生	50.0	45.0	5.0	0.0	0.0	**20**
無職	45.9	44.7	4.7	0.0	4.7	**85**
臨時雇用	35.2	58.1	5.3	0.4	0.9	**227**
常時雇用の一般従業員	28.2	63.3	6.4	0.5	1.6	**188**
自営業主	44.4	48.9	5.6	0.0	1.1	**90**
経営者役員	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	**4**
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入（Q49）						
400 万円未満	41.2	52.7	3.7	0.8	1.6	**243**
400 万円以上 600 万円未満	33.5	59.3	5.9	0.0	1.4	**221**
600 万円以上 800 万円未満	38.9	55.4	4.0	0.0	1.7	**175**
800 万円以上	34.4	59.4	4.9	0.0	1.3	**387**
一番収入の多い人の職業（Q50C）						
事務的職業	26.5	70.5	2.3	0.0	0.8	**132**
販売的職業	28.4	64.8	4.9	0.6	1.2	**162**
熟練・労務的職業	33.8	59.4	6.9	0.0	0.0	**160**
管理的職業	34.5	62.2	2.5	0.0	0.8	**119**
専門的職業	41.9	52.0	4.5	0.0	1.7	**179**
農林水産業	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	**5**
その他	40.0	50.0	10.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数（Q48）						
2 人以下	38.1	53.7	4.4	0.4	3.3	**270**
3 人	41.3	50.9	6.9	0.5	0.5	**218**
4 人	30.0	63.9	5.7	0.0	0.4	**263**
5 人以上	37.7	58.9	2.3	0.0	1.1	**265**
居住年数（Q1）						
10 年以下	34.3	59.3	5.4	0.4	0.7	**280**
11 年以上 20 年以下	34.5	60.7	4.4	0.0	0.5	**206**
21 年以上 30 年以下	34.1	57.3	5.9	0.0	2.7	**220**
31 年以上	42.2	52.5	3.6	0.3	1.3	**303**
自然と人間の関係（Q4）						
自然に従う	42.0	51.8	5.3	0.0	0.8	**471**
自然を利用する	30.6	63.4	4.4	0.2	1.4	**432**
自然を征服する	46.7	40.0	6.7	0.0	6.7	**15**
その他	40.9	54.5	1.1	1.1	2.3	**88**
公平感（Q42）						
公平だ	50.0	44.4	0.0	0.0	5.6	**18**
だいたい公平だ	36.7	58.3	3.8	0.0	1.3	**240**
あまり公平でない	33.8	61.1	4.2	0.0	0.9	**530**
公平でない	44.2	45.6	7.9	0.9	1.4	**215**
階層帰属意識（Q43）						
上	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0	**9**
中の上	37.8	57.4	3.2	0.0	1.6	**249**
中の下	35.3	58.5	4.9	0.0	1.4	**513**
下の上	37.8	55.2	5.8	0.6	0.6	**172**
下の下	42.6	48.1	5.6	0.0	3.7	**54**

問 23D　あなたは、次のような意見にどのくらい共感できますか。
『快適さや好みは多少我慢しても、我々は環境に配慮した行動をするべきだ』

	非常に共感できる	どちらかといえば共感できる	どちらかといえば共感できない	全く共感できない	DK/NA	%の基数
総計	25.9	59.9	11.6	0.9	1.7	**1026**
性別 （Q44A）						
男	36.2	49.7	9.4	3.4	1.3	**149**
女	24.2	61.6	12.0	0.5	1.7	**876**
年齢（年代別） （Q44B）						
19 歳以下	23.1	53.8	15.4	7.7	0.0	**13**
20 代	17.7	61.5	16.9	2.3	1.5	**130**
30 代	17.3	64.5	15.2	1.3	1.7	**231**
40 代	25.4	62.7	11.2	0.4	0.4	**268**
50 代	25.0	63.3	9.6	0.5	1.6	**188**
60 代	44.3	46.7	7.4	0.0	1.6	**122**
70 歳以上	43.1	49.2	3.1	0.0	4.6	**65**
学歴 （Q45）						
小学校	27.3	63.6	0.0	0.0	9.1	**11**
新制中学校	39.3	46.4	11.9	0.0	2.4	**84**
新制高校	25.6	59.1	12.6	0.9	1.8	**438**
専門学校	26.7	59.9	9.3	1.7	2.3	**172**
短大・高専	19.6	67.3	11.8	0.7	0.7	**153**
大学	24.7	64.3	10.4	0.6	0.0	**154**
その他	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	**2**
本人職業形態 （Q46）						
専業主婦	23.3	63.3	10.9	0.3	2.3	**395**
学生	25.0	60.0	10.0	5.0	0.0	**20**
無職	40.0	48.2	8.2	0.0	3.5	**85**
臨時雇用	24.2	61.2	12.8	0.9	0.9	**227**
常時雇用の一般従業員	23.4	58.0	14.4	2.7	1.6	**188**
自営業主	31.1	60.0	8.9	0.0	0.0	**90**
経営者役員	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	**4**
その他	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	**1**
世帯収入 （Q49）						
400 万円未満	30.5	56.8	9.5	1.6	1.6	**243**
400 万円以上 600 万円未満	26.2	58.8	12.2	0.9	1.8	**221**
600 万円以上 800 万円未満	26.3	60.6	10.9	0.6	1.7	**175**
800 万円以上	22.7	62.3	12.9	0.5	1.6	**387**
一番収入の多い人の職業 （Q50C）						
事務的職業	21.2	64.4	12.9	0.8	0.8	**132**
販売的職業	16.0	69.1	11.7	0.6	2.5	**162**
熟練・労務的職業	23.8	56.3	18.1	1.3	0.6	**160**
管理的職業	22.7	66.4	9.2	0.0	1.7	**119**
専門的職業	27.9	57.5	11.7	1.7	1.1	**179**
農林水産業	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	**5**
その他	50.0	40.0	10.0	0.0	0.0	**10**
世帯人数 （Q48）						
2 人以下	30.7	54.8	9.6	1.9	3.0	**270**
3 人	26.6	60.1	11.0	0.9	1.4	**218**
4 人	17.5	64.6	16.7	0.8	0.4	**263**
5 人以上	29.1	60.8	8.7	0.0	1.5	**265**
居住年数 （Q1）						
10 年以下	21.4	62.5	12.9	1.1	2.1	**280**
11 年以上 20 年以下	18.0	70.4	10.7	0.5	0.5	**206**
21 年以上 30 年以下	27.7	55.0	13.6	1.4	2.3	**220**
31 年以上	33.7	54.8	9.9	0.7	1.0	**303**
自然と人間の関係 （Q4）						
自然に従う	30.4	59.0	8.7	0.4	1.5	**471**
自然を利用する	20.6	61.3	15.5	1.2	1.4	**432**
自然を征服する	46.7	46.7	6.7	0.0	0.0	**15**
その他	29.5	58.0	8.0	2.3	2.3	**88**
公平感 （Q42）						
公平だ	38.9	50.0	5.6	0.0	5.6	**18**
だいたい公平だ	25.8	62.9	10.8	0.0	0.4	**240**
あまり公平でない	23.6	64.5	10.0	0.4	1.5	**530**
公平でない	32.1	46.5	16.7	3.3	1.4	**215**
階層帰属意識 （Q43）						
上	0.0	66.7	22.2	11.1	0.0	**9**
中の上	23.3	64.7	10.0	0.8	1.2	**249**
中の下	26.3	61.0	10.7	0.4	1.6	**513**
下の上	26.2	55.2	15.1	2.3	1.2	**172**
下の下	40.7	40.7	16.7	0.0	1.9	**54**

リサイクル行動の計量社会学的研究
―合理的選択理論を基礎として―

平成 10～12 年度科学研究費補助金
基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書

2001 年 3 月　発行

研究代表者　海野　道郎

発行　東北大学大学院文学研究科　行動科学講座

〒980-8576　仙台市青葉区川内
TEL: 022 - 217 - 6037
FAX: 022 - 217 - 5972

印刷所　株式会社東北プリント

The Quantitative Analysis of Recycling Behavior Based on Rational Choice Theory

Report of the Grant-in-Aid for Scientific Research (c)

No.10610159

Edited by

Michio UMINO

March 2001